紙のプロレス RADICAL

No.6

前田日明、激白!
「ヒクソンとは必ずやる!」

高田、樹海に死す!
プロレス、ジ・エンド!?



new world order
蝶野正洋

Go to WWF ?
TAKAみちのく

TEXAS BRONCO SPECIAL!
テリー・ファンク

俺たちが世界を支える!!

前田問題から
船木戦までを語る!
近藤有己

桜庭和志

Puffy『PRIDE-1』をメチャ斬り♥


発掘インタビュー2連発!!
プラム麻里子/ザ・グレート・サスケ


特集:全女分裂!! 4大インタビュー

紙のプロレス RADICAL No.6

すべての終わりが始まりか!!

発売元:(株)ワニマガジン社 〒160 東京都新宿区内藤町1番地 電話/03-3357-2911
発行元:(株)ダブルクロス 〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188
ワニマガジン社
定価:本体648円+税


俺たちが世界を支える!!
nWo
new world Order

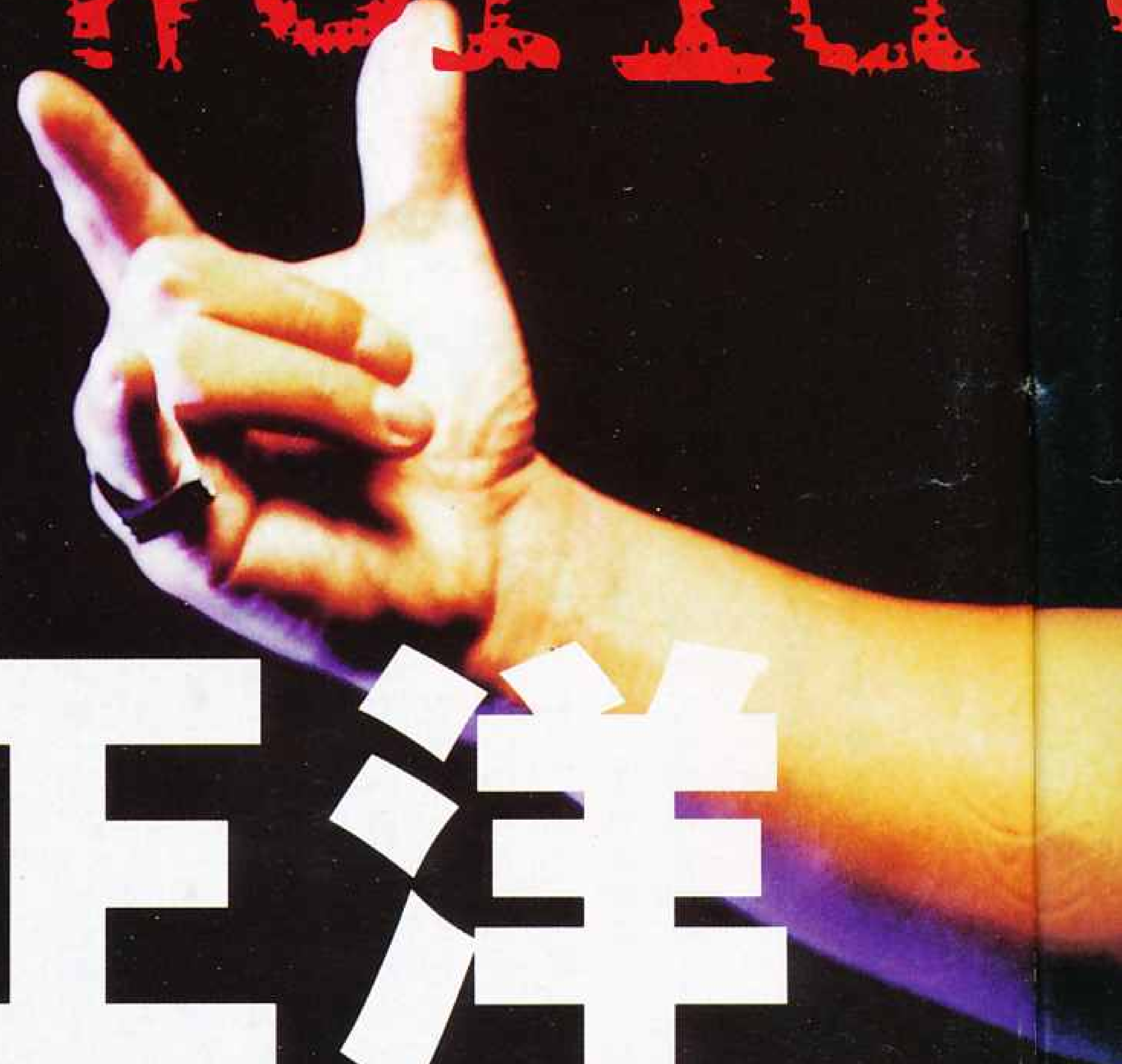

nWo
new world Order
MASAHIRO CHONO
order



“ニュー・ワールド・オーダー”の
ものの考え方を持った人間は、
プロレス界から出てこなくてもいいと思う!!

The naval of new world

聞き手／山口昇 with GO
interview by Noboru Yamaguchi with GO
撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito
コーディネート／のものも
coordinate by Nomonomo



蝶野正洋

—プロ野球の選手にnWoTシャツを渡したり、nWoムーブメントがあっちこっちに飛び火してますね。

蝶野　あれはもともとね、テレビ朝日のスポーツバラエティーみたいな番組でね。その番組の方がnWoを押そうとしてね。だけど、番組のイメージはTシャツを着させて、なんか暴走族のチームを広げていくみたいな感じなんだよね（笑）。

—nWoは暴走族だったんですか！（笑）。

蝶野　「だから、そうじゃないよ」と。俺らは"nWo"っていうロゴじゃなくて、"ニュー・ワールド・オーダー"だって！　古い体制をブチ壊して新しい世代が新しいものを作り上げていくんだ、と。スピリッツの部分なんだよと。だから、他の業界でも悩みを持ってるヤツがいるんなら、そういう者に対しても訴えかけていこうということでね。「野球選手とか、他のスポーツの選手と交流してもいい」という考えだから、そういう押し売りみたいな形はもうやめてくれ、と。

—暴走族がステッカーを売ってるようなイメージは嫌なわけですね（笑）。

蝶野　番組はそういう打ち出し方をするから「ちょっと待ってくれ」って。テレビがそういうようなものの作り方をしようとしてたから。「だから、そんな作りの世界じゃなくていいよ」と。そんな感じで話したら、「番組の中でシリーズ化していって、いろいろなスポーツ関連にどんどん広めていこうか」となったんですよ。

—nWoっていうのは、最初はギミック的な始まりだったかもしれないけど、いまやnWoをうまく利用しながら、蝶野さん流のものの考え方をどんどん確立してってますよね。

蝶野　だから、人が10人なり、100人なり徒党を組んでやる時には、みんな横一列にはなれないっていうのはわかってるしね。やっぱりベストの形は、三角形になるんでしょうね。ピラミッドにね。だけど、ピラミッドを引っ張っていく頂点の人間っていうのが、正しいものの見方をしてくれてればいいけども、それがいまはいい方向ではない。人に対して愛がない考え方をしてますよ！

—あ、愛ですか!?

蝶野　俺はね、人と人とのつきあいで一番いい形はやっぱり家庭だと思うんだよね。オヤジが家長としてあって、その人がリタイアすれば、長男がそれを受け継いでね。で、長男はオヤジも食わしていくと。で、愛ってなんだとしたら、たぶん見返りのないものに対する奉仕みたいなもんですよね。それが、会社組織になるとビジネスばかりが優先されてね、人を育てることをやめてね。俺らはルールの枠の中で生きてるのに、その枠を作った上の人間たちが、それをブチ壊してるわけじゃないですか。例えば、俺らが駐車違反で罰金3万円払うのに、何十億の損失を出した会社の連中が20万くらいの罰金で済むだとかね。そんなのおかしいじゃない！　じゃあ税金をちゃんと納めてね、マジメにやってるヤツがいいのか。こいつら税金払わないで金を作ってね。

—ガハハハハ。なんだかあからさまに誰かのことを指してる気がしますね（笑）。蝶野さんの精神的なターゲットは、ズバリ言って、猪木さんなのかなっていう気がするんですが。

蝶野　前に武藤さんとも話をしたんだけど、要は家庭の図式だと思うんですよ。よくいるじゃない？　金を使い込んで、どうしようもない親父が。お母ちゃんをブン殴るわ、外行って飲んだくれるわ、金持って帰ってこないわって親父がさ。

—めっぽう破滅型の（笑）。

蝶野　だけど、やっぱり親父は親父なんですよね。やっぱり殺せないんですよ！　そこは、親父を直さなきゃいけねえと。説得しないといけない。今まで親父に食わしてもらってきてたからね。で、親父がリタイアしたら、親父を食わしていかなきゃいけない。いままで彼らは、人を蹴飛ばして上になってきたわけじゃないですか？　そういうことをして上がってきた人間ってのは、何が怖いかっていうと、同じことをやられることでしょ。でも、彼らは、下に対する教育ができてない。自分らが愛を持った形で作ってきてないから。

The naval of
new world order

バット持ってきてわからなかったら
そのうち俺らは火炎放射器でも持ってくる


—愛を持った形。いい言葉です。

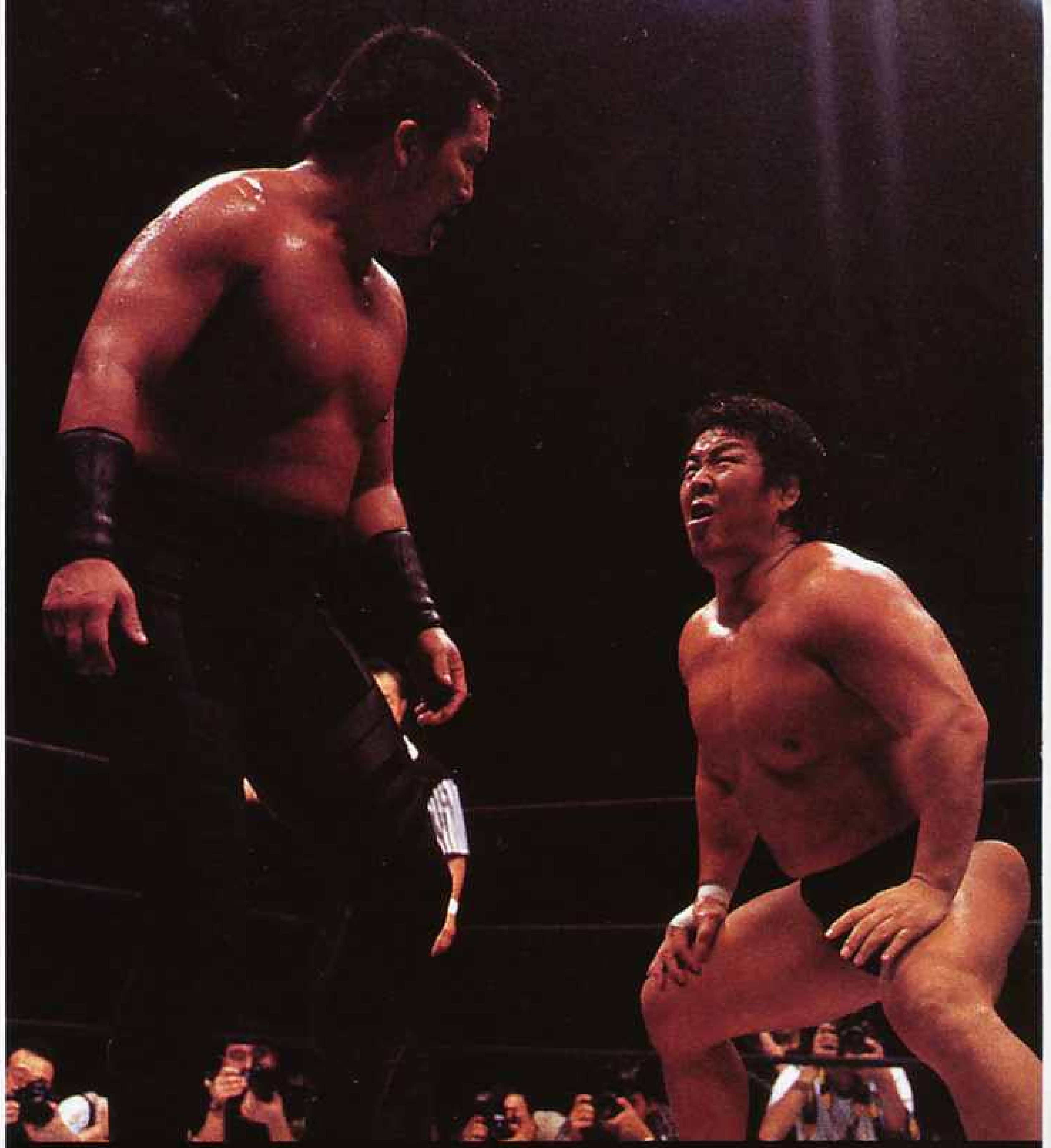
蝶野　親父だって若い時かなんかはね、「俺の首を取れ」って言うかもしれないけど、そんなことは普通ありえないでしょう。それはやっぱり、ちゃんと力を付けて「親父を殺してまで家長になろう」というんじゃなくて、「親父も食わしていく、みんなも食わしていく」っていう、そういう形でやっていくのがベストじゃないかなと思いますよね。だけど、それを親父がちゃんと教えてないってことなんですよね。だから、家出していく人間がいっぱいいたわけじゃないですか、ウチには。

—はいはい（笑）。戻ってくる人もたくさんいますけどね。いっぱい家出しましたよね。逆にいまは親父さんが家出状態ですからね、新日本家は（笑）。

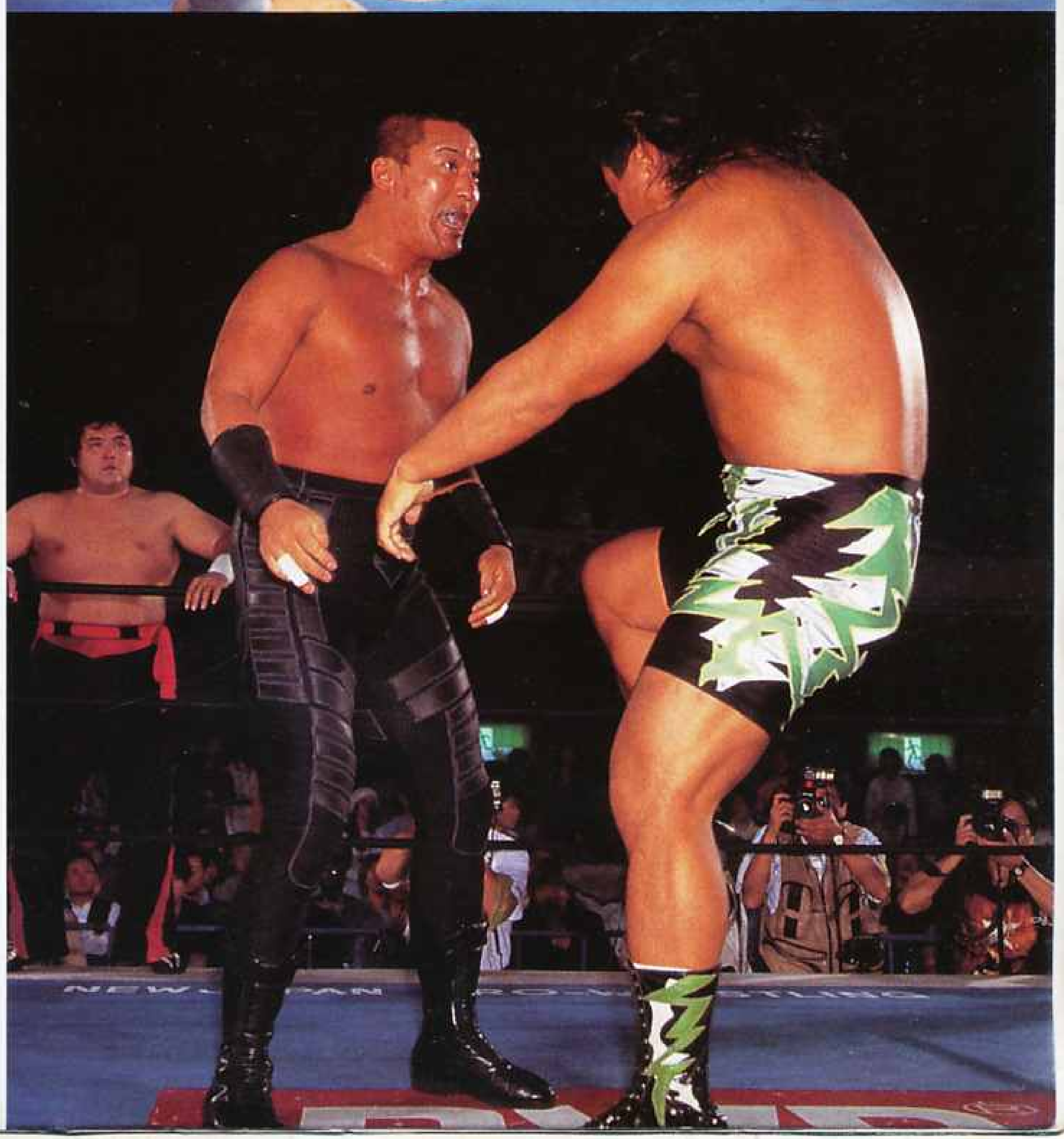
蝶野　そうそう（笑）。本当はね、俺らが稼ぎ頭になっていたら、たまには親父にやりたいことやらしてあげてぇなと思うよね。外国旅行行きたいって言ったら、旅行ぐらいならね。それが親に対する思いやりだし。だけど、向こうがこっちに対する信頼がない！　一方通行の形でそれをやられたら、ハッキリ言って喧嘩みたいになっちゃいますよ！

—蝶野さんの貯金くすねて、海外行っちゃうようなもんですかね。









蝶野　まぁね（笑）。でも、もともとは親父が作った財産だから、それに対してとやかく言うことはないんだけども。でもね、そこはみんな、長州さん、藤波さん、家出した人たちも含めて、同じことを多分やってきたと思うんですよ。俺はこんなに親父を愛してるのに、なんでわかってくれないんだ！っていうね。でも、猪木さんの方は、愛ってものを持ってないんでしょうね。

――ガハハハハ。猪木さんは「愛なんてもんは、どっかで本物じゃないんじゃねぇかな」ってこの間言ってましたよ。でも、いまの話なんか聞いてると、蝶野さんの考えるプロレスというか、闘いというのは、リング上だけでなくやっぱり様々なことを含んだものと考えていいんですか。

蝶野　いや、でもね、もともとはちゃんとした、プロレスっていうスポーツで俺らは食ってるわけだからね。それをお客さんが見てるわけだから。リングの上の闘いってもので、引きつけなきゃいけないんだけども、要はルールってものを管理している人間が悪いんだよ！

――出た！　ジジィどもが！（笑）。

蝶野　ジジィどもがちゃんと管理してないからね。ルールをルールとして守らせてないから。簡単な話、急所蹴りをやったって試合は止まらないし、毒霧吹いたってチャンピオンになれるしね。そんなものがありえること自体、おかしいですけどね。

――蝶野さん、いまの言葉は、なんか耳を疑うような問いかけですね！

蝶野　だから、本来そんなものがなくたってレスリングっていうのはレスリングのルールの中で、見せられるものって絶対あるって思ってるからね。

――そう思いながら急所蹴りしてるわけですね（笑）。

蝶野　そうそう。だから、そういうラインが見えなくなっちゃってる。白と黒の境界線がもうなくなっちゃってるわけ！　もう何やってもいい時代になってきてるわけ。だから、いまの社会と一緒なんですよ。

――黒が白になり、白が黒になることも不思議じゃないと。

蝶野　確かにリング上の出来事かもしれないけど、それを仕切ってる人間が〝黒〟だからね。最低限ルールっていうものはキレイにちゃんと守っとかないと、プロレスもなにもなくなっちゃうわけですよ。どっかの団体じゃないけど、火炎放射器とか持ってきたっていいわけなんだから。「そこまでやるか？」っていうと、「あれは他の団体で」って。「違うよ、新日本！やってることは同じだよ。持ってるものはバットかもしれないけど、やってることは一緒だよ！」と。バット持ってきてわからなかったら、そのうち俺らは火炎放射器でも本当に持ってくるよ!!

――あのバット攻撃には、そんな意味があったんですか。となると、ｎＷｏというムーブメントを利用しながら、蝶野さんは正義のためにヒールをやってるわけですね。

蝶野　だってそうじゃないと、俺らもやりにくいもん。だって黒、白の色が出ない。枠が壊れちゃってるから。枠から飛び出した人間が本当は悪い人間なんだけど、枠がなくなっちゃってる

から、なにやってももう色がつかないのよ、お互いに。だから、いまの社会でも良い者も悪者もなんかわかんなくなっちゃってるでしょ。だから、ヒールが出てこれないってことは、そこんとこの枠が壊れてきちゃってるからだよ。

——この感覚はもう古いのかもしれないけど、プロレスっていうのは世間からはみ出したジャンル、世間と思いきり対峙した時に凄味が出るというところがありますよね。でも、いまは世間の方がまるでプロレス的ですよね。そういう意味で言ったら世間とプロレスの境界線もないかもしれないですよね。

蝶野 だから、そういう意味で言ったら、むしろプロレスっていうのは、もう、いまの社会そのままですもんね。

——そうですね。そこらへん歩いてても、振り向けばピンクの髪の毛をしたサラリーマンが立ってるんですからね（笑）。むしろ世間の方が非常識になってて、プロレスの方がイイ子になっちゃってるっていう感じですよ。

蝶野 リングの上は、やっぱりそこは興行会社としてやってる悪い点だと思うんですよね。興行会社っていうのは何をやったっていいわけだから。プロレスやろうが、野球やろうが、ストリップやろうが、それだって興行会社。人を集めるのが興行会社だから。そのうち、俺がタッグパートナーとして象を連れてきて、東京ドームが満員になるってなったら、多分、会社は俺らをチャンピオンにするでしょうね。俺と象で！

——タッグパートナーが象ですか（笑）。素敵だ！

蝶野 だから、それが興行会社の性（さが）っていうか。そういう形で、レスリングって壊れてきてると思うんですよ。食うためだけの、客を寄せるためだけのものになってしまってきてるから。

——そういう風潮に警鐘を鳴らすためにバットを使ってたわけですか！（笑）。

蝶野 ま、そこまでは意味はないですけどね（笑）。

——そういえば、以前、新日本のレスラーだったら、「目標とするレスラーは？」って聞かれたら、アントニオ猪木とかカール・ゴッチとか、ストロング・スタイルの旗手を挙げるもんなのに、蝶野さんだけ、リック・フレアーって言ってて、凄いなあ、この人と思ってたんですよ。

蝶野 向こうで見たフレアーは中国人のヤツとやってたんだよ。

——は？　中国人？　リッキー・スティムボードですか。

蝶野 そう。そん時にアメリカのスタイルの、だからnWo系の試合の凄いシーソーゲームでね。だから、確かに立ち技系のチョップだとかキックだとかも含めて、お互いがレスリングのルールの中で、急所なり、顔面なりの鍛え上げられない部分で競い合うんじゃなく、鍛え上げられた部分をお互いに責め合っていく。要は我慢大会みたいなもんですよ、ルールの作り方が。

——耐久競技ですよね。

蝶野 耐久競技だから。そういうルールだからね。それの醍醐味っていうのを見た試合だったから。そこではルールに基づいた中でのレスリングは、本当はこういう形で見せるもんなんだなって思ったね。日本の場合は、侍の殺し合いみたいな感じになっちゃうでしょう。殺し合いの場になったら、隙あらば、顔面切りつけてもいいわけですよ。猪木さんもちょっとそういうところがあるんだけど。

——猪木さんは、しょっちゅうやってる気がしますね。隙あらば（笑）。

蝶野 生き方の問題になるかもしれないけどね。

——でも、ボク、蝶野さんのそういうシーンも何回も見てますよ。

蝶野 多分それは相手がやってきたからでしょ（笑）。

——そうですけど。ガイジンにスープレックスで危ない落とし方されて、瞬間的にキレて、電光石火の早さで立ち上がると同時に、顔面を容赦なく殴ってる場面を見たことありますよ。ああ、やっぱり、この人は怒らせたら怖いタイプだなって思いましたね（笑）。

蝶野 （ニヤリ）。だから、フレアーは、こういうテクニックがあるのかなって言う驚きがあったしね。日本にたまに来て、全日本で試合をやってる時なんかは、そういうものが全然見えなかったからね。

——でも、フレアーを見てエキサイトする新日の選手って多分、蝶野さんぐらいかなって思ってね。だから、ストロング・スタイルではなく、リック・フレアーって言えちゃうところが、他人の色には染まりたくないっていう蝶野さんの生き方を表してますよね。

蝶野 でも、やっぱり、憧れは猪木さんだったしね。だから、逆にアメリカン・スタイルみたいにワァーッてやってるのは「なんだ、あれは？　あそこまでやって客に媚び売る必要ねえじゃねえか」って気持ちがあったけどもね。でも、それはそれで、逆に見せ方があると。3万人、4万人のお客さんに、痛いなら痛いってわからせなきゃいけない。

——ひとつの場面を表現するにも、とてつもないパワーがいるでしょうね。

蝶野 ただ、これがプロのアメリカのスタイルなんだなっていう。凄いものはやっぱり凄いって見せるのが俺らの商売だし。

——そうですね。攻めと受けとの攻防をレスラーがクローズアップして見せるのがプロレスで、技の攻防を観客が顕微鏡の焦点を合わせてジッと見るのがプロ格闘技って言い方はできると思いますけどね。

nWo new world Order

The naval of new world order

俺が象を連れてきて客が入るなら
会社は俺と象をチャンピオンにするだろうね

蝶野　そのようにルールを作ったと思いますね。もともとはアマチュアレスリングみたいな形でね。でも、あれは10万人の人が見れるスポーツじゃないでしょ。それじゃわかりにくいと。だから、例えば、寝技はナシにしようだとか、上半身に対する打撃攻撃はＯＫにしようだとか。という風にして出来上がってきたのがプロレスだと思ってるし。そうしたら、人が寝てゴチャゴチャやってるよりは、なるべくぶつかりあい、動きがあるものにしたら、それだけのお客さんが見えるでしょ。そういう意味合いから、できてきた競技だと思うんですね。プロスポーツというのは、そういう興行的意味合いを全部持ってるわけですから。だからサッカーだって、あんまり点数が入りすぎると、なんかおかしいっていうんで、オフサイドなんてルールが出来てきたでしょ。だからやっぱり、やる側じゃなくて、見る側に対して面白くさせようっていう意味合いですよね。

――まあ、プロは観客論を抜きには考えられないですよね。でも、そこで日本のプロレスが面白いところは、ＵＷ



Fみたいな流れが出てきたり、パンクラスみたいな団体が出てきたりとか。必ず両方あるところですよね。

蝶野　でも、もともと、出てった人間たちの原因は猪木さんにあると、俺は思いますけどね。

――やっぱり、根っこは親父ですか（笑）。

蝶野　それが、猪木さんの生き方なのかもしれないけど、でもレスリングっていうものを、違う意味で、違うものにしちゃったっていうか。

――違う意味で、違うものにした？

蝶野　でも、あの人はプロレスをやってるんですよ！　プロレスっていう競技を知ってるんですよ！　だけど、下の人間には、そのプロレスの本当のいい部分っていうのを俺は教えてきてないと思うんですよ。もし、それがわかっていれば、絶対彼らは、ああいう方の道には進んでないと思うんですよ。プロレスの本当の良さっていうのを理解しないままにね。

――道場論だけで行っちゃったってことですか。

蝶野　そうそうそう。レスラーはレスラーだけど、やっぱりそれには興行論が絶対に入ってくるから。その興行論を教えてない。レスラー論だけで、ものの見方を固めてしまうからね。だから、そこに会社とレスラーの間に矛盾が出てくる。彼らはその矛盾に対して行動を起こしたと。だから、彼らがとった行動は俺は間違いじゃないと思うんですよ。

――その時の行動としては。

蝶野　そうそうそう。

――その道場論をベースにしたＵＷＦがブームを起こしてた頃は、アメリカン・スタイルのプロレスが、東京ドームをいっぱいにするくらいの息の吹き返し方をするとは、正直思えなかったですよね。それも新日という枠の中で。

蝶野　だから、ＷＷＦがブームに乗った時には、あそこも興行会社一本でやってきてる会社だから、極端な話、象じゃないにしても、誰でもリングに上げるような形になってきたでしょ。あの形はちょっと行き過ぎだと俺は思ってたけどね。でも、『レッスル・マニア』のお陰で、世界に広がったと。東南アジアに行っても誰でも知ってますよね。だから、その貢献度は大きい。だから、やっぱり、そういうＷＷＦの横でやってたＷＣＷっていうのは、それをまったく否定する形じゃなくて、それを引っ張ってきて飲み込む形で、徐々に変えてきてると思うんですよ。元の形に戻していくね。だから、あそこはテレビ会社が持ってるっていう意味合いで、どうなっていくのかっていうのは俺も見てみたいっていうかね。

――だから、蝶野さんにしても、ｎＷｏが押しつけられたものだったら、途中で挫折してますよね。蝶野さんがｎＷｏに入った必然性があったからブレイクしたんだと思いますけどね。

蝶野　でも、レスラーってのは認められたいってのがあるじゃないですか。目立ちたいとか。だから、やってることに対して、人から認められたいっていうのは、金には代えられないでしょ。レスラーもそれは一緒だと思う。ワーワー言われて、裏で「なんだレスラーなんか」って言われてるよりも、やっぱり、「凄ぇな」って言われたい気持ちは絶対みんな一緒だから。レスラーも根本的には、クラシックスタイルじゃないけど、初期のレスリングへの憧れは変わってないと思いますよ。

――例えば、小鉄さんの本（『いちばん強いのは誰だ』＝講談社刊）に、『蝶野の中にゴッチイズムが流れている』っていう話も出てるんですが、どうなのかなと思って？（笑）。

蝶野　いや、ゴッチイズムってどんなのかわかんないけどね。

――この本によると、もともとランカシャー・スタイルだって書いてあるんですね。その源流にはゴッチイズムがあると。

蝶野　ストロング・スタイルっていうのも結局は、そこに行き着くんじゃないんですか。

――ただ、最終的には持ってる人と持ってない人といますよね。

nWo
new world Order

The naval of
new world order

ストロング・スタイルの“ルール”が崩れて “ルール”があってないような世界でしょ

蝶野　それは他の人の考えはわからないですけどね。これはみんな、最終的にアメリカの選手でもそういうものを持ってるんじゃないかな。ただ、まったく違うエンターテインメントとしての、ものの見方をしてる人もいますけどね。

――そういうエンターテインメントとしての、ものの見方しかしてない人は、蝶野さんでもレスラーとは思えないっていうのはあるんですか。

蝶野　だけど、プロレスにはレスラー論とともに興行論があるから。興行論の中ではエンターテインメントがあるのがプロだからね。そういう意味では……やっぱ、両方持ってなきゃいけないから。

――単純な話、「プロ」と「レス」の両方を持ってなきゃいけないと。

蝶野　だからそういう意味でまったく否定はできないでしょうね、やっぱり。

――でも、新日本プロレスっていうと、まだストロング・スタイルというイメージが強いし。その中からｎＷｏのような流れがムーブメントを起こすっていうのは面白いですよね。

蝶野　だから、やっぱりストロング・スタイルのルールが崩れてきたからじゃないですか。さっき言ったみたいに、ルールがあってないような世界になってきたんですよ。

――いろんなプロ格闘技が認知されてきてますけど、蝶野さんは、強さを追求するっていうことに関してのコンプレックスとかはないんですか。

蝶野　でも、それはあると思いますよ。例えば、キックボクシングが強いだと

か、相撲が強いだとか、柔道が強いだとかいうでしょ。でも俺なんか、学生の頃、町で喧嘩してるだけだからね。結局、やられてもいいんですよ。やられても次の日に後ろからでもいいから相手をブチのめして、相手に「マイッタ」って言わせるのが喧嘩だから。そういう闘いになると、人間の世界じゃなくなっちゃうけどね。でも、それが究極的になったら死んでもやっていくっていう気持ちがあるからね。多分、変な形で恥をかかされた場合は、多分この世界はやめていくけど、そのかわり、相手に対して「キッチリ落とし前はつけるぞ」と、そういうつもりで俺はいるからね。

――いや、それを聞けただけでも、今日は来た価値がありますよ！　実にいい話です。でも、蝶野さんって、いろんな本とかを読んでると、必ず練習嫌いとか書かれちゃうじゃないですか（笑）。

蝶野　ああ（笑）。でも、さすがにいまは体が故障したりしますからね。若いうちは練習しなくても試合は十分こなせるし、ケガしても回復が早いってのもあったけど、齢には勝てないから。それなりのテークケアは前よりはしてます。

――その練習嫌いのレッテルを貼られることに関しては、けっこう面白がっちゃう方ですか？

蝶野　まあ、練習は好きじゃないですけどね。「関係ないや」ってところはありますね（笑）。俺からしたら、練習で金は作れないんだしね。やっぱり、それは見せなくていい部分っていうかね。レスラーっていうのは、リング外は見せてはいけない。だから、リングの上でしか見れない。そういう距離感ってのは本当は保たなきゃいけないなって思ってるんですけど。

――例えば、こういう小鉄さんが書いた本にしても、昔なりのプロレスの幻想の守り方っていうのを散りばめてあるわけじゃないですか。で、その昔なりの幻想を打ち壊して、新しい幻想をまた蝶野さんたちが作っていくということですよね、ニュー・ワールド・オーダーっていうのは。

蝶野　俺はやっぱり、夢っていうのは幻想だと思うしね。だけど、プロスポーツっていうのは、そういう夢を与えていくもんだと思うし。だから、幻想を作っていくっていうのは、言ってみればそうかもしれない。

――蝶野さんなんか、リング外だと、とてもヒールのレスラーらしくないですよね。言葉使いとかも「です・ます」調だし。

蝶野　それは昔の人の、ものの考え方だと思うんですよ。よく「レスラーだったら外に出てもレスラーであれ」、と。

――付き人時代に、猪木さんに見せつけられてきたわけですよね。

蝶野　昔の人はみんなやってるわけじゃないですか。例えば、キ○ガイみたいなレスラーとか。中には、ナチュラルでキ○ガイなヤツいますけど。

――ダハハハハ。いますいます。

蝶野　確かにナチュラルで持ってるヤツはいいけどね。だけど、人間っていうのは根本的にね、赤ちゃんの時から演じるわけじゃないですか。例えば、何かをしてほしい時に、言葉をしゃべれない赤ちゃんが、「おシメを代えてくれ、ミルク飲みたい」って時に、そこで泣くと。泣いたら、お母さんがわかってくれると。もうそこで演技が始まってるわけじゃないですか。ここでどう演じればいい？　どうアクションすればいいのか？　そこで演じる。そのうち、今度子供は、どういう風にしたらお母さんに可愛がってもらえるか。やっぱりそこで子供を演じる。人ってとにかくね、どこかでそれぞれ自分を演じてるんですよ。俺は俺で蝶野正洋をプライベートで演じてるし。本来だったら家に一人でいれば、なにもしないで裸で横になって、眠たくなったら寝てね、クソしたくなればクソすると。だけど、やっぱり人が見てる時には、それなりの自分を演じるわけじゃないですか。

――そうですね、人生そのものが演劇といえば演劇ですからね。

new world Order

The naval of new world order

変な形で恥をかかされた場合は、キッチリ落とし前はつけるつもりでいる

蝶野　人は絶対ね、みんな演じてるんですよ。自分を演じてる。だから、演じるものに対して絶対憧れって持ってるんですよね。で、昔の人は一生、侍なら侍。朝起きてから寝るまで侍を演じてるわけじゃないですか。それが日本人の哲学じゃないけど、そういうところがあったでしょ。で、それは多分ヨーロッパの社会でも、そういう古いものの考え方をすると思うんですよ。でも、本当は人はもっとくだけた部分もあれば、笑いの部分もあるし、悲しい部分もあるし。それから、強い部分もあるし。すべては楽しみたいわけじゃないですか。それを味わいたいわけじゃないですか。だから、それができる人は、プライベートな部分と会社の顔を使い分けられる人でね。会社に行ったら鬼の部長で、家に帰ったらいいお父さんで。そういうのを演じて、切り替えしてるわけでしょ。いまはそういう自分の持ってるものを使い分けして楽しんでいくっていう世界になってきてると思うんですけどね。

――プロレスの世界でも、昔の人は一面的な見せ方しかしなかったけども、いまはけっこう多面的な見せ方ができますもんね。

蝶野　そういう形になってきてますよね。逆に一つのことを貫き通しちゃえば、色が付いてくるってことがあるけども、俺は毎日同じ服を着てるんじゃなくて、やっぱり日によって違う服を着てみたり、気分を変えてみたりっていう時代になってきてるから。着物は着てみたいし、スーツも着てみたいと。


それの方が俺は面白いと思う。
——じゃあ例えば、いまのスタイルがスーツだとして、格闘技が着物だとしたら、その着物を着る時がこないとも限らないってことですよね。
蝶野　格闘技？　だから、やってみたいって気持ちは誰でもあると思います。なんでもやってみたいってあるじゃないですか。別に格闘技に関係しなくたって、例えば、歌手でもなんでも（笑）。漫才でもやってね。
——見たいですね、それ（笑）。
蝶野　俺だったら、もっと笑わせられるって（笑）。
——トリオ・ザ・三銃士とかゼヒ見たいですね（笑）。
蝶野　みんな、なんか見てる時に絶対に「俺もこれをやったら」っていう気持ちってあるじゃないですか。だから、みんないろんなものを見るんでね。
——ところで、いまはプロレス以外で楽しいことってなんですか？
蝶野　いまは本当に家に帰っても、レスリングのことを考えてるっていう感じですね。
——はー。じゃあ、ある意味でようやく蝶野さんも24時間プロレスラーになったというか。
蝶野　そうですね、いまはそれをやらないと。全力を出さないと。俺はそういう高いレベルに来てると思うから！　だから、何もやらないでも、のほほんとして生きていけるポジションの団体ではなくなっちゃってきてるから。やっぱりエンジンを回さないと、他の人間と争えないとここに来てるからね。
——普段はプロレスについてどういうことを考えてるんですか？
蝶野　そうね、すべてレスリングにつながらないかと。例えば、銀行だとか会社のシステムとか、共通するところはないかとかね。
——銀行！　会社のシステム!!
蝶野　うん。そういう見方をしますね、



全部。だから、人が集まれば、三角形ができるんですよ！　それは会社であろうが、組であろうが、全部同じだと思うんですよ。
——組、ときましたか！
蝶野　いまは三角形って形が基本だと思うんですね。人をまとめる時には三角形が最善で、それしかないんですね。
——ピラミッドですね。
蝶野　人間、真横一列にはなれないし。だから、俺はその三角形の中の人間がわかってて動いてるならまだいいけど、わからないで動かされているだけなら、バカじゃねえかと！　三角形の頂点の人間だけが繁栄するっていうのはおかしいと思う。俺は逆だと思う。やっぱり三角形は逆三角形でなきゃいけないし、オーナーは労働者を支えなければいけない。彼らはすべての力を使って支えなければいけないと思うわけ、俺はね。だからって、そのためにはどうすればいいかっていうのは俺もハッキリとはわからないけどもね。でも、本当はそうでないと。彼らはなんのリスクもない。ただ、上に上に向かってるだけで。噴水じゃないけど、下から上がってくる利益の上に乗っかって遊んでるだけじゃない！　だから、まったくそれは昔の"王様形"と変わってないでしょ。
——そうすると、三角形をひっくり返したいということですね。で、蝶野さんは逆三角形を支えられるぐらいの力をつけたいという。新しいですよ、それ！　レスラーって正三角形のピラミッドの頂点に立ちたがる人ばかりですよね。そうじゃなきゃダメだろうし。
蝶野　人はみんなそうだよ。
——ピラミッドの頂点に立った上で、その三角形をひっくり返すっていうのは凄いですよね。多分そこまで考えてる人はあまりいないと思うんですよ。
蝶野　でも、ひっくり返した時、どういう風にバランスを保って、いる人間たちをどういう風に動かしていくかっていうのを、俺はまだ自分でわかってないから。だから手探りの状態ですよ。
——でも、そのシステムを確立するためには、アントニオ猪木たちが三角形の頂点を目指して築き上げてきたものよりも強大な力がいるものかもしれないですね。
蝶野　だから、やっぱりそこは、王様なり社長なりのお決まりの形を何千年ってやってきてるからね、人間の社会は。だから、本当はそのお決まりの形をどうするのか。だから、みんな一つのものに対して、決まり切ったものに対してこれがゴールだとやってるけど、今度はそのゴールをもっと違う方から考えなきゃいけないわけだから。だけど、それは頂点に立つ人間以外にも可能性があるわけだから。その人間たちが考えてもいいんじゃないかな。
——必ずしも支えるのは自分だけじゃなくてもいいってことですね。
蝶野　だから、"ニュー・ワールド・オーダー"っていう新しい力で、古いものは壊して新しいものを作っていく！　と。でも、俺はいいものはいいもので残していいと思う。だけど、ニユー・ワールド・オーダーってグルー

プは、あくまでも俺らがきっかけであ

ら引用してる言葉なんだから。



プは、あくまでも俺らがきっかけであってね、別に俺らがそれを出来なくても、それに気がついた人間をね、それをやれる人間をね、探してるんだよ。

――誰が「分母」になってもいいわけですね。「分子」を支えられる人間ならば。

蝶野　そうそう。だから、変な話、他のスポーツ社会もね、もっと状態は悪いわけ。枠が完全に出来上がってるからね、プロ野球だとか。プロレスはまだ、その辺あやふやだから、彼らの方がもっとプレッシャーがあるわけでしょ？　三角形の段が完全に仕切られてるわけだから。で、ダメな人間はどんどん落とされる。だけど、各選手には個人の生活があるわけだから、彼らには彼らの凄い葛藤があるわけじゃないですか。だから、変な話、“ニュー・ワールド・オーダー”のね、ものの考え方を持った人間がプロレスから出てこなくたっていいと思ってるわけ。

――はっはー。面白い！

蝶野　音楽関係でも、どっから出てもいいと。でも、そういう形が出てこない限りは、いつまでたっても人の背中を切り、ノドをかっ切ってしか生き残れない世界っていうかね。

――いやあ、凄いスケールの大きな革命なわけですよね。「世界平和」にも勝るとも劣らない。プロレスじゃなくてもいいって言われた日には、こっちはどうしていいのかわからなくなるんだけど（笑）。nWoのリーダーはサッカー界から出る！（笑）。凄いよなあ。

蝶野　だってnWoはもともと聖書から引用してる言葉なんだから。

――「俺が世界のトップに立つ」じゃなくて、「俺たちが世界を支える」っていうのは凄いですよ！

蝶野　だから、ゴールがわかってないから、新しいゴールが。だから、それを探そうよと。それがnWoのムーブメントだと思いますよ。俺らは、スピリッツの部分なんだよと。だから、ほかの業界でも悩みを持ってるヤツがいるんなら、そういう者に対しても訴えかけていこうということでね。「野球選手とか、ほかのスポーツの選手と交流してもいい」という考えだから。やっぱり、俺らは年齢的にもまだまだ夢がある年齢だからね。だから、夢は夢で終わらせるんじゃなくて、それは追求していきたいですね。伝説にしたいですね。

――そういえば、20代の頃に蝶野さんって才能だけで食ってたようなところがありますもんね。やっぱり30代になって、実際に自分たちがトップに立ってみんなを食わしていく立場になると、今度は才能だけでは食っていけない部分ってあるんじゃないですか。

蝶野　だから、昔のまんまいくのか、それはある意味でnWo、ニュー・ワールド・オーダーっていうのは俺の言葉の中のいい刺激になったですよ。俺も、ぼんやりとこのままじゃいけないけども。

――逆に言えば、ぼんやりしていても食っていけるだけの才能があったということですよ。ある意味でジャンボ鶴田的だったというか（笑）。

蝶野　でもねえ、会社ってのは余計なことを考えさせないようにしてますよね。社会の構造がね、働いてる人間にものを考えさせないようにする。下の人間が考えると、上の人間は自分が食われることがわかる。レスラーの社会も、新日本ってものが会社として人数を抱えてきたら、やっぱり、どんどんどんどん距離を置かしていって、ものを考えないレスラーを作る。

――実は、ものを考える人間がたくさんいたら、上にいる人間は大変なんですよね。

蝶野　そうなんですよね。怖いんですよ。ものを考える人間がたくさんいたら、食われる率は多いわけだから。

――ところで、猪木さんは八百長って言葉に対して、道場論的なものを強くすることで立ち向かっていったじゃないですか。興行論主体の選手っていうのはそういう場でけっこう弱いですよね。それについては？

蝶野　元来それはね、レスラーが弁解するべきことじゃなくて、本当はそれを取り仕切ってる会社がやらなければいけないことだと思うんですよ。別にレスラーがルール作ってやってるわけじゃないんだから。ルールを作ってる興行会社が責任を取って発言しなきゃいけない。それを金儲けだけしておいて、都合が悪くなった部分だけ、レスラーに話をもってくのがおかしいと思う。猪木さんたちは経営者であり、レスラーであるから、それだけのことを言えるけど。

nWo new world Order

The naval of new world order

俺らは“nWo”のロゴじゃなくて“ニュー・ワールド・オーダー”なんだよ！

――例えば、グレート・サスケはアメリカで「プロレスなんてどうせ八百長だろ？」って言われると、ビール瓶を自分の頭でガンッと割って、「これでも八百長か？」っていうやり方をするそうなんですよ（笑）。昔流のプロレスの守り方というか。

蝶野　俺はあんまり聞かれないですからね。

――もし聞かれたら、どういう対処の仕方するんですかね。

蝶野　「ルールが悪いんだろ！」って言いますね。

――ルールが悪い！（笑）。どうにもいまのプロレスというか、社会というか、いずれにしても、蝶野さんが感情をぶつけるのはルールにいきつきますね。

蝶野　本当だったらね、「八百長だろ」なんて聞いてくる奴は、拳で鼻を殴ってやりたいんだけど。俺はもともとルールを守るような人間でもないしね。でも、その俺が守りすぎてるというところがね、ヘンなんだよ！（笑）。

【10月7日、広尾・BBスタジオにて収録】



TAKAみちのく

10・10両国決戦前の心情

よく聞け、バカ社長!

俺はWWF所属のTAKAみちのくだ!!

聞き手/のものの
interview by Nomonomo

撮影/斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito

試合写真/遠藤政文
photographs by Masafumi Endo

契約書？ そんな紙切れ一枚で縛られてたまるかっ！



9月23日・みちのくプロレス会津大会。第3試合に行われた正規軍vs海援隊★DXの6人タッグ終了後、メインに出場するはずのTAKAみちのくが突如乱入！　サスケがサンダーファイヤーでフィニッシュに行くところを、ジャストタイミングでドロップキックでカット。その後、みちのくドライバーでサスケを完全KO。線は多少細くなったが、天才的な運動神経＆瞬発力＆物怖じしない図太さは衰えていない……。

——ＴＡＫＡさんは何やらサスケ社長に思う所が多々あるみたいなんで、今日はその辺をぶつけて頂こうと。

TAKA　サスケの悪口？　言いたいことはいっぱいあるよ。これが出る頃にはとっくに終わってると思うけど、10・10両国のサスケ戦なんか、まったくやる気ねえから。

——えぇ～え……。

TAKA　バカバカしい。何が「許せない！　これはケンカだ！　アルティメットルールでやってやる！」だ。オマエはバカか！

——バカか！（笑）

TAKA　そういうのでいいならやるよ、俺は。ただし第1試合にしろ！　5分で充分だよ。ホント、わかってねえよ。みちプロの年1回のビックマッチだろ。それでメインでそんなことやってみろよ。これ以上客離してどうすんだよ。まったく、会社のこと考えてるようでまるで考えてねえよ。

——社長なのに……。

TAKA　じゃなくても俺とあの人がメインでやっても客なんか呼べないんだから。バカだよ、ホントに。だいたいサスケがメインに出ること自体間違ってるんだよ。

——エースなのに……。

TAKA　やっぱり海援隊がメインに出るのが普通だろ。

——一応、トリプルメインってことですが。

TAKA MICHINOKU

TAKA　何がトリプルメインだ、一番最後がメインに決まってんじゃねえかよ、バカヤロウ。

——あぃ～。

TAKA　だってあの人、興行全体を考えてねえだろ、社長のくせに。メインにふさわしいか、このカードが。

——何言ってるんですか、天下のＷＷＦ所属選手のＴＡＫＡみちのくが。

TAKA　知らねえよ、そんなもん。海援隊がメインに出るのが普通だよ。この夏、みちプロをひっぱってきたのは海援隊だろうが。さんざん批判されてきたけど、海援隊無くしては今のみちプロはあり得ないよ。海援隊いなくなったら、みちのくなんか間違いなく潰れるよ。

——それでなくても、みちのく危機説が囁かれているわけですからね。

TAKA　あと何だ、サスケはみちプロの契約が何だかんだ言ってやがるけど、そんな紙切れ一枚（契約書）で縛られてたまるかっ！

——でも契約破ったら違約金3千万円払わなくちゃいけないんですよ。

TAKA　そんなもん知るかっ！　じゃあ両国のギャラ3億円よこせ！

——3億円!!　ビッグな団体へ行くと言うこともビッグになりますね（笑）。でも個人的な思いですが、ＴＡＫＡさんはアメリカンプロレスには染まってほしくないんですよね。

TAKA　もう染まってるよ（笑）。こないだ会津でタイガーとやって「あぁ、もう俺は日本では試合できねぇな」って思ったもん。

——パンクラスに電撃参戦した、あの熱意はどこへ行っちゃったんですか！

TAKA　確かにいい経験にはなったね、パンクラスは。ま、結果的には売名行為になっちゃったけどな（笑）。

——売名行為ですか（笑）。

TAKA　パンクラス出て、メヒコ行ってルチャをやる。この両極端がいいんだよ。あんまり先のこと考えてないから。行き当たりばったりだから。ＷＷＦだってそうだよ。運がいいだけ。運だけでここまできたんだから。実力なんかないよ、俺は。

——うわ～っ、また夢を壊すようなことを言う！

TAKA　もう日本でなんかできないよ。アメリカは楽しいよ。客のリアクションもいいし、どこも会場がデカイし、いつも満員だし。

——日本とは違うと？

TAKA　はっきり言ってスケールが違うよ。日本には2大メジャー、新日本と全日本があるけど、テレビいつやってる？　深夜だろ。アメリカは2大メジャーがどっちも毎週2時間3時間、ゴールデンタイムで生中継枠持ってるから。それに1回出るだけで一気にステイタスが上がるわけよ。スーパースターだよ。もうホント、全然スケールが違うよ。

——まぁ確かに、みちプロに比べるとスケール、デカイ話ですよねぇ。

TAKA　そんなの比べること自体が失礼だ！　ウチのバカ社長はＷＷＦと



TAKA MICHINOKU

サスケがダメなのは『紙プロ』と付き合っているからだ！

みちのくを対等の立場で見てたから。

──サスケ社長は優秀なビジネスマンですからねぇ。

TAKA　契約の問題だってでかく出すぎだよ。立場を考えろよ！　何が「NOと言える日本人」だ！

──ナハハハハハハハ。

TAKA　ただのビジネス下手な日本人じゃねえか。だって結局、契約こじれてんだから意味ねえじゃんよ。

──でも天下のWWFに喰らいついて行ったのはサスケ社長が初ですよ。

TAKA　だからバカだっつってんの！　初回なんかギャラが安くたっていいじゃねえか。すごいビッグチャンスなんだから。うまくいけばスーパースターになれるチャンスなんだから。それにギャラが安いって言ったって、そんな格安ってわけでもなかったハズだよ。

──ギャラの基準がわからないんで、何とも現状が掴めないんですけど。TAKAさんに提示されたギャラは、いい方に入るんでしょうか？

TAKA　ああ、某F紙に書いてあったことか。勝手なこと書きやがって。デタラメだよ、あんなの！

──確か1年契約で年棒1200万円でしたっけ？

TAKA　知らねえよ､あんな話。

──ホントはいくらなんですか？

TAKA　知らないよ！　他に聞くことねえのか！

──す、すいません。でもやっぱり淋しいですねぇ、心が完全にアメリカへ飛んで行ってしまっていて。

TAKA　1回あっちの味を覚えると、もうダメだね。まぁとにかく一言言えるのは、サスケはバカだっていうことだよ。（WWFの）デビュー戦の時なんか、自分を売りたいがために人の顔をボコボコに蹴りやがって！

──ナハハハハハハハ。

TAKA　次の日にW・シャムロックとかとその試合のビデオ見てたんだよ。そしたらそのサスケの蹴り見て「オォ～ウ、シット！」って（笑）。

──ナハハハハ、シャムロックが！

TAKA　「クレイジー」って言ってたもん。とんでもないよ。サスケはプロレスの根本がわかってない！　何年やってんだ、バカヤロウ！

──ナハハハハハ、頭打ちすぎて……。

TAKA　もう完全に壊れてる。旗揚げ当時一緒にやってたグレート・サスケはもういないよ。死んだよ。自分勝手、わがまま、大バカヤロウ！

──大バカヤロウ！

TAKA　リムジン買った時点でおかしくなったね。金がねえ団体なのに、どっからそんな金が出てくんだよ。

──だから破壊しちゃったんですか？

TAKA　前からあの車は嫌いだったから、いつかブッ壊してやろうと思ってたんだよ。ザマアミロ！　ついでに宣伝カーも1台ブッ壊してやったから。みちのくの車全部ブッ壊してやろうと思ったんだけどな。あと、あの事務所も気に入らないから、そのうち火つけるかもしれない。

──ナハハハ、すげえ！

TAKA　昔の事務所（プレハブ小屋）は好きだったけど、今の事務所は豪華すぎてみちのくらしくねえよ。そのうちマジで火つけるから。

──マジで！（笑）

TAKA　それ面白いな。やるか、放火魔。そのうち捕まるかもしれないな。そしたら俺、海外に逃げるから。

──犯罪者ですよ、そんなの逃げてもダメですよ（笑）。サスケ社長はそんなにダメですか？

TAKA　サスケがダメなのは『紙プロ』と付き合ってるからだよ。それが一番の原因だよ！

──ナハハハハハハ。サスケ社長はダメ人間好きですからねぇ。ウチの会社はダメ人間の拠り所ですから（笑）。

TAKA　自分がダメだから共感を覚えるんじゃないか。でもあの人は自分がダメだとは思ってないから。

──フォローするわけじゃないですけど、サスケ社長はたとえダメ人間でも天才ですよ！

TAKA　いやぁ、今のサスケはダメだよ。昔は俺もそう思ってたよ。この人はすごいな、この人について行けば大丈夫だって。でも今はこれっぽっちもそんな気ない。コイツについて行ったらダメだと思うし。かと言って、俺の力でみちプロを何とかしようとか、そんな気もないし。

──もうみちのくに対して愛はないんですか？

TAKA　ないに近いね。みちのくでやりたいことなんかもうないよ。だから今回の騒動で会社が俺を切りたいと



思うんだったら切ればって感じだよ。俺は自分から辞めようとは思ってないけど、ただ契約が重なっちゃって、どっち取るかって言ったら……、ま、そんなの聞くまでもないでしょうが。

――でも何度も言うようだけど、WWFのスタイルが染み着いちゃうと、日本でやる時にすごく苦労すると思うんですよ。日本でやっている日本人の選手とは噛み合わなくなっちゃうと思うし。人生選手だって、WWF帰還後しばらくはそうだったわけじゃないですか。アメリカでは間の取り方とかパフォーマンスが重要なのはわかるんですが、だからって日本でも同じことをやっても通用しないと思うんですよ。

TAKA　通用しなかったね、こないだの会津の試合も。

――それでいいんですか！

TAKA　できないんだよ、もう、日本のスタイルが。もし、今、俺がバトラーツに出ても秒殺されるよ、きっと。今はもう身体がついて行かない。だけど、サスケ相手のアルティメット戦だったら3分あれば充分だ。あの人は弱いぞ！　500％勝てる！

――サスケは弱い！（笑）

TAKA　ただ俺はそういうことはやりたくないんだよ。客を喜ばせなきゃいけないし。叩き潰すんだったら街のケンカと一緒でしょうが。そんなの簡単だよ。でも仮にもメインだよ。それでそんなことやっちゃあねぇ。だから俺は勝敗より内容を大事にしたいね。勝ってもしょっぱい試合だったら客はがっかりするだろ。

――こないだの会津のタイガー戦みたいな？（笑）アレはちょっとがっかりでしたねぇ。

TAKA　あれはしょっぱかったな。

――前はもっといい試合してたじゃないですか。TAKAさんが〝平成の虎ハンター〟と呼ばれてた時期なんか特に、名勝負数え唄って感じでしたけどねぇ。

TAKA　俺は変わってないよ。タイガーがダメになったんでしょう。やっぱ、あの長期欠場が響いたよ、アイツは。もういいよ、アイツの話なんか（笑）。まぁ、みちプロ年1回のビッグイベント（両国）で、みちプロの生え抜き同士、サスケとのシングルでメインはれるっていうのは形はどうであれ、みちプロ対WWFだろうと何だろうが個人的には嬉しいけど。

――おお、WWFの選手がそんなこと言っていいんですか？

TAKA　だから形はどうであれだよ。〝これがみちのくの5年間だ！〟って試合を見せたいね。……と、思ってんのにケンカだ何だかんだ言われちゃねぇ。ケンカをやるんだったら事務所でいいよって。いつでも行ってやるよって。何なら事務所ごと燃やしてもいいよって。

――ケンカマッチ、ちょっとだけ見たい気もしますけどね（笑）。



ここ最近、TAKAの名前しか口にしないほど、TAKAとの対戦を熱望していたタイガー。しかし、かつては「名勝負」と謳われていたほど噛み合っていた2人だが、時を経て行われた会津大会のメインでは、今イチ呼吸が噛み合わず。

TAKA オマエもバカだな（笑）。サスケもバカだよ、ホント。少しは大人になりなさい。もういい年なんだから、子供もいるんだし。

——ナハハハハ、妻子のために！（笑）ま、今のみちプロはマジで笑ってられない状況らしいですからねぇ。

TAKA 知ったこっちゃない。そんなんサスケが悪いよ。

——やっぱりサスケが悪い！

TAKA 夏のシリーズ、全然客入らなかったでしょ。それをアイツは、自分が出ないから客が入ってないと思ってんだよ。サスケが出て客が入ったか？ 入ってねえじゃねえか。悔しいけど、あれはやっぱりデルフィンだと思うよ。デルフィンはしょっぱいけど人気はあるから。はっきり言ってサスケは人気ない！ 今なんか立場が逆転してんじゃねえか。浜田が首絞めとかやってんだよ。完全に正規軍がヒールだよ。

——海援隊の方が声援多い日もありますからね。

TAKA 海援隊が今までやってきたことがやっと報われたね。

——てっきり海援隊とも手を切ると思ってましたよ。

TAKA 心は海援隊だよ。

——海援隊のプロレスもアメリカンプロレスに近いですもんね。

TAKA だから、できれば海援隊で海外でできればいいよね。正規軍を呼ぶことはないだろう。あんなの呼んでったら恥かくわ。

——でもECWの海援隊VS正規軍の試合は非常に面白かったですよ。

TAKA あれが海援隊VS海援隊だったらもっとすごい試合になってたよね。正規軍だったら俺たちが何かやってあげないと光らないから。自分で光ることはできない人たちだから、もう。飛ぶしか能がないバカ集団だから。

——ナハハハハ、バカ集団！

TAKA 飛び技だって、サスケがやるケブラーダやトペコンとか誰だって今やってんじゃん。もっとデカイ奴だって飛んでんじゃん。

——こないだなんか、アレクが飛んでましたからね。

TAKA 鉄柱ノータッチで飛んだらしいじゃん。あんなデカイ奴にそんなのやられたらサスケなんか立場ないっしょ。だからもっと危機感を持った方がいいよ、あの人は。

——みちのくを捨てて行くアメリカ、WWFのどこにそんな魅力を感じているんですか？

TAKA 俺がWCWとWWFでWWFを選んだ理由っていうのは、WCWっていうのはジュニアのクラスが腐るほどいるんだよ。ペガサスとかエディ・ゲレロとかマレンコとか。あとメキシカンが今、大量に入ってるんだよ。だからはっきり言ってそんなとこへ行って俺が飛んでも大して目立たないじゃねえか。ところがWWFは、まだ何もない所を、これから作って行くんだよ。そこに魅力があるじゃん。うまく行けば俺が第一人者になれるわけだし。これから開拓していく所だから。ベルトも新設されるらしいし。初代チャンピオンになれれば名前も残るし。

——でも上に行けるチャンスは限りなく少ないですよね。結局はライトヘビー級で終わっちゃうんじゃないですか？

TAKA 日本のジュニアには今はまるで興味ないから。俺の中で一大計画があるんだよ。日本のインディーの中でいくら頑張ってもねぇ。そりゃあメジャーの選手とも闘う機会はあるよ。新日本とか全日本とか上がって試合はできるよ。で、もし勝ったとしても、勝ったっていう結果だけでメジャーを越えたってことにはならないんだよ。例えば俺がライガーとやってライガーに勝ったとする、でもライガーより上か？ って言ったら上にはならないんだよ。だから俺は日本のインディーとしてメジャーを越えるんじゃなく、アメリカのメジャーでトップになって日本のメジャーを越えてやろうと思ってるんだよ。

——海外でメジャー越えですか。

TAKA 日本のインディー界にいながらにしてメジャーを越えるにはそれ

TAKA MICHINOKU

海を越え遠く離れたら
心はみちのくになし！

しかないんだよ。世界のメジャーでトップを張らなきゃ無理なんだよ。

——えっ、じゃあ今は一体何になりたいんですか？　強くなりたいという気持ちは、全くないわけなんですか？

TAKA　ん～、自分のステイタスを上げる。

——何だかそれって昔のTAKAさんからは考えられない発言ですよね。ずいぶん考え方が変わってしまったなぁと、正直すごくショックなんですが。

TAKA　前ほど強さは求めてないかもね。

——昔はもっとやんちゃだったのにぃぃ。何だか、すごく遠い昔のことのようだ……。

TAKA　大人になったんだよ！

——ナハハハハ、でも個人的には嫌な大人のなり方ですけどね。もっと大人になったらどうします？　サスケ社長みたいな優秀なビジネスマンにでもなりますか？（笑）

TAKA　俺は頭悪いから（笑）。めんどくさいこと嫌いだし。俺もそうだけど、サスケがここまできたのはホント運だけだからな。はっきり言って実力なんかないから。運だけでここまできたけどそれもここまでだな。今回のWWFの件でガラッと変わったね。あの人はこれからどんどん落ちるよ。もう上がることはないだろうね。ここまでだよ、あの人は。あの人の運を俺がもらった！

——じゃあこれからみちのくは一体どうなっちゃうんでしょう？

TAKA　知らねえよ。まぁ、サスケのことだから意地でも潰さないんじゃないの。

——でもこのまま行ったらホントに潰れかねないですよ。

TAKA　自業自得。これで海援隊抜けてみろ、どうなっちゃうか知らないよ（笑）。そのうち何かあるかもよ、気付いたらみんないなくなってるかもよ（ニヤリ）。

——ナハハハハ……!?　って、ちょっとぉ！　全然笑えないですよ、それは！

TAKA　50ヶ年化計画とか言ってるけど、この先何年もつかね。

——TAKAさんはいつ戻ってくるんですか？

TAKA　気が向いたら。今回だってWWFの指令通り、紙切れ一枚（10・10両国大会にWWF側からTAKAを選抜したという内容の公式書）届けに来ただけだからな。言ってみればバケーションなんだから、日本には観光に来たんだよ。観光で来たのに試合なんかさせるな、アホ！

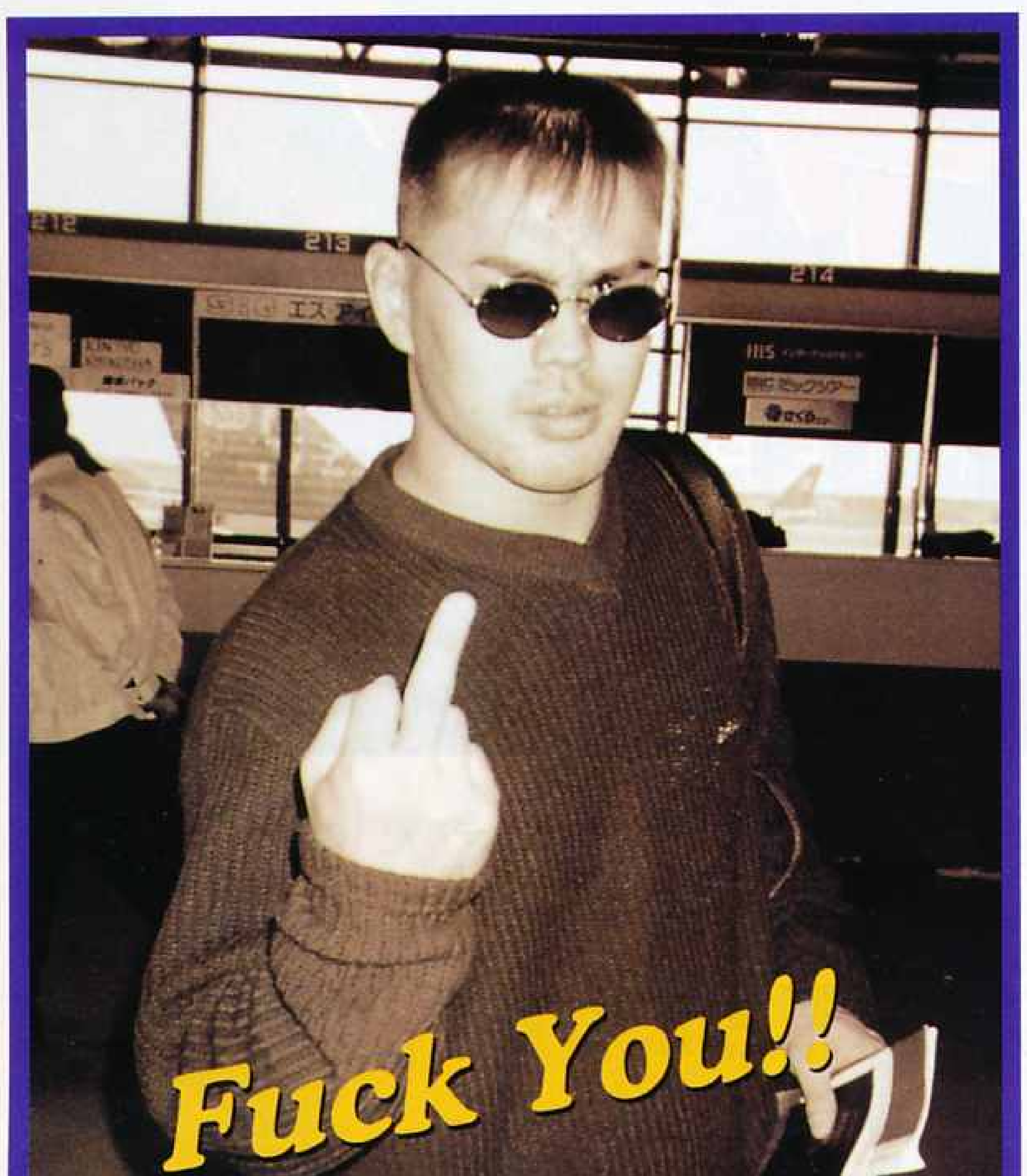
——ナハハハハ、観光だったんですか！　心はもうすっかりアメリカンなんですね。人生選手がWWFに行く時「海を越え遠く離れても、心はみちのくにあり！」という名セリフを残したじゃないですか。個人的にとても感動した一言だったんですが、TAKAさんの場合は……？

TAKA　心はみちのくになし！　でも『TAKAみちのく』って名前は捨てないよ。嫌味ったらしくずっと使ってやるよ。

——そこまで憎いんですか……。では、何か日本のファンに言っておくことはありますか？

TAKA　何もねえよ。あ、そうだ。最近俺宛に来る手紙で「死ね！」とか「潰すぞ！」とか書いてくる奴が多いけど、オマエが死ね、バーカ！　それから「頑張れ」とか書いてくる奴にも言っておく。俺のことは応援するなって前から言ってるだろ。俺のことはもう忘れろ！　記憶から消せ！　以上、もう終わりだっ！

【9月28日ダブルクロスにて収録】



両国決戦後、WWFへと飛び立って行くTAKAを成田空港で直撃！
アメリカ出発当日の心情を語る!!　P42へつづく……



「古いことは新しいことであり、新しいことは古いことでもある」

By Mr.カール・ゴッチ

荒ぶるケンカの魂を読め！

TEXAS BRONCO!

テリー・ファンク

TERRY FUNK

INTERVIEW PART 1

聞き手／坂井ノブ
Interview by Nobu Sakai
撮影&通訳／藤見道隆
photographs by Michitaka Fujimi

—今日は憧れのテリー・ファンクに会えて非常に光栄です！

テリー　そいつはオレも嬉しいよ。

—恐縮です。アレクサンダー大塚とラッシャー木村の区別もつかない本誌お勘定の林ヘックション一枚も「憧れのテリー様によろしく」と言ってました。日本にはテリーさんに憧れたり、テリーさんに会いたいというファンが大勢いますよ。

テリー　日本に来てから多くの人に会ったよ。憧れを抱く人もいるが、いい関係の友達が日本にはたくさんいる。ファンの世代が変わっても、オレはファンといい友達関係でいられるのさ。

—そうやって友達感覚でファンと接せられるのがテリーさんの人気の秘訣じゃないかなと思います。

テリー　オレもそう思う。それとリング上で100パーセント力を出し切って試合してるからだよ。おい、クッキー食うか？

—おおっ、ありがとうございます！テリー・ファンクからクッキーをもらっちゃったよ！　感激だなぁ。

テリー　腹減ってんだろ？　ハッハッハ！　グッド・クッキーだ。うまいよ。

—おいしいですね。

テリー　だろ？　オレのお気に入りなのさ（笑）。

—朝食は、そんな軽いもので済ませているんですか？

テリー　普段は早く起きて、日本式の朝食を食べるんだが、昨日は寝るのが

今でもケンカはやってるよ 昔のガンファイターみたいなもんだな



遅かったんでね。日本の朝食はすごく好きだよ。

――ジョー樋口さんの本を読んだら、「ファンクスは非常に朝寝坊だ」って書いてあったんで、今日の取材（午前10時開始）は朝早くからで大丈夫かなと思ってたんですが、大丈夫ですか？

テリー　ハッハッハ！　でも、オレは時間通り来ただろ？　ジョーヒグ～チがオレのケツを叩いて、早く起きるようにトレーニングしてくれたんだな。

――ハハハハハ！　今日、取材が出来たのはジョー樋口のお陰だ（笑）。

テリー　そうだな（笑）。

――今日は、そのジョー樋口さんのいる全日本プロレスにテリーさんが上がっていた頃のお話も伺いたいと思います。

テリー　オ～、グレイト・タイムスだ！

――テリーさんはそこで、一時代を築いた訳です。

テリー　グレート・メモリーだよ！　たくさん思い出がありすぎるな。オールジャパンにいた頃のことが特に印象に残っているよ。ブッチャー＆シークとの試合、ミスターババとの試合、ジャンボツルタとの試合が特に印象深いな。ジャパン・プロレスの時代にはセイジ・サカグ～チやイノキ＆ババとのタッグマッチなど、たくさんあるよ。ファンク・ファミリーはオール・ジャパンのヤングボーイをたくさん育てたのさ。ジャンボ、テンルー（天龍）、サクラダ（ケンドー・ナガサキ）などだ。そうして今の全日本をどんどんメジャーにしていったんだよ。

――今の全日の源流は、間違いなくファンク道場だと思いますよ。

テリー　オレがいた頃のオール・ジャパンは世界でいちばんグレート団体だったよ。もちろん、いまもすごくグレートな団体だが、その頃もすごかった。WWFよりもすごかったんだぜ！

――そういう意味では、プロレス史の中の革命的な道場だったんですね。日本ではすでに伝説の道場になっていますよ。

テリー　特に日本ではそうだろうな。

――テリーさんのファイトは一貫してアメリカン・スタイルのケンカ・プロレスですよね。

テリー　どんなスタイルでも出来るけどな。ブレッド・ハートとやっても、ブッチャーとやってもどんな相手でもOKだぜ！

――昔は相当ケンカをしてたんじゃないかと勝手に想像してるんですけど。是非、武勇伝が聞きたいです。

テリー　オ～ノ～！　オレはケンカしたことないよ！（笑）

――ええ～！　楽しみにしてたのに！

テリー　そんな昔のことは言いたくないのさ（笑）。

――以前、ハルク・ホーガンが全日との契約を不履行した事件があったときに、テリーさんはホテルを襲撃してホーガンと横にいたタイガー戸口を殴っ

たというエピソードを馬場さんの本で読んだんですけど。

テリー　ああ、あの話か。確かにホテルに行ったんだ。でも、ドアをブッ壊して部屋に入ったらホーガンはいなかったんだ。でも、ヤツにとってそれはラッキーだったよ。もし、いたら窓から突き落としてたと思うよ。そこはすごく高い階だったから、絶対に助からなかったろうな。

――ハハハハハ、すげえ（笑）。じゃあ、ホーガンとタイガー戸口はいなかったんですか？

テリー　ホテルに行って、ヤツを絶対にブチ殺してやろうと思ってた。と同時に、いなくてよかったとも思うよ。だって、いたら必ずアイツをブン殴ってホテルから突き落として、今はモンキーハウス（刑務所）暮らしだったろうしな。それくらい怒ってたんだよ。

――昔、ドリー・ファンク・シニアとフランキー・マードック（ディック・マードックの父親）が試合してた会場で、幼い頃のテリーさんとディック・マードックとケンカしてたらしいですね。

テリー　どっちが勝ったか聞きたいのかい？　ハッハッハ！　オレさ！　もし、ディック・マードックがここにいても、オレが勝つね！

――ハハハ、プロだなぁ！　テリーさんはもし、町で素人にからまれた場合、プロレスラーは絶対に負けちゃいけないというこだわりはありますか？

テリー　絶対負けたくないね（笑）。でも、もうたくさんストリート・ファイトはやり過ぎたから、やりたくないよ（笑）。今でも、たまにやってるんだけどね。まあ、昔のガン・ファイターみたいなもんだな。

――おおっ、テキサス・ブロンコ魂ってヤツですね！

テリー　今は口が達者になったが、若い頃は口より手の方が早かったのさ、ハッハッハ！　手が早かった頃はクレイジーなこともたくさんやったよ。



スピニングトーホールドと並ぶテリーさんの代名詞が、右ジャブからの左フック。観る者を幸せにさせる技である

もし、あの時ホーガンがいたら絶対にオレがブチ殺していた

――その頃のエピソードなんかあったら教えてください。

テリー　たくさんあるなあ……。（と遠くを見つめながら回想）あるとき、オレはバーにいたんだ。オレはマイ・ワイフと話していたんだけどな。するとすごく大きなヤツがやってきて「握手してくれ」って言うんだ。握手したら、そいつがすごい力で手を握ってきたのさ。そんなことするとは思わないだろ？　頭に来たもんだから平手打ちをお見舞いしたら一発でダウンしちゃったよ。顔から落っこちてね。頭に来てたからそいつを起こして、パンチを見舞ってやろうと思ったんだけど、そいつが伸びちゃって起きないんだ。仕方ないから、ズボンを引っ張って起こそうと思ったら、ズボンが脱げちゃったんだよ！　ハッハッハ！　どうやっても立たなかったんで、しまいにゃケツにかみついてやったのさ、ハーッハッハッハッハ！

――さすがだな～（笑）。

テリー　でも、ケツをかまれたヤツが法廷に電話しちゃったもんだから、結局オレは700ドルの支払いを命じられたんだぜ。

――ガハハハハ、ケツかんで700ドルは高いですね（笑）。

テリー　ああ、とっても高いケツだったな（笑）。高級なステーキでもそんな値段はしないぜ！　ひとくちなのにさ（笑）。

――ガハハハハ、ひとくちって（笑）。アメリカなんかだと、腕試し的にレスラーにからんでくる輩も多いんでしょ

TEXAS BRONCO!

テリー・ファンク

TERRY FUNK

リアルでグッドなプロフェッショナル レスラーはいつでも勝つ！

うか？

テリー　ああ、特にテキサスはそうだね。でも、オレにケンカをふっかけて来るヤツは、もういないな。みんなオレをリスペクトをしてくれてるんだ。若い選手は、まだやってるみたいだけどね。

――「ケンカふっかけられても負けない」という意地はレスラーとしての大事な要素だと思うんですが、いかがですか？

テリー　アメリカでは、負けることもあるかもしれない。それこそ、暴走族やギャングを含めた様々なオーガニゼイション（集合組織）があるんだ。プロフェッショナル・レスラーは、その中からチョイスされた人間たちなんだ。その中から自然淘汰されて有名になってくるレスラーこそがホントに強いんだ。だから、そういうレスラーは絶対負けないんだ！　例えばオハイオで試合をしてるギャラ20ドルのレスラーがいるとするだろ？　そういうレスラーは数に数えちゃいけないんだ！　昔に比べると、今は何百、何千ものレスラーが増えてるから、レスラーを名乗っていても負けることはあるんじゃないかな？　日本も同じ様な状況なんじゃないのか？

――そうですそうです。基礎も身体も出来てないのにレスラーって名乗ってしまえば、レスラーになれる状況なんですよ。そういう状況はハッキリ言って好ましくないですよ。

テリー　時間が状況を変えるんだ。リアルでグッドなプロフェッショナル・レスラーは、いつでも勝つ！

――おおっ、そういうレスラーの言葉には鳥肌が立っちゃいますね。

テリー　そういう訳の分からないレスラーは臭いよ、ハッハッハ！

――ハハハ、テリーさんいいなあ。

テリー　昔はこんなことはなかったんだ。でも、新しいレスラーの中にもいいレスラーが育っているんだぜ。昔はレスラーが200人いたら、200人がいいレスラーだったんだ。ただ、強さに関してはみんな平均的に強かったんだ。ただ、今は臭いレスラーもいるんだが、いいレスラーは飛び抜けていいんだ。90年代のアメリカでは、すごくいい選手が育ってきてるんだぜ。ワカリマセンカ？

――突然日本語ですか（笑）。読めないですね、テリー・ファンクは（笑）。それはＥＣＷですか？

テリー　イエス！　初めは何もなかったんだ。でも、今はいいドージョーがあるんだ。タズのドージョーだ。

――タズってタズマニアック？

テリー　イエス！　グ～ッド・ドージョーだ！　レッスルしてレッスルしてレッスルするんだ。タズはクレイジーを作ってるんじゃないぜ、ちゃんとしたプロレスラーを作っているんだ。とってもスマートな頭を持ったプロレスラーを作ってる。昔のプロレスラーのような感じではない、スポーツ化したレスラーを育ててるんだ。

――そこではシュート・ファイティングを教えてるんですか？

テリー　イエス！

――強さも兼ね備えた新しいアメリカン・プロレスが育ってるんですね。先程、「クレイジーは育てない。レスラーを育ててるんだ」というお話がありましたが、テリーさんを見てるといい意味でクレイジーなプロレスラーという感じですよね。そこがテリーさんの時代のプロレスラーの魅力ですよ。

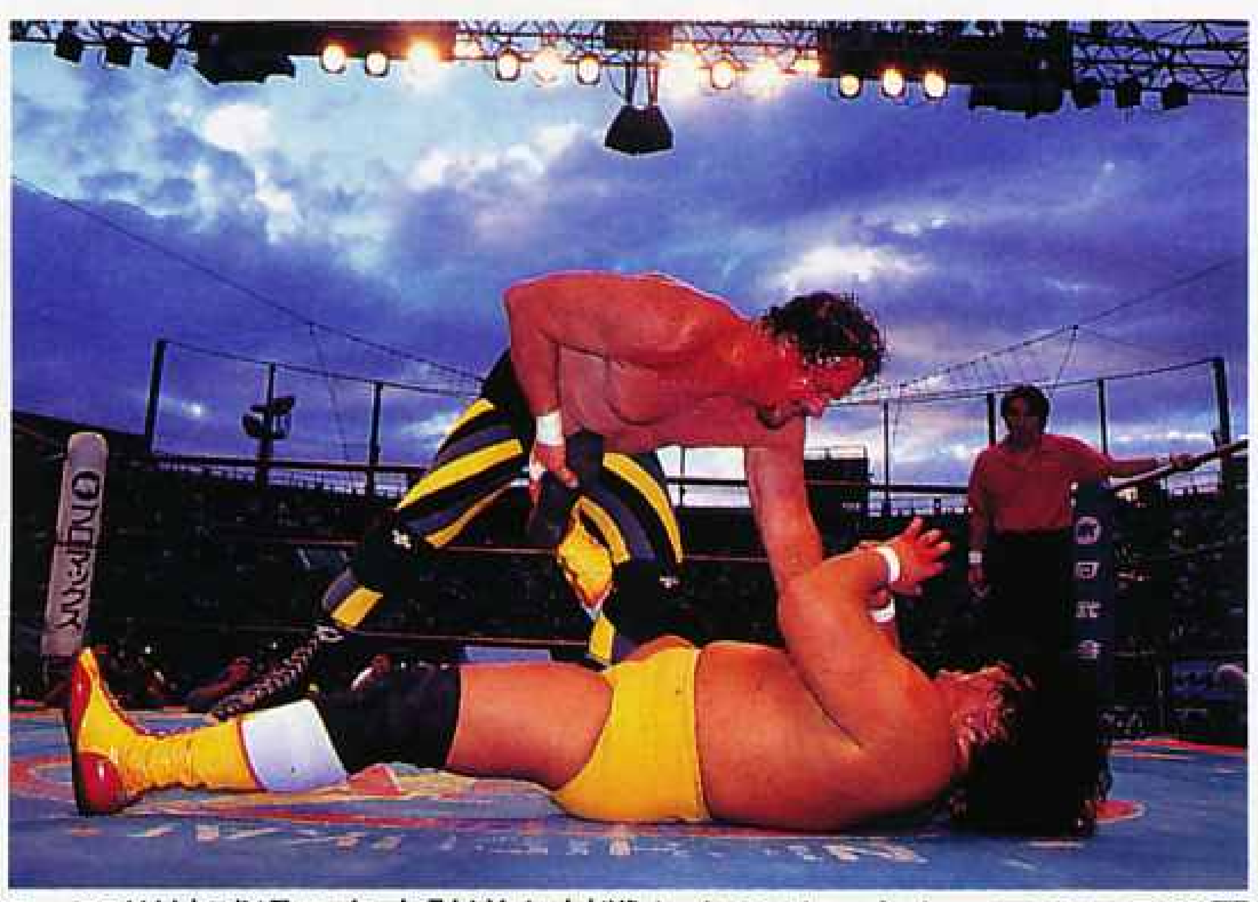
テリー　ハ～ッハッハッハ、オレもそう思うよ。歳をとったクレイジー・オヤジだな。

――ハハハハハ、さっき自分で若いって言ってたじゃないですか？（笑）

テリー　ノー……。（と呟いて突然、うなだれる）

※突如として、顔が曇りだしたテリーさん。やっぱり早起きは苦手だったのか？　それとも質問が悪かったのか？　次号の後編はウェットな展開で読む者の心を掴んで離さないこと間違いなし！　えぐり込むように右ジャブを打ちながら待つべし！

【97年9月27日、池袋のホテルにて収録】




9・28川崎球場で冬木弘道と対戦したテリーさん。コテコテの正調アメプロがひとしきり展開され、最後はムーンサルトで決着。冬木のジャブでフラフラになるテリーさんは必見！
T・ファンク（12分23秒　片エビ固め）冬木弘道

'97カタブツ・ドウジョウヤブリシリーズⅢ

10月7日=東京
バトラーツ道場

最終戦

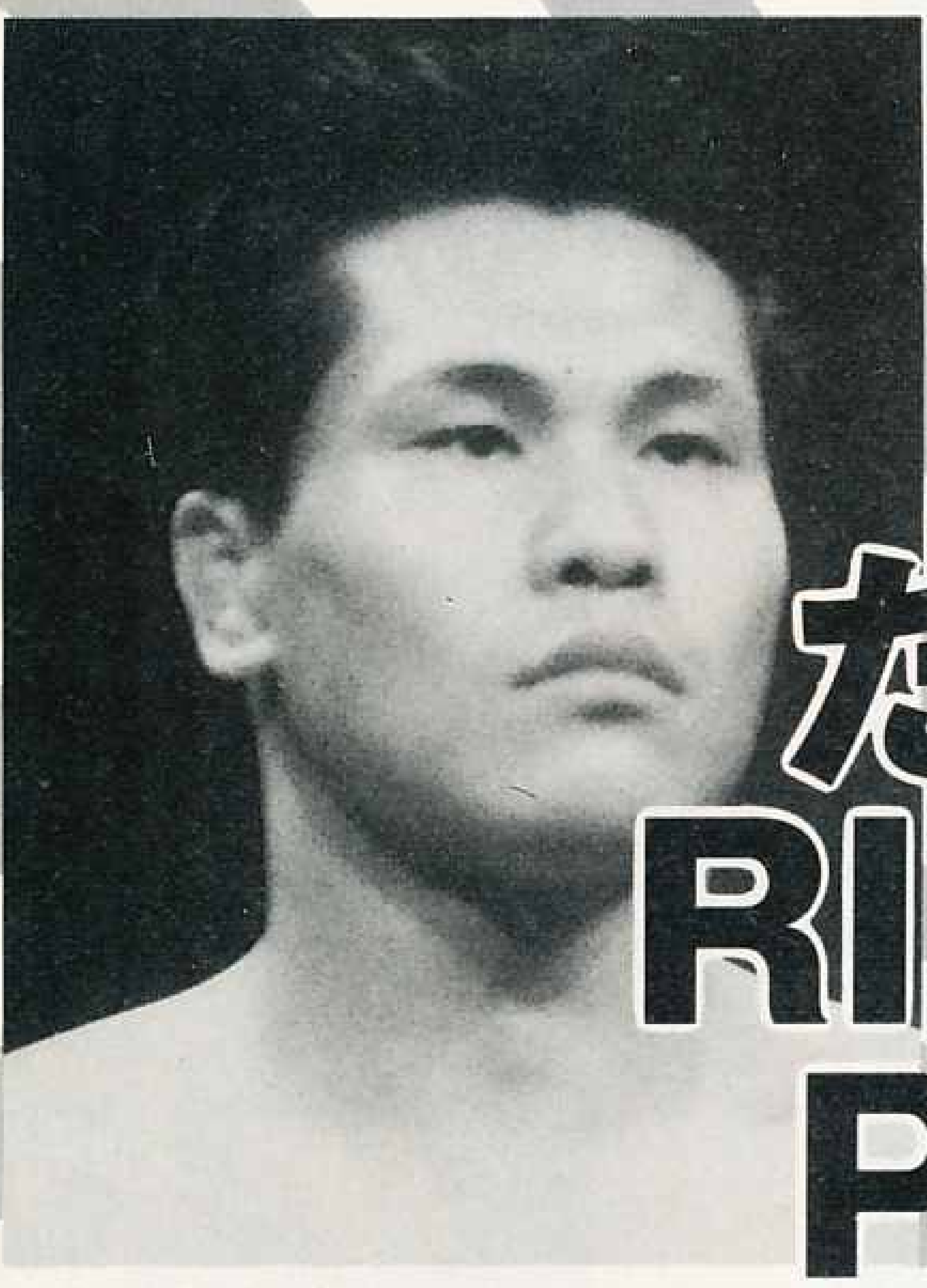
カタブツを回せ!



前々号のもてぴょんvsカタブツ君（34歳）の道場マッチのVTRを見たアレクが一言
「今度は俺がジャイアントスイングで回してやる!」
プロレスラー直々に技をかけてもらうなんて!しかもジャイアントスイング!プロレスファンであるならば身に余るほどの光栄なことである。ところがブチときたら、声には出さないものの、明らかにご不満の様子。この、身の程知らずのポンコツ居眠り野郎め!
こんな能無しボンクラジジイのカタブツなんか、回してしまえ!（何なら輪廻しちゃっても可）というわけで、アレク、出血大サービスで超高速回転（ブチが竹トンボになるくらい）、合計10回以上フルスイング!　しかし、こんなクサレポンコツ野郎を回してしまい、アレクのジャイアントスイングが汚れなければいいが……。というわけで今回ばっかりはさすがのブチ頑固ジジイも悲鳴でギブアップ宣言!ホントに死にそうになり、立会人ののもものもが「死んじゃうからやめてー」と悲鳴をあげたほどである。思い知ったか、ブチ!　もうプロレスをバカにしちゃダメだぞ。そして居眠りもしちゃダメだぞ!

予想しないのはヨソウな!

仰天!　97・1・21武道館の優勝決定戦を
リングサイド最前列で観戦できる上に、
『紙プロ』特派員としてバックステージ・パスを進呈!!
（もしかしたら日明兄さんのデコピン付き）





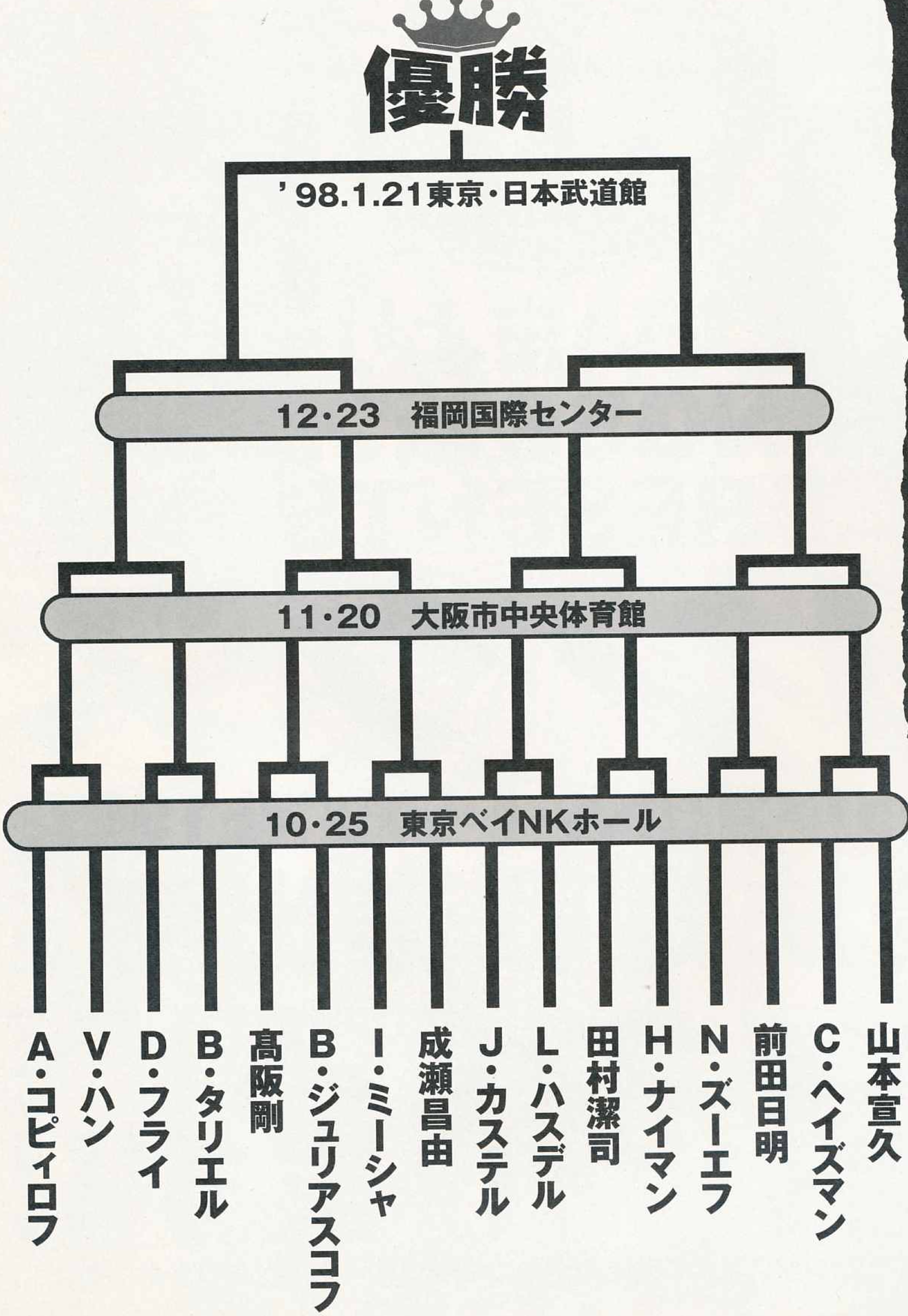
ただいまより、
RINGS&紙プロ
PRESENTS

"リングス
『ワールド・メガバトル・トーナメント1997』
優勝決定戦進出者を
当てろクイズ!"を
開始いたします!!

（ここらへん、古田リングアナの口調を真似しつつ読んでくれるとありがたいです）

ワールド・メガバトル・トーナメント1997日程

1回戦	10月25日（土）	東京ベイNKホール	（終了）
2回戦	11月20日（木）	大阪市中央体育館	18：30開始
準決勝	12月23日（祝）	福岡国際センター	17：30開始
決　勝	98年 1月21日（水）	東京・日本武道館	18：30開始



あのね、ごちゃごちゃ言わずに、誰が決勝に出るんか決めればいいんや！



ニコライ・ズーエフ
（リングス・ロシア）

レスリングを経て、20歳でサンボを始める。6年間に渡り全ソ連選抜チームのメンバーとして活躍。技の切れは「ハン以上」と前田に言わしめた実力者。1993トーナメント4位。要注意！　185cm／101kg



前田日明
（リングス・ジャパン）

最近は何かとリング外の話題が多いが、これが最後となるトーナメント。頼むで兄さん！　1992トーナメント3位、1993トーナメント優勝、1994トーナメント2位、1995トーナメント優勝。192cm／115kg



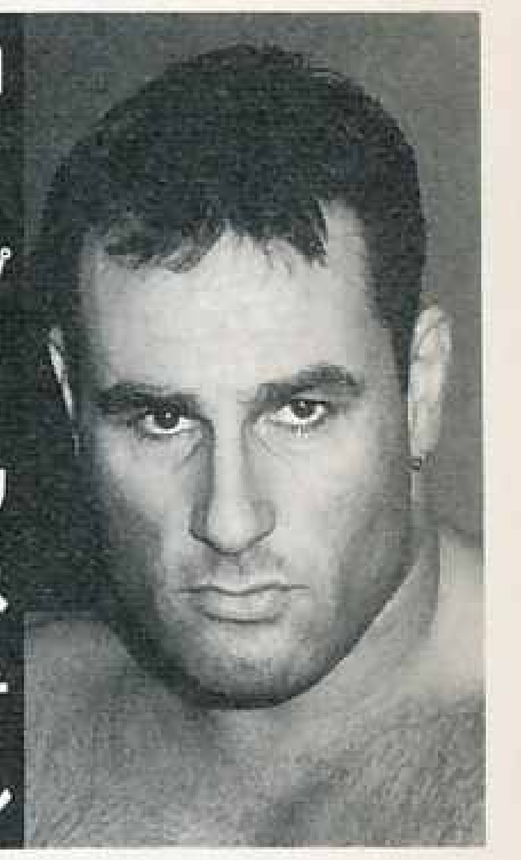
クリストファー・ヘイズマン
（リングス・オーストラリア）

93年南太平洋柔術重量級大会優勝他、今までに獲得したタイトルは30以上にものぼる。95年8月リングスデビュー。今年に入ってからは、バトラーツのアレクサンダー大塚との闘いが記憶に残る努力家。178cm／100kg



山本宣久
（リングス・ジャパン）

ヒクソンと約20分間渡り合ったド根性と、玄人受けするグラウンドのテクニックは初優勝を期待するには十分だ！　1994トーナメント4位、1995トーナメント2位、1996トーナメント4位。190cm／93kg



ヨープ・カステル
（リングス・オランダ）

92年のアームレスリング世界選手権優勝。3年前にリングス・オランダのスパーリングを見て、自らC・ドールマンに弟子入りを志願。天性の格闘センスと驚異のパワーがリングスマットで開花するか。190cm／119kg



リー・ハスデル
（イギリス）

イギリスでは200名以上の生徒を持つ道場主。もともとはキック出身だが、近年トータル・ファイトに興味を持ち、トレーニングを重ねている。その素質は前田も買っているほどである。188cm／98kg



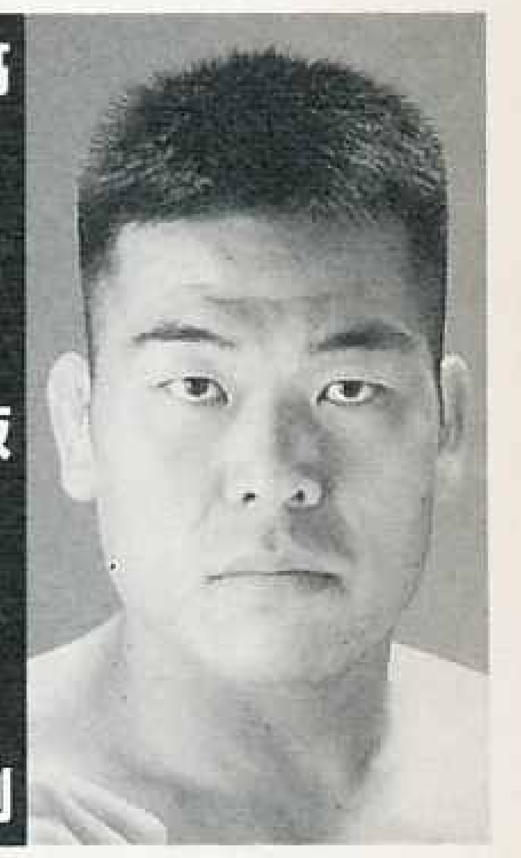
田村潔司
（リングス・ジャパン）

昨年は初参戦で準優勝。今年3月には惜敗したものの前田日明を徹底的に追いつめた。日本のプロ格闘技界の未来はこの男にかかってるといっても過言ではない。いったれ、タムタム！　180cm／85kg



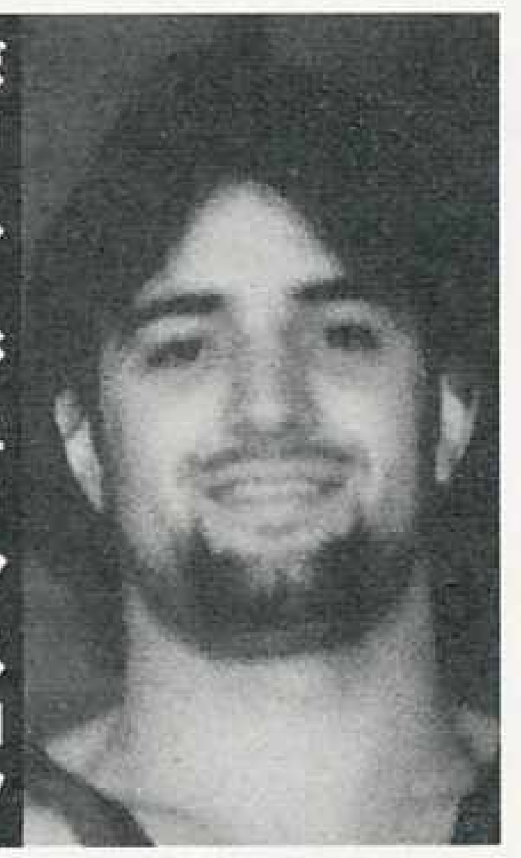
ハンス・ナイマン
（リングス・オランダ）

リングスマットの常連で、ケンカの強さにおいては血気盛んなオランダ勢の中でも一目置かれている。1994トーナメント3位、1995トーナメント3位。1回戦を突破したら怖い存在だ！　187cm／111kg



高阪剛
（リングス・ジャパン）

9月の札幌大会ではF・シャムロックに僅差で敗れた我らが剛。そろそろトーナメントでも上位に食い込まなければ、ファンも黙っちゃいないでっせ。その前におかんが黙ってないやろうけど。181cm／101kg



ボリス・ジュリアスコフ
（リングス・ブルガリア）

今回がリングス初参戦となるが、96年ブルガリア・レスリング・チャンピオン等、優秀な戦績を残している。打撃のトレーニングをかなり積んだという。合気道の心得もある。超大穴か。188cm／103kg



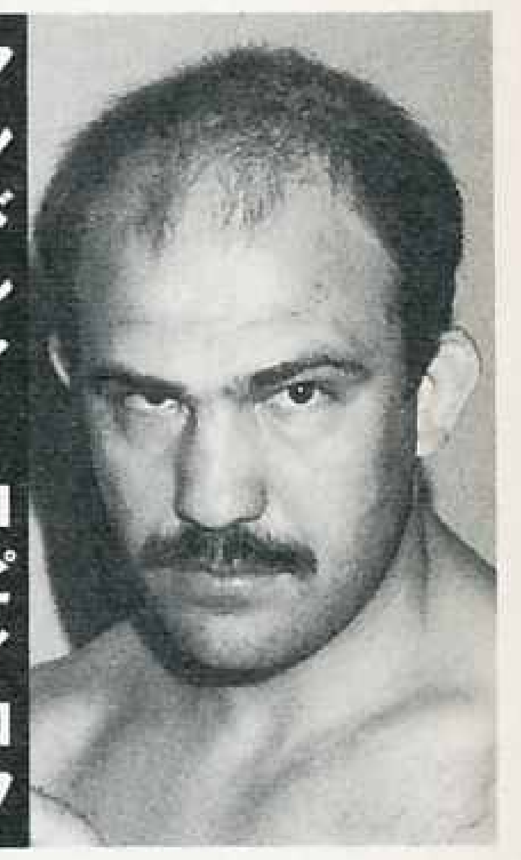
イリューヒン・ミーシャ
（リングス・ロシア）

94年5月にリングスマットデビュー。95年に行われた第1回ロシア・アブソリュート大会（ロシア版アルティメット大会）で優勝した、サンボの猛者。ロシア勢の中でも注目の的である。176cm／95kg



成瀬昌由
（リングス・ジャパン）

審議委員会推薦枠には『トーナメント21』優勝の実績を買われて成瀬が決定！　小兵ながらも、血気盛んなファイトでトーナメントをかき回すダークホース的存在。女性ファン人気No.1でもある。173cm／91kg



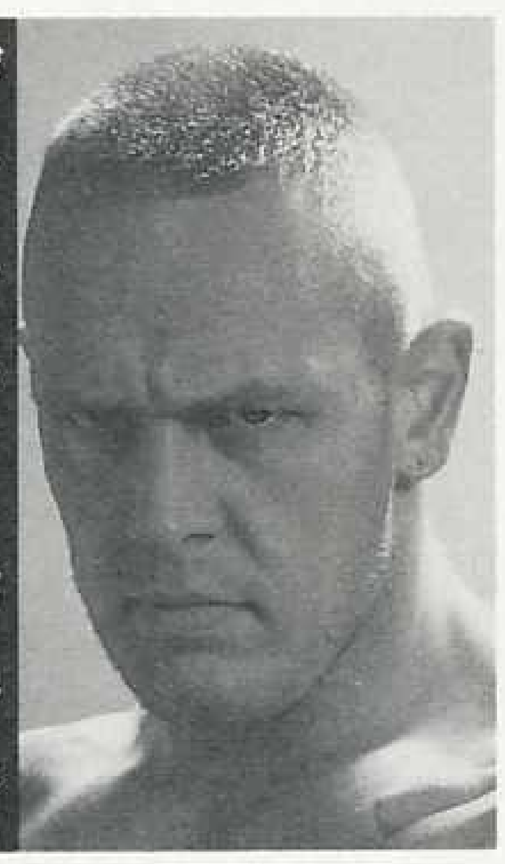
アンドレィ・コピィロフ
（リングス・ロシア）

92年のリングス初参戦でヴォルク・ハンからタップを奪うという衝撃デビューを果たした「業師」。サンボはもちろん、コマンド・サンボもマスターしている。今年は上位を狙ってくるだろう。もちろん。187cm／124kg



ヴォルク・ハン
（リングス・ロシア）

趣味の手品と同様の変幻自在なテクニックは、一大センセーションを巻き起こした。1994トーナメント優勝、1995トーナメント4位、1996トーナメント優勝。今年も当然優勝候補の一角。190cm／105kg



ディック・フライ
（リングス・オランダ）

おなじみのフライが久々にリングスマットで本領を発揮できるか。ムラのある喧嘩屋にとっては1回戦のB・タリエル戦を突破して波に乗れるかどうかが鍵。1992トーナメント2位。187cm／110kg



ビターゼ・タリエル
（リングス・グルジア）

91年の極真オープントーナメント世界大会にタリアル・ビガザの名で出場。アンディ・フグと対戦し判定で惜敗。巨体を活かした突進力はリングスでも驚異の的。1996トーナメント3位。200cm／132kg

応募方法

やってきました脚下照顧のメガバトル！　今年から"ワールド"が冠せられることになり、よりグローバルになったわけですわ。団体Pとの問題や、Tの仇打ちとか日明兄さんの周辺は常にザワザワとしてますが、ここはいっちょう雑音をシャットアウトして、肝を据えてリング上に注目したいというファンに朗報です。

リングス『ワールド・メガバトル・トーナメント1997』優勝決定戦進出者を当てろクイ〜ズ!!

というわけで、要は来年の1月21日の決勝戦に上がる選手2名を当ててほしい！　というかね。まあ、もう少し簡単にいやあ、決勝のカードを、さっさと当てりゃあいーじゃねえかと。

で、まず、応募はドサッとくるだろうから、**応募券はつけなきゃレッドカードということで無効、と。正解者多数の場合はリングス公認レフェリー・島田裕二氏立ち会いのもと、厳正なる抽選を行い、1名様に98年1月21日本武道館で行われる決勝戦のリングサイド最前列のチケット（ペアで入場可）とリングスグッズ、そして、なんと『紙プロ』の特派員としてバックステージ・パスを進呈しちゃうのだ！（ただしパスは当選者のみ）。試合後に選手の控室を生で取材できるっちゃーできるのです！**

こんな幸運めったにない!!　運が良ければハンの手品が見られ、運が悪けりゃ日明兄さんの超破壊力デコピンが待ち受けてるかもしれないのだから、どっちにしてももうドキドキですね。

官製ハガキに住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記の上、決勝進出者2名の名前と好きな選手名を書いて即送るべし！　締切は11月19日の消印まで有効（つまり1回戦の結果だけで予想するっちゅーこっちゃね）。

当日は男性だったら本誌の邪道姫・ののもが、女性だったら本誌の外道男爵・ノブがエスコートします。では、1月21日に会えることを祈り、正面むいて、礼っ！

■宛先は……〒151　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702（株）ダブルクロス「当てろクイズ！」係りまで

リングスクイズ
応募券



俺はホントはこんなことしてる場合ちゃうんや!!
しかし、キミたちがいてボクがいる!!
せっかく答えてあげるんやから正座して読むように!!

祝! 大好評! 寸止めなしの殺戮連載!!

前田日明の"ワールド"メガバトル人生相談「人生は語らず」

第2回

構成／山口昇
撮影／遠藤政文

【日明先生の朝礼】

昔、俺は小さい頃、親父にこう聞いたことがある。「ヤクザって何で博打やるの?」。すると親父は、胸を張り、鼻をふくらませ、遠くを見つめるような目で、俺を見ながらこう言った。「あのな、フツーの人は白黒つけるときにジャンケンで決めるやろ。でもな、ヤクザは指が足らんからパーが出せへん。だからジャンケンでけへん。それでしょうがないから博打で白黒つけんねん」と、親父流の童話のようなヤクザの話をしてくれた。

俺がここで言いたいことは、人前でキチンと白黒つけられないで、陰でゴチャゴチャ言うような人間にはなるな!ということ(なあ、ボンクラスさんよ)。

なお、これは相談にのってほしいというから我が輩は答えてあげるんであって、我が輩の答えによってキミたちの悩みがすべて解決するとかは、あんまり期待しないように。

本日の教訓!

俺を見るな!　自分を見ろ!　以上、敬礼!

Q 前田さん、絶対に笑わないでくださいね。この間、学校でやったマラソン大会で信じられないことが起こったのです。走り終わって、なんか変な感触がお尻のあたりでするなと思ったら、私の肛門からサナダ虫がニョロニョロって出てきたんです!(サナダ虫って寄生虫の一種らしくて、きしめんみたいな形をしてます。大きいモノは7メートル以上にもなるらしいです。それが私の腸の中で生きていたと思うとゾッとします)。それでブルマーのはじっこからサナダ虫が垂れさがってるのを見たとき、私は本当に失神してしまいました。失神した後、みんながどういう姿の私を見たのか、いまでもとても怖くて誰にも聞けません。でも、クラスのみんなはなんか冷たい気がします。あれから2カ月たったんですが、あの日のことを思い出すと死んでしまいたくなるくらい恥ずかしくてたまりません。こんな私はこれからどういう態度で学校生活を送ればいいんでしょうか?　前田さん、お願いです。教えてください。

(埼玉県・17歳・女・高校2年の匿名希望)

A 久しぶりに笑わせよんなぁ。あー、ゴメンゴメン。いいことを教えましょう。サナダ虫はなんで、サナダ虫というのか。真田紐(さなだひも)っていうひらたく組んだ紐があってね。真田昌幸が刀の柄を帯に繋ぎ止めるのに使ったからそういう名前が付いたらしいんや。その紐に似てるからサナダ虫。この子のお陰でまた一つ自分が賢いのがバレてしまったな。ああ、俺は偉い。

サナダ虫ね。サナダ虫が入ったくらい大丈夫や!　女の子はそのうちもっとサナダ虫よりもタチの悪いものを入れるようになるのだから。

そういえば昔、猪木さんもサナダ虫が湧いて、下剤飲んで出したこともあったね。でも、この子はなにも気にすることはないんや。オペラの女王マリア・カラスもダイエットのために、サナダ虫を飲んだっていうしね。昔の貴族の令嬢も痩せるために体の中に飼ってたそうや。それにいまなんか、ダイエット用にインターネットでサナダ虫の卵の売買してるしね。そういうわけで、あなたは有名なオペラ歌手や貴族の令嬢と同じ経験をして得したと考えることやね。

あとね、アレルギーも治るらしいで。サナダ虫が自分の体を守るために、アトピーなどのアレルギー物質に対する抗体を出すんだって。だから、考えようによってはいい虫なんだよね。

でも、ケツの締まりが緩かったんで、出てしまったのがあなたの失敗やったね。青春とは弛緩と緊張が交互にくるものなのよ。そういう時は、ぜひ"ああ、ワタシの青春は、その時緩んでいたのね"と文学的に捉えてほしいね。



厳冬の頃に、人知れずひっそりと純白な花を咲かす白梅のように……誰にも見守られずに……あざ笑われながら、でもひたすらに、あなたのアレルギーを直すという任務を……一途に果たして……はかなく死んでいったサナダ虫の哀れな命……(うっ、なんて悲しい話や)。それを哀れ悲しむことによってキミの感性ももっともっと女らしくなるやろ。

悲しいのはキミだけじゃない!　サナダ虫も悲しいのです。うう……(サナダ虫は悲しいけど、俺はおかしい。大爆笑。笑いすぎで死にそう)

Q **ボクは日明兄さんのようにビールを飲むと裸になって町中を歩きたくなってしまいます。それとは逆に牛乳などを飲むと自殺をしたくなってしまいます。飲み物でこうなるボクは異常でしょうか?　酒豪と言われてる日明兄さんに聞きたいです**

(宮崎県・ダー山本・男)

A こんなの悩むことも全然ないでしょ。藤沢秀行っていう碁の名人のおっさんがいるんだよね。碁の世界では日本はもちろんね、韓国、中国でも尊敬されてて。将棋の米長邦雄も「先生、先生」っていうほどでね。でもね、すごい聖なる酔っぱらいやねん。

ある時、米長邦雄がある旅館で中原名人と名人戦で対局したんだよ。そこに秀行がベロベロになって現れて「おい、ヨネちゃん、オレだ。わかるか、オレだ」って。それ、NHKで中継してるんだよ。

「オレは碁の秀行だ!　秀行だ!」って絶叫しだしてね。係員が「わかってます、わかってます」って言いながら止めようとするんだけど、秀行は、まだみんなが自分を確認してくれないのに頭にきて、腹いせに「オマ○コー!」って絶叫しだしたんだよ。テレビで生中継してるのに「オマ○コー!　オマ○コー!」って。

そういう人もいるわけだから、裸になって歩くくらい大したことない!　ゴジラだってウルトラマンだって裸やんけ(?)。裸がなんやねん!　それからね、キミが牛乳飲むと自殺したくなるっていうのはね、いいオッパイに巡り合ってないからや!　とりあえずタバコ吸うのやめて、オッパイを吸いなさい。これは健全な男の生きる道や。吸いが足らん(吸って吸って吸いまくれ!)。以上!

Q **僕はすぐにウソをついてしまいます。何から何まで、ちょっとした細かいところにまでウソをつきます。でも、僕としてはそれを認めるのが怖いんです。だから、ウソをついたことがバレないように、またウソをついてしまいます。要するに、すべての行動がちぐはぐでウソをつく羽目になってしまうんです。前田さん、どうしたら自分の気持ちに正直になれるんでしょうか?**

(千葉県・中村隆治・34歳・男・編集者)

A でもね、ウソをつくっていうのが自分の正直な気持ちかもわかんないよ。ウソも方便、つき方によったら宝になる。この人、編集者やろ。編集者だったらしょうがないでしょ。そんなもんは職っていうか、職業的な素質じゃない。ちっちゃなものを大きく膨らますのが編集者の仕事やんけ。病気でもなんでもない。職業的な素質なんだよね。

「私は人がもってない素質がある」と思えばええんや。「選ばれし者の恍惚と不安、二つ我にあり」やね。

自分の気持ちに正直になろうなんて面倒臭いこと考えないの。ウソも正直も自

祝！ 大好評！ 寸止めなしの殺戮連載!!

前田日明の“ワールド”メガバトル人生相談「人生は語らず」

分の中から出てきたものだから。それで思いもよらぬものが出てきたら面白いやないけ。自分のやることなすこと想像できて、それにピタピタっといってたら、こんなつまんない人生ないよ。

自分が自分に対してドキドキハラハラしてた方が面白い！ 自分がドキドキしてるから、他人もドキドキするんでしょ。♪ドッキドッキしっちゃう〜、わたしの〜、ムゥネ〜——と歌った山本リンダ大先生を見習いながら生きなさい。

Q **実は私も若い人なんですが、最近の若い人を見ていると、日本人という気がまったくしません。愛国心などという言葉を使えるほど私は右翼ではないし、政治的にはニュートラルのつもりでいます。しかし、金髪やら耳にピアスやら、テレーッとした半ズボンといった格好を見ているだけで、なぜか腹が立ちます。格好だけで人を判断してはいけないのはよくわかっているつもりではありますが、そんな若い人の群を見ていると、将来、「日本的なもの」とか「この国の伝統文化」というのがいい形で残っていくとはとうてい思えません。こんなに海の向こうの文化や生活様式を実に簡単に真似していいて果たしていいのでしょうか。日本人はいったいどこへ行くのでしょうか？ しかしそんな私も結構あちらの文化を見よう見まねで受け入れてます。前田さん、この国の将来が本気で心配な、そんな私は変ですか？**

（東京都・私は絶対若者・28歳・男・豆腐屋）

A これはもう、普通の考えでしょ、本来は。右とか左とか関係ない話や。自分の生まれた場所とか、住んできた土地とか人への情の問題やね。

第二次大戦が始まる前のアメリカではね、大学生たちは戦争に否定的だったんだけど、真珠湾攻撃の翌日、キャンパスから学生が消えたんだよね。どこ行ったかっていうと、徴兵応募事務所。それと闘ったのが、我が坂井三郎をはじめとする大和男子。愛とかなんとかっていうよりも、もっと身近な情の問題でしょ。

この人の考えることは日本人として実に自然やね。問題なし！ 日本の夜明けは近い！

Q **わがままな社長にほとほと手を焼いています。週一回だけ会社に来ては「ああでもない、こうでもない」と説教をして、怒涛のようにしゃべりまくるので迷惑です。さらに物忘れが激しく、いつも尻拭いが大変です。殺してやりたいと思うときもありますが、やはりこの人に心酔していまの会社に入ったので、つらい心境です。どうすればこの人とうまくやっていけるでしょうか？**

（神奈川県・匿名希望・32歳・男・会社員）

A 32歳の神奈川県ってうちの社員でおらんかったか？ これって俺のことちゃうんか？

でもね、この不景気の中で社員にちゃんと給料払ってやってるんだよ、この社長は。それもね、想像するにきっと八面六臂でやろうとするんだけど、どれもブサイクで、あっちを出せばこっちが凹み、こっちを出せばあっちが凹んでってテンテコマイやろうね。だから、我が輩はこの社長にエールを送ってやりたいね。では只今からエールを送ります！「頑張れ、立ち上がれ、タコ社長！」。

しかし、こういう訳のわからん社員がいるから、経営者は苦労するんやな。物忘れがひどい？ 冗談じゃないよ、中小企業は社長に仕事が集中するから細かいことといちいち覚えてられるかい！ それくらい尻拭いしたらんけぇ。殺したくなる？ 寝言は寝て言え、このアホンダラ！ でも実際「シヌ」って言う時がきたら、「ああ、シヌぅ」って言って気持ちえ方がエエなぁ。いまは経営者の方が大変だよ。頑張れ、タコ社長！ ワタクシは近々「グレート・タコ社長の会」を作ります！ もちろんリーダーは、俺や！

Q **生まれて22年。ごく普通の両親に育てられたのに激しく反発し通し、泣かせっぱなしで生きてきてしまいました。両親のその普通さ、平凡さをなぜか憎んできてしまったワケですが……。この間、ふと親の年齢を思い浮かべて急に切なくなってしまいました。いまさら恥ずかしいのですが、人並みに親孝行らしきことをしたいと強く思う今日この頃。何か良い方法はないでしょうか？**

（東京都・フルール・22歳・女・デザイナー）

A この気持ちさえあったらええやないの。親の誕生日とか、結婚記念日とか、さりげなくなんか買ってやったらええんや。親そんなんでいいでしょ。親子ってもっと赤裸々なもんやからさ。あんまり構えるもんじゃないんだよ。

血は水よりも濃いってことで、以心伝心で、そういう気持ちでいれば、親の方が先にわかりますよ。それとこの子は両親の普通さを憎むっていうけどね、普通さって一番大事なことなのよ。

俺も若い選手によく言うんだけど勘違いする人がいるんだよね。プライドと独りよがりをごっちゃにして。その人にとっての普通さっていうのが、その人の個性ですよ。

社会全体が浮足だって閉鎖的でね、「人と違う人生を歩みたい」とか言ってるけどさ。じゃあ、人と違う人生ってなんなの？ って逆に聞きたいね。その人にとっての普通さってのが一番の個性！ だからそれにプライドを持てる。回りがどんな状況でも普通を保っていられる。それはすごいこっちゃで。武道の達人はみんなそうや。自分を見つめたら、いいんですよ。普通って実は凄いこと。それを認識して女の武器でも磨きましょう！ はい、ケツでも締めてよくしよう（何をや？）

Q **日明兄さん、初めまして。妻に離婚を迫られて困っています。「あなたのズボラなところがイヤなの！」と言われてしまったのですが、ボクにはズボラな自覚がまったくありません。会社の同僚に話すと、嫁の言うことはもっともだと笑っているのが頭にきます。ボクは極真もやってたし、サーフィンもやってたし、アウトドアも得意な男の中の男だと思っていたのですが……。妻は頑なに話し合いを拒否していて、和解の糸口もつかめません。日明兄さん、どうすればボクは妻と離婚をせずにすむでしょうか？ 兄貴のお知恵を貸してください。**

（住所未定・34歳・男の中の男）

A 男の中の男だったら、「じゃかましい」ってひと言いって、ホッペの一つ二つバシッて叩いて、叩き出したらええやんけ！ でもね、サーフィンやって極真もやってって、よくおるよ、こういう人。「オレは極真やってたんだ」とかいうの。よく聞いてみると2ヶ月しかやってなかったりね。

でね、女房にね、もし男がいたとかならね、そんな黒●ンコなんて叩き出したらええんや！「じゃかあしい、この黒●ンコ！」ってね。

でもね、いまの女はとんでもないよ。熟年離婚っていうのが流行ってるんやって。亭主は一生懸命働いてさ、やっと定年って時に離婚されるんだよ。何年も用意周到にさ。そんな女は、サメの群の中に水上スキーで引っ張っていって、サメの餌にでもし

たらええんや。

でね、女はね、本当にどうしようもない時は叩けばいいんですよ。そうすると、反対に効くんだよね。「憎まれるのを覚悟で、私のことこんなに心配してくれるのね」って（まぁ、たまにアホな女の場合、憎まれっぱなしっていうのもあるけど。その場合は責任取らないもんね～）。

親子とか、夫婦っていうのはもっと赤裸々な関係でいいんだよね。ズボラがなんやねん！　ちゃんと働いてればええやんけ。さらけだしても受け止めてもらえるって関係を作るってことが一番大切！　Fテレビがつくってるようなラブ・ストーリーなんて真に受けるだけアホやで。身を持って教えたれ！（教えたろかい、Fテレビの○原さんよ）。どうしても嫌だったら追い出したらええんや。

逆にやね、妻が甘えで言ってることをこの人が真に受けて離婚だなんだってなってるかもしれないしね。

いずれにしても、この人はケツの穴がちっさいから、お尻にこけしでも突っ込んで血まみれになりなさい。悪い血が溜まりすぎてアホになってるから出すしかない！男の行動に出血は付き物や。以上！

Q 日明兄さん、助けてください。クラスで「プロレスなんか八百長だ！」と言われて、バカにされています。「あんな八百長見てるとバカになる！」と親にまで言われてしまいました。こいつらになんとかプロレスの素晴らしさを教えてやりたいのですが、上手く言葉に出来ません。難しい言葉をたくさん知ってる日明兄さん、こいつらに何といって言い返せばいいんでしょうか？

（新潟県・小山隆行・15歳・男・中3）

A 簡単や。「子供にはわからへん」って言っとけばいいんや。子供にはわかんない。でもたまに大人にもわかんない（ちょっと問題やな）。プロレスっていうのは、「咲いてく花も綺麗であれば、散ってく花も綺麗な世界」やねん。大人の感性で見るとね。子供とかコトナにはわかりません。

でも、そんなことで悩むより、ポルノ写真でもよく見て、哲学上の大問題、「人間はどこから来て、どこへ行くのか」ということを研究しなさい。「どこから来て」の「どこから」というのがよくわかるはずや。そうすれば哲学上の大問題の半分は解決される！　15歳にして半分解決したらラクやで（しかしこれだったらもっとツラクなったりして。♪知～らんど、知～らんど、責任持てないもんね～）。

Q 格闘技界のカリスマ、前田日明兄さんにお聞きします。私もプロレスマスコミ界のカリスマになりたいのですがどうしたらなれますか？　あと、カリスマと言えばザ・グレート・サスケというプロレスラーもその1人だと思うのですが、最近やけにカリスマ色が薄れてきてしまっているような気がします。カリスマ性というのは一度薄れたら、もう元には戻らないのでしょうか？　人ごとながら心配で眠れぬ日々です。

（東京都・澤田アヤコ・21歳・女・学生）

A プロレスマスコミのカリスマになんかならなくていいよ。どうしてもカリスマになりたいんだったら、ありとあらゆる選手に一発やらして、みんなの弱みを握って「なによ、早かった癖に！」とか「短小の癖に！」とか「デカイだけでテクニックがない癖に」とか言って、いろんな弱みを握って牛耳っていくんやね。それで向こうが黙っちゃったら、ちょっと可愛くなって「ゴメンね、本当はあなたのことを応援してるの」ってコソッと言ってあげましょう。こちょこちょって言うのとコワモテをうまく使い分ける。それが色気というものですよ。でもこの場合、ヘタを打つと、ヤリマンだとかガバマンだとか黒マ○コとか言い返す元気な野郎もいるから気をつけなさい。人をよく見てやるように。

ま、オレの場合はカリスマって言われるより、カリダカって言われる方がいいけどね。う～ん、パリダカもええな。



【日明先生の総括】

一つ面白い話がある。俺がロシアで聞いた話で、これは人間の生活の本質を突いた話や。

ある歓迎会の宴会の席上で、有名なサンボの選手がこんな話をしてくれた。

ある時二人の酔っぱらいがベロンベロンになって、いかに自分の妻が貞淑かを言い争ったらしい。

「ある晩に俺が帰ると、ベッドに鳥の羽が落ちてたんだよ。かわいいもんだろ？　うちの女房は、俺がいない時は寂しいもんだから、鳥と寝てるんだ」

そうすると、もう一人の酔っぱらいがムキになって言い返した。

「何を言ってるんだ。うちの女房なんてそんなもんじゃない。ある晩、俺が帰るとベッドに競馬のムチが落ちてたんだ。ああ、なんとかわいいことだろう。俺がいない間、女房は寂しいもんだから、競馬の騎手と寝ていたんだ」

俺はその話をしてくれたサンボの選手にこう聞いた。

「で、おまえの女房は何と寝てたんだい？」

それを聞いたサンボの選手は大爆笑していた。

生きてゆく悩みとは、本質的に、考えないのもよくないが、考えすぎてもニッチもサッチもいかない。無邪気に考えて、無邪気にやろう！

目覚めたい諸君！　相談、受け付けてやってもえぇで！

いよいよラスト・スパートをかけはじめた日明兄さん。次回も素敵なダジャレと下ネタを聞かせてくれるはずだ。それとも相談に激怒し、ゴンタ顔に豹変するのか？
編集部もいつもたいへん危険な目にあってる日明兄さんに相談する勇気があるキミ、悩みがあるならまずは相談してみよう。でしょ？

〒151　東京都渋谷区千駄ヶ谷3—11—3—702
(株) ダブルクロス　RADICAL編集部
『ホンノウちょっと相談したい』係まで。

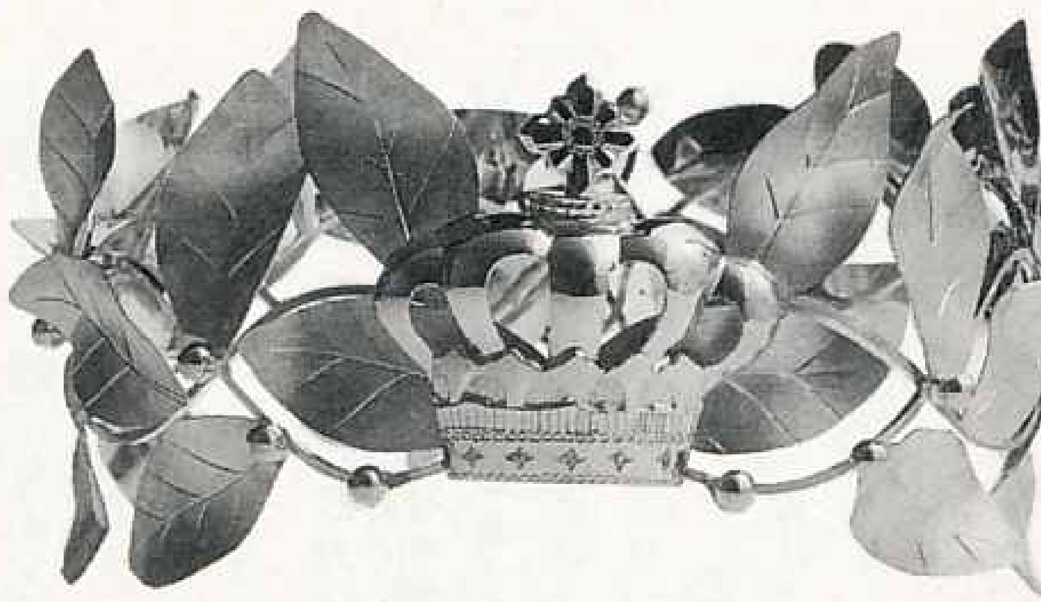
前田日明最後のトーナメント　熱い闘いを見逃すな!

ワールド・メガバトル・トーナメント 1997

WORLD MEGA-BATTLE TOURNAMENT 1997

優勝

- 山本宜久
- C・ヘイズマン
- 前田日明
- N・ズーエフ
- H・ナイマン
- 田村潔司
- L・ハスデル
- J・カステル
- 審議委員会推薦枠
- I・ミーシャ
- B・ジュリアスコフ
- 高阪　剛
- B・タリエル
- D・フライ
- V・ハン
- A・コピィロフ



2回戦 11.20(THU.) 大阪市中央体育館

●OPEN 17:00 START 18:30●

◉入場料金

ロイヤルリングサイド…¥20,000／アリーナリングサイド…¥15,000
リングサイド…¥10,000／アリーナSS…¥6,000
スタンドS…¥7,000／スタンドA…¥5,000／スタンドB…¥3,000
学生特別優待席A…¥2,000／学生特別優待席B…¥1,000

◉発売場所

チケットぴあ大阪 ☎06-363-9999／チケットセゾン大阪 ☎06-232-9999
関西プレイガイド協会 ☎06-456-2555／リングス大阪インフォメーション
☎06-364-9115／アイドール大阪店 ☎06-641-4685／ビデオショップ・
チャンピオン大阪店 ☎06-645-5186／プロレスショップ・バディスラム ☎06-645-1378

◉お問い合わせ
リングス大阪 インフォメーション ☎06-364-9115

NOW ON SALE!

準決勝 12.23(TUE.) 福岡国際センター

●OPEN 16:00 START 17:30●

◉入場料金

ロイヤルリングサイド…¥20,000／アリーナリングサイド…¥15,000／リングサイド…¥10,000
アリーナSS…¥6,000／スタンドS…¥7,000／スタンドA…¥5,000／スタンドB…¥3,000
学生特別優待席A…¥2,000／学生特別優待席B…¥1,000

◉発売場所

チケットぴあ ☎092-708-9999
博多スターレーン（店頭販売のみ） ☎092-451-0011
九州・山口地区のローソンチケット

◉お問い合わせ
キョードー西日本 ☎092-714-0159

NOW ON SALE!

決　勝 '98 1.21(WED.) 日本武道館

●OPEN 17:00 START 18:30●

◉入場料金

ロイヤルリングサイド…¥20,000／アリーナリングサイド…¥15,000
リングサイド…¥10,000／アリーナSS…¥6,000
スタンドS…¥7,000／スタンドA…¥5,000／スタンドB…¥3,000
学生特別優待席A…¥2,000／学生特別優待席B…¥1,000

◉発売場所

チケットぴあ ☎03-5237-9999／チケットセゾン ☎03-3250-9999／CNプレイガイド ☎03-5802-9999
オデッセー ☎03-3796-9999／ローソンチケット ☎03-3569-9900(Lコード36245)／後楽園ホール
☎03-5800-9999／レッスル渋谷店 ☎03-3464-0078／レッスル池袋店 ☎03-3989-0056／書泉ブックマ
ート ☎03-3294-0011／大山アメリカン ☎03-3962-6443／ビデオショップ・チャンピオン ☎03-3221-6237

◉お問い合わせ
オデッセー ☎03-3796-9999

11月30日(日)午前10時より発売開始

FIGHTING NETWORK RINGS

主催
WOWOW BS-5ch
FIGHTING NETWORK RINGS

紙のプロレス RADICAL

1997 NO.6

今号の隠しテーマは
"「プロ」と「レス」"です!
"さようならUWF! こんにちはnWo!"
…なわけはありません!

紙のプロレス・ラディカル

CONTENTS

●NO.6 MAIN-EVENT

融合か分裂か? 「プロ」と「レス」!!

※ターザン山本の超ブーイング連載2本『ザ・ドマイナー・パワー』と『ザッツ・レスラー』は休載です。でも新日本が載ったのとは全然関係ありません。うふ。

Art Director
出田さん●San Ideta
Design/two-three
村松さん●San Muramatsu
ヒサくん●Kun Hisa
マツ●Matsu
古川ふるーる●Furuuru Furukawa

表紙モデル/蝶野正洋
撮影/斉藤ユーリ
スタイリング/Masahiro Chono
ヘア&メイク/Masahiro Chono

※えー、「RADICAL」は「根源的」「根本的」という意味でとらえてくれると非常に嬉し……あ、もう試合終わっちゃった!!

高田が"ヒクソンの幻想"に破れた！

プロレスラーよ、"大振り"せよ！
プロレスファンよ、"ホット&タフ"であれ！

山口日昇（やまぐち・ひがのぼる）



高田延彦、樹海に死す！

10月11日、東京ドーム。燃え上がりながらもウエットな気分で入場ゲートを見ていた。試合を見ていてこんなウエットな気分が割合を占めるのは実に久しぶりである。

ヒクソンが先に入場し、高田のテーマ曲が鳴った。

フードを深々と被った高田がステージに現れる。

プロレスの全時間――。

プロレスの全歴史――。

UWFの全時間――。

UWFの全歴史――。

プロレスファンのプロレスを好きな気持ち――。

格闘技ファンのプロレスを嫌いな気持ち――。

「個人的な闘い」に挑んだはずの高田は、この日、結果的にそれらのすべてを背負い込んでいた。

入場してフードを取った高田はとてもいい表情をしていた。

本当にリングに高田が立っている。

なぜか涙が出た。

隣りにバトラーツの臼田勝美選手がいたので、カッコ悪い姿を気付かれないように伸びをしたり、前の席に肘をついたりしながらリングとオーロラ・ビジョンを交互に見ていた。

本当にこんなにウエットな気分でリングを見るのは久しぶりである。

「方位磁石を持って樹海に入るようなもの」

「なぜか樹海に入るのが異常に楽しみで楽しみでしょうがない」

2カ月ほど前、世紀の一戦を前にして、高田は意外にもリラックスした表情でこう語っていた。

ゴングが鳴った。

しかし、いざ樹海に入ったはいいものの、高田が持ちこんだ方位磁石はまったく作動せず、その針はグルグルグルグルと回りっぱなしだった。

迷走した闘いぶりだった。

「自分がカッコよく勝つ姿を期待する人、ブザマな姿を期待する人、いろんな見方があっていいと思う」

1R4分47秒――高田はブザマな負け方を衆目に晒すことになった。

高田、惨敗！

その瞬間にボクの磁石も破壊されて、グルグルグルグルと回りっぱなしである。

高田の敗戦よりも、自分の磁石の壊れぶりに驚いて、正直パニックを起こしそうになった。

いま、世紀の決戦からちょうど1週間後にこの原稿を書いている。

クールに語るのは実に簡単である。

高田は負けた。

高田は弱かった。

ヒクソンは強かった。

ヒクソンに勝てるわけがない。

それで終わりですむ。

しかし、何人の人とこの一戦を語ったか。

この一戦をきっかけにして、どれだけのことを考えたか。

繰り返すが、クールに語るのは簡単である。

スポーツ競技に勝者がいて、敗者がいるのは当たり前だからだ。

しかし、競技に負けたことよりも、高田がヒクソンの"幻想"に飲まれたことがショックだった。

凄みある"幻想"をつくりだしてきたプロレスというジャンルが、違うジャンルがつくり出した"幻想"に飲まれてしまったのだ。

これは誰がなんといっても、プロレスというジャンルの敗北である！

ジャンルの敗北。関係者はその事実こそを認識しなければならない。

試合終了後、高田を正面切って応援したのは『紙プロ』だけだったことを指してか、プレス控室やバックステージでは、「高田が負けて困るのは『紙プロ』だけだろう」という声があちこちで聞こえていたらしい。「現実をわかってないね」という揶揄と嘲笑を含んだ言葉である。

あのね、おまえら、本当に今度会ったらただじゃおきませんよ!!　糞とサナダ虫を頭から大量にぶっかけるぞ！　言うんだっ

たら正面切って言え、このインポ野郎！　そんなヒマがあるんなら脳味噌の包茎手術でもしてろ、このボケ!!
——という気分である。すべてを他人事でしか捉えられない人間の集まりがプロレス業界というところなのだ。
話を戻そう——。
試合数日後、ヒクソンは高田戦を振り返りながらこう言った。
「タカダ選手は試合前にアンジョウ選手と長い間抱き合っていたが、何か弱みを見せてしまったように思います。強い選手は、闘う直前、誰かから力を与えてもらったりしません」。
高田のミスでもあるヒザ蹴りがきた瞬間に関しては、「まるでスーパーマーケットで、いい位置に自分の車を止める場所が見つかったみたいでした」とブラジリアン・ジョークを交えながらこう言った。
「闘うことは怖くない。前田でも、熊でも、悪魔でも闘います」
記者会見、試合前、試合中、試合後——とにかく人前に立ち現れるヒクソンは超然としている。
天下無敵のヒクソン。
神がかりなヒクソン。
しかし、それもすべては"幻想"である。
「バーリ・トゥード・オープン'95」でリングスの山本宜久にネックロックを極め続けられたヒクソンは、試合後の控室で慌てながら「ああ、首が痛い……マッサージしてくれ」「次の相手はキムラ？　強敵だな」と、ファミリーの前では、決して公の場で見せない姿を見せていた。
このことからもわかる通り、ヒクソンはヒクソンであることの演出に長けているのだ。
高田vsヒクソン戦は、"ロマンはあっても幻想なき闘い""夢はあってもムキだしの闘い"にならなければウソだった。
しかし、ゴングが鳴った瞬間に、勝負はついた。



ヒクソンは「最強」「元プロレスリング世界ヘビー級王者」という"幻想"をもちろん高田には見ていなかった。逆に高田はヒクソンの"幻想"にあっけなく飲みこまれてしまった。
高田にはいつも通りの高田を見せてほしかった！
思いきってハイキックで勝負をかけてほしかった。マウントを取られたときにはイチかバチか腕がらみにいってほしかった。技術的に間違ってるどうのこうのは関係ない。他分野の技術体系を付け焼き刃で学習してもかなうわけがない。ボクは高田には"大振り"を望んでいたのだ。
ムキ出しの異種格闘技のぶつかり合い、それを心のどこかでボクは望んでいた。
グレイシーが出現してから、プロレス界には「空振りしてもいいからホームランを狙う」という、ある意味で一番プロレスらしい空気が薄れている気がしてならない。レスラーの内野安打人生を見るくらいだったらプロレスなど見る必要はないのだ！
この日、高田の"大振り"はついぞ見れなかった。
何度も言うが結果的に負けてもよかったのだ。"大振り"が見られなかったのが一番悔しい。
このままだとプロレスはダメになる。空振りができなければホームランも打てない

のだ。

しかし、高田ばかりを責めるわけにはいかない。

幻想とは、味気ない言い方をすれば、〝とりとめのない想像〟ということである。

高田の敗戦は、グレイシー・ファミリーが〝幻想〟をつくりだしてきた創造力と想像力。そのセンスと力に、マスコミを含んだ日本のプロレス関係者が負けたということでもあるからだ。

この一戦を境に、プロレス界に流通していた〝貨幣〟の価値はいままでとは変わることになるだろう。1万円が千円としてしか通用しなくなるといった現実認識も必要になってくる。

しかし、救いはある。

逆説的になるが、重要なのはリング上では、カッコいい姿しか見せなかった高田がブザマな姿をさらけ出したという点だ。

パンクラスの船木誠勝が「勝負で負けると、背中に『俺は負けました』という看板を貼って歩いてるようなもんですから。精神的痛みっていうのはものすごいですよ」と言っていたことがある。

もし、高田が今回の敗戦ショックを精神的にクリアできて、またリングに戻ってくるなら、これからも、プロレスファンは高田の動向を追う必要がある。そこでこの一戦で何も得ていないかのようなファイトをするなら、厳しい目を向ければいい話である。いま見限る必要はない。

高田、樹海に死す！　と冒頭に書いたが、正確に言えば、高田、樹海に迷う！　である。迷った樹海から高田が再び出てくるかどうかはわからない。だが、プロレスラーはすべてをさらけ出した後に真の道が始まるものである。決してボクシングの世界戦のように単発勝負ではない。観る人もプロレスを壮大なドラマと考えているはずである。ショックを克服した高田が再びリングに上がるなら、その時初めて高田は人々にその生き様を見せ、本当の意味でのプロレスラーになったといえるのではないだろうか。

もう一つ。

高田はA級戦犯なんかではない。

A級戦犯はこの一戦を、クールに気取って見ていた人間たちである。

プロレスの全時間——。

プロレスの全歴史——。

UWFの全時間——。

UWFの全歴史——。

要はプロレスの歴史がなければ、この一戦の価値観はまったく違うものになっていたはずだ。

もう一度、プロレスファンは、なぜプロレスを見始めたのかを思い出してほしい。

そしてもし、この一戦で打ちひしがれているファンがいるなら、こう言いたい。

「プロレスを見る」ということは、自分自身を見るのと同じである。

「プロレスを考える」ということは、自分自身を考えるのと同じである。

高田の敗戦から逃げることは、自分自身から逃げることでもあるのだ。

世間や競技者としてリングに上がる人間はクール&タフでもいい。

しかし、見る人間がホット&タフでなければ、プロレスはもう終わりなのである。

クール&タフな時代の象徴がヒクソンならば、ホット&タフなプロレス・ファンが、今度はヒクソンの〝幻想〟を引っぱがす番である。

メソメソするな！

行ったれ、プロレス!!

聞かせろ！　こうなったら

高田vsヒクソン戦観戦記募集だ！

「高田vsヒクソン戦の観戦記」「その周辺で考えたこと」「前田の出陣は是か非か？」「プロレスはこれからどうなるのか」「ヒクソンと闘ってほしいレスラー」「高田vsヒクソン戦が終わってから考える、プロレスとは何か？」——などなど、こうなったら、とってもホットな論文を募集します（クールな作文でもよし）。**分量は「1行から、400字詰めで7枚」まで。宛先は〒151　東京都渋谷区千駄ヶ谷3—11—3—702　（株）ダブルクロス RADICAL編集部「樹海に生きる」係**まで。掲載された方には、超ビッグなプレゼント有り（スマン、締切直前に考えたのでまだ考えてないんです。でも、ホントにビッグなものを差し上げます）。第1回締切は11月20日まで。

ヒクソン、パンクラス、マット界の地盤沈下、マスコミとの関係――

AKIRA MAEDA

"魔の10・11"から約36時間後、前田のイラダチ、頂点に達す!!

――10月14日、リングス『BATTLE GENESIS VOL2』終了後の共同会見完全再録――

高田がヒクソンに敗れた3日後の10月14日。リングス BATTLE GENESIS VOL2 が後楽園ホールで開催された。前田日明は大会審議委員長として来場。また、その日の第3試合で快勝した坂田亘が、「事実関係を明らかにして、まずは話し合いましょう」と、パンクラスとの諸問題解決をリング上から訴えた。「それでもダメな場合は、 殺す とか言ってる奴から、俺が前田さんを守る!」と坂田は叫んだが、それを受ける形で全試合終了後、前田が共同会見を開いた。多数の取材陣に囲まれた前田。取り巻いている状況がパンクラスとの問題だけではない前田。この日、前田日明のイラダチは顕在化され、猛爆発を起こした。



「高田やられたよ!! どうすんの!!」

「断言します! やります、ヒクソンと!」

「特に鈴木! お前、出てこい!!」

「それをね、面白おかしく煽ってるマスコミの皆様。俺はあんたたちを軽蔑します!」

今日は普段見ない顔がいっぱいいるね。

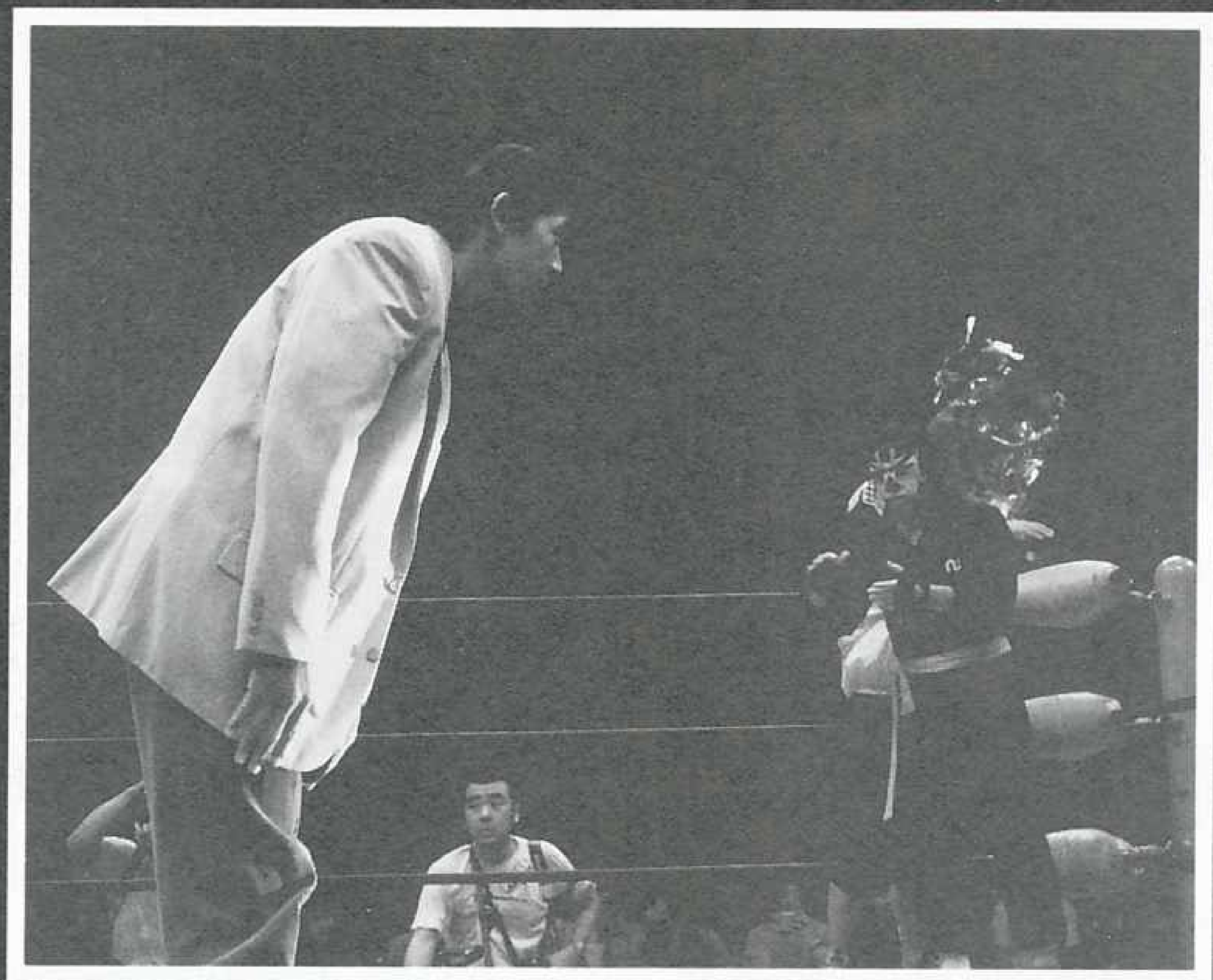
〈パンクラス問題に関しては？〉

（坂田のリング上の発言に関しては）あれは個人的見解で、自分とはちょっと相違の……見解が違うんで、ちょっとアレなんですよ。ただ悪いけど、髙橋くんの宣伝にはつきあうことはできないんですよ。で、自分がいろいろいきさつあって、Fテレビの K氏が発端になって、いろいろあったわけなんですけど、辿っていけば、パンクラスに至ったわけなんですよ。自分たちは全然別の、なんていうかね、スポンサー活動をやってた時にそういうことを言われたんで、辿っていったら。

それで、ちょっといくらなんでもお前たち、そういうことを言うなんて違うんじゃないのって、そういうことを言いたいわけなんですよ。それでね、「じゃあ髙橋」っていうのは全然話が違うわけなんですよ、わかります？ 出すんやったら、上のヤツを出せって！ あの文章（パンクラスが10月4日に開いた記者会見終了後にリングス宛てに出したもの）を読むと、「髙橋が船木、鈴木の心情を察して、どうのこうの……」って。そんなねえ、アントニオ猪木とかね、ジャイアント馬場のような手を使うんだったらね、プロレスはどうのこうのなんて言いなさんなよ！ そうでしょ？ ねえ？ 思いません？

でね、ハッキリ言いますよ！ 俺もねえ、昔そういうこと言いました。でも俺が言ってた頃はね、新日本プロレスの中にいて言いました。コソコソとはねえ、違うんですよ。

でね、あの「そういう詫び状とかあるんだったら、出せるもんなら出してみろ」とか言いますけど、それに関しては（極真会館館長の）松井くんが仲介者になって行ってますんで、その詫び状のことを問い合わせてください。ただ、彼はあんまり巻き込みたくないんで。仲介者っていうんで、彼が間に立ってくれてるんで、イマイチちょっと気を付けてほしいんですけど、そういう詫び状の件に関しては彼が証言してくれますから。彼も「変な話は困る」って言うんで、彼の意向っていうかね、思いやりを汲んだ部分で「公開しません」と。それをわかった上でね、言ってるFテレビのK氏も、話をわざわざ大きくするようなね。尾崎社長に何を話してるか知らんけど、そういうことを言うんであれば、自分も考えがありますよ！ 自分たち、実害被ってますから。だから何て言うかね、ちょっといい加減にしてくださいっていうのもね、あるんですよね。



高田vsヒクソン戦が行われた1日前の10月10日、みちのくプロレスの両国大会に激励に訪れた船木誠勝。高田の敗戦、前田との問題噴出を彼はどう捉えているのだろうか

それでまた、業界内にいてもね、「パンクラスがどうだ」とか言うつもりはありませんよ。それぞれの団体の事情があるんでしょう。自分たちをカッコよくするために、足蹴にするのは、ちょっと違うんじゃないんですか。自分はそれが言いたいだけなんです。

でね、過去、散々『週プロ』誌上とか『格通』誌上とかでね、人を揶揄するようなことを散々言っておいて、「いまさら悪口言ったことはない」なんてことをね、どういう神経したら、そんなことを言えるんや！

またそれをね、面白おかしく煽ってるマスコミの皆様。俺はあんたたちを軽蔑します！ 軽蔑します!! ホントに、ええ。言ったことがちゃんと伝わればいいんですけど、特にね、そういう悪口言うっていうのはね、（『週プロ』の浜部編集長を指し）あんたんとこの宍倉くん、問題ありますよ。そのうちね、営業妨害で告訴しますよ！ いい加減にしないと!!（『格通』の記者を指し）あんたのとこの安生くんもそうや。いや敵がいっぱいいるんで名前を間違えてしまった。あんたんとこの安西！ いい加減にしないと、何ていうかね、俺も来年引退する身なんだけど、考えると、この業界の害虫みたいなヤツはテ・ッ・テ・イ・テ・キにやりますよ、ホントに！ ホントにやりますよ!!

だからね、悪いけど、髙橋くんの営業活動にはね、つきあえないんですよ。特に鈴木！ お前、出てこい！ それは言いたい。俺にこういうことを聞かれなくても、そういうことを聞かれたことがみなさんあるでしょう？ え？ ないと言えますか？ あるん違います？ ねえ？ ありません？ ねえ？ まあちょっと大人げないこともあんまりアレかなあと思って、こうやって黙ってたんだけど、そういうことと話が違うんですよ。でね、髙橋もね、「殺す」って言いながら、東京ドームでぶち当たって、何もできないようならね、「殺す」とかヌカすんじゃないよ！ 「殺す」んならね、いつでも来い！ そうでしょ？ ねえ？ 頭にハチマキ巻いて、ファンと勘違いするような格好してくんな！ そうでしょ？ 俺がいいたいのはそういうことです。

それぞれの記者がいて、それぞれ応援したいことがある。結構です。結構だけど、そのために他の団体でそういうことをやってる場合じゃないんですよ。いま業界全体が、地盤沈下してるんですよ。この間、高田がヒクソンにやられましたよ！ どうにかしなきゃいけない時に、業界の中でね「あいつが正しい」とかどうのこうの言ってる場合じゃないでしょ！ あんたら、ウチら……何でメシ食うの？ 何で？ 何でメシ食うの？ どうやってメシ食うの？ ねえ？ お前らどうやってメシ食うの？ え？ お前らふざけんなよ!! お前らマット界のヤツに食わせてもらってるんじゃねえかよ。ええ？

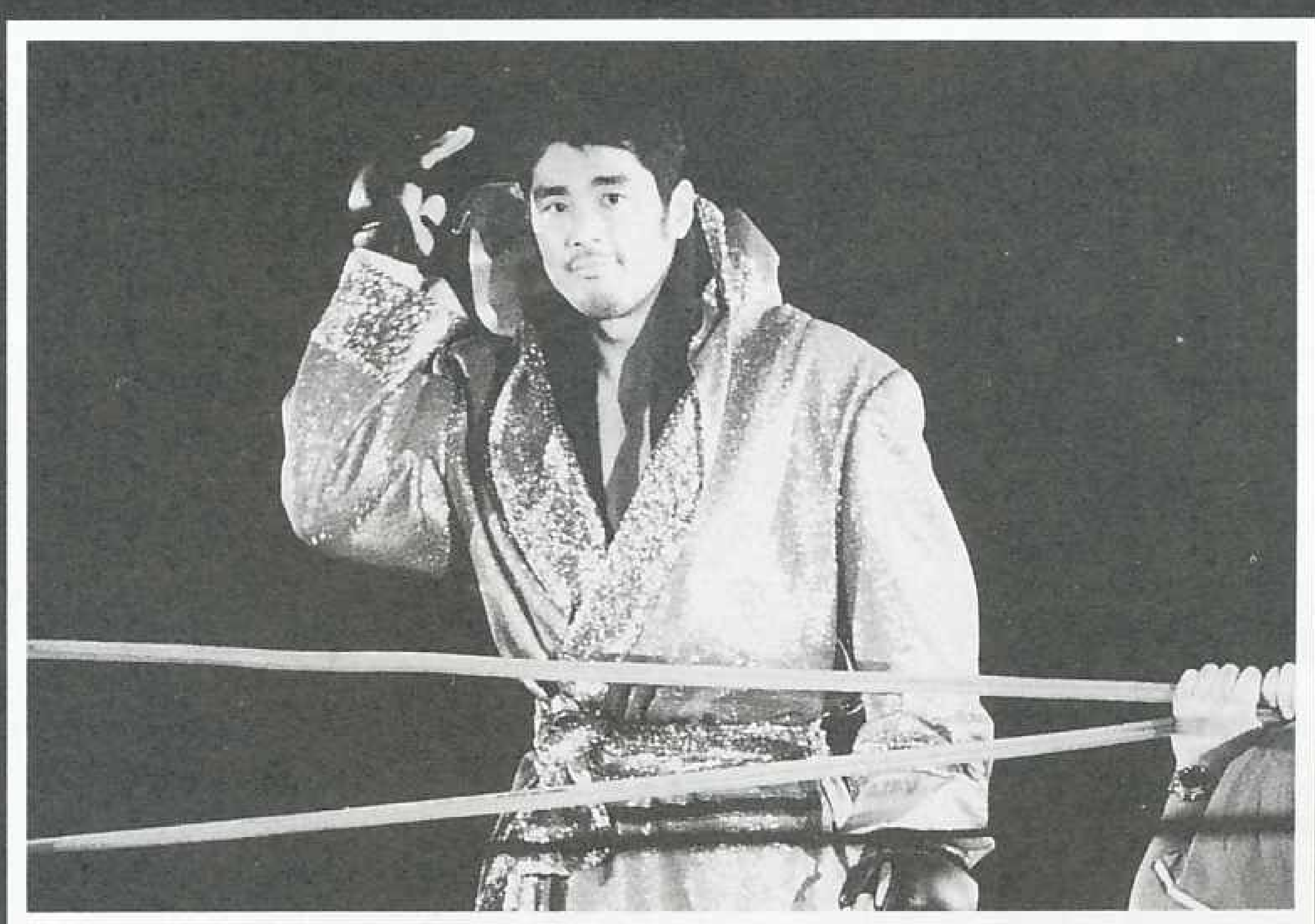
日本マット界が全部地盤沈下でどうすんねん！ なあ？ どうするの！ なあ？ 高田やられたよ!! どうすんの!!（浜部編集長に）あんた編集長でしょ、ど

うすんの？　それでもパンクラスがどうとか、リングスがどうとか言ってるの？（「いいえ」と答える浜部編集長）え？　なあ？

どうする？　俺、去年も大阪城ホールかどっかで言ったはずですけど、マット界が、ここ2〜3年で何かあって、グシャッとなったら、もう二度と、いまと同じ様なレベルで、人々の記憶に残るようなものは残りません。

今回もパンクラスっていうのはアレなんですけど、それをまたFテレビのK氏は。今日、坂田が（マイクアピールで固有名詞を）言っちゃったんですけど、伏せてほしいんですよ。じゃないと、話がグチャグチャになってしまうんで、頭を下げますんで、皆さん、よろしくお願いします。名前は出さないでください。FテレビのK氏という形で。で、彼は「第二のF-1プロデューサー」みたいに、功名を目指して、K-1で成功して、次はパンクラスってなったらしいんですけど、ちょっとおかしいんじゃないかって言いたいわけですよ。モメなくてもいい話をモメるようにして。それが言いたいんですよ。その辺を坂田が言ってるわけですよね。FテレビのK氏だってね、あの、ホントね、いい加減にしないと、ホントね、ブチ殺しますよ!!　松井くんと紳士的に話をしましたけど、あんまり人をバカにしてるとね、ブチ切れますよ！　一筆とってますからねえ、訴えたら負けないですよ、絶対。

でね、各マスコミの人も、いい加減にね、（ターザン）山本編集長が編み出した、ああいう方法はやめてください。でね、ちゃんと道場とか、練習とか、試合場にね、取材に来て、選手それぞれに取材して、選手の言葉の中から練習の中から取材して、探して、ちゃんとしたスポーツライターとしてやってください。そういうのをやらないから、人の悪口しか書けないんじゃない。どこのスポーツライターにね、そういう安穏とメシ食ってる連中がいるの？　「月刊になったから」「月に4回どうのこうの」。それはおたくらの経営方針で、それはまったく関係ないよ！　自分でやれないんだったら、それはやめればいいじゃない。ハタ迷惑だよ。え？　そうでしょ？　俺、おかしいこと言ってます？　どこのスポーツマスコミに、道場を見に来たりとか、練習を見に来たりとか、試合場にちゃんといないっていうこととあんの？　ウチらの業界はヘタしたら、試合場に見に来ないで記事が載ってる。何やそれ、え？　お前ら書くことないから、人の悪口言ってるんやないか。え？　人間個人のつきあいで、大概まっとうなことやってるヤツが蹴られるんやないか、ああ？　ふざけろよ、お前ら！　ブチ殺すぞ、コラ!!　だから、俺、宣誓します。盛り立てる記事だったら、おおいに結構です。リング上の姿とかを批判するのは大いに結構です。リング上の姿とかを批判するのは、おおいに結構です。でもね、それ以外のね、人間個人を揶揄したりとか、そういう記事に対しては、断固として処置をとります。そう思ってください。俺の好きなプロレスマスコミの方もいっぱいいます。嫌いなマスコミもいっぱいいます。山本だけじゃなくてね、いますよ、いま正直言って何人かはね。そういう人たちに対してね、ハッキリ言ってね、宣戦布告です。いままで黙ってましたけど、自分が辞める前にやっとかなあかんことを、正直に考えて、真剣にやろうと思ってます。だから、そういうつもりでいてください。他はないですか？　いいですか？



やはり戦友・高田の出陣は前田にとって他人事ではない。だが、高田に対する業界の視線はおおむね冷たい。

〈高田VSヒクソン戦は、最初は見に行く予定ではなかったとか〉

行きたくなかったんですよ、あの試合は。なんでかっていったら、俺がこういうことを言っていいのかわかんないけど、彼もね、壊れてたんですよ。で、夏頃に、全然首のヘルニアがダメで、で、あと胴も何か、腰痛でダメで、俺の知ってる整体だとか気功の先生だとか、俺の事務所にわざわざ呼んで、二回三回と治療させたりだとか。で、当日も何か、自分の知ってる気功の先生を控室に送り込んで……ギリギリまでね。だから、俺はあの試合を2月にやってほしかったんですよ。だから（主催者も）あんな何かねえ、どういう連中かわかんないけど、冗談じゃないですよ。ああいうもんにグチャグチャにされるの、冗談じゃないですよ。でね、断言します！　やります、ヒクソンと。やりますけど、あんな連中とは絶対にやらないです。あんな連中のマットには絶対に上がらないです。やるんだったらね、自分らでやりますよ。どんなに借金してもやります。ね？　「前田さん黙っていられるんですか？」って、そりゃあ黙ってられるわけないよ！　やります。ただ、現時点でコンタクトを取ったりあるんで、詳しい発表はできないんで、ちょっと待ってください。

で、また今回の高田戦とかイレギュラー的にちょっとありましたけど、それ以外に予定してたことありましたけど、調整とかありますんで、どういうふうな日程でやるとかありますけど、でも、引退前には必ずやります！　それはね、みんなの頭に入れてください。そりゃそうでしょう。リングの上でね、「ファンの皆様、私の技術を習うとどうのこうの」とかあんなことを言われて黙っていられるか、おい！　そうだろ？　あんなこと言われて誰が黙っていられるねん!!

で、主催者にも、高田ボロボロで、なんでリングに上げられんねん！　なあ？　ふざけんなよ、お前ら!!　金がなくてピーピーしててやなあ、ほんで、グチャグチャな興行やってんやないか。ふざけろよ！

俺が言いたいのはそれだけですよ、いいですか？　終わりです。

利害を超越し、
専門誌が出来ないこと、
専門誌がやろうとしないことを
夢として世間に挑戦する!!
それがRADICALの
ロマンである

紙のプロレス RADICAL Back Numberの告知

創刊号



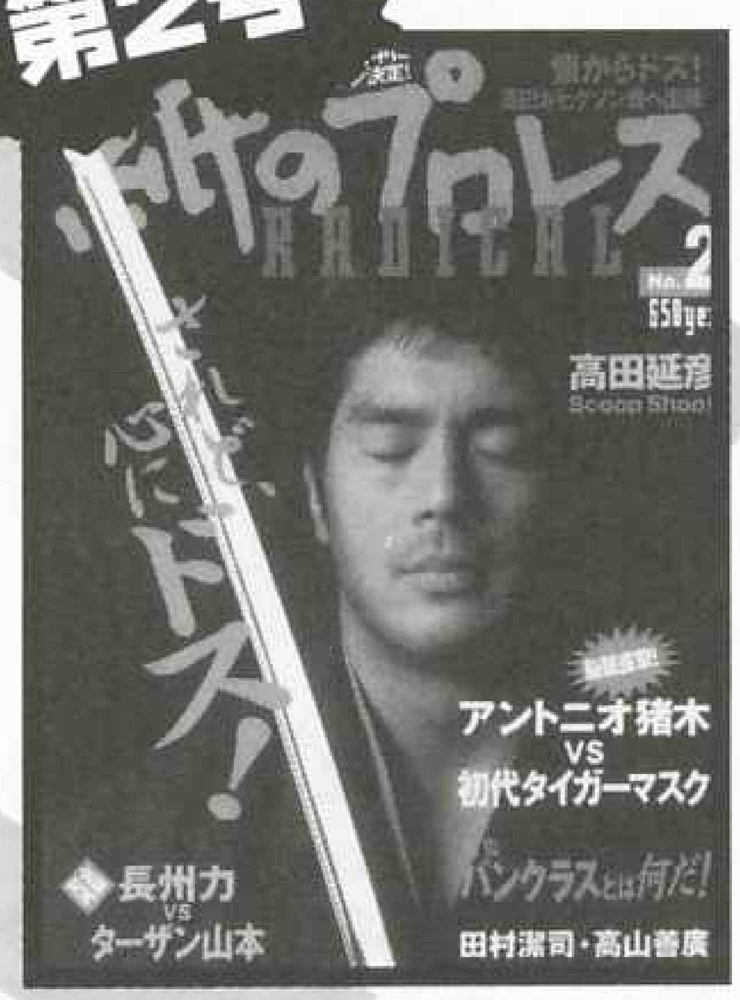
◎特集「プロレスラーとは何か!」
5大ロングインタビュー
高田延彦／船木誠勝／初代タイガーマスク／橋本真也／タイガー・J・シン

◎巻末超ロング・インタビュー
前田日明

◎本誌だから実現できた
危険騒然対談
ターザン山本VS鈴木健

◎売れ行き無視のバトラーツ特集
石川雄規／小野武志／田中稔ほかB勢総登場

第2号



◎特集「プライドとは何か!」
過激で素敵な脳髄直撃師弟対談
アントニオ猪木VS 初代タイガーマスク
高田延彦スペシャル・ショット
田村潔司・高山善廣・TAKAみちのくロングインタビュー

◎パンクラスとは何だ
近藤有己・長谷川悟史・渋谷修身他
ヒストリー／パンクラスを解剖する炎上対談

◎特別寄稿
井上義啓「熊殺しの墓標」

◎新連載・石川雄規の
「闘いの美術館」

第3号



◎とうとうRADICALに神様降臨!
カール・ゴッチ
インタビューinUSA

◎特集・針の穴にラクダを通せ!
船木誠勝
19ページぶち抜きインタビュー
山本宜久・安生洋二・池田大輔・臼田勝美インタビュー

◎過激で素敵な師弟対談パート2
アントニオ猪木VS 初代タイガーマスク

◎賛否両論!
業界騒然のタブー特集
八百長論議と闘え!!
「プロレスの敵は世間だ!」

第4号



◎特集「落とし前」と「世界征服」'97
前田日明
衝撃ロングインタビュー
高阪剛・近藤有己・山本健一・アレクサンダー大塚インタビュー

◎神様降臨!
騒然インタビュー・パート2
カール・ゴッチ

◎昭和世代の凄み!
酒、女、ケンカ超過激対談
ドン荒川vs藤原喜明

◎世界格闘技連盟プラス1
最強カルテット座談会
村松友視、アントニオ猪木、小川直也、佐山聡

第5号



◎特集『RADICALは高田延彦を応援するぜ!』
高田延彦ロングインタビュー
Puffyほか有名人33人が
高田vsヒクソンを大予想

◎戦慄の新連載
前田日明の人生相談

◎リングスvsパンクラス局地戦勃発!
長井満也・柳澤龍志セメントインタビュー

◎酒・女・ケンカ超過激対談パート2
ドン荒川vs藤原喜明

◎怒涛の6大ロングインタビュー
ビクター・クルーガー・長与千種・ライオネス飛鳥・ディック東郷・愚乱浪花・ザ・グレート・サスケ

◎超ロングインタビュー
タイガーキング

【購入方法】

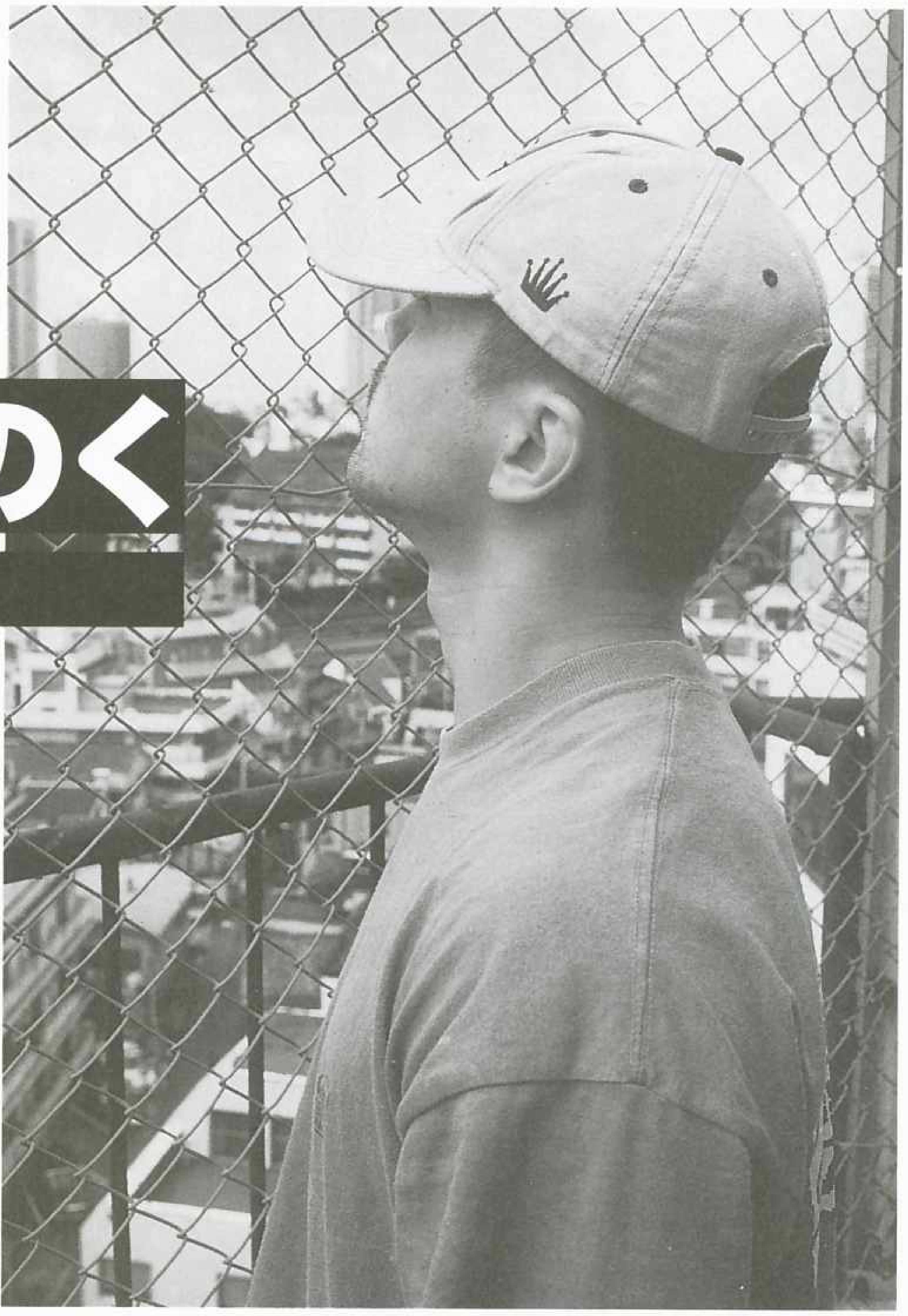
●現金書留と郵便振替の2種類があります。
●現金書留の場合、住所、氏名、電話番号、希望号数を明記の上、下記までお送り下さい。

〒151　東京都渋谷区千駄ヶ谷3—11—3—702
(株)ダブルクロス『RADICAL通販』係まで

●郵便振替の場合は用紙裏面の通信欄に希望号数を明記し、00130—3—769154　(株)ダブルクロスまで。
代金は創刊号=610円　2号=660円　3号〜5号=680円
送料1冊=310円　2冊=340円　3冊〜4冊=450円　5冊=520円

聞き手／のものも
interview by Nomonomo
撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito
撮影／遠藤政文
photographs by Masafumi Endo

成田空港にて突撃取材を遂行！！



TAKAみちのく

WWF出発当日の心情

10・10みちのくプロレス・両国大会を目前に控えたTAKAは、気持ちいいくらいにサスケ社長に噛みつき、そして吠えに吠えまくった（P14～のTAKAインタビュー参照）**。心はすでにみちのくにあらず、TAKAが見つめているのは、ただ一点。海の向こうの大メジャー、WWFである。試合前のインタビューでは**
「サスケには何の魅力も感じない。両国もヤル気なし！」と言い切ったTAKAだったが、サスケとの一戦を終えた直後にTAKAがサスケに残したのは
「サスケ！　みちのく潰すなよ!!」
という感動的な一言だった。
この真意は如何に？　今、まさに日本を発とうとする直前、成田空港にてTAKAをキャッチし、再度、インタビューを申し入れた。『TAKAみちのく、RADICALインタビュー～完結編～』。他では一切語ってないTAKAの本音を一挙公開！

サスケ！みちのく潰すなよ!!

TAKA　何だよ、オマエ。こんなとこまで追っかけてくんなよ。

――いや～、やはり試合後の感想&出発前の心境を聞いておかないと、死んでも死にきれませんから。

TAKA　何だよ、勝手に死ねよ。で、何？

――では、まずは10・10両国の試合の感想を簡単に聞かせて下さい。

TAKA　内容的には満足だよ、負けたけどな。う～ん、まぁケガ人だと思って少しナメてたかなぁと。少し余裕出しすぎたな。

――ケンカマッチにはなりませんでしたね。

TAKA　こないだのインタビューでも言ったけど、俺はそういう試合にはしたくなかったから。いい試合を心がけたよ。

――確かに試合的には、いい試合でした。

TAKA　勝ちに行くんだったら、ひたすら傷めてる足狙ってけば勝てたんだよ。観ていて気付いた人もいたかもしれないけど、サスケが爆弾抱えているのは右ヒザなんだよ。でも、俺が狙ってたのは左ヒザだったんだよ。右ヒザ壊しちゃえば簡単に勝てたよ。

――勝ちに行かなかったのは、試合前のインタビューでも言ってた通り、内容にこだわったからだと？

TAKA　そういうことだ。あとは武士の情けだね。両ヒザ壊してやろうってのも、少しはあったけど（笑）。でも、久々に完全燃焼の試合ができたね。だから負けたけどスッキリしたよ。

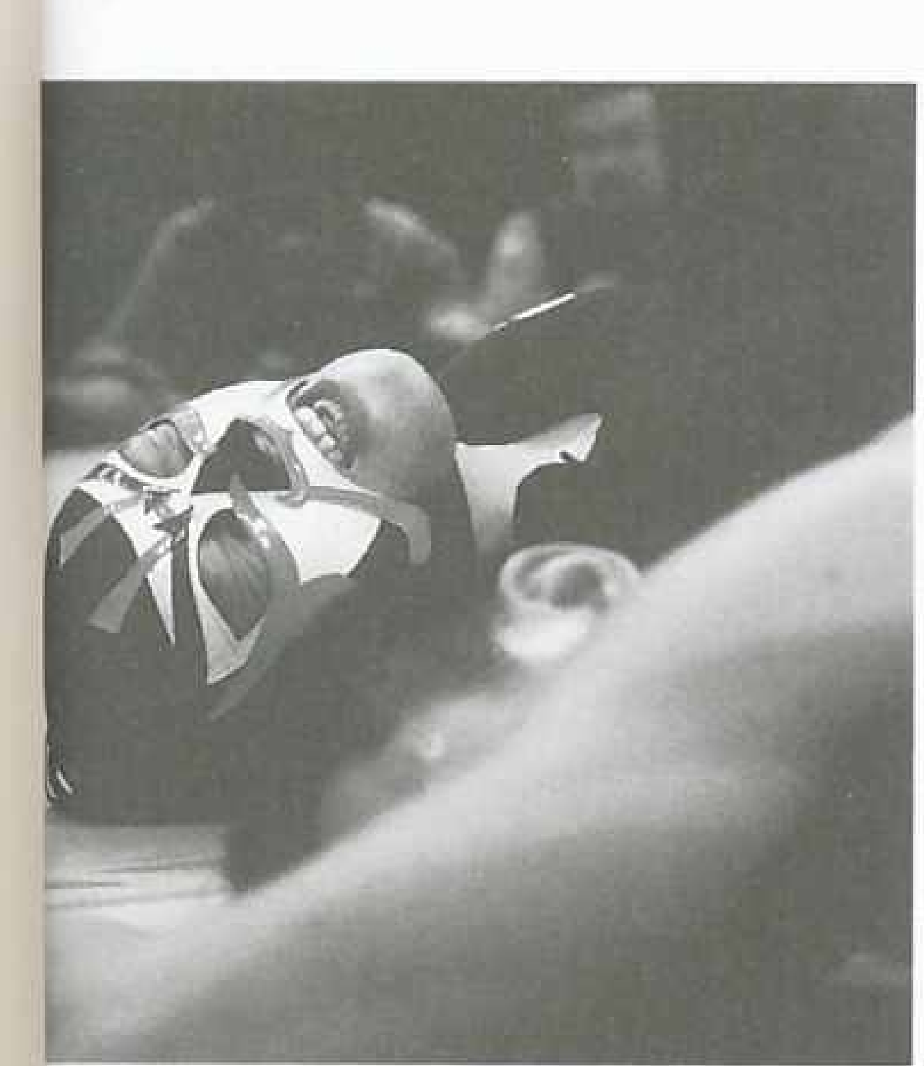
――サスケ社長とは、今まで何回かシングルで当たってるわけですが、今回が一番遺恨が絡んでた試合ですよね？

TAKA　ここに来るまで、いろいろゴタゴタあったからな。

――よく「レスラーの揉め事はリングで決着つけるのが一番だ！」って言いますが、今回もそれと同じで、試合でわかりあえたので今までのことは全て水に流すって感じなんですか？

TAKA　まぁ、サスケへの不信感は大分薄れたね。やればできるじゃねぇかって感じだね。あの日のサスケの頑張りは、認めるしかねぇだろ。

――では、試合後のマイクで「サスケ！みちのく潰すなよ!!」って言ったのは、本心だったんですね？





TAKA　あれは本心から出た言葉だよ。負けたけど、久々に試合で感動できて、咄嗟に出た言葉がアレだったと。

——ああ、良かった、本心で（笑）。あの言葉は感動しましたよぉ。ズバリ！　泣けましたね。

TAKA　俺も控室へ引き上げる時ジーンときたよ。自分で言った言葉に自分で感動しちゃったもん。

——だが、しかーし！　試合後、サスケ社長は「TAKAの発言には裏がある！」とコメントしてるんですよねぇ（笑）。

TAKA　あいつもしつこいねぇ（苦笑）。ホント、バカだよなぁ。素直に受け止めろってんだよ。

——「WWFはみちプロ乗っ取りを企んでいるから信用できない！」ってなことを言ってましたよ。

TAKA　いい話じゃねえか。経営楽になるんだから。

——まぁ、そう言っちゃそうですけど。

TAKA　だから今後は、みちのく視察のために突然帰ってくることも無きにしも有らずだな。

——と言うと、結局はみちのく捨ててWWFに行っちゃうってことですか？

TAKA　ああ、形的にはそうなるな。

——「形的には」と言うと、心情的には、みちのくを捨てるわけではないと？

TAKA　捨てるとかそんなんじゃないよ。ただ今、言えるのは「俺はWWFへ行く」、ただそれだけだ。

——では、試合前のインタビューで「みちのくに対して、もう愛はない！」と言ってましたけど、その気持ちもちょっとは変わったわけですか？

TAKA　う〜ん、少しは変わったね。結局、サスケ越えは成し遂げられなかったわけだからね。まずはあの人を越えないと。だから今後、もうみちのくに上がらないってことはないでしょう。あの人を倒さないといけないから。

——じゃあ、「みちのくにはもう何の魅力もないから」って発言も、少し変わってきたってことですよね？

TAKA　それは言えない。

——ああ、そうですか！　いや〜、でもTAKAさんがみちのくに対する愛を取り戻してくれて、ホントに良かったですよ。試合で、サスケ社長と心が通じ合えた、そしてみちのくへの愛も取り戻せた。やっぱりレスラーは、肌と肌でぶつかり合うと、気持ちも通じ合うもんなんですねぇ……。いや〜、ホント、感動的だなぁ（しみじみ）。

TAKA　何か、俺らしくねえ謙虚なインタビューになっちゃったなぁ。

——いえいえ、たまにはいいじゃないですかぁ（笑）。

TAKA　何言ってんだ、バカ！　全部ウソじゃあ！

——へ？

TAKA　サスケがあそこまでできたのは誰のおかげだと思ってんだ！　俺のおかげだ！　アホッ！　あとなぁ、試合後に「みちのく潰すなよ」って言ったけど、あんなの全部ウソだよ〜ん。

——へ？　へ？

TAKA　みちのくなんか、とっとと潰れちまえ！　バカヤロウ！　じゃあな!!

【10月13日・成田空港にて収録】

避けられるか？ 開店休業！
全ては今年いっぱいの客足にかかっている!!

みちのくプロレス・今後の日程

サスケ＆デルのスーパータッグが復活!!
みちのく、'97年(もしくは永遠に……？)東北最終シリーズ
『みちのくふたり旅'97〜タッグリーグ戦〜』

- 10月28日(火) 山形・遊佐町民体育館(18：30)
- 10月29日(水) 宮城・石巻市総合体育館(18：30)
- 10月30日(木) 青森・百石町民体育館(18：30)
- 10月31日(金) 山形・長井市置賜生涯学習プラザ(18：30)
- 11月1日(土) 秋田・秋田テルサ(18：30)
- 11月2日(日) 山形・中山町総合体育館(15：00)
- 11月3日(祝) 福島・福島市南体育館(15：00)
- 11月4日(火) 青森・野辺地町立体育館(18：30)
- 11月5日(水) 岩手・花巻市民体育館(18：30)
- 11月6日(木) 岩手・一戸町立体育館(19：00)
- 11月8日(土) 岩手・西根町ゲンデルランド特設リング(18：00)

【最終戦】
- 11月9日(日) 宮城・ニューワールド仙台特設リング(15：00)

今年は本気！ 出稼ぎシリーズ

- 11月30日(日) 前橋・群馬県総合スポーツセンター(15：00)
- 12月1日(月) 大阪・高石臨海スポーツセンター(19：00)
- 12月2日(火) 名古屋・中村スポーツセンター(18：00)
- 12月3日(水) 名古屋・中村スポーツセンター(18：00)
- 12月6日(土) 三重県下予定
- 12月7日(日) 京都・ＫＢＳホール(予定)
- 12月8日(月) 大分県下予定
- 12月9日(火) 福岡・博多スターレーン(予定)

プロレスマスコミ観察雑記



文／吉田豪
え／マツくん

これはスポーツ新聞、
プロレス専門誌、
一般雑誌、ミニコミ、パソコン通信、
インターネットなどに
掲載されたプロレスネタの
数々をひたすら客観的に
観察してクールに報告する、
創造力の貧困な
雑記帳である！

日明兄さんがひっそり放った爆弾発言を読む。

（週刊文春97年9月25日号より）

『週刊文春』連載「阿川佐和子のこの人に会いたい」のゲストとして招かれた日明兄さんが、今月もまたやってくれた。

いきなり阿川佐和子を褒めちぎり、**「身体が動かなくなると、口が動くようになるんです（笑）」**などと呑気に語ったかと思えば、その言葉通りに決して妥協することもなく、見事なまでにゴチャゴチャ言いまくったというわけなのである。

引退の話、田中正悟兄ィの話、暴走族に説教した話（近頃お気に入りのネタらしく、『ゴン格』や『達人』でも披露済）、プロレス入りの経緯、新日の宴会で武藤と殴り合った話など、いつもの話をいつものようにした後、突然なぜか初披露の衝撃発言をブチまけた日明兄さん。

つまり、**「新日本プロレス自体がグラグラしてた」**アントンハイセル真っ盛りの頃、プロレスを辞めようと思ったが**「母親がマンションの9階から落ちて、大怪我して、お金が要ったから」**辞められなかったこと。そして何よりも日明兄さんの名付け親でもある母方の祖父（こんな情報、よく阿川佐和子が知ってたものだが）についての様々なことを、である。

さすがにノーチェックの読者も多いと思われるので、軽く引用してみよう。

「祖父は韓国の李朝時代の軍人で、日韓併合の時に、国が蹂躙されるのが嫌で義兵闘争に加わり、（略）海峡を渡ってきたんです」という意外な媒体での予想もしなかったカミング・アウト（テレビ朝日『プレステージ』における長州のカミングアウト以来の快挙である）のみならず、まだまだ話は無限に広がっていく。

「（祖父は）力道山のすごいファンだったそうで、やれ日本人だ、韓国人だ、差別されたとか何とか言ってないで、あの生き方を見習え（略）と涙ながらに語っていたそうです。おまけに『我が家から、力道山を助けるような人間が出ないかなあ』とずっと言ってたらしいんですよ」

これまたプロレスファン的には衝撃極まりない重大発言なのだが、**「まあ！　運命的なお話ですね」**と阿川佐和子に言われると、日明兄さんは**「えらいウッメイ話でしょ（笑）」**と猪木イズムを発揮させてダジャレで返すから、さすがである。

狂信的力道山シンパのボクにしてみれば、このエピソードはもうたまらなすぎる。バックボーンが明らかになるにつれて力道山先生がスケールが巨大化していったように、日明兄さんのスケール感までボクの中ではすっかり巨大化してしまったのだ。

さらに祖父のみならず、すっかり勢いに乗った日明兄さんは謎のベールに包まれてきた父親の秘話まで一気に公開していく。

「（親父は）出張と称してよく韓国に行ってて、確かに仕事もあったけど、韓国にも家庭があったらしくて……。俺が三十の頃、親父の家に帰ったら、小さい男の子がいるんですよ。訊いたら、『お前のファンでよく遊びに来るんや』って。でも、夜になっても帰らない。『帰さなあかんやないの？』って言っても、『いや、たまに泊まってくんや』と。おまけにその子、何を訊いても喋らなくて――」

なんとビックリ。それがいま**「二十か二十一」**になる、当時は**「まだ日本語が喋れなかった腹違いの弟」**であり、彼の養育費は陰ながら全部日明兄さんが払っているというのだ！　UWF末期に自腹を切って選手に給料を払っていたことに続く、日明兄さんの美談再び、である。

ところが、だ。こんなマット界に衝撃走りまくる爆弾発言を聞き出したにも関わらず、その後はUWF崩壊話や好きな女子のタイプなどのいつもの話に終始した上、**「引退の前にタイソンとフォアマンと闘いたい」**というお馴染みすぎる話を見出しに使ってしまうのだから、まったくもって「マスコミの馬鹿さ加減と言ったら！」（スコラ誌上でのShowの名台詞。お前が言うな）なのである。やれやれ。


連載―214

前田日明　プロレスラー

引退の前にタイソンかフォアマンと闘いたい

さらに、挙げ句の果てには日明兄さんの肩書を**「プロレスラー」**にしてしまうのだから、とんでもないにも程がありすぎる。これだけデリケートな問題に踏み込んでおきながら何事もなかったような構成にしてしまうようでは、結局のところ『週刊文春』もまだまだなのである。

どうせならウチでキッチリ特集でも組んでもう一回やりましょう、日明兄さん！

東京ドーム興行の噂が絶えない全日のビッグボスマン・馬場さんに、対談仕掛人・佐々木徹がズバリ斬り込んだ名企画。

「東京ドーム？　やりたいよ、そりゃ。でもな、満員にするだけのネタがないんだよ（笑）」と素直に告白しつつ、**「その前にアップルパイを注文したいんだがな。腰を据えてしゃべるには甘いアップルパイがないと（笑）。どうだ？　あんたも食べないか。心配せんでもいい。あんたからたかろうなんて思っちゃいないよ（笑）。だから、食え」**と、細身の身体で太っ腹な甘味王ぶりを発揮する我らが馬場さん。

さすが**「お酒を飲まない馬場は、子どもみたいにおやつが大好きです。とくに、おまんじゅうが好きで、一回に二十個ぐらいはペロリと食べます。そのあと、アイスクリームを五個ぐらい食べて、コーヒーを三ばいぐらい飲みます」**などと、小学館の『プロレス入門』で毒舌評論家・菊池孝先生に観察されてきただけのことはある。相変わらずの子供っぷりだ。

そして**「俺は上手にしゃべれんのだよ。よっぽどのバカかも知れん（笑）」**と謙遜しつつも、日本プロレス分裂時のことを**「実はな、ここだけの話な。もし金に困ってたらNETの誘いに乗っていたかも知れないよ（ニタリ）」**と素直に述懐し、さらに長年噂され続けてきた交流戦問題についてもこれまた素直に返答したのだ。

「交流戦ね。昔からよく言われてるわな。じゃ、あんたに聞くが、集英社と講談社が共同して凄い本を作ろうと思ったことがあるかい？」

まさにグウの音も出ない正論である。

ところが馬場さんは珍しく世間の側に歩み寄り、ある交換条件を出してきたのだ。

「まあ、今回は佐藤孝行が入閣するかどうか見てみようよ。彼は過去にロッキード事件で有罪判決を受けた人間でしょ。そんな悪いことをした人間でも閣僚になれるのだったら、俺も新日本との交流戦をきちっと考えてみるよ」

つまり、もし犯罪者だった男が入閣できたなら、これはかつて悪の団体だった新日本とでも交流すべきという世の中の流れなのであろう、と馬場さんは言っているのだ。

途中で辞任しても**「ちゃんと考えてみる」**とうっかり口にしてしまった馬場さん。となると今頃は、絶賛考え中なのであろう、きっと。悪いことをした（とされる）政治家、猪木の登場もあるのか？

『ジャイアント馬場的〈義理人情プロレス〉至上宣言！』を読む

（『週刊プレイボーイ』10月14日号・担当／佐々木徹）



プロレス マスコミ 観察雑記



超・二刀流ファイター目指す

北尾

9・12後楽園でWAR 6人タッグ王座に挑戦

WAR12日の後楽園ホール大会で、武輝道場の望月成晃、多留嘉一を従え、世

羆が、ベルト奪取で勢いをつけ、「超ファイターを目指す」とブチあげた。
 北尾は10・11東京ドーム大会で米国の空手家、ネイサン・ジョーンズとアルティメットルールで対戦。翌日（12日）には両国国技館で行われる〝格闘技の祭典〟に参戦し、天龍源一郎とタッグで激突する。この過酷な連戦をレスラー、格闘家の2つの顔で乗り切る。
「アルティメットはこれで5回目。初めは戸惑ったけど、どうやればいいかは分かってきた。自分なりの自然体で行くしかない。ただ、問題はルール。プロレスはイスを使っても大丈夫だけ

ダメでしょう。まったく別の戦いと考えなければならない」と北尾は言う。
 実際、北尾は米国でのアルティメット戦でルールで泣いた。プロレスなら日常茶飯事の鼻血でレフェリーに試合を止められてしまったのだ。この悔しさは今も心に残っている。
「対戦相手はほとんど知らないけど、勝つことしか考えてない。

い。プロレスとア
ットを両立させる
なんだから」と
 アルティメッ
闘後の天龍と
バッチリ視

意味が
「自分

10・11アルティメット出撃の翌日には天龍とのタッグ激突

プロレス情報局

〝激震〟続く全日本女子 離

デスク　全日本女子プロレスでまた選手が離脱したらしいな。
プロレス担当記者　田村欣子、元気美佐恵、タニー・マウスの中堅3人です。松永高司会長も3人の退団を認めてます。7月上旬の山田敏代を皮切りに、これで離脱選手

北尾、超ファイター宣言の謎？

（『東京スポーツ』9月12日号より）

かつてローリング・ストーンズの東京ドーム公演を観に行った際、**「ミック・ジャガーは正真正銘の本物じゃん。俺の師匠のルー・テーズと同じだよ！」**と、わけのわからないことを豪語した北尾光覇。

いまもなお、モデラーの殿堂『ワンフェス』（ガレージキットの大即売会）に出没したりという元・横綱らしからぬ不可解かつステキな行動を繰り返しているわけだが、『東スポ』紙上でも非常にゴキゲンな謎のビッグマウスぶりを披露してくれたのだ。

そう、10・11東京ドームでの『ＰＲＩＤＥ．１』ではアルティメット・ルールに、10・12両国国技館での『格闘技の祭典』では天龍との純プロレス的タッグマッチという連戦に挑むこととなった彼氏。

何を思ったのか、いきなり**「超ファイターを目指す！」**と、まるでいまどきの女子高生を思わせるような途方もなく素っ頓狂なことをブチあげてしまったのである。

超ファイターとは何か？　超強いのか、超ムカつくのか？　とにかく疑問は尽きないが、北尾に言わせるとこういうことだ。

「アルティメットはこれで５回目。初めはとまどったけど、どうやればいいかは分かってきた」、と。で、はたして一体何がわかったのかというと、これなのである。

「プロレスはイスを使っても大丈夫だけど、アルティメットでは反則。逆にアルティメットでは金的ＯＫで、プロレスはダメでしょう。まったく別の戦いと考えなければならない」

この真理を理解した北尾に、もはや怖い物なんてあるわけがないのである。ビバ、北尾……って、もっと早く気付けよ。

幻のみちプロ＆バトラーツ合同興行 or 伝説のターザン山本追悼興行

闘いのドンキホーテ!!

すべての道がローマに通ずるなら、ドンキホーテよ、でたらめにゆけ!!

紙のプロレス RADICAL VIDEO




仰天の社長タッグ遂に実現！
謎の刺客・山賊男の正体は!?



驚愕！バトラーツ初の
バチバチ6人タッグ実現!!



人生、KAWASAKI初巡礼！



"戦闘用"佐山タイガー出陣!!



戦火拡大！
みちプロ正規軍VS海援隊DX!!



ターザン山本、発狂！

これは96年の
裏・日本プロレス史だ!!



**あれは夢か幻か!?
たった700人しか
目撃できなかった、
業界騒然の
96・12・26を
完全再現!!**

企画・発売／株式会社ダブルクロス　販売／クエスト

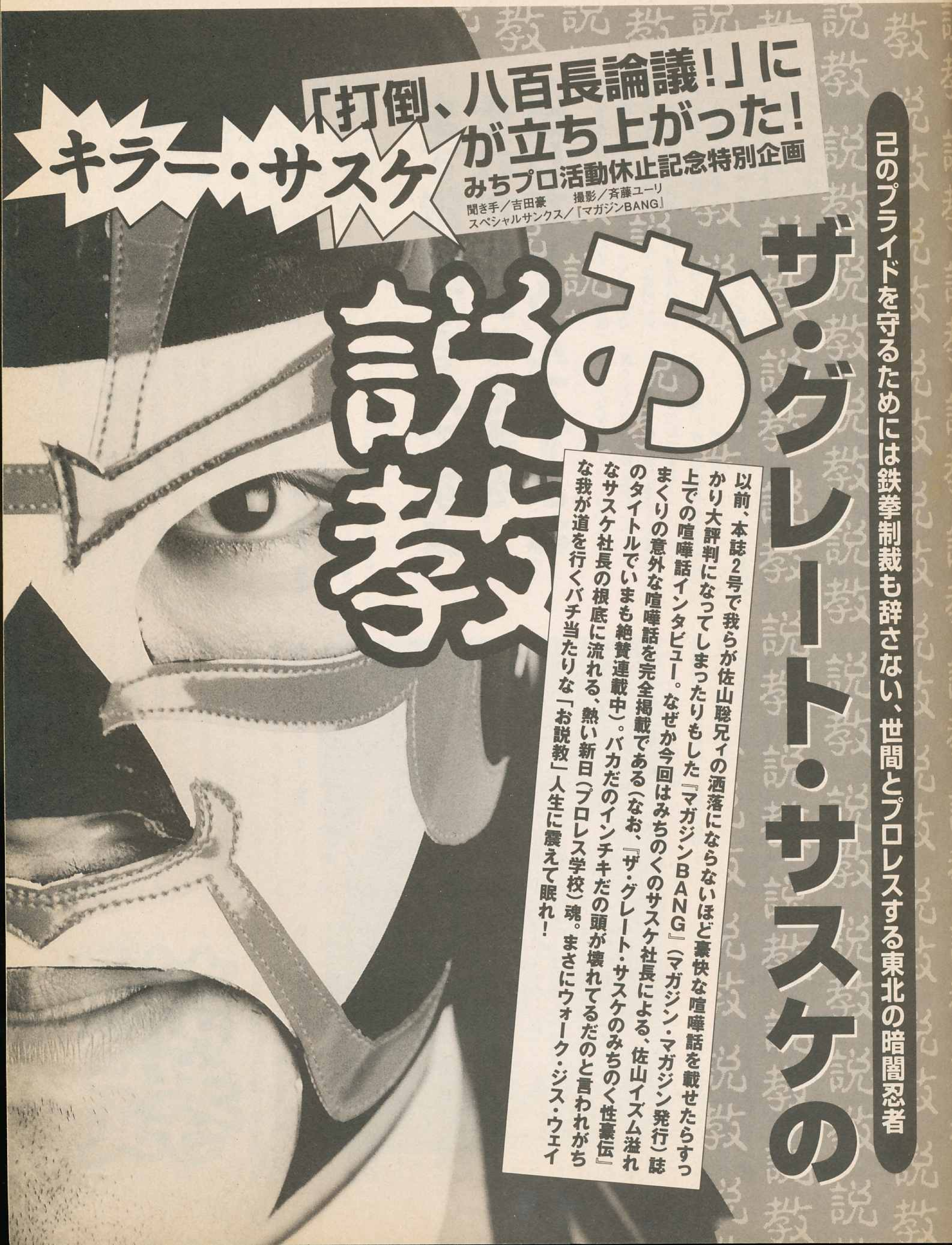
¥6600(税抜)
●全国書店、レコード店、ビデオショップ、プロレスショップ等で絶賛発売中!!
●みちのくプロレス&バトラーツ会場でも仰天の発売中!!
VHS/SPA-4802
90min/NTSC/COLOR/MONO/Hi-Fi

生か死か！ 聖か邪か！　永久保存版の収録内容!!
【96・12・26 クラブチッタ川崎】

★ザ・グレート・サスケ&石川雄規vs山賊男ガリバーX&山賊男ガリバーXX
★池田大輔&アレクサンダー大塚&米山サトシvs臼田勝美&小野武志&田中稔
★初代タイガーマスクvs獅龍
★グラン浜田&スペル・デルフィン&薬師寺正人vsディック東郷&MEN`Sテイオー&TAKAみちのく
★新崎人生vs愚乱・浪花
★その他、未公開のターザン密葬と発狂の場面、各選手からのターザンへの「弔辞」、翌日Uインター解散を控えたゴールデン・カップス突如来襲の様子なども収録

世界の平和のために、特別通販も行うんです！

①現金書留 ②郵便振替 00130－3－769154 名義：(株) ダブルクロス
①②いずれかの方法で下記住所へビデオの料金をご送金下さい。送料・税込みの大出血価格7500円です。その際、住所、氏名、年齢、電話番号を明記していただかないと商品が届かない場合がありますので、必ず明記してください。(郵便振替の場合は用紙裏面の通信欄に記入)
〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷3－11－3－702 株式会社ダブルクロス『ドンキホーテ通販』係まで。TEL. 03-3403-5188 FAX. 03-3403-5187



キラー・サスケ

「打倒、八百長論議!」に
が立ち上がった!

みちプロ活動休止記念特別企画

聞き手／吉田豪　撮影／斉藤ユーリ
スペシャルサンクス／『マガジンBANG』

己のプライドを守るためには鉄拳制裁も辞さない、世間とプロレスする東北の暗闇忍者

ザ・グレート・サスケのお説教

以前、本誌2号で我らが佐山聡兄ィの洒落にならないほど豪快な喧嘩話を載せたらすっかり大評判になってしまったりもした『マガジンBANG』(マガジン・マガジン発行)誌上での喧嘩話インタビュー。なぜか今回はみちのくのサスケ社長による、佐山イズム溢れまくりの意外な喧嘩話を完全掲載である(なお、『ザ・グレート・サスケのみちのく世豪伝』のタイトルでいまも絶賛連載中)。バカだのインチキだの頭が壊れてるだのと言われがちなサスケ社長の根底に流れる、熱い新日(プロレス学校)魂。まさにウォーク・ジス・ウェイな我が道を行くバチ当たりな「お説教」人生に震えて眠れ!

まず説教するんですよ。それからいつも手を出しちゃうんですよね。

――噂によるとサスケ社長は昔、影の大番長だったらしいですね（笑）。

サスケ　いやいやいや（笑）。何をおっしゃいますやら。（おもむろにテレコを見て）あれっ、テレコはこれでいいのかな？

――ちゃんと動いてますよ、ボクはカタブツ君じゃないんですから（笑）。

サスケ　ねえ。影の大番長って、そんなわけないじゃないですか（笑）。

――でも高校時代、実は裏でブイブイいわしてたとかっていう話ですよね。

サスケ　いやいやいや（笑）。あのね、中学のときはいじめられっ子の方だったんですよ、どっちかっていうと。で、悔しいから空手習って強くなって、いつの間にか影の大番長になって（笑）。いや、そんなことないかって、ガハハハハハハハ！　やっぱりそうなんですよねえ、なぜか。うん。

――どっちなんだか（笑）。中学のときって、そんな散々やられてたりしたんですか？

サスケ　いや、散々でもないんですけど。どっちかっていうと、あの頃はすごい校内暴力が流行っててね、ボクの世代は。

――やっぱり金八先生直撃世代ですからね。

サスケ　うん。それで要は派手にケンカする奴か、まったく大人しいか、世代的にどっちかだったんですよね。

――あとは適当に悪いのに擦り寄って、パシリやったりするぐらいで（笑）。

サスケ　そうそうそう（笑）。ボクはまったく大人しい方だったんで、たまにいじめられそうになったりするんですよ、うん。それが嫌だったんでね。

――要するに、その頃はただのプロレス好き少年だったわけですね。

サスケ　そうそうそう。だからまあね、いじめっ子にはなりたくないけども、そのね。なんちゅうか、いじめっ子も一目置くような人間になりたいなと思ったんですよ。そんとき、ちょうど猪木さんの本を読んだんですよ。

――『苦しみの中から立ち上がれ』ですか？

サスケ　そうそうそう、うふふふふふ。

――それとも『君よ苦しめ、そして生きよ』とか？

サスケ　そうそうそう、あの辺ですよ（笑）。でね、猪木さん曰く、「内面からにじみ出る迫力を身に付けりゃいいんだ」と。「だから何もケンカをすることはないんだ。闘わずして勝つっていうのは、そういうことじゃないか」って。なるほどなと思って、それで身体鍛えて空手も習って。したら、いじめっ子も一目置くようになりましたよ、うん。だから中学のときはそんな感じでしたね。影の……、番長ってことはないけど、番長も一目置くような奴っていうね。

――まあ、「怒らしちゃマズい奴」みたいな。

サスケ　そうです、そうそうそう。まあ、怒らしちゃマズい奴っていったら、この間の酒鬼薔薇聖斗もかなりそうですけど、ああいうのとはまた違うんですけどね、ええ（笑）。

――そりゃそうですけどね（笑）。

サスケ　それで高校に上がったらね、あれなんですよ。なんかねえ、暴れるようになったんですよ、ボク自身が（爆笑）。

――なんでですか（笑）！

サスケ　あのねえ、なんちゅうかねえ、正義感が強くなっていったんですよ。で、まあ別に自分の強さに自信持ったからっていうんじゃなくて、正義感が人一倍どんどん強くなっていって、例えば他人がやってる行動見て何かおかしいなと思ったらね、まず説教するんですよ、ボクが。「お前、それは違うだろ！」って。説教して、それから手を出しちゃうんですよ、いつも（笑）。うん。

――なぜだ（笑）。

サスケ　それで5人ぐらい怪我させてねえ（笑）。

――ガハハハハハハ！

サスケ　それで、あんまり派手に暴れるもんだから2回停学になっちゃって、うん。

――まあ、進学校ですからね（笑）。

お説教

サスケ　ウチの高校は2度停学で即退学なんですよ。それで退学寸前までいって校長先生にも呼ばれて、「お前、もう高校来るな！　ウチの高校は進学校なんだから。お前みたいに暴れる奴は学校創立以来初めてだよ！」って、そんなこと言われてね（笑）。

――そんなに暴れてたわけですか（笑）。

サスケ　そこで担任の先生が言うんですよ。「いや。校長先生、ちょっと待って下さい。彼はね、実は将来プロレスラーになるかもしれないんですよ。だから、いま退学にしないで卒業させた方がいいんじゃないですか？　そうすれば学校の名誉にもなるしね、ウチから初めてプロレスラーが生まれたってことで。だから置いといてみたらどうですか？」って。それでなんとか退学免れて。で、ホントにレスラーになっちゃったからねえ（笑）。先生たちも喜んでたみたいだけど。でも暴れましたねえ、高校時代は。

――何が許せなかったんですかねえ。

サスケ　いや、色々あったんですよ。廊下歩いてて、肩と肩がぶつかったとかね（笑）。

――それって因縁付けてただけじゃないですか（笑）。

サスケ　いやいやいや、そんなことないんだけどね（笑）。うん。後はねえ、なんて言うのかなあ。ボクよりも大きい奴が威張ってるのを見るのが嫌なんですよ！

――ああ、佐山イズムですねえ（笑）。

サスケ　そうそうそう（笑）。そこで佐山イズムがくるんだよねえ。まったくそうなんですよ。ボクより大きい奴が威張ってるでしょ？

――それも弱いくせしてデカい奴が（笑）。

サスケ　そうそう、でしょ？　それに女の子にモテてる奴でしょ？　そういう奴見ると無性に腹が立ってねえ（笑）。でも、こっちからは仕掛けないんですよ。絶対に何か理由があって。まあ、その理由が肩と肩がぶつかったとか、そういうようなね（笑）。なんか理由があって「この野郎！」ってなるんですよね。

――そうやって理由もなく難癖付けるわけですね（笑）。

サスケ　そうそうそうそう（笑）。うん。まあね。だからなんちゅうのかな、ボクの存在を否定されると頭くるんですよ。例えば体育の授業やってるじゃないですか、高校で。で、ボクはね、球技が苦手なんですよ。

――ああ、レスラーらしいですね（笑）。

サスケ　ね（笑）？　格闘技やる人って大体そうなんですよ。猪木さんとかと同じで、ボクも野球なんかからっきし駄目でね。

――上手いのは馬場さんぐらいですから（笑）。

サスケ　ね？　それである日の体育の授業でバレーボールやってたんですよ。でボク、下手なんですよ（笑）。失敗するとからかわれるんですよ、名指しでね。「サスケ、また失敗した～！」って、当時はサスケって名前じゃないけど、そういうことにして（笑）。「サスケ、ヘタクソだ～っ！」とか言われちゃってね。それは自分の存在を否定されることじゃないですか。そうするともう頭くるわけですよね。「バカ野郎！　俺はお前、ケンカやらしたら強いんだぞ！」ってね（笑）。それで手が出るわけですよ。手が出たついでにジャーマン・スープレックスまで出しちゃいましてですね、マットも何もない所で（笑）。

――ついでがジャーマンですか（笑）。

サスケ　それで相手は脳震盪起こしちゃってね（笑）。そんなこともありましたねえ……。

――ありましたか。

サスケ　ええ、それで停学になったりして（笑）。

――ジャーマンで停学（笑）。

サスケ　うん（笑）。そういうこともありましたねえ……（しみじみ）。

――じゃあケンカっていうよりも、一方的にやっちゃうことが多いんですかねえ。

サスケ　あの～、そう。手を出しちゃえば一方的なんですよ。手が出るまでは、口喧嘩では互角なんですよ。奴らも口は達者ですからね。なんたって進学校ですから（笑）。だから口喧嘩で「この野郎！」ってなるとね、「もうしょうがねえ、じゃあ最後は力で俺が勝っちゃおうか！」っていう感じでね。まあ、だから困りましたね（笑）。

――なんで困るんですか（笑）。

サスケ　うん。あとは高校時代にやり残したことが一つあって（笑）。あの～、暴走族ってのがいてね、高校時代。まあ、いまでもいるんですけども、ボクが住んでいた盛岡で当時流行っててね。うるさいんですよ、夜中ね。いつか奴らを懲らしめてやろうと思って色々考えてたんですよ。待ち伏せして金属バット持って、走ってるとこブン殴ってやろうかとか思ったりしてね（笑）。でも、それは結局、できなかったですねえ……（しみじみ）。それがやり残したことっていう、ガハハハハハ！

――それが心残りですか（笑）。

サスケ　そう、心残りですねえ（笑）。あとはまあ、最近でもありますよ。やはりボクの自尊心が傷つけられたりとかね、正義に反することをやってる人がいたりするとねえ……。

――それはズバリ言うとWWFってことですかね（笑）。

サスケ　いえいえいえ！　まあ、それもそうなんですけどね、うん（笑）。そういう人がいるとやはり説教して、ついでに一発叩きたくなりますよね。で、今朝もあったんですよ。

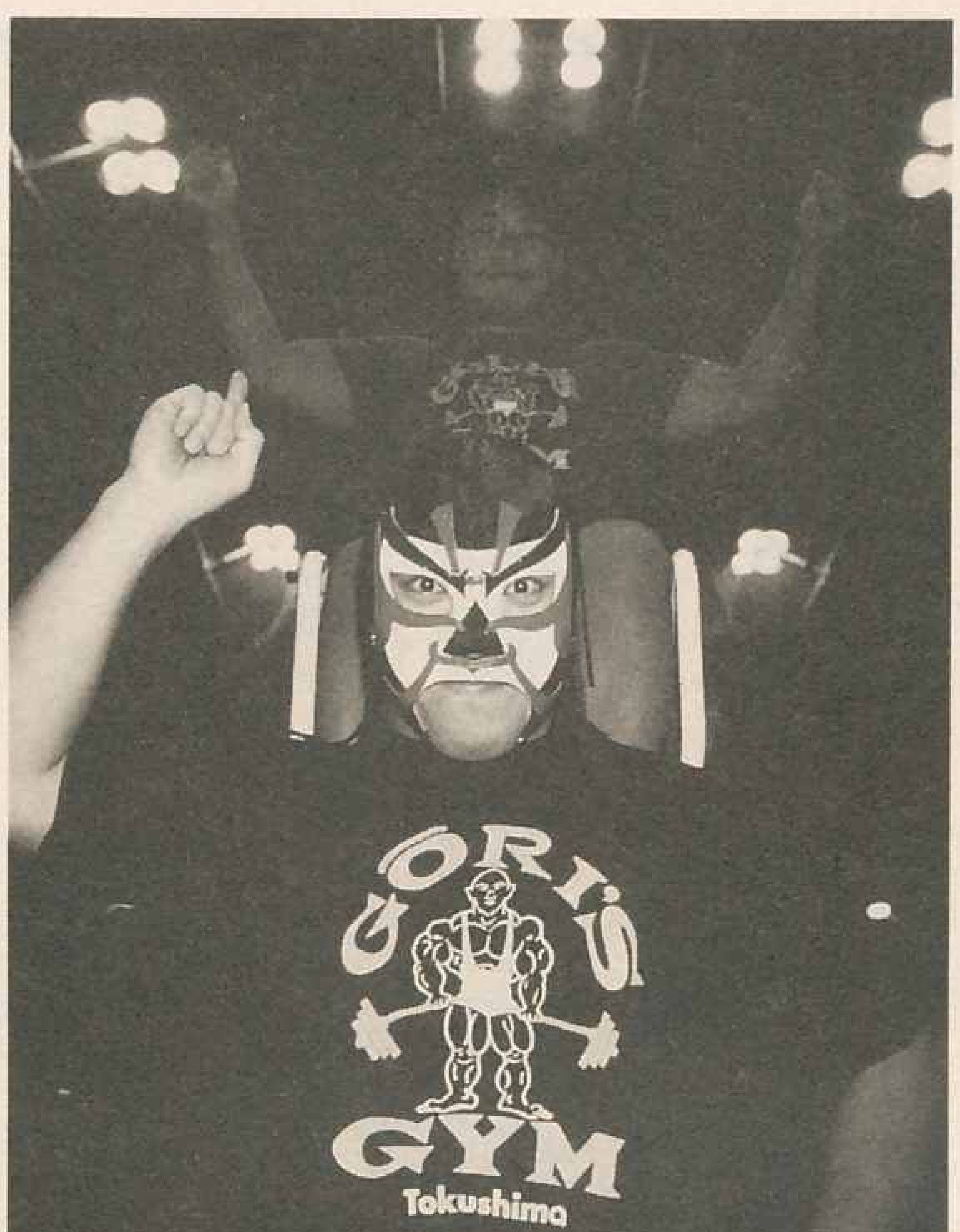
――ありましたか！

サスケ　今朝、東京来る前に盛岡駅で新幹線に乗ろうとしてね、車で駅まで送ってもらって。そしたら横を走ってた車がウインカーも何も出さないで急にグワーッと割り込んできてね。「この野郎！」と思っても、最初は黙ってたんですよ。うん。して、前と後ろで、（ここでケーキが届く）あ～っ、美味しそうなケーキだなあ！　ああ……、美味しそう！

――これですよ、佐山さんが6個食べたケーキって（笑）。

サスケ　あ、ホントにぃ？　ガハハハハハハハ！

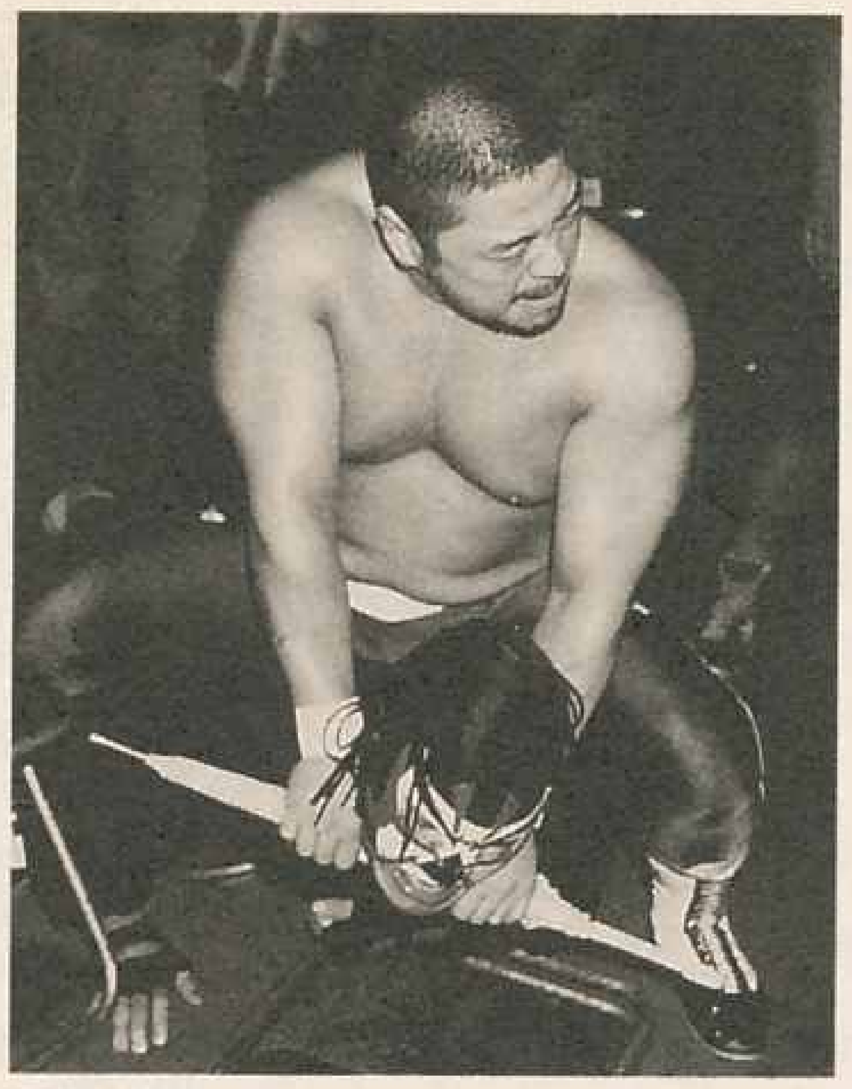
――で、突然前に割り込んできたわけですね。



レスラー兼バカ社長、猪木信者、オンナ好き、頭を打ちすぎてイカれている所などなど……。バトラーツの石川社長とは何かと共通点が多い

サスケ　そう！　で、前にギューッと割り込んで、駅前にロータリーみたいになってる所があるのね。そこの前で割り込まれて、ロータリーにはレーンが3つあるんですよ。奴らは真ん中のレーンに入ったから、ボクらは左側に入ったんですね。そしたら、また！　ウインカー出さないで、まるで全然後ろの車も見ないでギューンと入ってきたんですよ。また邪魔してきたから「この野郎！」と思ったわけですね（笑）。そんで乗ってる奴を見たら19～20歳ぐらいの女性3人組なんですよ。でもね、女性っていっても運転席見たら、くわえ煙草で粋がって、こ～んなになってるから、「この野郎！」と思ってねえ！


撮影／遠藤政文


撮影／遠藤政文

――それって、かわいかったんですか？

サスケ　いや、かわいくはないねえ。っていうか、あまり興味ないからね、日本人女性は（笑）。どうでもいいんですよ（笑）。だからねえ、くわえ煙草でこんなになって、バックミラーも見てねえ奴らがウインカーも出さないでさあ、マナーに反するわけですよ、それは。

――つまり交通道徳にですね（笑）。

サスケ　そう、交通ルールに！　ただ、さすがに女性なんで手は出さないからね、でも行きましたよ！　ドア開けて「この野郎！　お前、どこ見てんだ、コラァ！」って。後ろの席に2人乗ってて、その女の子が降りようとしてたんですよ。そこでドアを押さえて怒鳴って、「もう帰れ！」ってその子を車に押し込んで、ドアをバ～ンと閉めて、車の後ろをボーンと叩いて（笑）。そしたら帰っちゃいましたけどね、ガハハハハハ！　彼女らは新幹線1本遅れたんじゃないですか（笑）？　そんなこともありましたねえ……（しみじみ）。

――曲がったことが許せないんですね。

サスケ　曲がったことが許せない、俺は！　うん、絶対駄目よ。そうだねえ。

――根っからのリンピオなんですかね（笑）。

サスケ　そうなんですよね、うん。だからボクはねえ、警察官になってもいいんですよ（キッパリ）。

――なってもいいって、そんな勝手なことを（笑）。

サスケ　なってもいいってことはないかな（笑）。プロレスラーになってなかったらねえ、警察官になりたいですね、うん。私はもうホントに正義のためならねえ、ケンカしますよ（笑）。まあだからその、なんちゅうのかな。確かに暴れん坊ですけど、ただ暴れるんじゃなくてポリシーを持ってのケンカですからね。

――子供の頃のいちばん大きなケンカっていうと、やっぱりジャーマン停学事件ですか？

サスケ　うん。高校時代ではやっぱりジャーマンがいちばん大事件ですねえ。あとは、何だろう。肩がぶつかって、頭にきて後ろから飛び蹴りして（笑）。そしたらそいつが壁に正面から顔ぶつけちゃって、それで前歯が2本ぐらい折れたってこともあったんですよねえ。

――プロレスタイル自体はあんまり変わってないんですね（笑）。飛び蹴りというかライダーキックとジャーマンで（笑）。

サスケ　ガハハハハハ！　当時から飛んでましたねえ（笑）。だからレスラーになって良かったなあと思いますよ（笑）。

――で、プロレスを始めてユニバーサルの頃とかはどうだったんですか、ケンカ関係は？

サスケ　ああ、ユニバの時代はですねえ、またいじめられっ子に戻っちゃいましたねえ（笑）。だって、いちばん下っ端ですもんねえ。

――それで新間寿恒代表（サスケ曰く、バカ●ネ）にいじめられてましたからねえ。

サスケ　そうそう！　いやいやいやいや、まあねえ、バカ●ネからも殴られましたけどね、それよりもやっぱりいまの邪道・外道！

――ああ、噂は聞いてます（笑）。

サスケ　ええ、彼ら2人にはだいぶしごかれましたよね。でも、嬉しかったですね。またいじめられっ子に逆戻りですけど（笑）。でも、なんちゅうかそのね、これで憧れのプロレス界に入ったんだなっていうことでね、殴られながらも「あっ、この痛みが修行なんだな。これが後々に繋がるんだな」と思ってね。だから殴られても蹴られても嬉しかったですよ。

――で、その修行を後々に繋げて、みちプロでの若手育成にも応用してるわけなんですね（笑）。

サスケ　いやいやいやいや（笑）。実はそうなんですよねえ、うん。

――レスラーになって、外でケンカするようなことはなかったんですか？

サスケ　いや～っ、レスラーになってからはねえ……、ありますよ！　ガハハハハハ！

――ありますか、載せられるような話が（笑）。

サスケ　いや、あのね。まだみちのくが旗揚げして間もない頃。あれは夏のロングツアーの終わりぐらいですかねえ。青森のさびれた居酒屋で、ささやかな打ち上げをやってたんですよ。まだ金もない頃なんでみんな安い料理を突っつき合いながらビール飲んでて。ボクと、練習生が当時1名しかいなくて、あとは外人選手みんなでね。で、その同じ店の中に一般客もいて、ボクらがレスラー

お説教

の集団だって気付いたら、ああだこうだ言うんですよ、聞こえるように。「なんだよお前、プロレスなんかショーじゃねえかよぉ」とか言ってね。

——それはちょっと聞き捨てならないですねえ。

サスケ それで今度、練習生が料理取りに行ったりなんかして客の前を通っちゃうと、捕まってからかわれてるわけですよ。「なんだお前～っ！」って。で、その当時の練習生っていうのが、ちっちゃい奴でね。「なんだお前、俺の腕を見てみろよ、ほれ！」なんつって腕まくりしちゃってね。よく、そんなオヤジいるでしょ。「ほれ見ろ。お前、腕相撲で勝てんのかよ」なんて言ってね（笑）。そこで俺がまたプロレスラーとしての自尊心を傷つけられたわけですよ、ボクとしては。

——それでプロレスを守るためにサスケ社長が立ち上がった、と（笑）。

サスケ そう。これはプロレス界を守るために、このオヤジを説教しなきゃならないな、と（笑）。それで言ったんですよ。「おい、ちょっと待ってくれよ、オッサン」って。それでオッサンにはまだ手は出さないんですよ。その前に練習生にボクは手を出すんですよ。というのは、プロレスの迫力を見せようと思ってね、胸にバンバンとチョップをやるわけですよ（笑）。

——なんか新日っぽいですねえ（笑）。

サスケ ええ。「この野郎！」って、そのオヤジの目の前でね。チョップやって張り手やって10発ぐらい殴ってて、だんだん俺もオヤジのことが頭にきて、11発目ぐらいでオヤジのほっぺたをバーンと平手で叩いたんですよねえ、ウフフフフフ。「ああ、ごめん」とか言ってね（笑）。でも、オヤジはそれで大人しくなりましたけどね。だからやっぱり、ボクの根底にあるのは説教なんですよね。うん。説教から始まる正義感。

——それは前田イズムですね、きっと（笑）。でも、やっぱりサスケ社長もプロレスがナメられるのは許せませんか。

サスケ そうですよね、うん。やっぱり許せないですよね。

——それはまさに猪木イズムでもありますよね。

サスケ ええ。あとはねえ、こんなこともあったなあ。こないだのWWFに初めて出て、カナダで試合やってね。月曜日の定期放送の試合で『RAW IS WAR』っていうんですけど。ボクらは生放送試合終わってすぐ宿に戻って、ホテルの中のレストランで食事してたんですよ。したら、そこのエリアでは『RAW IS WAR』の放送が1時間遅れでやってたんですね。ちょうど食事しながらTV見てたら、ボクの試合がやってるんですよ。で、レストランのウエイトレスいたからね、「ちょっとちょっと！ あれ、俺だよ、俺！」とか、ちょっと自慢してたね（笑）。

——また、平気で正体バラしますね（笑）。

サスケ ええ（笑）。そのときは俺、素顔だったんで信じてもらえなかったんですよ。で、「まあ、いいか。信じてもらえなくても」って。したら、後ろのテーブルに男性客が一人いてね、食べながら見てて、「ヘッ！ あんなプロレスなんてお前、八百長だよ！」とか言ってるんですよ。で、俺もカチーンときてね（笑）。

——当然ですね。

サスケ でもまさかカナダでケンカしてねえ、捕まっちゃったら大変だから、しょうがない。どうしようかなあと思ってね。「おい、あんた。いま何って言った？ 八百長って言ったか？」って。

ボクの根底にあるのは説教なんです

で、頭にきたからビール瓶をボク、頭で割ったんですよ。

——おおおお～っ！

サスケ うん。で、「これでも八百長かい？」って、なんか訳わかんないこと言ってね（笑）。そしたらもう、奴はビビっちゃいましたけどね。うん。だから、そういう奴らがいると駄目なんですよ。もうね、頭にくるんです。

——キッチリ守りますねえ、プロレスを。

サスケ ボクはやっぱりねえ、守りますよ！ うん。許せないですよね、そういう奴はね。

——みちプロの初期の頃って、サスケ社長自ら飲み屋とかでチケット売ってたから、酔っ払いに絡まれたりするんだろうなあとはボクも思ってたんですけどね。

サスケ いや、ああいうときは大丈夫なんですよ。逆にマスク被ってるんで、もう絶対プロレスラーだってわかりますからね。ただねえ、どういうのがあったかなあ、あとは。

——やっぱり最近だと金本（浩二・新日本プロレス）さんですか（笑）？

サスケ ダハハハハハ！ 覚えてますねえ、よく（笑）。

——あのコメントは無茶苦茶良かったですからねえ、「何年選手だと思ってんだ、コラァ！ 蹴り殺すぞぉ！」っていう（笑）。

サスケ あれ良かったぁ、ウフフフフ（うれしそうに）。

——ウチの会社でビデオ上映会しましたよ（笑）。

サスケ あれはねえ、俺の本性が出ちゃったんだよねえ（笑）。あれで俺の人気下がっちゃったんだけどねえ（笑）。うん。

——一部ではバカ受けだったんですけど（笑）。

サスケ そうそうそう、バカ受けですよねえ、一部では。

——また一部では「もっと紳士だと思ったのに」とか言われてましたけど（笑）。

サスケ そうそうそう。でもね、あれが

ボクのホントの姿なんだよ、ガハハハハハハ！

——あれが本当の姿ですか（笑）。

サスケ　ええ（笑）。試合中にねえ、やっぱりあったんですよ、色々と。

——けっこう、ぎこちない試合でしたもんね。

サスケ　ね！　だからつまりねえ、そのときはプロレスラーとしての自尊心というよりも、みちのくプロレスとしてのプライドが傷つけられることがあったんですよ。で、頭きてねえ、試合後エキサイトしちゃってねえ。でもまあ、いいじゃないですか（笑）。ねえ、もうそれは忘れましょうよ（笑）。

——忘れていいんですか（笑）？

サスケ　だってねえ、それが元で新日本さんから電話一本かかってこなくなりましたから、ガハハハハハハ！

——ガハハハハハ！　って、それ笑ってる場合ですか（笑）。

サスケ　それで、いま全日本さんと付き合ってんですから（笑）。

——サスケ社長はちゃんとフォローしてるんですけどねえ。「大谷はいい奴だ」とか。

サスケ　そうそう！　あっ、よく知ってるなあ。そんなのなんで知ってんのぉ（笑）？

——いや～、まかせて下さい（笑）。

サスケ　そう、いや大谷はいい奴だよ。もうねえ。彼はホントにレスラーの鑑ですよね。大谷はいいよ、ホント。

——で、また金本さんは頑固なんですよね（笑）。

サスケ　ね？　あれはバカだね（笑）。

——ガハハハハハハ！

サスケ　まあ、いいや。大谷はいい奴だ（笑）。

——要するに1位が金本、2位半蔵って感じですか（笑）？

サスケ　そう！　うまいこと言うねえ（笑）。でも最近、頭にきてんのはTAKAみちのくなんだよ！　TAKAみちのくの野郎！　だってねえ、WWFと契約しようとしてんだよ、あれ。俺が最初に声かけられたんじゃない、WWFから。俺がギャラで揉めてる間に、本人は安いギャラでもいいから契約しようとしてんだよ。あの野郎、ホントに頭くるよねえ（笑）。ああいう奴は。

——まあ、その辺りの話は今度、次回のお金の話のときにでもゆっくり聞くとして（笑）。

サスケ　ああ、そうね、ゆっくりね（笑）。ケンカはやっぱりね、まあ色々あるけど結論はアレですよ。ボクらはやっぱりリングの上でケンカすべき人種だからね。基本的にはリングの上でケンカしますよ、これからも。

——リング上でいちばんケンカ的になったのは、やっぱり半蔵さんとの試合ですか？

サスケ　半蔵だね、やっぱりね。うん。あれはね、もう本当に頭きたね。

——その次が金本さんとのタッグマッチですかね。

リング上で？　あった。名前は出せないけどね。

サスケ　ガハハハハハ！　そうだね、ウフフフフ。まあ、色々あるんだよねえ。あとね、外人レスラーでちょっと名前は出せないんですけど、メキシコ人で1人ちょっとナメた奴がいてね。で、みちのくプロレスって客が少ないから、そいつが手抜き試合するんですよ。チンタラチンタラね。で、頭きてね。「じゃあ今日、俺の試合はあいつと組め！　その代わり、第一試合でいいから！」ってね。第一試合でその外人とシングルやって、30秒ぐらいでやっつけちゃった（笑）。

——制裁マッチですね（笑）。

サスケ　そう、制裁マッチしちゃって（笑）。その辺は俺、猪木イズムかなあなんて自分で自己満足しちゃったりして（笑）。

——まるで猪木さんのグレート・アントニオ戦のような（笑）。それってカッコいいですねえ。

サスケ　カッコいいでしょ（笑）？　そういうこともありましたねえ……（しみじみ）。

——海外とかでは、そういうこともなかったんですか？

サスケ　あっ（手を叩く）！　あるある、いっぱい海外で！　メキシコ修行時代にいっぱいあるわ。そうそうそう。あのねえ、まずね、練習中に熱くなってね（笑）。

お説教

——ちょっと早すぎますね（笑）。

サスケ　プロレスリング・スクールがあるんですよ、メキシコに。で、レスラーの卵とか、ちょうどボクみたいにプロなんだけどまだ若手のレスラーが集まって、かなり上級クラスの技の訓練をするんですよ。高度な受け身ですとか、高度なスパーリングとか。そういうクラスがあって、「よし。今日は特別にアマレス・ルールでやろう」とか言われてね。

——それは生意気な外人を潰してやる絶好のチャンスですね。

サスケ　いやいや。ボク、アマレスの経験はないんで、やっぱ弱いんですよ、どうしても。すぐフォール取られちゃって。ワンカウントですぐ終わりじゃないですか、アマレスは。で、そこで周りみんなメキシコ人ですから、「なんだ、日本人なんて大したことないじゃねえか！」とか言われるわけですよ。したら、やっぱり日本代表としてはね（笑）。日本人としての自尊心が傷つけられるわけですよね。

——ああ、そこでユセフ・トルコばりに「俺は日本人だ！」と（笑）。

サスケ　そこで頭くるわけですよ。で、「この野郎！　じゃあ、もう1ラウンド

やらしてくれ！」ってね。で、アマレス・ルールなんだけどもね、ボクはそのルールを破って（笑）。あえて関節技ね、日本仕込みの、日本流の関節技やろうじゃねえかと思ってね。

――いいんですか、それって？

サスケ　本当はルール違反なんだけど（笑）。それで無理矢理首掴んで、フロント・フェイスロックでギューッと締め上げてね。もう、それも30秒ぐらいで相手がタップしてね。「この野郎！　これが日本の関節技だァ〜っ！」って、一人で「ダァ〜ッ！」やっちゃってね（笑）。



キラーサスケが最近最もヒートした元・3代目タイガーマスク

――しつこいぐらいに猪木イズムですね（笑）。

サスケ　うん。それでメキシコ人連中をビビらせましたねえ……（しみじみ）。で、その翌週、また同じクラスの練習があって、回転受け身っていうのをやってたんですよ。コーナー2段目から飛んで回転しながらひねって前回り受け身やるっていう、ちょっと高度なやつ。そこでボク一人受け身に失敗して、肩脱臼しちゃいましたけどもね（笑）。そういうバチも当たるのかなと思ってね、うん。

――因果応報ってやつですね。

サスケ　あと、メキシコといえばあれですよ。ボクが住んでた下宿先っていうのがスラム街にあるんですよ。もう、危ない所でね。ただ、ボクは初めて行ったんで、それがメキシコだと思ってるわけですよ。で、ある日、ウルティモ・ドラゴンさんを下宿先に「遊びにおいでよ」って呼んでみたらビックリしてましたね。「こんな怖い所がメヒコにあるのか⁉」って（笑）。あの人、だって10年ぐらい住んでるんですよ（笑）。

――その浅井さんが衝撃を受けた、と。

サスケ　ええ。それで初めてどんなにすごい所なのかって気付いたんですけど、そのぐらいすごいスラム街で。で、隣の家にデヴィッドっていう少年がいたんですね。当時、18〜19歳ぐらいで、高校も卒業して定職に就かずにフラフラしてるような遊び人でね。でもまあ、気が合うんで普段はけっこう仲良く遊んでたんですけど、酔っ払うと駄目なんですよ、彼は。で、彼がある日酔っ払って、俺にケンカ売ってきたわけです。「なんだ、お前！　プロレスなんて八百長じゃねえか！」って。

――また始まりましたね（笑）。

サスケ　始まったんですよ。「俺の腕を見てみろ！」とか。日本人もメキシコ人も、酔っ払いは一緒だななんて思ってね（笑）。で、奴が「お前、俺と勝負しろ！」とか言ってきたんですよ。「よ〜し、わかった。受けて立つ！　よし、表に出ろ！」って。そのとき一緒にいたのがスペル・デルフィンとエル・サムライで（笑）。2人に「やめろやめろ！」「サスケ！　お前、大人げないことすんなよ。そんなの相手にすんなよ」とか言われながらも、ボクはもう自尊心を傷つけられたわけなんで（笑）。

――また自尊心ですか（笑）。

サスケ　「もういいから出ろ！　デルフィンとサムライさんは、ちょっと見ないでくれ！　家の中で待っててくれ！」って2人を家の中に押し込んで、俺とデヴィッドだけで表に出て、文字通りのストリート・ファイトですよ（笑）。

――それもメキシコの（笑）。

サスケ　うん。で、お互い向かい合ってね、奴がキックとかパンチとかしてくるわけですよ。それ全部、俺はパッパッパッと避けてね（笑）。胸ぐら掴んで壁に押しつけたんですよ。で、まずそれで奴が壁にバーンって後頭部打ちつけちゃって、もうそれでほとんどノックアウトなんだけども。そこでまだ頭にきてるから、さらに首取って、また得意のフロント・フェイスロックにいったわけですよ（笑）。

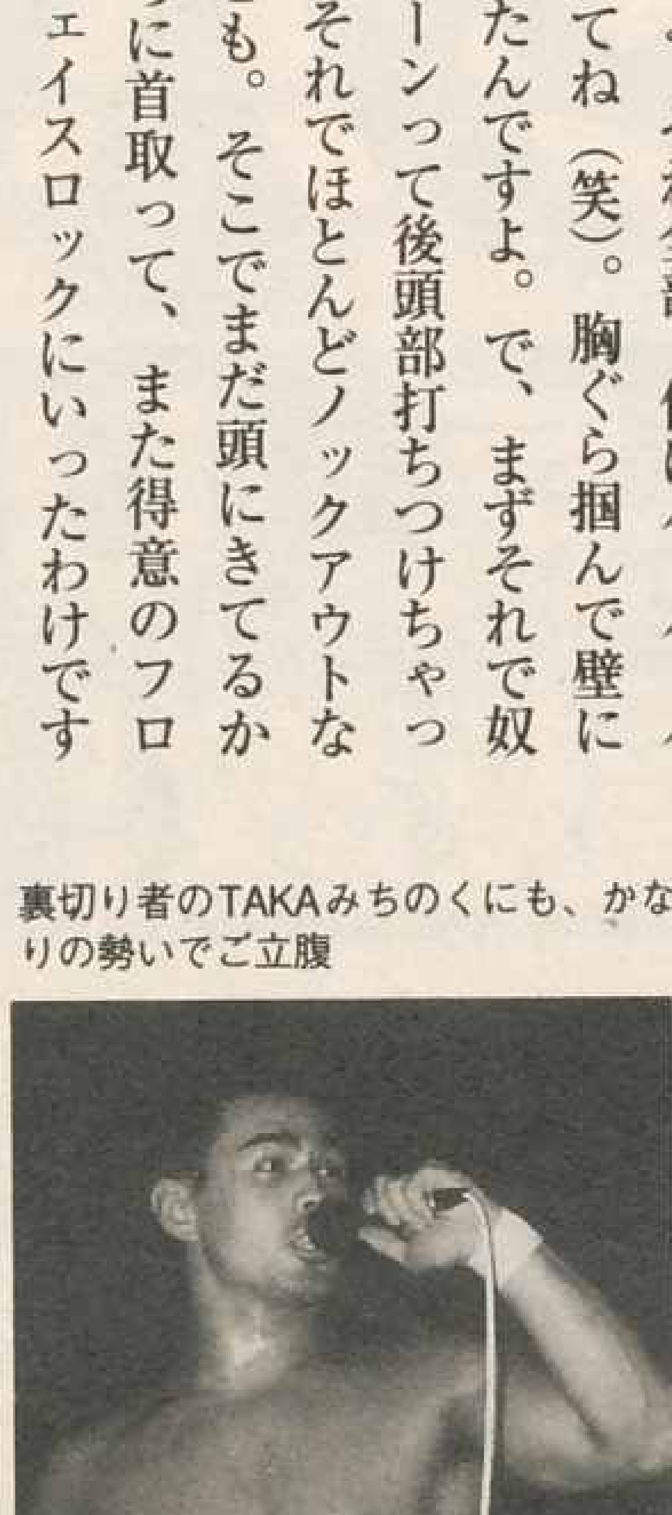
――制裁用の得意技ですね（笑）。

サスケ　そこで奴がタップしましたね。ストリート・ファイトでもタップするんだっていう（笑）。「もうわかった！　止めてくれ！」ってね。それで彼は逃げましたね。バーッと一目散に逃げて。で、俺もまだ怒りが収まらないから100メートルぐらい追っかけてったんですよ（笑）。もう夜中の12時ぐらいですよ。で、彼が「助けてくれ〜！　殺される〜！」って叫ぶんですよ（笑）。

――それもスラム街で（笑）。

サスケ　で、12時なんで明かりみんな消えてるのに、「助けてくれ〜！」って言ったら明かりがパッパッパッパッとみんな点いちゃって、「やべえやべえ」と思ってそこでボクも冷静になってね。「デヴィッド、もういい。何もしないから。帰ろう帰ろう」って。その後、デヴィッドが泣きながら謝ってね、「酔った勢いとはいえプロレスのことをバカにした俺が悪かった。ごめんごめん」って。「わかったわかった。もう泣くのはよせよ」って言ったらね、彼は何を思ったか台所に行って包丁取り出したんですよ。「俺はもうケンカに負けたから、俺はオカマだ！」って（笑）。「自殺する！」って、包丁を腹に当てて叩いてるんですよ（笑）。それをエル・サムライとデルフィンが必死に止めてましたね（笑）。うん。

裏切り者のTAKAみちのくにも、かなりの勢いでご立腹



――物騒な話ですねえ（笑）。リング上では、その手の物騒な話はなかったんですか？

サスケ　リング上では、そうですねえ……。うん、ありましたね（笑）。そうですね、あったなあ。色々あった。あの〜、まあ名前は出せないんですけどね。

――またですか（笑）。

サスケ　名前は出せないんですけど、日本人のレスラーで●野ってのがいますよね。

――いますね。またの名を●ィン●ー

ですか。
サスケ　うん。●野がね、あいつ昔はユニバーサルの練習生だったんですよ。でね、あいつユニバーサルを逃げてるんですよ、1回。逃げてどうしてんのかなあと思ってたら突然メキシコに来やがってね。それもちょうどボクもメヒコにいた頃でね。メヒコに来るのは、まあいいですよ。したらね、ある日、試合会場に行ってプログラムで対戦カードを見たら、ボクと●野が当たることになってるんですよ。「ちょっと待て！」と。だってユニバーサル逃げたっきり消息不明だった人間がね、突然メヒコに来て俺と当たるっていうのはどういうことか、と。まあ、そこで俺の自尊心が傷つけられたわけですよ（笑）。



――またですか（笑）。

サスケ　「俺は苦労してユニバーサルでいじめられながらメヒコに辿り着いて、毎日毎日自分の力で試合やってるのに、こいつは何だ！　これは許せない！」と思ってね。リング上で鉄拳制裁しましたね（笑）。

――メキシコでも制裁マッチしましたか（笑）。

サスケ　しましたねえ（笑）。うん、そういうことありましたねえ……（しみじみ）。いや、でもあれですよ。その翌日ね、ボクはある地方の試合でね、メキシコのレスラーでプリンシパル・マヤっていうカネックの弟がいるんですよ。彼とシングルマッチやってね、ロープを使って首絞められたんですよ。それが頸動脈にかかっちゃいまして、それで落ちちゃいましたね（笑）。だからその、ボクはカルマの法則って呼んでるんですけどね（笑）。

――ガハハハハハ！　必ずバチは当たる、と。

サスケ　必ずバチは当たるね、人間ね（笑）。人間やっぱり悪いことすれば必ず見返りはくるなっていうのはね、ボクはわかってるんですよ。わかっているけど、わかっちゃいるけどね、でも説教はやめられないんですよ（笑）。

――さながら血を吐きながら続ける、悲しきスーダラ節ですね（笑）。

サスケ　そうそうそう（笑）。やっぱり説教ですよ、ケンカの根本は。ボクは理不尽な暴力は振るわないんですよ。それは自信を持って言えますね。

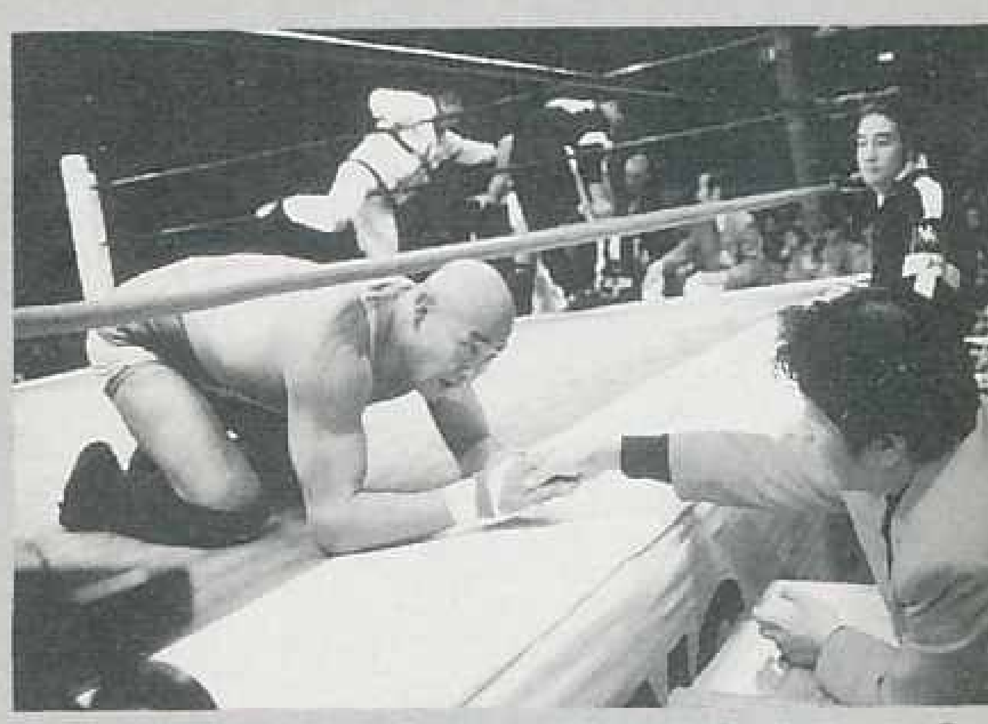
――じゃあバチが当たるのはわかっていても、今後も説教は続ける、と（笑）。

サスケ　でもどんな理由があれ、ケンカしちゃったら絶対バチは当たりますね。それはわかりました。わかっちゃいるけど止められない（笑）。そこに理不尽がある限りはね（笑）。

【97年8月29日、マガジンマガジン喫茶室にて収録】

RADICAL BOUT REVIEW





BATTLE GENESIS Vol.2

10/14（後楽園ホール）
RINGS

本日のベストバウト

1位
田村潔司vsエルビス・シノシック

1位
アレクサンダー大塚vsクリストファー・ヘイズマン

2位
坂田亘vsドミニク・デリィニィ

1

かつて行われていた『実験リーグ』を、よりステップ・アップさせた『BATTLE GENESIS』の第2回大会である。成瀬のメイン登場、田村の何かにイラついた闘いぶり——といったリング上の見どころ以外にも、様々な問題の渦中にいる前田のコメント、坂田のパンクラス問題に関するリング上からの爆弾提言が話題を振りまいた大会だった。そんな中、極私的に注目していたのがバトラーツの田中稔とアレクサンダー大塚の参戦だ。

田中稔は「トーナメント・オブ・J」2連覇を果たした菊田早苗との対決。他流試合的要素も含む一戦だが、田中は自分のイメージを守ることに固執したような闘いぶりで、圧倒的に翻弄されてしまった。これでは田中稔ではなく、田中まもるである。

このような実験的な試合では、例え自分がグチャグチャになったとしても、その中から新たなイメージを突き刺すような闘いを望みたい。ひと言でいえば、田中はカッコつけすぎた。

一方、アレクは4月に敗れたC・ヘイズマンとの雪辱戦。両者共に途中で電池がプチッと切れるほどのスタミナ戦となったが、アレクが最終的にハート勝ち。パワーを溜めに溜めた上で放った掌底（というより張り手？）には胸につかえてるものがとれた！と錯覚するくらいにスカッとした。技術的にはまだまだ荒削りだが、この粘り強さは特筆ものである。

アレクは、その試合終了数分後、右目尻から血を吹き出し、右肘を氷で冷やしつつも、11・5後楽園（バトラーツ）のチケットをロビーで売っていた。そういえば、アレクはグッズ管理部長なのだ。

こういったリング外の雑用さえも栄養分にするハートの強さこそ、将来の大一番では必ず活きてくるはずである。**（山口日が昇）**

2



PRIDE-1

10/11（東京ドーム）

KRS

本日のベストバウト

1位　黒澤浩樹vs　イゴール・メインダート

2位　なし　　3位　なし

『PRIDE1』に黒澤浩樹が参戦すると聞いて、僕は初めて、この興行にゾクゾク感を覚えた。元々が空手好きだから高田VSヒクソンでは感情移入できなかったが、極真の黒澤登場で俄然興奮してきた。しかもオープン・フィンガー・グローブを着用するという。顔面パンチありなのか⁉ 期待感は膨らむばかり。だが、肝心のルールがなかなか発表されない。記者会見の通知には、ルールを発表すると記されていながら発表はなし。「一週間後には、必ず各社にFAXする」と言いながらなかったりと、イライラは募るばかり。ただ、相手はイゴール・メインダートというカマクラジムの選手。元アマレスのチャンプで、サンボもやっているらしいから組み技主体の選手。それを相手に極真ルールでやるわけがない。寝技あり、顔面パンチありで、ロープエスケープがあるかどうかが気がかりと言ったところだった。当日を迎えるまでは。

当日、パンフレットには黒澤浩樹対イゴール・メインダート（スタンディングルール）と記されていた。ホントかよ。アマレス対空手のスタンディングルールっていうのはひどい。黒澤は勝ってあたり前、メインダートはボコボコにやられるだけのかませ犬。可愛そうな黒澤、可愛そうなメインダート。この時はまだ顔面パンチありだと思っていたんだが、結局ルールは顔面パンチなし、寝技・投げ5秒以内という中途半端なルールだった。一体何ができるんだ。これじゃあ、最初からいい試合なんかできるわけがない。試合では、黒澤は投げをくらって足を負傷し、ドクターストップという結果となった。ルール面での主催者の責任は大。代表者は誰だと言いたいが、代表幹事は黒澤。この怒りをどこにぶつければいいんだ、正美！

（カタブツ34歳）

3



'97格闘技の祭典SPECIAL

10/12（両国国技館）

梶原一騎没後10年追悼記念試合

本日のベストバウト

1位　UWF最強王座決定戦　藤原喜明vs　スーパータイガー

2位　タイガーマスクフェスティバル　二代目＆三代目タイガーマスクvs　初代＆四代目タイガーマスク

3位　天龍源一郎＆嵐vs　北尾光覇＆望月成晃

こんなに面白すぎる興行だというのに、プロレス誌の扱いは燦々たるものであった。四大タイガー対決にしても全日が参戦したことの意義だけしか取り沙汰されなかったが、真のテーマはレフェリーのサスケと金本の遺恨なのである。ボディチェックを拒否してサスケを背後から蹴り飛ばす金本。金本がフォールにいけばゆっくりカウントし、フォールされれば一瞬でカウントするサスケ。初代の飛びつき逆十字に「はい、シュート！　はい、ギブアップ！」と勝手にシュートサインを出して突然試合を終わらせるのも文句なし。試合後の「ヒクソンとやれ！」というヤジに、「は～い、分かりましたぁ」とこれまた呑気に返事した佐山も最高だ（健介調）！

さらに前日の高田の試合を完全否定するようなメインの「UWF最強王者決定戦」でも、エキサイトしまくりの無効試合に立会人の猪木が乱入して「やれ～！」と、ウィリー戦での梶原一騎を思わせ一言を放ち、最後には「ダァ～ッ！」で完全に会場を一体化させてしまったのである。「バーリ・トゥードの毒にあおられ、UWFが完全に過去のものになったことを痛感させた」などと『ファイト』が不可解な感想文を書こうとも、世界格闘技連盟は最高なのだ。

そして前日にプロ初戦の相手を倒し、全身を喜びに震わせて号泣した北尾も、また最高である。PRIDE．1の宣伝のため『ストリート文化祭』で高校生相手に腕相撲で対決すれば、「見事、三連勝を遂げた」などと大人げなくパンフに書かれた彼氏。この日は相方が天龍にフォールされる瞬間カットに出ると、なぜかそれを阻止すべく飛び出してきた嵐に向かって行き、あっさり試合が終わってしまった。そこでマイクを取った超ファイター・北尾は「一方ばっかり攻めるな！」と激怒。最高だ！

（豪）

4



サスケからダイオキシン

10/10（両国国技館）

みちのくプロレス

本日のベストバウト

1位　みちプロ正規軍vs　海援隊★DX

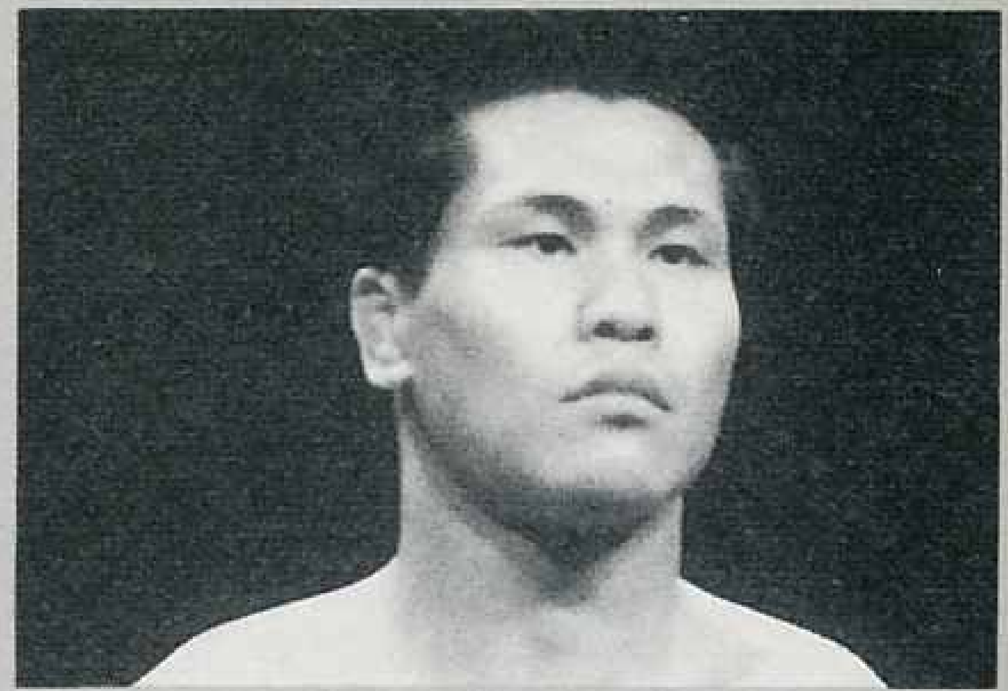
2位　ザ・グレート・サスケvs　TAKAみちのく

3位　白死vs　ジ・アンダーテイガー

両国大会直前になって浮上したTAKAみちのくWWF移籍問題＆みちのくプロレス経営危機問題。改めて考えてみると、って言うか改めて考えなくてもそうなんですが、ホントに社運が懸かった大事な試合だったわけです、コレは。しかーし！　両国が終われば全て片がつくと思ってたら現状は何も変わらず（集客は昨年より千人減少。ますます悪化を辿る経営危機問題。TAKAは今号の『アメリカ出発当日インタビュー』を読んで下さい）、と言うか、以前よりヤバイ状態にあると思うんですが、どうなんでしょ、サスケ社長！　ん～ますますみちプロから目が離せなくなった今日この頃。ま、それはさておき、両国大会です。今号でTAKAみちのくインタビューをやってる手前何なんですが、実を言うとこの日一番面白かった試合は、ズバリ言って〝海援隊★DXの6人タッグ〟だったんス。「デルフィン復活！」しかも「正規軍快勝！」の試合だったのに、なぜ〝海援隊★DXの6人タッグ〟と表記するかと言うと、この試合の主役は、復活デルフィン様でも、頑張ってる正規軍の若いモン2人でもなく、やっぱり海援隊だったからです。確かに、甦ったデルの肉体は見事にムキムキで、動きにもキレがあり、秘密特訓の成果が垣間みれるスーパー・デルフィンではあったのだけど、やはりタッグをやるには、あまりにもブランクが長すぎたような気が……。復活したデル様ばかり注目されてたけど、敢えて私は言いたい！　デル様の復活祭は海援隊の頑張り（特にこの夏の）なくしては有り得なかった！

6人タッグは海援隊の専売特許だしね。でも、デル様の復活は嬉しいゾ！　いや、これホント！（芳賀元太風）

（のものも）



FIGHTING EXTENSION1997

9/26（札幌・中島体育センター）

RINGS

本日のベストバウト

1位
田村潔司vs
ヴォルク・ハン

2位
高阪剛vs
フランク・シャムロック

3位
ピート・ウィリアムスvs
ヨープ・カステル

5

暫定ではあるが「キング・オブ・パンクラシスト」の座に付いたことのあるフランク・シャムロックと高阪剛の熱闘を、札幌のファンは堪能していた。そんなファンをダメ押しとばかりに爆発させたのが、田村潔司である。

田村というのは、まったく恐ろしい男だ。

そういえば、昨今のプロレスラーや格闘家は、「最強なんてありえない」「世界で一番強くなるなんて不可能」「勝つか負けるかはわからない」といった言葉をアッサリと言えてしまう人が多い。

これはUWF以降、ハッタリ・ギミック・コワモテ――それまで通用していた〝プロレスラーとしての衣〟を1枚1枚剥ぎとり、〝技術という衣〟を1枚1枚纏っていったレスラーが多くなった結果でもある。田村もその一人だ。Uインター時代、田村は「新日本とやるくらいだったら、タックルの練習をしていた方が身になる」と言った男なのだ。

だが、並のレスラーは、大抵、〝技術という衣〟を纏うごとに、「プロとしての光」を失っていった。

『最強』を掲げた高田延彦も、ヒクソンとリング上で対峙した時には、〝プロレスラーとしての衣〟を脱がざるをえなかった。だが、あの高田でさえ、その途端にオーラが弱まってしまった。

不思議なことに、田村は〝技術という衣〟をいくら纏っても、「プロとしての光」が弱まらない希有な存在なのだ。

ハッタリ・ギミック・コワモテ――すべてを持ち合わせていない田村が、なぜここまでのオーラを発せられるのか。この男の「プロ観」は、これからのプロ格闘技にとって宝になるはずである。

（山口日が昇）



ドームツアー追撃戦inバトラーツ

9/24（東京・八王子マルチパーパスプラザドーム）

格闘探偵団バトラーツ

本日のベストバウト

1位
池田大輔vs
アレクサンダー大塚

2位
石川雄規＆タイガーマスクvs
臼田勝美＆小野武志

6

そういえば、みちプロ＆バトラーツで「東京ドームで合同興行をやるベ！」という話になった時、「ドームと名の付く会場を、みちのくは上（東北）から攻め、バトラーツは下（中部地方辺り？）から攻めて最後は東京ドームで落ちあおう！」って言ってなかったか、確か？

でもフタをあけてみたら、みちプロは『ドームツアー』というシリーズタイトルの割にはドームと名の付く会場は4カ所のみで、バトラーツに至ってはココだけっちゅーオチ。しかも「マルチパーパスプラザドーム」とかって、勝手に〝ドーム〟って付けちゃってるあたり（正式名称には〝ドーム〟はつきませ〜ん）、この2団体のやることは、やっぱり一筋縄では行かないわけです、はい（どっちも遊んでる場合じゃないのに）。

さて、みちプロの『東北ドームツアー・最終戦』の翌日に行われたこの興行は、言ってみれば、昨年末に行われた『ターザン山本追悼興行』以来の関東でのみちプロ＆バトの合同興行なわけです。バト勢と4代目タイガーが絡むタッグなど、関東のバトマニアにとっちゃ見所多しのプチビッグマッチだったわけですが、この日一番の試合を見せたのが、今、バトでいっちゃん熱い2人、池田大輔＆アレクサンダー大塚。ヤンジェネの決勝進出戦で見せた、あの感動が再び！　といった感じでホントにすげえ試合を見せてくれました。投げられても立ち上がる大輔！　蹴られても立ち上がるアレク！　2人ともみちプロの連戦帰りだっちゅーによくぞここまで……。結果は「両者ダブルKO」という、歯切れの悪いものだったけど、11／5の後楽園で再戦が決定したんで、ま、いっか。バトラーツ最強決定戦とも言える、このシングル戦。（バト）最強の称号はどちらの手に⁉　乞うご期待！（のものも）



新生全女・創立29年目の旗揚げ戦

9/23（後楽園ホール）

全日本女子プロレス

本日のベストバウト

1位
豊田真奈美vs
藤井巳幸

2位
中西＆高橋vs
豊田＆脇澤

3位
全選手参加
バトルロイヤル

7

ギャラの遅配や派閥争いのゴタゴタで11人しかいなくなってしまった全女。2日前の川崎大会を最後に、選手の去就もひと段落。『29年目の旗揚げ戦』と題して行われたこの日の興行。何かが起こるだろうという観客の期待もバリバリだったのだが、それが逆に選手には重荷になったのは明らか。興行的にははじけることなく終わってしまったが、見どころはあった。若手育成マッチで豊田は激しすぎるほどに攻めまくり、エルボーで若手の藤井巳幸の額をざっくりとえぐってしまったのだ。さらにセミに出場した脇澤は試合前からハンパじゃなくオドオドしており、試合後には号泣してしまいメイン後も姿を現さなかった。ハプニングが続いて、正直言ってお先真っ暗感が漂ったことは確かである。

ただ、そんな中にもまだまだ全女は終わらねえだろうと感じたことをひとつ。この日、打ち抜きの新弟子採用オーディションが行われ、1人が見事採用となったことである。松永会長のいい意味での強欲さが端的に現れているいい話ではないか！　しかも、これからも随時、全国各地の試合会場でオーディションを行うそうだ。規模は小さくなるのだろうが、まだまだ全女は終わらないと思った。

今回、全女のスキャンダルを取材してみて思ったことだが、「松永会長はとてつもなく非常識」ということだ。この状況で「今の夢？　クルーザーを買って、サメを釣りたい！」と言ってのける尋常じゃなく素敵な、いい意味での非常識さを指してのことである。その下で、常識を持ち合わせる部下の方々の苦労も偲ばれるが、「会長がいる限りは全女も安泰！」と思わずにはいられないのである。

（坂井ノブ）



東北ドームツアー

9/22（福島・保原町民体育館）

みちのくプロレス

本日のベストバウト

1位 ザ・グレート・サスケ＆グラン浜田＆アレクサンダー大塚vsディック東郷＆MEN'Sテイオー＆船木勝一

2位 石川雄規＆タイガーマスクvs池田大輔＆岡本衛

※翌日9.23会津のバトラーツ同士のタッグはバト史上最悪。バト同士であれをやったら終わりである。

8

アントニオ猪木の名言と謎かけの面白さは、すでに長嶋サンをも超えている。ただ「情念」や「怒り」といった世間には届きにくい部分が盛り込まれている点と、職業柄、長嶋サンほどの愛嬌がないと思われている点で、〝キング・オブ・語録スト〟の座をMr.ジャイアンツに譲っているだけである。

なんせ、「プロレスは闘いである」という大切な真理でさえ、いまだにレスラーや関係者の中にも理解していない者が数多くいるわけで、「プロレスを通じて終生大衆に尽くす」ときた日にゃあ、「なんじゃ、そりゃ」のひと言で切り捨てられる運命なのかもしれない。

しかしこの言葉は、他のプロ格闘技とは違う役割をプロレスが担っているという、とても重要な示唆に富んでいるのだ。

大衆に尽くしながらも、「闘い」でなければならない。プロレスとは、かくも逆説的で、重層的で、因果で、やっかいで、激しくて、それでいてインテリジェンス溢れるジャンルである。ものの見方が不自由な人の心には永久的に届かない代物であろう（な、ブチ?）。

さて、レスラーや団体もマニア向けのプロレスを推進するいま、「東北に大衆娯楽としてプロレスを根付かせる」というテーマを掲げたみちプロは、いま、その東北でどんな試合をやっているのか。

3ケタの少ない観客。初めて見に来たおじいちゃん。そんな中での熱闘。リングの設営、片付けをいまだに率先して行うサスケ社長の逞しさ――この日をつぶさに見た感想は、「うん、心配ない！」（byグラン浜田）

マニアのような〝ごくつぶし〟がワンサカいる中で観戦するよりも、試合前、会場に向かい一心不乱に走るチビッ子たちに囲まれて見た方が、やっぱり、みちプロは楽しい。

（山口日が昇）



BIRTH TOUR

9/20（大分・別府ビーコンプラザ）

PROFESSIONAL WRESTLING KINGDOM

本日のベストバウト

1位 桜庭和志vs山本健一

2位 桜庭和志vs金原弘光

3位 安生洋二vs高山善廣　垣原賢人vs折原昌夫

9

「一番前なんかで見てたら、逃げないかんね」「これは逃げるような試合やないよ。ボクシングみたいなやつや」「あー、それなら安心や」――。大分の人のしゃべり方に忠実ではないと思うが、試合前に、こんなようなことをおっちゃんとおばちゃんが話していた。

要するに、プロレスといえば場外乱闘。このおじさん、おばさんはボボ・ブラジル全盛時代の頃の記憶でしかプロレスを捉えていないのである。

試合前、日本屈指の温泉町を徘徊すると、地方都市特有の立派な建物が目に付いた。パチンコ屋にしても役所関係にしても、むやみやたらにデカくて立派なのだ。この日の会場もとにかく無駄に立派だった。8千人収容可能の別府ビーコンプラザの〝ビーコン〟とは、〝別府コンベンション・センター〟の略称らしい。やっぱり田舎者は考えることが違う。

そんな立派な会場に、プロレス初体験のおっちゃん、おばちゃん、ちびっ子たちといった客層。おまけにキングダム・ルールでの闘い。こうなったら、そのギャップを楽しまない手はない。

しかし、そのギャップも、東京の会場のようにスレたファンがいない分、意外に早く埋まってしまった。そのギャップを埋めたのは、まずはカッキー。パンチ攻撃に不慣れな折原昌夫との再戦では、早くて重い左右の拳をヒットさせ、キングダムの闘いの怖さを観客に強烈に突きつけたのだ（〝顔面〟は一考の余地ありだと思うが）。

好勝負続出の後のメイン。ワンナイト・トーナメント決勝は、リングに上がるまで温泉に入っていた桜庭が制した（温泉はウソです）。

確実に、キングダムにもUインター時代とは違う風が吹いている。

（山口日が昇）



川崎DOUBLE DESTINY

9/20（神奈川・川崎市体育館）

GAEA JAPAN

本日のベストバウト

1位 ZEROvsデビル雅美

2位 井上京子vs里村明衣子

3位 S・佐藤vs田村欣子

10

見ましたかぁ!?　ZEROvsスーパーヒール・デビル雅美はすげえ試合でしたね！　新しいですよ！　完全なアメプロですよ！　試合中もノイズを垂れ流して照明も紫のまんま。何の説明もなく赤いマネージャーが登場し、タイトルマッチに変更してしまう強引過ぎる流れ。これは「謎かけ」っちゃあ「謎かけ」なのだろうが、むしろ「試合を見るな！　雰囲気だけ味わえ！」というメッセージと読み取るべきでしょう。パソ通やマスコミでは「試合が見えねえぞ！」と叩かれてたみたいですが、そんな批判はお門違い。あそこまで徹底的にやり切ったのだから、日本のキャラクター・プロレスのひとつの金字塔です。

グレート・ムタにしろ、ブリザードYukiにしろ、キャラクターに徹底し切れず、試合がいまひとつということが多々ありました。この試合は細かい攻防を排除したから、その心配はないわけです。つまりエンターテイメント性の徹底的な重視であり、「細かい内容は見えなくてもいいから、雰囲気だけは腹一杯味わってくれ」というじつにダイナミックなコンセプトだったわけです。日本一のアメプロ団体、新・新日本プロレスでもここまではしませんでした。おそるべきはガイアの実験精神です。プロレスの格闘性に重きを置いた「ガイア・改」をスタートさせておきながら、今度はこんな試合を大会場のメインに持ってくる貪欲さは素晴らしいです。松永会長的に言えば、プロレスの持つ魅力を「おいしく頂いてしまおう」ということでしょうか?

この試合、最近のプロレスの中では完全に頭ひとつ突き抜けており、もっと評価されてもいいのではないか?　と大いに思う次第です。

（坂井ノブ）

11



大山祭り

9/13（東京・板橋区都税事務所前広場）

DDT

本日のベストバウト

1位 元・みちプロ練習生だった三上君が、知らない間にDDTでデビューしていて女子にキャーキャー言われる存在になってたこと

2位 二瓶組長のパフォーマンス

3位 ニューハーフのマネージャー、愛ちゃんのお色気

大山祭り？　ん～、賑わってたぞ！　あと、『大山アメリカン』の店頭にあるガチャガチャは、やりがいあるぞ！　以上！

……あー、もう、なんスか！（小坪風）DDTっスか！　もう知らないよ、キラーのものもは弱い者には容赦ないよ、サスケ社長じゃないけど、蹴り殺しちゃうぞ、コラァだもんね～。

初めて見た試合が、よりによって祭りプロレスだったってのもあると思う。うん、たぶんそうだろう。いつもはこんなんじゃないんでしょ？　なーんて自分でフォローのつもりで言っときながら……、祭りだからって手を抜くなよ!!　なーんて噛みついてみたりして。ホントに正直言ってすごいガッカリした。DDTのエース、高木三四郎。衆議院選に立候補し、そして落選というニュースを聞いて、俄然応援したくなった。試合は見たことなかったけど、人として面白すぎる！　見たい、見たい、見たい、高木三四郎の試合が見たい！　よってDDTが旗揚げして私が何よりも嬉しかったのは、これでいつでも高木三四郎が見られるってことだった。ところがどっこい、高木三四郎はつまんなかった。そして弱かった。高木三四郎だけじゃない。みんな弱い！　ま、でもDDTの見所は「弱い選手が仮面シュータースーパー・ライダー（この人は強い）にボコボコにやられる」ってことらしいので、理にかなってるっちゃーかなってるんですけど……。最後にひとつだけ。この日試合に出ていた人達は、ホントに心底楽しそうにプロレスをしていました。たぶん、プロレスを愛する気持ちは誰よりも大きいんだと思います。その気持ちが本物であるならば、未来は明るいんじゃ……でしょ!?（日明兄さん風）　**（のものも）**

12



ヤングジェネレーションバトル'97 ～優勝決定戦

9/6（TOKYO FMホール）

格闘探偵団バトラーツ

本日のベストバウト

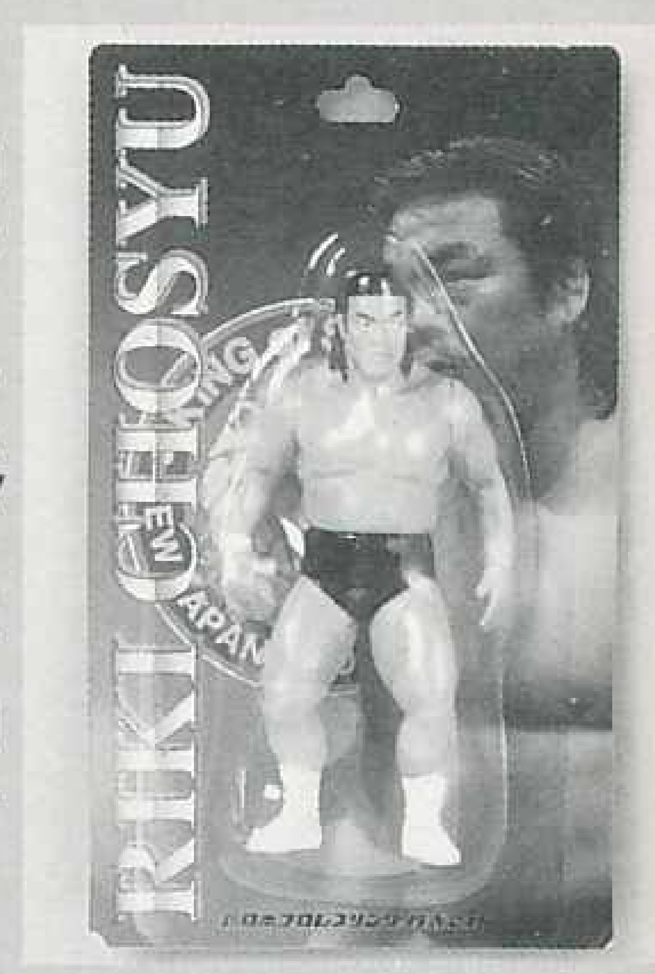
1位 池田大輔vs アレクサンダー大塚

2位 アレクサンダー大塚vs V・クルーガー

3位 石川雄規vs カール・グレコ

近頃のアレクは凄い。ちょっと前までは、その大きな身体は人の技を受けるためにあるんかい!?　っちゅーくらい、ボコボコにやられるサンドバック状態でしかなかったアレク。感情を表に出さず、ただ黙々とやられ続けるアレク。恵まれた体格、アマレス仕込みの技術、たぐい稀なる運動神経（この体格で鉄柱越えノータッチトペコンをだすんだから）。3拍子揃ったアレクサンダー大塚に足りなかったモノ……。それは一歩踏み込む勇気。最後の詰めが甘く、肝心な所で引いてしまう心優しきヒットマン（あれ、こんなキャッチフレーズのレスラーいなかったっけ？　いねえか）。あー、何か書いてて恥ずかしくなってきた。「一歩踏み込む勇気！」だってぇ、笑っちゃうね。……笑っててもしゃーないので、現実に戻ってアレクの続きを書きます。今年4月のリングスでのC・ヘイズマン戦、アレクサンダー大塚が"荒れるサンダー大塚"に変貌を遂げた試合。あの辺りからでしょう、アレクがぐんぐん変わって行ったのは。その後のバトラーツの後楽園大会、対田中稔戦。鼻血ブーになりながらも先輩・田中から会心の勝利をもぎ取り、そして迎えた恒例のヤンジャネ。自信をつけたアレクはもう怖いモンなし！　ここでもめきめき勝ち上がり、とうとう決勝戦にまで進出してしまったのだ。決勝進出戦では池田とバチバチの神髄を見せ、決勝戦ではあの不敗の恐竜男、V・クルーガー相手に善戦。そして石川社長すら成し遂げられなかった鬼退治をアレクが成し遂げてしまったのだ！　試合内容は、ズバリ言って池田VSアレクの方がよかった。だが、あのビクターに勝って優勝したという事実が凄い！　ということで『紙プロ賞』は、文句なし、アレクに進呈！　VIVA！　アレク！　**（のものも）**

13



FINAL POWER HALL in YOKOHAMA

8/31（神奈川・横浜アリーナ）

新日本プロレス

本日のベストバウト

1位 平田＆安田vs 木戸＆飯塚

2位 タイガー＆小林vs 山崎＆カ・シン

3位 小川直也vs S・ノートン

この当日、「今日発売の長州力フィギュアを死ぬ気でゲットしろよ！」という本誌編集長からの脅迫電話で目を覚ました。「中年のくせに、フィギュアって歳でもでもねえだろう！」とは思ったのだが口に出すと殺されそうなので、敢えてここで書く。そのために4時間前から入口で並び、開場と同時にダッシュで勝ち取ったのだが、最終的には売れ残ったそうである。

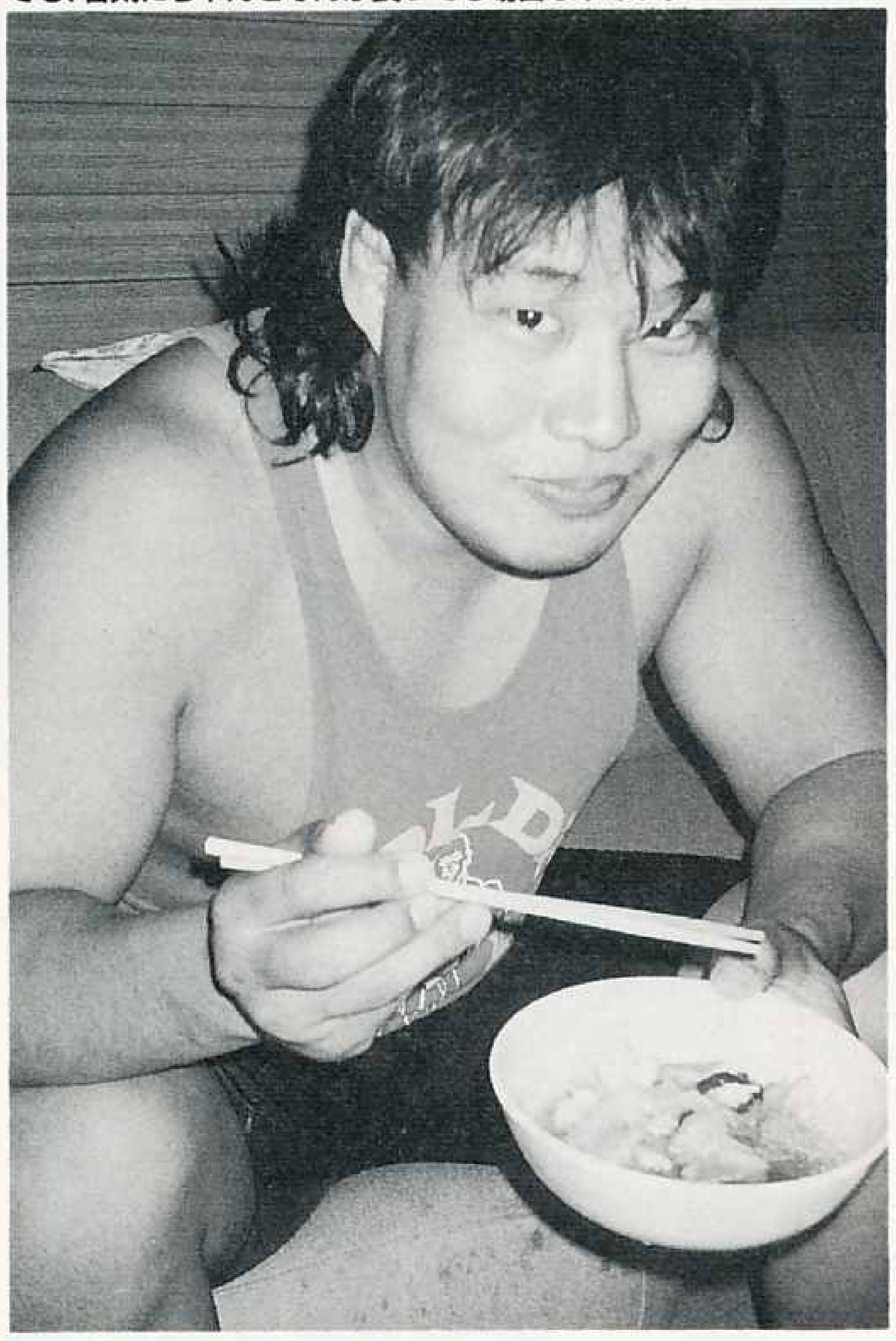
さて、この日のハイライトは何と言っても長州引退セレモニー。源ちゃん、辰っつあんに続いて、浜さんと京子ちゃんが登場した。長州に花束を渡す京子ちゃんは身長が長州と変わらない。「京子ちゃん、大きいんだなあ」と驚かされた。さらに、我らが日明兄さんも花束片手に登場！　リング上で一言二言交わしてガッチリ握手をする。涙を流す観客の姿も多々あった。そして、最後はやっぱりこの人、元気が売り物・アントニオ猪木！　マイクを掴むなり開口一番「元気ですかぁ～！」と叫び、観客の心を見事にワシ掴み。さらに「いつもは私がお願いされて『ダァーッ』をやっているんですが、今日は私からお願いさせてもらって、長州にやってもらいたいというか」とマイクアピールをしたから、さあ大変。場内は大騒ぎである。この日、いちばん盛り上がる場内！　さあ長州、どうする!?　ところが、長州はアッサリ拒否。ブーイングも起こりかねない展開だったが、そこは観客も温かかった。前田もはじめは躊躇していたのだが、辰っつあんに促され、とびきりの笑顔で『ダァーッ』初参加。近年まれに見る、じつにいいセレモニーであった。でも結局、主役の陰がいちばん薄かったような気がするのはボクだけ？　**（坂井ノブ）**

全女、みちプロに続き

バトラーツも経営危機!!

社運賭けた 11・5後楽園ホール

部屋を真っ暗にし、BGMに『稲川淳二の怖い話』のCDをかけながら、ちゃんこを食べるバトラーツの石川社長。超巨漢の外人女性の裏ビデオを鑑賞しながら、ちゃんこを食べるバトラーツの石川社長。でも、呑気にちゃんこなんか食ってる場合じゃない。



バトラーツに"経営危機"というウワサが周辺から流れてきた。設立当初から「ヤバイ、ヤバイ」と囁かれていたが、相変わらず、台所事情は芳しくない様子。まさに綱渡り状態での今年3度目の後楽園ホール進出。バトラーツの社運がかかってきた。

全女、みちプロの経営危機問題で影は薄いが、バトラーツも相変わらず苦しい台所事情



全女、みちプロの経営危機問題の影に隠れ、と言うより誰も注目してないことだろうが、バトラーツも相変わらず経営状態は苦しいらしい。

かねてから「選手バスと言うにはあまりに貧相なマイクロバスで長時間移動」「パーキングのカレーをおごってもらっただけで感謝の嵐」「地方巡業の宿泊施設は民家」など、貧乏臭い話には事欠かなかったバトラーツだが、最近その貧乏ぶりに拍車がかかったとの声を聞くようになった。

バトラーツの内部事情に詳しい関係者の話によると「マスコミに流す日程などが書かれたプレスリリースをウチには流してくれないんです。「流して下さいよ~」と文句を言ったら、「口頭で教えてるからいいじゃないですか。ん~、最強!」って何だかよくわかんない理由でごまかされちゃうんですよぉ。ナメてんのか、コラァ。プンプン」(N姫談)

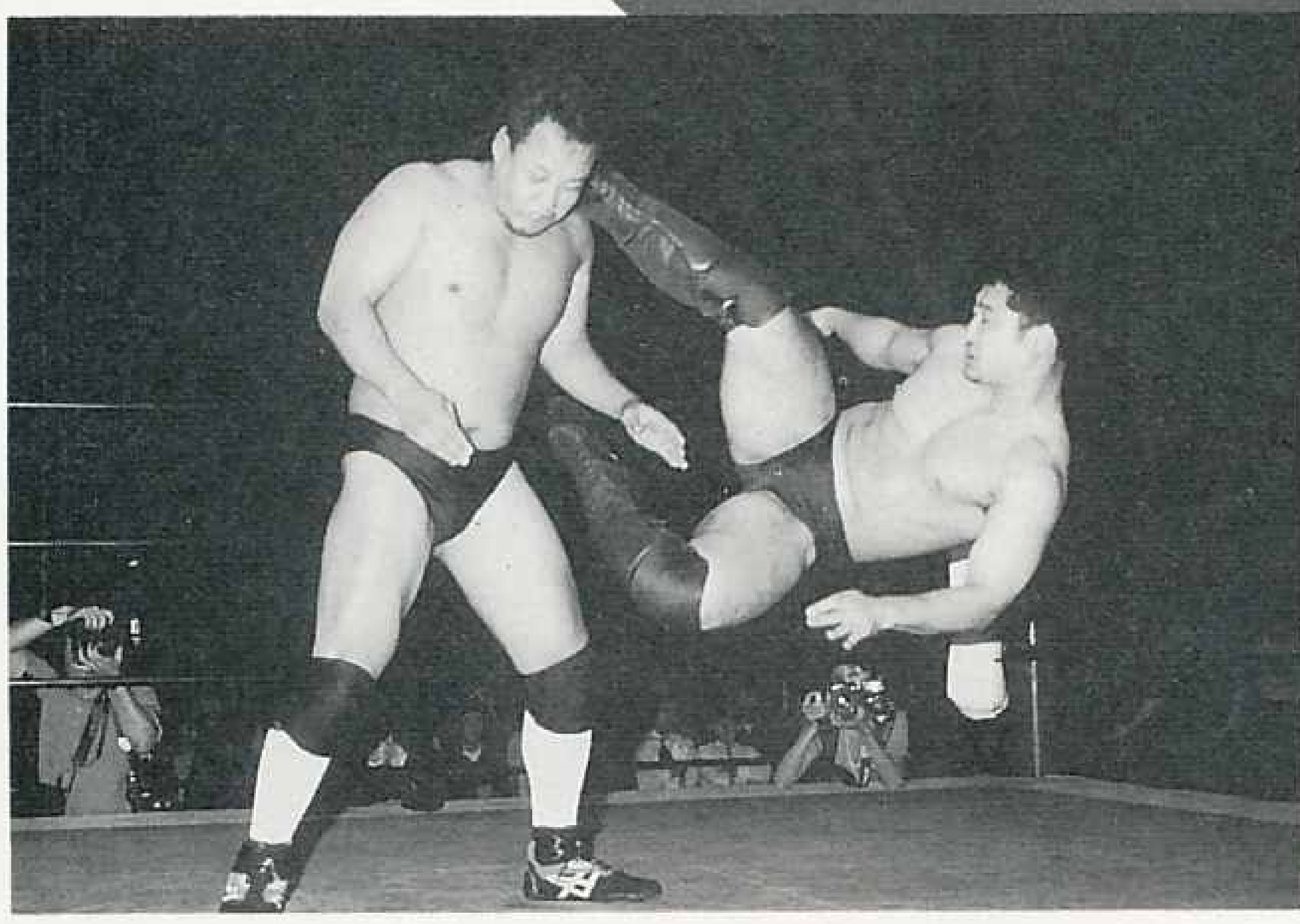
このように、たかだか2~3枚のファックス代をケチるほど、バトラーツの経営状態は切羽詰まっていると言える。

昨年は50人も満たない会場もあり、「潰れるのも時間の問題だ」と囁かれる光景も少なくなかった。だが、設立2年目の今年は、非常に緩やかなカーブだが、客足も上向き。順調と呼ぶにはまだまだ油断ならないが、経営危機は脱したと思われた。それなのになぜ、またここに来て経営危機が囁かれるようになってしまったのか?

「有限から株式へ脱皮を謀るため、資金をプールしている」「道場の裏に住んでいた軍鶏を食いつくし、飼い主に賠償金問題で訴訟を起こされた」などといった憶測が飛び交うが真相は未だ解明されてはいない。どんな理由があれど、11・5の後楽園ホール大会にバトラーツの全社運が賭かっているのは間違いない。

みちプロと共倒れ？ バトラーツも 近い将来 活動休止か？

石川雄規 頭打ちすぎて 大ピンチ



経営危機と頭打が重なって大ピンチに陥った石川社長。周囲の心配をよそに、ウンコのおもちゃを使ったイタズラに熱中。この人が社長で、バトラーツは本当に大丈夫なのであろうか？

バトラーツを1回でも体感した方ならご存じだと思うが、バトラーツの闘いの基本は、ゴッツ、バコン、グシャッっといったバチバチした肌のぶつかり合いである。思わず耳を塞ぎたくなるほど、リアルなバチバチ音。中でも、社長である石川雄規の頭めがけて繰り出される蹴りは、圧巻の一言である。言ってみれば、これがバチバチの真骨頂であり、団体のウリでもあるのだが、このまま行くと、石川雄規の頭部が破壊されてしまう恐れがあるという。

「世界戦略、世界戦略、ブツブツブツ……」などとうわごとを連呼する石川の様子を見る限り、すでに初期症状は出てきており、これからますます悪化する一方だと予測される。

バトラーツ経営危機問題に続き、石川社長の脳味噌重症説。石川社長にとっては、まさに人生最大のピンチだ。



世紀の一戦、高田×ヒクソンを裁いたこの人も、こんな調子である

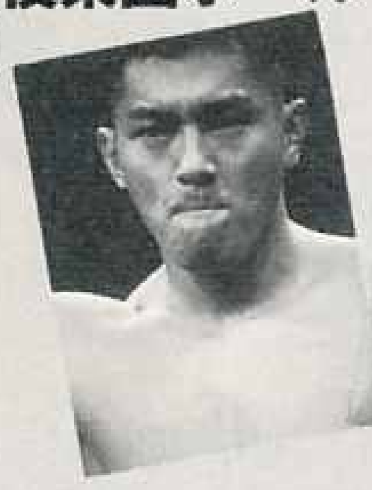
バトラーツ・今後の日程



バトラーツ・社運を賭けた今年3度目の後楽園ホール大会！ B—MY BABY

'97年11月5日（水）　後楽園ホール　19:00試合開始！

SRS席　6000円（売り切れ）
特別席　5000円
指定席　4000円
自由席　3500円
立ち見　3500円
（席がなくなり次第発売）





リングスの坂田亘 バトバト2度目の参戦…今回は臼田とバチバチシングル

［お祭り団体の出稼ぎお祭りプロレス］

11月8日（土）　長野・JA志賀高原フェスティバルLIVE

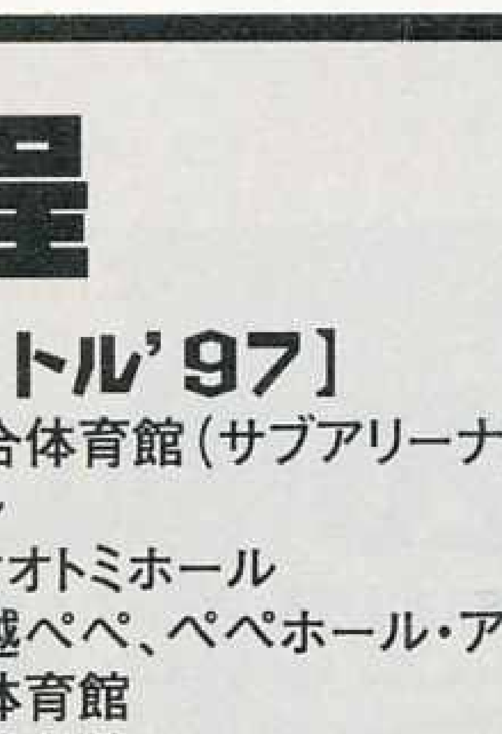
●11月8日『JA志賀高原フェスティバル』の観戦バスツアーのお知らせ

移動費&宿泊代&夕食1回分込みで¥27000ポッキリ！　ポッチャリ！ポチョムキン！（FC会員は¥25000）※11月3日締切
試合の後はおなじみのハチキレた飲み会付き！　キミもバトラーツと一緒にささやかな夢を見よう！

［バトラーツ　タッグバトル'97］

11月22日（土）　千葉・船橋市総合体育館（サブアリーナ）
11月25日（火）　大阪・IMRホール
11月29日（土）　静岡・沼津ピアオオトミホール
12月1日（月）　埼玉・西武本川越ペペ、ペペホール・アトラス
12月5日（金）　茨城・石下町民体育館
12月6日（土）　茨城・多古町民体育館
〈優勝決定戦〉
12月9日（火）　愛知・名古屋レインボーホール（第二競技場）

タッグリーグ参加チーム
○石川雄規&カール・グレコ
○臼田勝美&中野龍雄
○池田大輔&米山サトシ
○田中稔&アレクサンダー大塚
○小野武志&折原昌夫
※中野は公式戦のみ出場。
折原は全シリーズ参戦



折原昌夫 全シリーズ参戦決定!!

［クリスマスはバトバトと一緒♥］

12月25日（木）　東京・TOKYO　FMホール

PANCRASE 1997 ALIVE TOUR



（第5代キング・オブ・パンクラシスト）

近藤有己

PANCRASE HYBRID WRESTLING

KING OF PANCRASE TITLE MATCH

（ランキング1位）

船木誠勝

闘うことが、生きる道。

12.20(SAT)横浜文化体育館 OPEN/17:00 START/18:30

11.1(SAT) ON SALE

〔出場選手〕●横浜道場所属：鈴木みのる 渋谷修身 伊藤崇文 近藤有己 長谷川悟史 窪田幸生 ●東京道場所属：船木誠勝 冨宅飛駈 高橋義生 國奥麒樹真 山宮恵一郎 美濃輪育久
●外国人選手：バス・ルッテン ジェイソン・デルーシア ガイ・メッツァー ジェイソン・ゴドシー ジョン・ローバー他 ※以上の選手他より選出。最終的な出場選手およびカードは決定次第発表いたします。
〔入場料金〕SS席・¥16,000 RS-A・¥8,000 RS-B席・¥6,000 2F-A・¥10,500 2F-B・¥6,500 3F・¥5,000 ※当日券は全席種とも500円増しになります。
〔チケット発売場所〕チケットぴあ・03(5237)9999 チケットセゾン・03(3250)9999 ローソンチケット・03(3573)1015 CNプレイガイド・03(5802)9999 書泉ブックマート・03(3294)0011 大山アメリカン・03(3962)6443 レッスル渋谷店・03(3464)0078 レッスル池袋店・03(3989)0056 後楽園ホール・03(5800)9999 プロレスマニア館・03(5276)0304 ビデオショップチャンピオン・03(3221)6237 アイドール新宿店・03(3371)5211 ファイター・03(3354)1903 ゴールドジムノーストーキョー・03(3917)9434 パンクラス・03(5792)7077 ※ぴあ、セゾン、ローソンは、各地の窓口でお求めになれます。
主催／㈱ワールド パンクラス クリエイト 後援／GAORA(CS放送) ●お問合せ／㈱ワールド パンクラス クリエイト、オデッセー・03(3796)9999

ロシアの強豪、イゴール・ジノビエフ初参戦！

Igor Zinoviev 1966年3月30日生 ロシア連邦サンクトペテルブルグ出身（ニューヨーク在住） 身長182.5cm／体重87kg
15歳からサンボ、柔道、キックボクシング、コンバットサンボ、柔術を学び、柔道ではロシア・ナショナルチームに所属していたほど。ノールール系大会では現在まで負けなし。特に寝技の技術レベルはブラジルのトップクラスの柔術選手を破った試合で高い評価を得た。熟達した技術を駆使した試合運びのうまさには定評がある。

●館内FM放送を使った選手による実況解説を実施。

11.16(SUN)神戸ファッションマート OPEN/15:30 START/17:00

NOW ON SALE

〔入場料金〕SS・¥15,000 A・¥8,500 B・¥6,500 C・¥4,500 ※ABC席はリングサイドかスタンドとご指定ください。※当日券は全席種500円増しになります。
〔チケット発売場所〕 チケットぴあ・06(363)9999 チケットセゾン・06(232)9999 ローソンチケット・06(369)6633 チャンピオン大阪店・06(645)5186 アイドール大阪店・06(641)4685バディ・スラム・06(645)1378 神戸ステーキ桜井三宮店・078(331)0029 神戸ステーキ桜井ポートアイランド店・078(303)3901 神戸住吉・富万・078(811)6222 ジャングルジム・06(478)4564 ビデオコレクション・078(392)5489 パンクラス・03(5792)7077
主催／㈱ワールド パンクラス クリエイト 後援／GAORA(CS放送)●お問合せ／㈱ワールド パンクラス クリエイト、GAORA(CS放送)・06(345)3206

●館内FM放送を使った選手による実況解説を実施。
●第2回パンクラシスト・スカウトキャラバン実施！
大会当日、会場にて入門テストを実施。
申し込み締切は11月4日。
くわしくは㈱ワールドパンクラスクリエイトまで。

〔 パンクラス東京道場《ピーズ・ラボ》入会受付中！
営団地下鉄日比谷線 広尾駅（JR恵比寿駅乗り換え）から徒歩約5分。くわしくはピーズ・ラボ(03-5792-7079)まで。 〕

イベント情報 鈴木みのる選手講演会
11.1（土）16:00〜17:00 青山学院大学青山キャンパス「青山祭」

総合お問合せ：㈱ワールド パンクラス クリエイト 03(5792)7077 ／ ホームページ(So-net) http://www.so-net.or.jp/pancrase/



〜プロレスを語ることはパンクラスを語ることである〜

『活字プロレス』の印籠!!
パンクラス公式読本
2巻同時に衝撃発売中!!

完全実力価格の各巻1200円(税別)全国書店プロレスショップにて絶賛発売中!

各方面で圧倒的に話題独占!!

●なぜ、鈴木みのるは叫び、船木誠勝は孤高を目指すのか!?
●なぜ、パンクラス公式読本にジャイアント馬場のロングインタビューが載っているのか!?
●なぜ、「神様」カール・ゴッチはアルティメットを嫌うのか!?
●なぜ、この公式読本は2巻に分かれているのか!?
●そして、なぜ、パンクラスはプロレスなのか!?
——以上のことを考えながらお読みいただくと、より面白さが味わえます!



矛
—HOKO—

鈴木みのる/近藤有己/山田学
稲垣克臣/渋谷修身/伊藤崇文
長谷川悟史
【スペシャル・ゲスト】
カール・ゴッチ/佐山聡
●ターザン山本vs佐山聡『ケーフェイ』について語る!
●「総合格闘技の未来」とパンクラスの源流「UWF」を徹底検証! 他

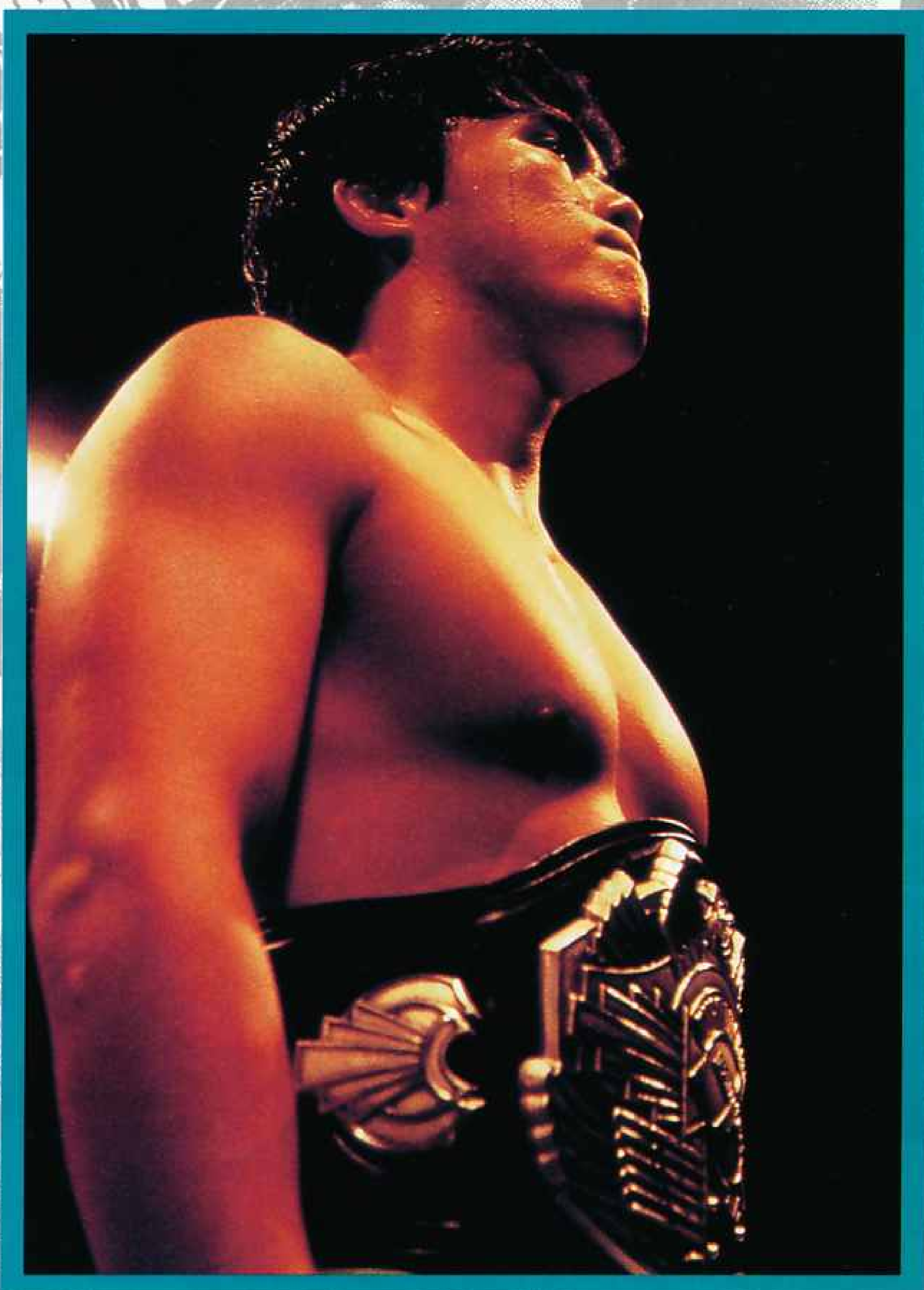


盾
—TATE—

船木誠勝/冨宅飛駈/髙橋義生
柳澤龍志/國奥麒樹真/山宮恵一郎
【スペシャル・ゲスト】
ジャイアント馬場
●公式読本に、活字プロレスの悪魔・ターザン山本出席の非公式座談会堂々掲載! これでパンクラスの謎が解ける!
●冨宅、初のプロレス海外修行など、スクープ記事連発!! 他

（リングスvsパンクラス）

「ファンがそういう見方をするのは勝手ですけど僕の中ではそういうのは別にないんで」



©M.GIGIE

前田問題から12月の船木戦まで――

若きキング・オブ・パンクラシストの心を聞け!!

近藤有己

聞き手／"Show"大谷泰顕
Interview by "Show" Yasuaki Otani
撮影／浜田孝一
photographs by Koichi Hamada



近藤有己

Yuki Kondou

「パンクラスを潰す発言」を聞いた時は何も感じなかったですね

――さっき、三沢タイガーのビデオを見てましたけど、三沢光晴選手のファンだったんですか?

近藤　タイガーマスクのファンだったんです。だけど、途中見てなかったんで、代替わりしたのを知らなくて「なんで、全日に上がってるんだ。おかしいな」と思ってたんですよ。

――ヌハハハ。ひどいファンだ（笑）。

近藤　でも、覆面被ってやるのっていいですよね（笑）。私生活がバレないじゃないですか。私生活は何をやってもOKになるっていうか（笑）。だから、若い頃に覆面を被って試合に出るのは、いいことかもしれないですね。行きたいところでも行けるじゃないですか、どこでも。

広報・中元　いま、よっぽど制約されてるみたいですね（笑）。

――ヌハハハ。

近藤　やっぱ悪い遊びもしてみたいッスよ!?

――近藤選手の遊びの師匠は誰なんでしょう?

近藤　いないッスねえ。

――完全に一匹狼でやってると。

近藤　やってないッス。ただ、それがただのお酒の席だとしても、行ってみたいですけど、やっぱ体に悪いんで。

――体に悪い!?（笑）

近藤　そういう部分で行きたくない気持ちが強いんですよね。夜遅くまでそういうところで遊んでると、次の日まで疲れて練習できないっていう。

――でも、いろいろなことを実体験してみたい願望はあるんでしょ?

近藤　してみたいッスよ。ただ最近、顔も通ってきてますんで、道で声をかけられることもありますからね。だから、そういうことで自分を傷つけたくないっていうか。だから、自分とは全然、別の人間で、そういうところに行ってみたい気持ちはありますね。

――チャンピオンになって顔が売れる前に行っておきたかったと。

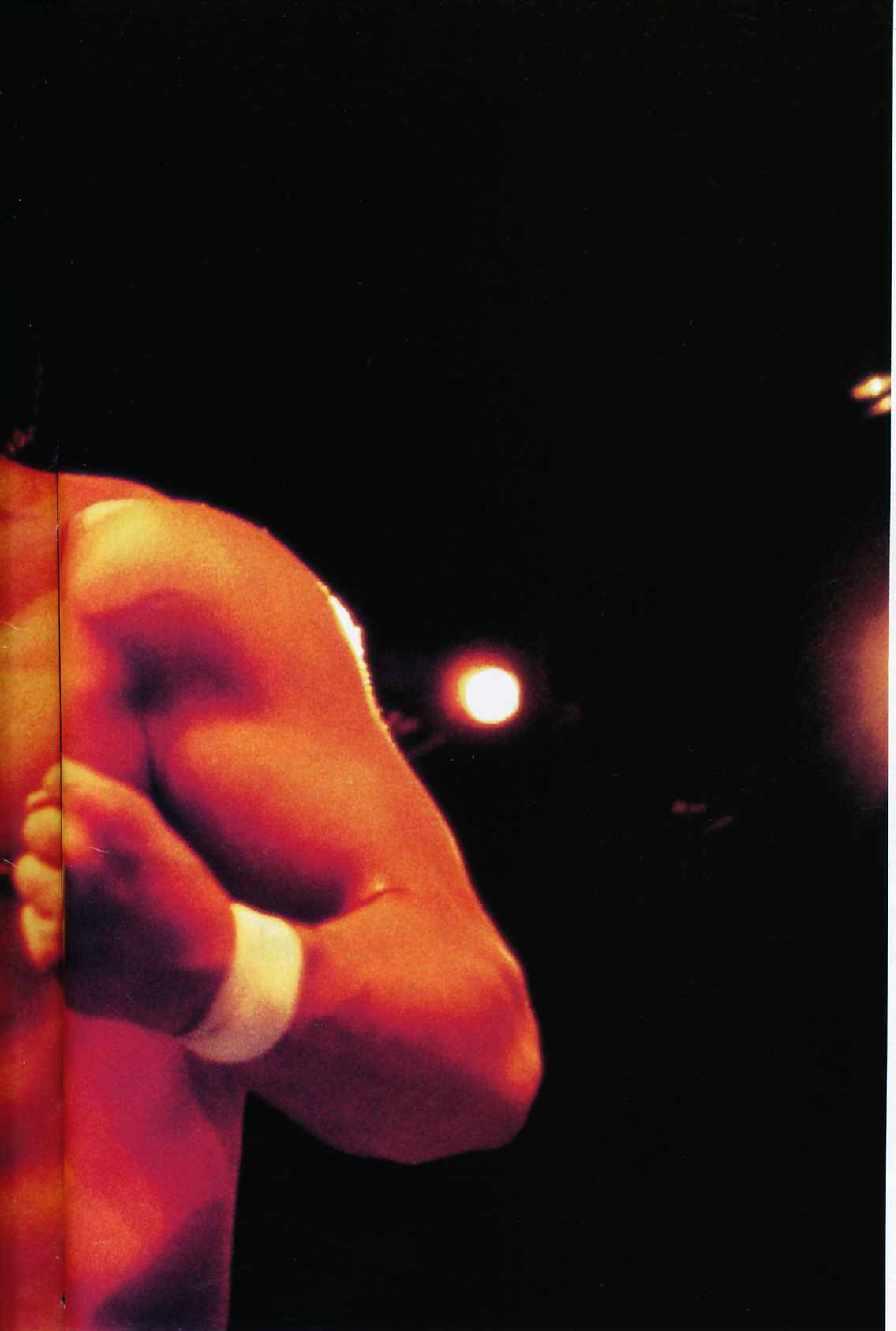
近藤　そうですね。行っておけばよかったですね。でも、それが自分の人生ですんでしょうがないですね。普通、学生だったら、一番遊ぶ時期に、僕は道場にいて、外には出られなかったんで、それを「ダサイ」って言われても、それが僕のひとつの誇りでもあるんで、しょうがないですね。彼女とディズニーランド行くとか（笑）。そういう健全な遊びはしてますよ。

――彼女とは順調みたいですね（笑）。

近藤　順調です（笑）。

――はい、どうも（笑）、ですね、そろそろ本題に移りますが、前田日明さんとの一連の件についてですけど。まず最初に前田さんの「パンクラスを潰す」発言を見た時にどう思いました?

近藤　一番初めの印象は、全然何も感じない。



――何も感じませんでしたか（笑）。

近藤　何も感じないっていうか、全然信憑性があるように感じられなかったですね。ウチがケンカを売られたっていうふうにも感じなかったですし。あのー、「何を言ってるんだろう」ってすらも感じなかったですね。全然、別に何とも。「ホントにそんなことできるのか」ってそんな感じですね。

――最初は何とも思わなかったと。

近藤　「近藤有己を潰す」と言われたら、そりゃあ僕も思いますよ。やっぱ僕はウチの社長とかを信頼してるんで、そんなことできないだろうみたいな。

――近藤選手とは違って、髙橋義生さんは「そんなことを言ってるヤツは俺が殺す」という話になりましたよね。

近藤　言った瞬間は、何かマイクで喋ってるとは思いましたけど、何を喋ってるのか全然わかんなくて、確か自分の試合後に「髙橋さんがそう言ってた」って、インタビューの人から聞かれて初めて知ったっていうか。だから、「そういう人がいたのか。髙橋さんはそう思ってたんだ」って、初めて気づきましたね（笑）。

ここまで来て口論だけだったら カッコ悪いと思うんですよ

――そこで初めて気づいた⁉

近藤　僕個人としては、髙橋さん対前田選手が実現したら面白いなっていうか、実現してほしいと思いますね。一個人として。

――今後、近藤選手個人としてはどうなってほしいですか？

近藤　今後は前田選手と髙橋さんの試合が組まれて、それで終り、でいいと思います。

――それで終り（苦笑）。

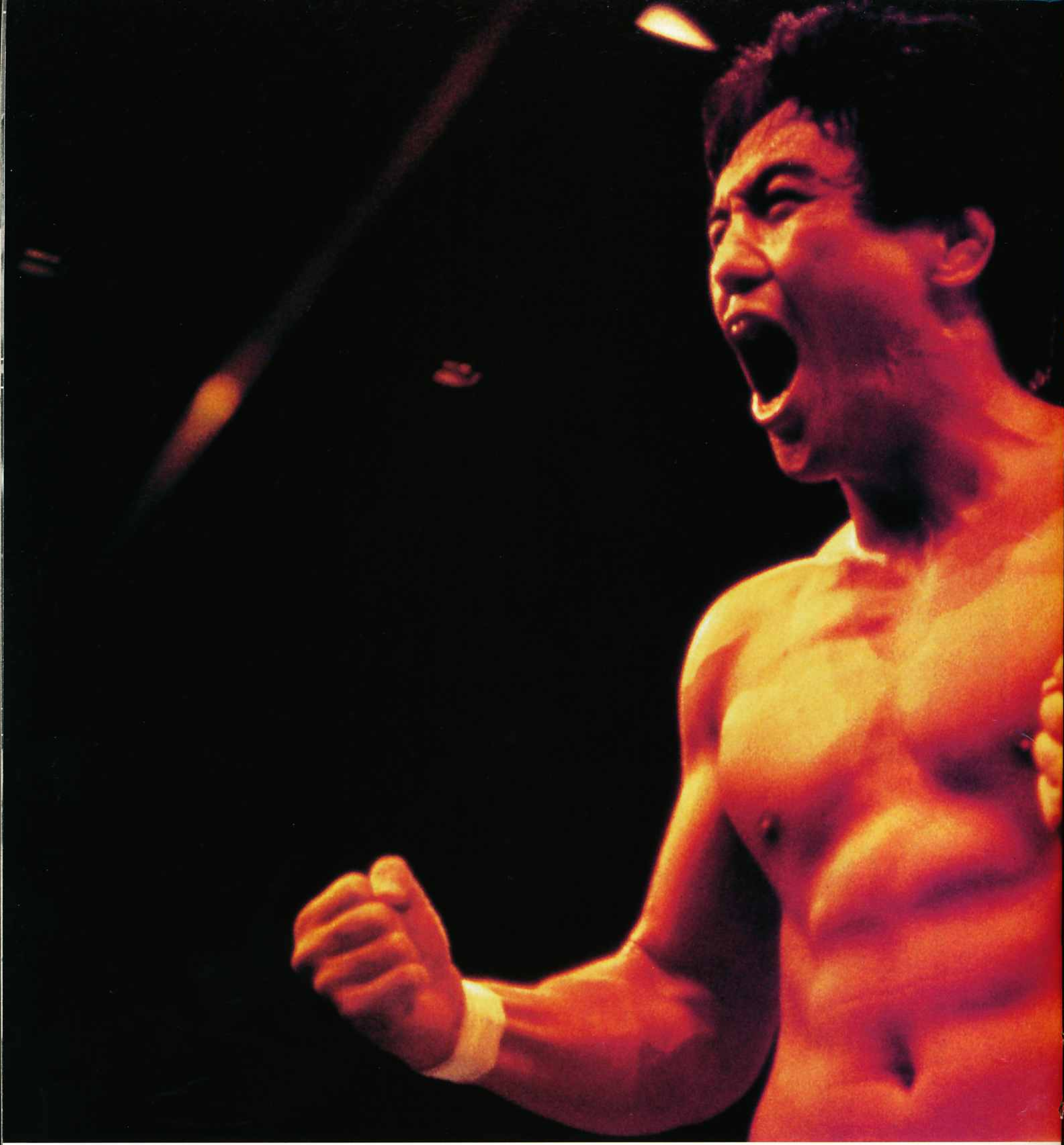
近藤　ここまで来たら、ホントに口論だけだったら、カッコ悪いと思うんですよ。僕個人から見てですけど、ファンも期待するわけじゃないですか。口で言ったことを実現しないのはカッコ悪いですからね。

――近藤選手がチャンピオンなんだから、「近藤有己を潰す」だったら、全然違ってたんでしょうね。

近藤　そうですね。そしたら僕も、だいぶ変わってると思いますよ。

――じゃあ、髙橋さんに怒られるのを覚悟して言いますけど、もし仮に髙橋さんが負けたとしたら、その後はどうですか？

近藤　ああ……。全然考えてなかったですね。



近藤有己

Yuki Kondou

——ヌハハハハ。

近藤　勝つものだと思ってたんで。でも、ホントそうなったら、そういうわけにはいかないですね。

——そうなった場合は、チャンピオンの近藤選手が出ていくというか。

広報・中元　いや、ウチがやるとしたら髙橋さんと前田選手のことで、その勝敗がどうなろうと、そこからはないと思います（キッパリ）。

——えっ、でもパンクラスは本人が「やりたい」と言ったらやらせるのが基本ラインだから、もしも近藤選手が「やりたい」と言えばやらせるんじゃないですか？

広報・中元　要相談ですね。

——あらら。ってことは、この件は基本には当てはまらないわけだ。ただ、当然、ファンはリングスvsパンクラスっていう見方をすると思うんですよね。

近藤　ファンがそういう見方をするのは勝手ですけど、僕のなかではそういうのは別にないんで。例えば、リングスの山本宜久選手と試合が組まれたとするじゃないですか。そしたら、リングスvsパンクラスって見るでしょうけど、僕のなかでは山本宜久vs近藤有己だけなんですよ。たまたま山本選手の名前を出しましたけど、別に何もないですし、僕からしたら「勝手に思ってくれ」って感じですよね。

——例えば、9月26日のリングスの札幌大会にはフランク・シャムロックが出ましたよね。満員だったんですけど、パンクラスのファンも数多く来ていたと思うんですね。無視できない雰囲気



僕はヒクソンにしても「最強」だと認めてないですから

というかね。

近藤　ええ。

──近藤選手はフランクvs高阪剛選手の試合は気になりませんでした?

近藤　特に気にならなかったですね。実際、僕はリングスの試合とかあんまり見たことないんですよ。だから、興味が沸かないっていうのもありますよね。

──例えば、誰かが「近藤有己と闘いたい」と言ったら、気にはなります?

近藤　なりますよね、名指しで言われたら。やっぱ気にしてなかった女の子に「好きだ」って言われたら気になっちゃう(笑)。そんな感じッス。

──ただ、これは僕の考えなんですけど、やっぱりチャンピオンというか、エースというか、トップというか、そういう立場の人は、マット界全体を気にするというか、ああでもないこうでもないって話してくれた方が魅力的に見えると思うんですよね。

近藤　あっ、そうスか。それはひとつの意見として聞いておきます。

──じゃあ例えば、高田延彦vsヒクソン・グレイシーはどう見てます?

近藤　ホントのことを言わせてもらえば、「どっちでもいい」って感じですよね。別に見に行きたいとも思わないですし。

──でも、勝った方が、とりあえずは「最強」の称号を手にするみたいな雰囲気があるでしょう?

近藤　でも、僕はヒクソンにしても、「最強」だとは認めてないですから。「最強」はいままで地球上にはないんですよ。

──おお、「最強」は地球上にはない!

近藤　だから、僕が初めの「最強」になるんですよ。「最強」っていうのは、ホントに「いつ何時、誰の挑戦でも受けて勝つ」ってことじゃないですか。

──何だか、アントニオ猪木みたいですね(笑)。

近藤　もし相手が50人いても勝てないとダメですよ。だから、終りがないんですよ。終りがないから、「最強」はいないんですよ。「最も強い」ってことは、「それ以上強いヤツがいない」ってことだから、「それで終り」ってことでしょう。いくら強くなっても核兵器には勝てないじゃないですか。そう考えると「最強」じゃないんですよ。人類のなかで「最強」なだけじゃないですか。だから、どこまで行けるかが、僕の生きて行く上での挑戦ではありますよね。そういう意味で言うと、こんなところで、まごまごしてられないんですよ(笑)。

──確かに、そりゃあまごまごしてられないよ!

近藤　でも、僕がもし「最強」になって、これから外に出ていく、ホントに

近藤有己

Yuki Kondou

宇宙に行くことになったとしても、「パンクラス出身」ていう誇りは忘れないと思いますよ。パンクラスで修行してきたんだって。だから、ここは修行の場ですね。いま「少林寺拳法出身」って言われるじゃないですか。あれ、嫌なんですよ。僕はパンクラスで学んできたことが多いし。それだけ僕はパンクラスに対してカッコいい世界だと思ってますから。

——例えば、高橋さんが「虎殺しまで、あと2〜3年」て言いますけど、その近藤選手がその年齢になるまで、あと10年ですよね。

近藤　10年後に宇宙人とやりますか(笑)。

——外に敵を求めるのには、あとどのくらいかかりそう?

近藤　何年くらいですかねえ。「5年くらい」と言っときますかね。

——その時には、虎殺しもやる?

近藤　それは、僕のなかではレベルの低いことなんですよ。

——「虎殺しをして引退したい」と言ってる高橋さんに噛みつきますか?

近藤　いやいや(笑)。当然、いまの僕のレベルではできないですけど……。それよりも、僕はホントに宇宙人とやりたいと思うし(微笑)。ただ、80歳になっても強くありたいですね。年齢はいってるジイちゃんなんですけど、鋼のような身体をしてるんですよ(笑)。まだまだピークをむかえてないみたいな。

——「最強」のジジイになりたいと。

近藤　不可能じゃないと思うんですよ。それを可能にしてきたのが人間の歴史じゃないですか。

——K—1はどう思います?

近藤　K—1も言ってみれば立ち技だけの世界じゃないですか。例えばマイク・ベルナルドを見て、「この選手に勝つにはどうしたらいいかなあ」とかしか考えないですね。

——えっ、どうすればベルナルドに勝てる?

近藤　やっぱり立ち技では付き合うな(笑)。

——タックルに行って、寝技に持ち込む?

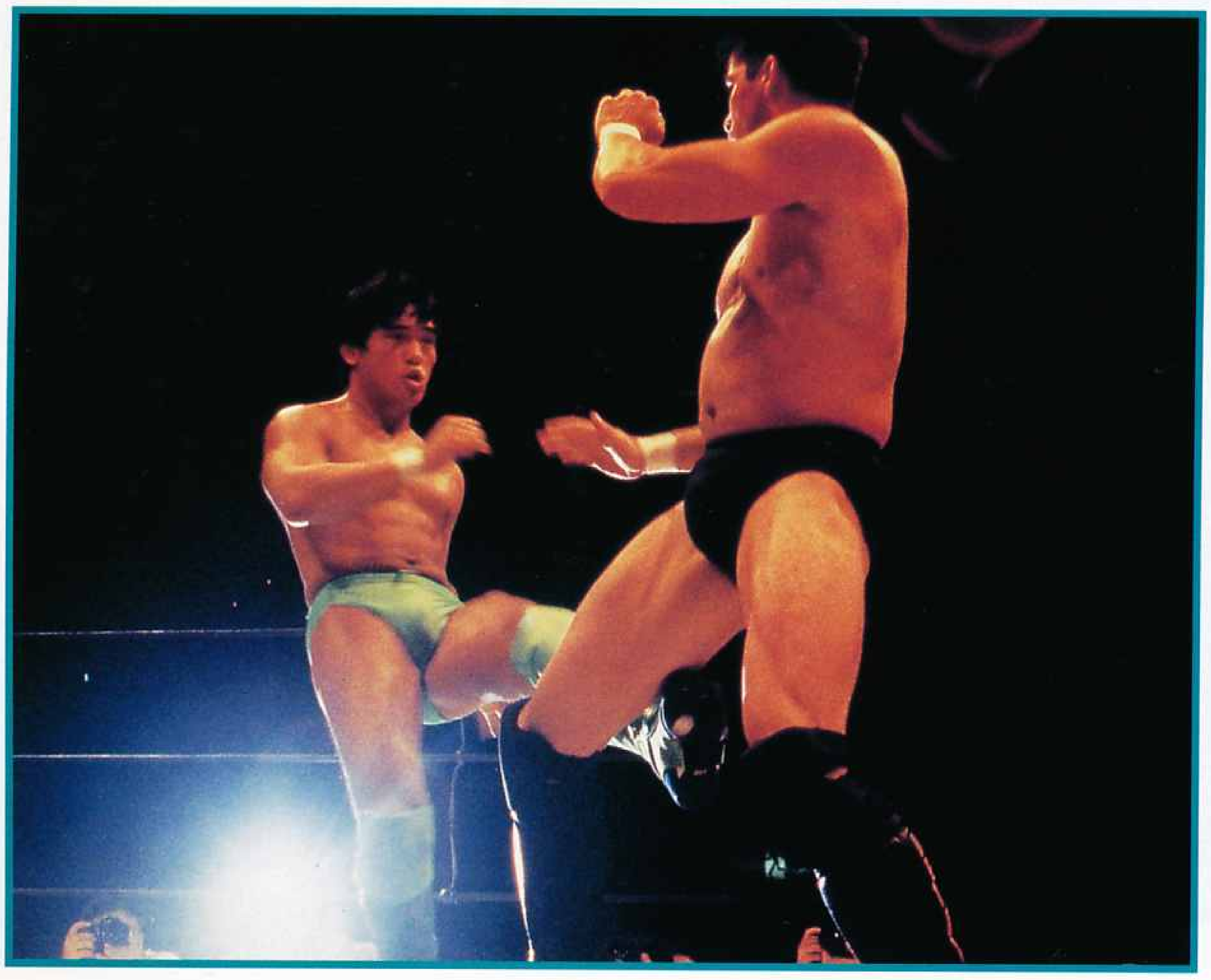
近藤　足をキュッとひねって、そしたら勝てるかな。でも、最終的には立ち技だけでも強くなりたいっていうふうには思いますね。

——前に柳澤龍志選手がキックの試合の後に「どんなルールでも勝てるのがプロレスラーだと思ってる」と言ってたんですよね。

近藤　プロレスラーだからっていうわけじゃないですけど、僕が強くなる中で、相手の得意分野でねじ伏せる強さはほしいですよね。ボクサーにもボクシングで闘って勝てるような。無理じゃないと思うんですよ。

——マイク・タイソンと闘ってもパンチだけで倒せるような。

近藤　絶対に無理な話じゃないと思うんですよ。ホントに一人の青年がパンクラスのチャンピオンになったのと同じくらいに、やればできるかもしれないじゃないですか。



——ああ、そうか。近藤選手は夢を夢に終わらせなかった、典型的なパンクラシストだったんだ。

近藤　それくらいに強くなりたいっていうのが最終目標かはわかんないですけど、それが目標ではありますよ。

——じゃあね、最近、『格闘技通信』で公になったんですけど、シューティングの中井祐樹選手が「バーリ・トゥードの試合中のサミングで右目を失明してしまった」って記事があったんですよね。近藤選手からするとそういった、「危険な場所にいる」って感覚はあるんでしょう?

近藤　当然、普通の人よりは全然あると思いますよ。ただ、闘いの究極の話も、そういう目潰しとか含めて、ひとつの技っていうか、やり方だと思うんですよ。そういう相手に対しても無傷で勝てる。目をエグられてそれで終りだったら嫌だと思うんですよね。その闘いに勝っても、次に続かないじゃないじゃないですか。そういう闘いを経験して、また次の段階に行ける人間にはなりたいですね。

——何だか、近藤選手は貪欲なようであり、そうでもないようでもあり、やっぱり、いまの自分で手いっぱいみたいな感覚なんですかねえ。

近藤　自分で手いっぱいっていうことじゃなくて、自分の中で興味が沸く人

宇宙に行くことになってもパンクラス出身の誇りは忘れない



がいないっていうか。

――というと、興味があるのは近藤有己ただ一人ですか？　それともパンクラスの中だけのことですか？

近藤　特に、中とか外とかとも思わないんですけど……。やっぱりパンクラスの選手とは闘うじゃないですか、実際。試合が組まれる回数も多いし……。そういう部分では、パンクラスの中で手いっぱいなのかもわかんないですね。この中で、誰も僕と闘ってくれなくなったら、外を意識するかもしれないですね。例えば、誰も僕にかなわなくなったら、赤子のようになったら、そりゃあ外に目を向けると思いますよ（笑）。

――9月6日に東京ベイNKホールで、ジェイソン・デルーシアと初防衛戦がありましたよね。その試合後にリング上で「チャンピオンて何なのかとか、ずっと悩み続けて、迷うことも多かった」と言ってましたよね。

近藤　それはやっぱり頭に来てたことが多かったっていうか、気にしてないことはないんですけど、いろいろ言われると気分が悪いっていうか。なんでずっと勝ち続けてチャンピオンになったのに、こんなに言われなきゃいけないのかなとか。で、こうでなきゃいけないとか、ああでなきゃいけないとか、結構言われるじゃないですか。そう言われると、そうしなきゃいけないのかとか……。

船木さんに引導を渡すのは僕だと思ってるんで

――それで、「もっとこれからも自由に闘っていきたい」って、強調したつもりかはわからないけど、「自由に」という言葉が何回も出たでしょ？

近藤　そうですねえ。

――やっぱり不自由なんじゃない？（笑）

近藤　いや、不自由ではないですよ。自分で自分を制約してたような感じがあったんで。

――「パンクラスは自分の後についてくるものだと思っている」とも言ってましたね。

近藤　それは要するに、言ってみれば無責任な発言をしたと思うんですよ。「好きにやらせてもらう」みたいなことをリング上で言って。「チャンピオンはこうあるべきだ」っていうのを、もう拒否したっていうか。

――おお、拒否した。

近藤　「俺は俺でやるんだ」って。ハッキリ言って無責任だし、捨てるつもりはないけど、その俺にパンクラスがついてくればいいんじゃないかって。ちょっと強気なんですけど。

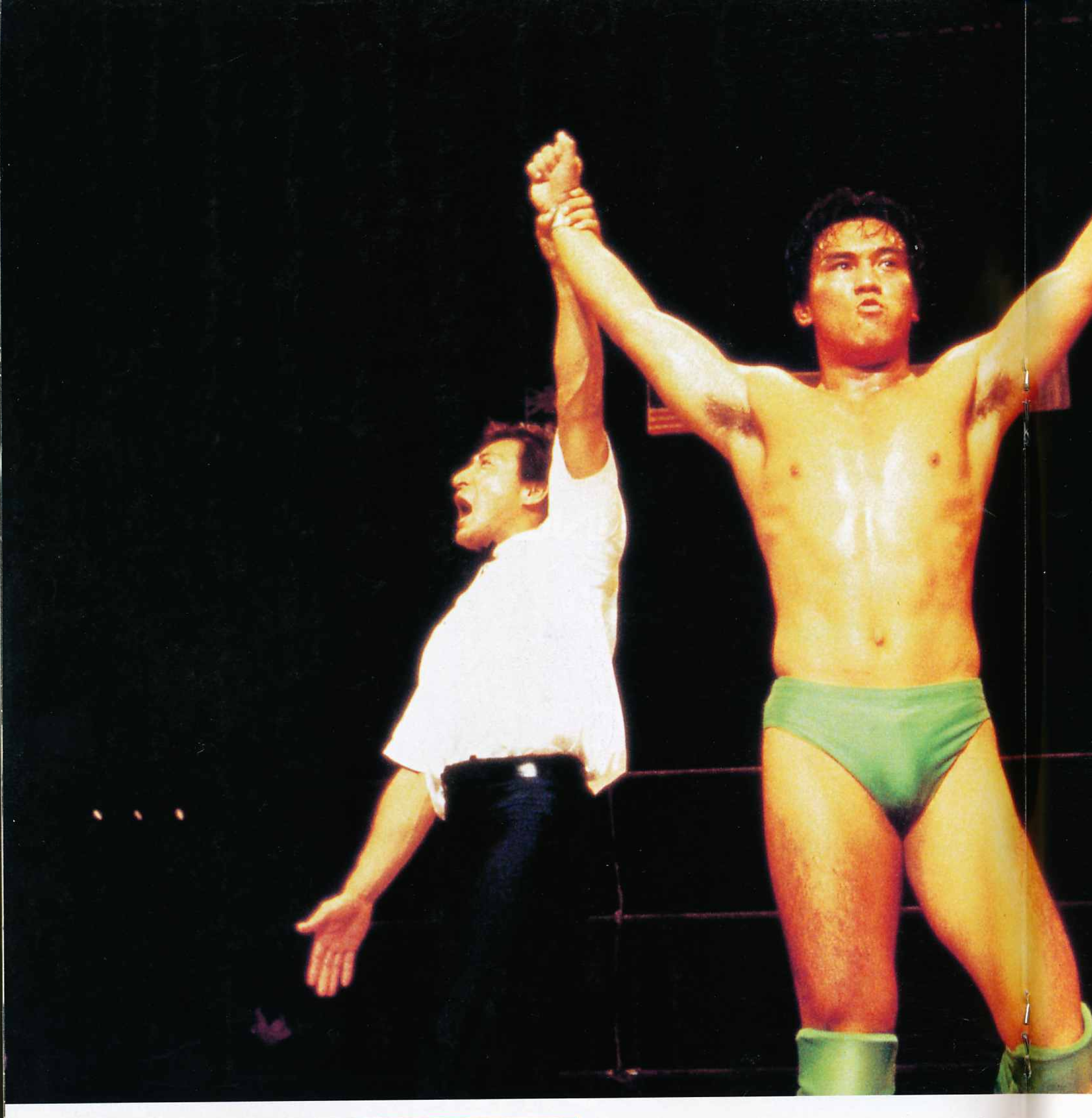
――そんな近藤選手、12月20日に横浜文化体育館で船木誠勝さんとのタイトルマッチが決まりました。まだ2カ月くらい先ですけど、どうです？

近藤　そうですね。やっぱ意識します。今度は、ケリをつけてやりたいですね！

――おお、ケリを！

近藤　船木さんに引導を渡すのは僕だと思ってるんで。僕が引導を渡してやらないと、いつまでも安心して辞められないと思うんですよ。

――前の船木戦で「格闘技的には俺の勝ちだ」って言われたんですよね。



近藤有己

Yuki Kondou

近藤　まだ、僕に任せきれない部分があると思うんですよね、絶対に。僕でもまだ、いまの僕には任せきれないし。

——自分で考えても？

近藤　ヒヤヒヤしますからね。この前の船木さんとの試合でも躊躇しましたから。それでも勝てたからよかったけど、あれで負けてたら、絶対に後悔しますよ。甘かったですからね。今度は辛口でいきたいですよ。次の試合が、船木さんとの最後の試合になるかもしれないじゃないですか。だから、絶対に後悔しないような厳しい攻めでいきたいですね。

（97年9月30日、パンクラス横浜道場にて収録）

11月16日（日）『1997神戸ファッションマート大会』

全7試合　対戦カード決定

第1試合	10分1本勝負	窪田幸生vs金宗王
第2試合	10分1本勝負	冨宅飛駈vs長谷川悟史
第3試合	10分1本勝負	渋谷修身vs美濃輪育久
第4試合	10分1本勝負	山宮恵一郎vs伊藤崇文
第5試合	10分1本勝負	國奥麒樹真vsオマー・ブイシェ
第6試合	20分1本勝負	船木誠勝vsジェイソン・ゴトシー
第7試合	15分1本勝負	近藤有己vs髙橋義生



KINGDOM

原チャリが最も似合う“平成のレスリング・マスター”

桜庭和志

もしかしたら、
飄々としたこの男が、
”プロレス界の秘密兵器“
かもしれない――!!

聞き手／山口昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／浜田孝一
photographs by Kouichi Hamada

—そういえば、メチャクチャ酒乱っていう噂を聞いたんですけど（笑）。

桜庭　いや、そんなに……。

シャコタン志野　ウソですよ！　ボク、2回も身元引受人になってますから。

—只今の証言は、キングダムの広報・志野氏でした（笑）。

桜庭　飲まされて、わけがわからなくなっちゃって、事務所の車のフロントガラスを壊したりしましたね。

シャコタン志野　あと、タクシーの運転手に後ろからスリーパー・ホールドをかけて、「金はいらないから頼むから降りてくれ」って言われたんですよ。

—ガハハハハ！　酒飲んでそれだけ豹変するのは、普段おとなしいのがストレスになってるんですかね？

桜庭　たぶん、そうですね（ニヤニヤ）。

—じゃあ、もともとは凶暴な性質を持ってる？

桜庭　そうかもしれないです。

—怒ったら怖いタイプだなっていうのは何となくわかりますけどね。話は変わるんですけど、桜庭選手って強いですね！

桜庭　（照れ笑い）でも、昔レスリングやってた頃と比べると「体力落ちてるな〜」と思いますよ。

—アマチュアの時より体力落としてどうすんだ！（笑）。



桜庭　だって、ボクは73キロくらいしかなかったですから。それを増やしちゃったから……ボク、昔は結構スタミナあったんで、そのときと比べると全然体力が落ちてますよ。

—じゃあ、プロになって自分が確実に強くなってるなという手応えは？

桜庭　それはありますね。技でもキレイに入れるようになると、「あ、前よりはウマくなってるな」と思います。

—桜庭さんの場合、強さがウマさの中に隠れちゃってるっていう部分は確かにありますよね。

桜庭　いや〜、でも試合を途中であきらめようかなと思うことありますよ（ニヤニヤ）。

—実に正直ですね（笑）。インターの頃、新日本と対抗戦をやってたときは楽しかったですか？

桜庭　あれはあれで、別の意味で面白いですよ（ニッコリ）。

—吸収できる部分はありました？

桜庭　お客さんにわかるように、自分の気持ちを伝えるという部分では凄いと思いました。でも、ボクの身にはなってないですけど。そういうのヘタなんで（笑）。でも、「あっ、アイツは相手を殺る気なんだ」という気持ちを伝える部分では凄いと思います。

—プロとしての表現力ですね。





なく破っ
クルに関
イケてる
のか、ナ

プロレスラーらしくみえない？ボクはそっちの方が好きなんです

桜庭　はい。わかりやすいじゃないですか。

――いままで、その新日本との対抗戦とかいろいろありましたけど、一番印象に残ってるのはやっぱり一連の田村（潔司）選手との闘い？

桜庭　はい。

――桜庭さんの中では何が面白かったんですか。

桜庭　とくにお客さんに媚びることなく、それでいてボクらのやってることにお客さんがちゃんと反応してくれたところが……。

――とくにプロとしての表現の方に気を使わずに済んだってこと？

桜庭　そうそう。普通ちょっとは気を使うじゃないですか？　でも、そういうのが全然なかったです。それでお客さんがちゃんと反応してくれたんで。

――田村選手と桜庭選手の技術の攻防に、お客さんが顕微鏡の焦点を合わせてくれたということですよね。

桜庭　そうですね、はい。練習したものをそのまま試合で出せたんで。

――でもね、だからって桜庭さんが表現力がないとは全然思わないんですよ。だってリング上からも飄々としてるというのが伝わってきますもんね（笑）。

桜庭　ハハハハハハ、それが表現になるんですかね？

――うん（笑）。自分を表現するときの方法は、ヤマケン（山本健一）とは正反対のタイプでしょう。

桜庭　タハハッ。

――だから、桜庭さんの伝えたい自分っていうのは、当たり前のようにやって、当たり前のように勝つ。そういう自分ですよね（笑）。

桜庭　昔、「オマエ、もっと気迫出せよ！」ってよく言われて。で、試合中にちょっとだけ出そうとすると、違う自分がボクを冷静に見てて「こっぱずかしいゾ」ってツッコムんです（笑）。

――ツッコミますか！

桜庭　ダメなんですよね。「なんか、カッコつけてるゾ」って（笑）。

――「ヨッシャー、行くぞ～！」っていうのは見せませんもんね。

桜庭　気持ちの中にはありますけど、それを顔に出すとなると違う自分が見ちゃうんですよ。前、垣原（賢人）さんに勝ったときコーナーポストに登ったじゃないですか？　あれも、誰かに「コーナーポストに上がれ」って指示されて。「ええっ、マジ～？」とか言ってコーナーポストに上がって……あれは恥ずかしかったですね。

――9月3日のM・ホレンスタイン戦も、リング上に何の飾り気もなくやってきてペコンとお辞儀して、しかも相

アの上じゃないですか。だからアマチ

桜庭　……（微笑）。

るんですかね？

てきてペコンとお辞儀して、しかも相

手は極真カラテ出身なのに顔面入れて、とくにアピールすることもなく勝っちゃう（笑）。

桜庭　2～3発顔面にパンチ入りましたよね（ニッコリ）。

──で、何度も腕を取りにいっても、技術で極めさせないんじゃなくて力任せに持ち上げたり、ガムシャラに反抗してたんで、桜庭さんはしきりに首を傾げてましたよね。あの場面は面白かったですよ。ホレンスタインの方が、逆に昔のプロレスラーっぽく見えるんですよ。だから要は、桜庭さんって、全然プロレスラーらしくないんです。

桜庭　ああ。

──で、ボクはプロレスラーっぽく見えないのってホントは個人的には好きじゃないんですよ。

桜庭　あっ、そうですか？　ボクはそっちの方が好きなんですけど。

──でしょ？　そこが新しいなと思って（笑）。

桜庭　「いかにも」という感じはイヤですね。

──でも、単に昔のレスラーらしくないっていうんでもないんですよ。「こりゃ桜庭和志には何かあるな」と思い始めたのが、今回のインタビューのキッカケです（笑）。ボクは思いきりプロレスラーの匂いを発散してくれる人の方が好きなんだけど、でも、いまは伝える側も、昔ながらのプロレスラー的な光を纏ってないレスラーにも面白さを発見していかなければいけない時期だと思うんです。観る側も新しいプロレスラー像を組み立てる時期というか。

桜庭　ボクは以前やっていたレスリングの延長だと思ってやってるんです。ただのスポーツだと思ってやってるんで、そういうプロレスラーっぽい雰囲気が出てこないんじゃないですか？

──でも、「プロ観」っていうのは持ってますよね？

桜庭　一応は（笑）。プロってアマチュアの上じゃないですか。だからアマチュアより強くなきゃいけないという考えなんですよ。とくにアピールしなくても、その人が強ければいいんです。

──7月にO・ウィットーとやった時は、ジャーマン決めたじゃないですか。あれはプロとしての意地ですか？

桜庭　あれ、実は5発ぐらいやる予定だったんですよ（笑）。

──確かに相手が軽量なのもあったんでしょうけど、普通アルティメット・スタイルの闘い模様の中ではジャーマン決められないですよね。

桜庭　99％勝てると思ったんで、「ここで普通に勝っても面白くないだろうな」と思ってやったら、その方が面白くなかったですね（笑）。グチャグチャしちゃったんで。

──キングダム内だと実力が拮抗してて、お互いの手の内も分かってるからいい試合にはなるけども、やっぱり手の内がわからない選手とやった方が桜庭選手の持ち味は光りますよね。

桜庭　それ、勧めてるんですか？

──勧めてるんです！　そういう闘いには興味ないんですか？

桜庭　他の団体の人ですか？

──それもいいですけど、他の格闘技の人とか。

桜庭　（ホッとしたように）他の格闘技の選手だったらやりたい……。

──他団体には興味ない？

桜庭　あんまりないですね。ただ会社から「やれ」と言われればやりますけど。自分から進んでは……。

──なんで興味がないんですか？

桜庭　……（微笑）。

──他の団体は弱いから？（ニヤニヤ）。

桜庭　そういうわけじゃないですけど。

──例えばパンクラスには興味ないんですか？

桜庭　興味なくはないんですけど。

──打撃オンリーのK─1の選手と闘ってみたいというのはないですか？

桜庭　もう打撃はいいっスよ！（ニコニコ）。

──金原（弘光）選手は「スタン・ザ・マンとやりたい」って言ってるじゃないですか。

桜庭　金原さんはキックが出来るからいいですけど、ボクは出来ないですから、やりたくないです。基本的にレスリングしか練習しないのは、面白いからそれしかやらないわけで、打撃の選手はレスリングをやらないから面白くないですもん。

──田村選手がいるリングスは？

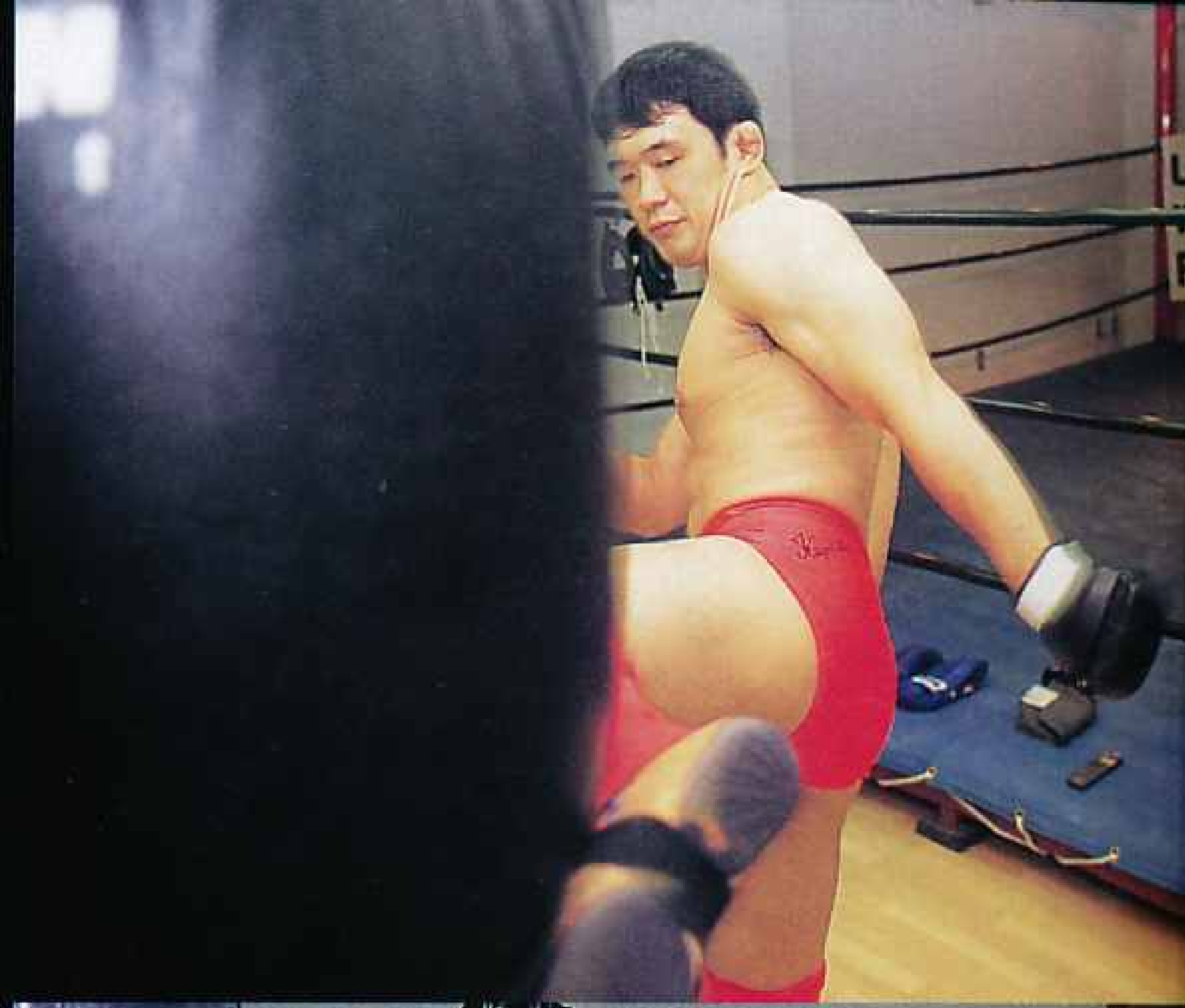
桜庭　リングスのビデオを知り合いの人がたまに持ってきてくれるんですけど、見るとやってみたいなという人もいますね。

──例えば誰ですか？

桜庭　ガイジン！（笑）。

──ガハハハ！　桜庭和志激白！「ガイジンとやってみたい！」（笑）。リングスのガイジンはみんなデカイですよ。

桜庭　でも、デカくても弱い人は弱いじゃないですか？　小さくても強い人っていますもんね。ヒクソンもデカくないけど強いですし。K─1見に行ったときも凄かったですから、みんなこ～んなデカくて（と両手をいっぱいに





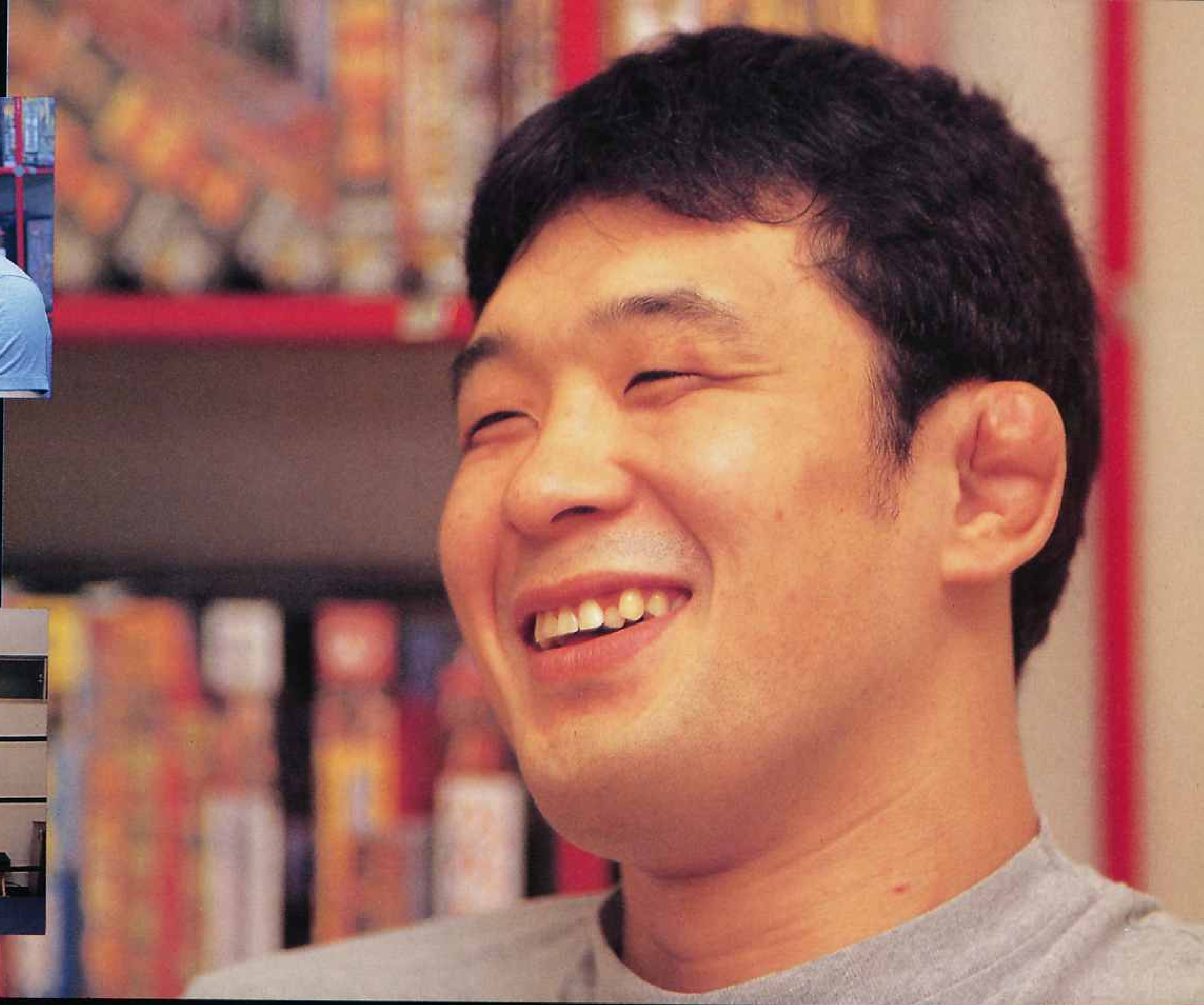
7月にはアルティメット戦士のオーランド・ウイットーを危なげなく破ったが、「打撃の練習は年に2～3回」だという。定評のあるタックルに関しても「パンチが怖いと思って、反応してタックルに入るから、イケてるだけだと思うんですけどね（ニヤニヤ）」。正直なのかウソつきなのか、ナメてるのかナメてないのか、どこまでもわからない男だ！



▲「もう少し自己アピールがあってもいい」というシャコタン志野広報の言葉に、「じゃあタイツの中にお好み焼きでも入れときますか。『1・2の三四郎』みたいに。ボク、あのマンガ大好きなんですよ」。最近、限定解除になり「ハーレーが欲しい」という桜庭だが、とくにバイク好きでもなく、道場へは原チャリで通っているという！



▲初代タイガーマスクからスーパー・タイガーを経て、第1次UWFが好きだったという桜庭。プロレスのことしか頭になかっというが、極真も好きで、極真時代のアンディ・フグのファンだった頃もあったという



▲前田—髙橋の問題については「その辺で誰かケンカしてるとするじゃないですか。ボクは避けて通りますから。人のケンカには割って入りたくないです」と淡々と話した

K.S Kazushi Sakuraba

いま負けたりしてますけど 他の格闘技って強いんですか？

広げる）。「こんなのに蹴られたらどうなるんだろう？」って思いましたね。

——どうなると思います？

桜庭　昔、レネ・ローゼとやったときは、ローキックを喰らったら一週間くらい片足を引きずってましたよ。

——でも実はローキック対策は万全で行ったんでしょ？

桜庭　とくに対策はしてないですよ。ただ、ローキックをやってきたら、それをかわして本能的にタックルに入るって感じで。ただ、打ち込みのときに遠くから入るようにはしましたけど。普通タックル入るときは至近距離から入るじゃないですか？　そうじゃなくて、飛び込むように、離れて入るような練習はしましたけど。

——しっかり対策立ててるじゃない！（笑）。いまの話を聞いてわかる通り、桜庭さんの美学の中には、あんまり物事を大げさに言うのはカッコ悪いという意識があると思うんですよ。

桜庭　ああ、はい。

——だから、桜庭さんの場合はホント掴みどころがないというか（笑）。

桜庭　普段の会話でも、イヤな質問されると受け流しますもん。

——イヤな質問って例えば何ですか？

桜庭　それはイヤな質問だから、言えないですよ（笑）。

——ホント見事に受け流しますね（笑）。

桜庭　初めて会った人なんかに言われますよ、「全然プロレスラーっぽくない」って。一般の人がプロレスラーに対して変なイメージを持っちゃってるんじゃないですか？

——やっぱりUWF以降は、「いわゆるプロレスラーらしくないプロレスラー」って増えましたよね。桜庭さんは自分のことを普通の人だと思います？

桜庭　その辺歩いてたら、柔道とかやってるフケた普通の大学生に見えるんじゃないですか？

——フケた大学生！　ウマイ！（笑）。普通に見られたいという願望があるんですか？

桜庭　そうですね。町を歩いていても、中に溶け込んで目立たないような。パチンコ屋行っても、ただの大学生に見られるような感じでいいです。誰も気付かずに横で打ってた、という感じがいいですね（ニヤニヤ）。

——「懐にドス」タイプですね。

桜庭　隠し持ってるタイプ（笑）。

——喧嘩売られても「知らないぞ〜、そんなことして〜」って心の中で思ってるんじゃないですか（笑）

桜庭　普段はあんまりドスを出さないですから。

——これからトップとして団体を背負

っていきたいなんていう欲望は……ないですよね？（笑）。

だと思うんですよね。だから、タックル出来ないとプロレスラーじゃないん

す！」とかいうスローガンはない？

桜庭　ないです（笑）。その試合にとり

例えば、「オレは世界最強を目指すぜ！向かってくるヤツは全員ブッ倒すぜ、

っていきたいなんていう欲望は……ないですよね？（笑）。

桜庭 それはないですね。

—あ、やっぱりそうきますか。

桜庭 ただ強くなりたい。誰かの上に立つというのはイヤですよ。面倒だし。ただ強くなりたい。強くなりたいから、プロレスの世界に入ったんですけどね。

—じゃあ、プロレス界自体が「こうなったら面白いな」っていう理想はない？ 例えば「ルールを整備して全団体が一緒に闘えればいいな」とか。

桜庭 あ、いいですねぇ。1年に1回でも2回でもみんなで集まって、トーナメントみたいにやるとかね。ひとつの団体を相撲の部屋みたいに考えて。

—それは全日本でも、nWoでも、パンクラスでもどこでもいい？

桜庭 それはダメですね。ちゃんとレスリングの出来る人がいいですね。

—桜庭さんの考える、レスリングの出来る団体ってどこですか？

桜庭 出来なさそうでも出来る人っていますから、団体の限定はないです。出来る「人」だったらいいです。みんなレスラーなんだからレスリングの技術を身に付けて、「プロレスラーだ」って言ってほしいですね。

—パンクラスの橋（義生）選手は「タックルが出来なきゃプロレスラーじゃない」って言うんですけど、その考えに近いんですかね？

桜庭 近いですね。橋選手もボクもレスリングやってたじゃないですか？ レスリングやってる人がお金をもらって試合を見せる、それがプロレスラーだと思うんですよね。だから、タックル出来ないとプロレスラーじゃないんじゃないですかね。

—でも、簡単にいっちゃえば「プロレス」っていう言葉は「プロ」っていう言葉と「レス」っていう言葉の合体じゃないですか。で、「プロ」の方に思いっきり針を振る人もいますよね。

桜庭 はいはい（笑）。

—「レス」の方に思いっきり針を振る人は、UWF以降にようやく増えてきたんだけど、やっぱりその二つが絡み合ってプロレスだと思うんです。だから「レス」の方に針を振ってる桜庭さんの「プロ観」に興味があるんですよ。例えばプロとして「最強を目指す！」とかいうスローガンはない？

桜庭 ないです（笑）。その試合にとりあえず勝つ！

—それだけが目標だと、ストレス溜まりません？

桜庭 そしたらお酒飲めばいいんです（ニヤニヤ）。

—でも、大きな夢を持ってた方が見てる方も面白いじゃないですか。

桜庭 ボクは夢はそんなに大きく持たないんで。大きすぎると夢は叶わなくなっちゃいますから。

—そこなんですよ、桜庭和志の謎は（笑）。夢をでっかく語る人よりも、絶対オレの方が夢を実現できるぞっていう思いを秘めてる気がするんですよ。例えば、「オレは世界最強を目指すぜ！ 向かってくるヤツは全員ブッ倒すぜ、ベイベェ！」って吠える選手がいるとするじゃないですか。アメ・プロじゃないけど。それを横で聞いてる桜庭和志は「あいつ、バッカじゃねえのか」って思っちゃうでしょ（笑）。

桜庭 ヒャハハハ！ そうですそうです、思いますよ（笑）。「そんなこと出来るわけねえ」って。

—「口で言わなくても、オレやっちゃうもんね〜」っていうのがリング上からもっともっと伝わってくると、桜庭和志のスケールってグ〜ンとアップすると思うんですよね。

桜庭 ボクはオーラがないですから。試合の前とかもヘラヘラしてますもんね（ニコニコ）。

—いってみれば、使い古されたイメージ、つまり、怖がられなきゃいけないとかのプロレスラーや昔気質の芸人のイメージってあるでしょう。

桜庭 そのイメージは消していきたいですね。

—おお、力強い！ 今日初めて自己主張しましたね（笑）。

桜庭 イヤですね、普段生活して。

—でも、「プロ」としてそのイメージを消して、いかに銭を取っていくかとなると……専門家やシロウトひっくるめて、誰が見ても強いとならなきゃ銭取ってけないですよ！

桜庭 これから強くなっていきますから、いいですよ。





▲9月3日の後楽園では、極真出身のイスラエル人をこれまた危なげなく破った。ヒクソン戦の前には高田のスパーリング・パートナーもつとめた桜庭。「高田さんは気持ちが強い。ボクらが『もうこの辺でいいや』と思っても、練習をやめないんです」。桜庭自身に関しては、「ボクは気持ちは強くない。すぐ妥協しますから（ニヤニヤ）」。正直なのかウソつきなのか、ナメてるのかナメていないのか、どこまでもわからない男だ！ （写真提供・ナイタイスポーツ）

―グー！　いけますねえ（笑）

桜庭　でも、「あれ、本気でやってんの？」とか聞かれるのが腹立ちますね。だから、そういう昔のイメージは消していきたいですよ。

―一時代前のプロレスは「八百長！」とか言われることを発憤材料にして、世間の目と闘ってきたわけですよ。でもUWF以降、長い道のりを経て、やっとそういうのが根付きかけてきてますよね。

桜庭　多分、もうちょっとですね。

―シューティングのエンセン（井上）選手が「金原は強いし、ヤマケンも強いはず。だけど、バーリ・トゥードに出るなら桜庭じゃなくて金原ネ」「桜庭はブッ殺すという気持ちがあんまりない。バーリ・トゥードに出るなら金原の方がいい」って言ってたんですけど、その言葉を聞いてメラメラと燃え上がってくるものはないですか？

桜庭　いや～、その通りです（微笑）。

―その通りでいいんですか！（笑）。バーリ・トゥードに出たいとかは？

桜庭　出たいと思いますけど、でも人の顔は殴りづらくないですかね？　怒って殴ってるわけじゃないんですよ。それでいて、相手は本気で殴ってきちゃうんですよ。どうしたらいいか、わからないですよ（ニコニコ）。

―バーリ・トゥードはそれをどうにかする競技ですよね（笑）。

桜庭　まあ、グランドに持ってくしかないですね。憎いヤツとか腹立つヤツだったら殴りやすいんですけど。

―キレた桜庭和志も見てみたいなぁ。エンセンは「桜庭は優しすぎて、バーリ・トゥードには向かないかもしれない」とも言ってましたけど。

桜庭　う～ん、そうかもしんない。関節技かけるにも、完璧に極まってるってときはガツンッて極めないですもん。

―それを改善したいなという気持ちはないんですか？

桜庭　ないです。だって相手が憎たらしいわけじゃないんだから、ケガさせる必要もないし。それはホレンスタイン戦ですよ。完璧に極まってるのに痛くしてないだけで、それを力で持ち上げて逃げちゃうから「あれ～？」って感じで。最後には「コイツ、わからないんだな」と思って、逆十字は思いっきり反りましたけど（ニヤリ）。

―今日の結論としては、桜庭さんが描く「新しい時代のプロレスラー像」を確立するためには、「いつなん時キレるまでもなく強くなる」ことですね。



〈さくらば・かずし〉69年7月生まれ。中央大学レスリング部では主将をつとめ、東日本新人戦優勝、全日本学生選手権4位の実績を残す。93年のS・ネルソン戦でプロデビュー。95年の田村潔司（現リングス）との3連戦はファンを唸らせた。最近は、全日本酒乱選手権の座を獲得したという噂もある。180cm／94kg

桜庭　そうですね。いまは他の格闘技に負けたりしてますからね。でも、他の格闘技の人って、そんなに強いんですか？

―いや、ボクに聞かれても（笑）。

桜庭　やってる人がしょうがない人ばっかりだからじゃないですか？　スキンヘッドの人なんか、ケンカが強いっていう触れ込みだったじゃないですか。でも、その辺のケンカだったら口だけで勝ってますもんね。それで、アルティメットで試合して何秒かで負けてるじゃないですか。出されるのもかわいそうですよね。「何でオレが出なきゃいけないんだ」って思ったんですかね？

―でも、もし万が一勝ったら、株が上がるじゃないですか？

桜庭　いろいろ難しいんですね。

―桜庭さんは、そんなこと考えずにやりたいことやってください（笑）。

桜庭　ボクはあんまり考えないんですよ（微笑）。

―でも、実は考えてるでしょ。

桜庭　考えてないようで、実は考えてるようで、結局、考えてないんです。

―ガハハハ。でも、桜庭さんみたいに自然体でいたいというのはわかるんだけど、そういうのは知らない人が見ると「プロらしくないな」って見えちゃうじゃないですか。

桜庭　じゃあ、もっとニヤニヤしてましょうか。リングサイドの自分のコーナーに友達がいたら、「いや～、ちょっといまからやってくるから」って感じで（笑）。

―いいですね！　ホテルにある浴衣で首にタオル引っかけて出てくる（笑）。でも、もっと強くなれば自然と標的にされるし、背負うものも増えてきて自然に変わってきますよ。そういう桜庭和志を早く見たいですね。

桜庭　ボクとしてはイヤですけど、そういうもんですかね？（ニコニコ）。

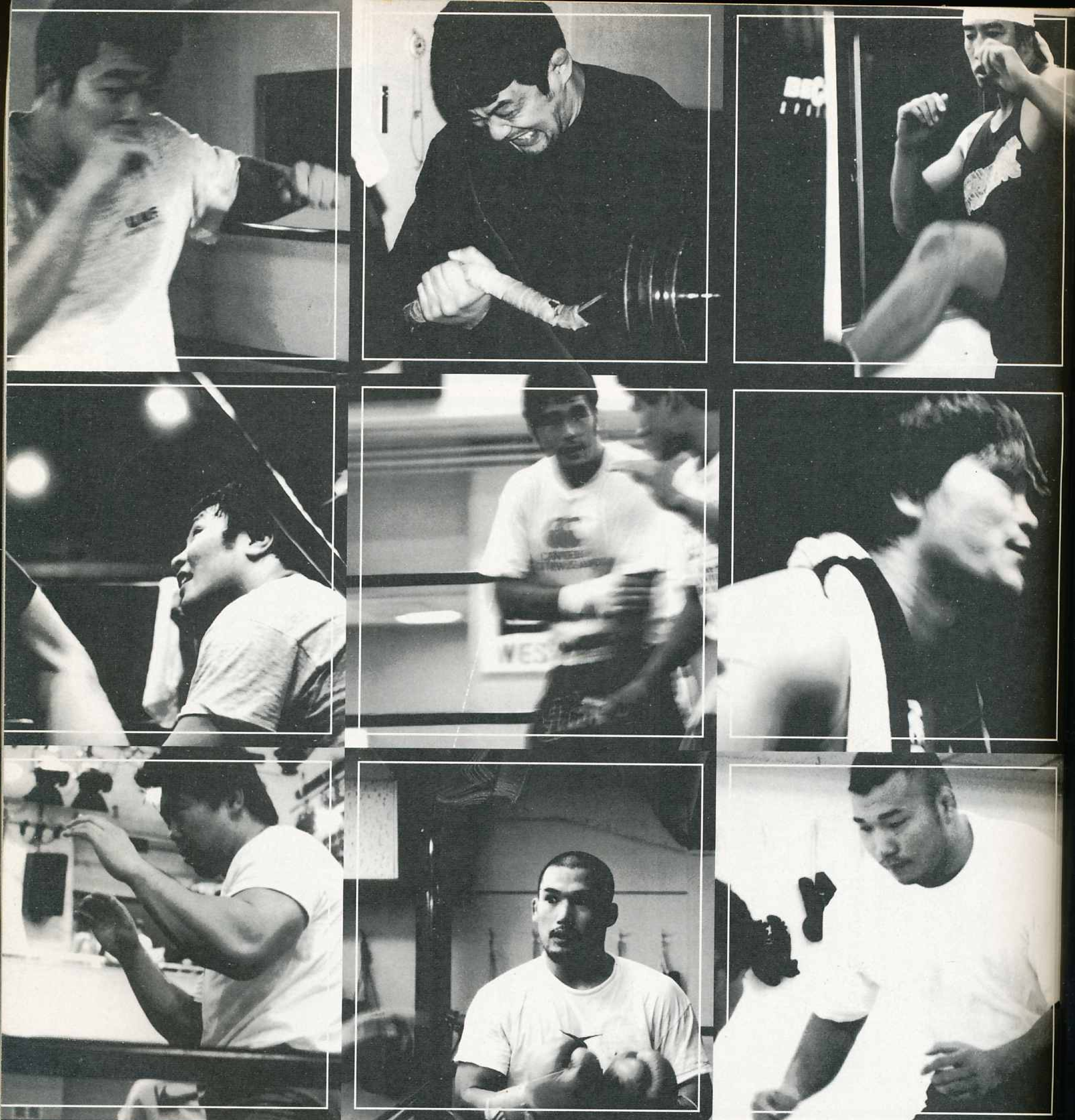
―そういうもんです！　今日はありがとうございました。

【97年9月25日、キングダム応接室にて収録】

キングダム日程

11.3	後楽園ホール『新世界』 桜庭vsダグラス、安生vs金原、佐野vs高山　他、新王国に好カード続出	18：30
11.15	函館市民体育館『BIRTH TOUR97』	18：30
11.19	札幌中島体育センター『BIRTH TOUR97』	18：30
12.2	博多スターレーン『BIRTH TOUR97』	18：30
12.8	鹿児島アリーナ『BIRTH TOUR97』	18：30

問い合わせ＝キングダム03・3224・1151



PROFESSIONAL WRESTLING KINGDOM BIRTH TOUR '97

KINGDOM "BIRTH TOUR '97"

KINGDOM PROFESSIONAL WRESTLING

お問い合わせ・お申し込み
PROFESSIONAL WRESTLING KINGDOM
TEL ; 03 3224 1151

"HAKODATE LIVE"
11/15 (SAT) 函館市民体育館

"SAPPORO LIVE"
11/19 (WED) 札幌中島体育センター

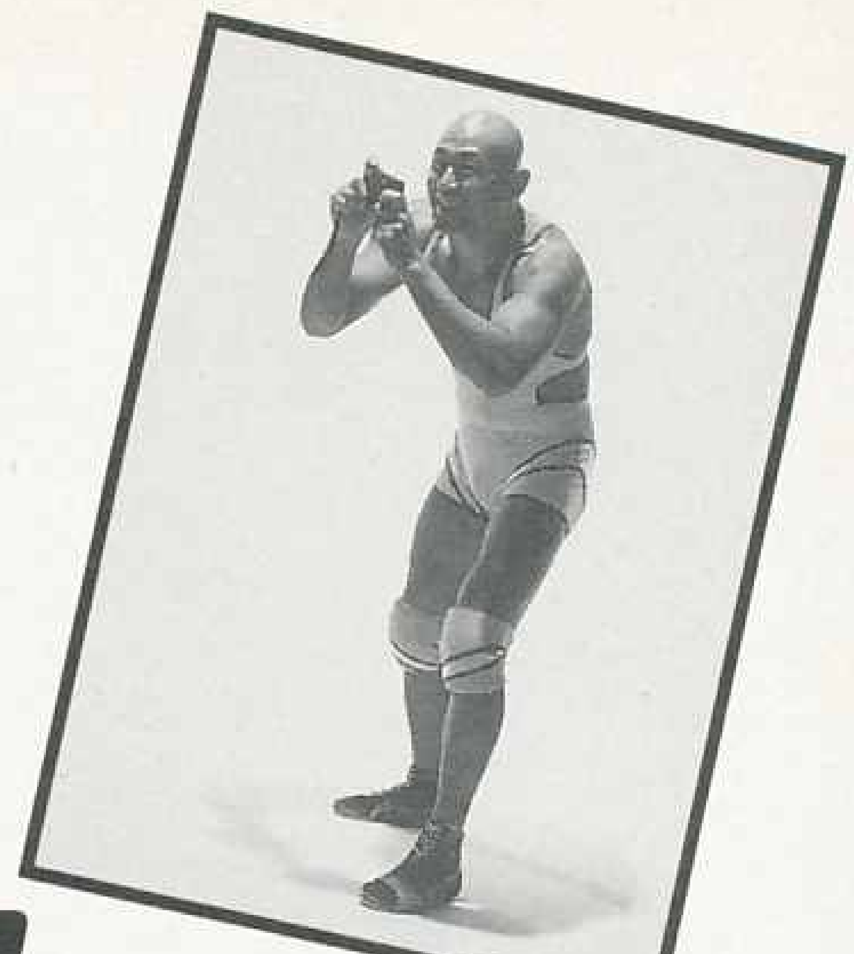
"HAKATA LIVE"
12/2 (TUE) 博多スターレーン

"KAGOSHIMA LIVE"
12/8 (MON) 鹿児島アリーナ

格闘探偵団 BATTLARTS

アレクサンダー大塚

ゴリさんのみちのくひとり旅日記'97



文／アレクサンダー大塚
撮影／大塚ペー&島田パー子

9月14日（日）

なつかしい東北の香り。約1年ぶりだ。さぁ今日から、久々のみちプロシリーズの参戦である。

ここでひとつ自分の中でひっかかることがある。みちプロシリーズ参戦で、自分一人というのはどういうことなんだ!! でも本当は決して一人ではないのだが（他3人）、自分にとってのグッドパートナー"ローリングサンダー米山"こと、米山サトシがいない……。昨年の今頃は二人で（みちプロ）シリーズを回っていたはず。一人は淋しい。

そして更に、ひとつ付け加えておくことがある！ ここまで読んで、読者の中でオレのことを"ホモ"と思ってる人がかなりいるのでは？ 私はっ！ 決してっ！ "ホモ"なんかではなーい！ "ホモに人気のレスラー"なのだ!! このことを間違えてはいけない。

スタートからわけのわからないことを書いてしまった。とにかく自分一人だが、このシリーズを自分にとって意義あるシリーズにして、一回りも二回りも大きくなって帰りたいと思っております。

まだ1日終えただけだが、このシリーズのために練習してきたことがある。残り9日間で出せるチャンスがあればいいが……。それは会場に来ての、お・た・の・し・み!! 明日また生きる！

アレク♥

9月15日（月）

バトラーツの北海道シリーズの時、参戦して頂いていた星川さんに『GORI'S GYM』のTシャツをプレゼントした。星川さん曰く、練習中に着ていたけど誰も気付かず、練習が終わる頃に某選手が「何で『GOLD GYM』がトクシマなん？」と、ようやく気付き大爆笑だったそうだ。その後すぐのシリーズだっただけに、みちプロ選手勢に「そのTシャツいいなぁ〜、欲しいなぁ〜」と言われっぱなし。身内ウケはいいのに、会場での売れ行きはイマイチ……。グゥエ〜。

しかし、Tシャツの売れ行きとは反比例、アレクの会場人気はなかなかのもので、帰りのバスに乗り込む途中でサインを求められたり、写真を撮ったり、手紙を頂いたり。よく手紙を頂くファンの方と少し話をしていると、○○さんが「アレクも地方へ来ると暴れん坊だねェ（ニヤニヤ）」とツッコミを入れてくる。

ここでひとつ言っておきたいことがある！ オレだって一人の男！ そりゃぁ一人や二人、女と遊ぶことがあってもおかしくはないハズ！ あっちの港、こっちの港、港々に女が、かりに、かりにいたとしてもいいではないかっ！ が、しか〜し、オレはホモかもしれないという説もある……。どちらが真実か？ それはオレのすべてを知っている人のみが知っている……。んむぅはぁ〜。

そんなアレクも、また明日生きる。

アレク♥

9月16日（火）

ナァーシャァー!! 本日、みちプロ3戦目にして、私、アレクがみちプロ正規軍として海援隊★DXと対戦することになった。イヤァー、約1年ぶりのみちプロタッグ、しかも今回はサスケさん、浜田さん、自分の6人タッグである。以前、タッグで出た時は8人タッグだったが……

あぃ〜や！ 一人少ないぶん、自分にかかる負担が大きくなるわけで、試合前も不





▲マンガを読んでるフリして、新たなイタズラを思考中の石川社長。



◀キレイ好きのアレク。『GORI'S GYM』を洗う。

▼これが『GORI'S GYM』Tシャツ。お客さん来なくたっていいんだぁ〜。



▶石川「ゴリさん、ウンコ浮いてるよ」
アレク「石川さんが入れたんでしょー!! もう、ぜんぜん洗濯にならないよぉ!!」





▲また二人のバカ社長が二人揃ってバカな本読んでるよ……。

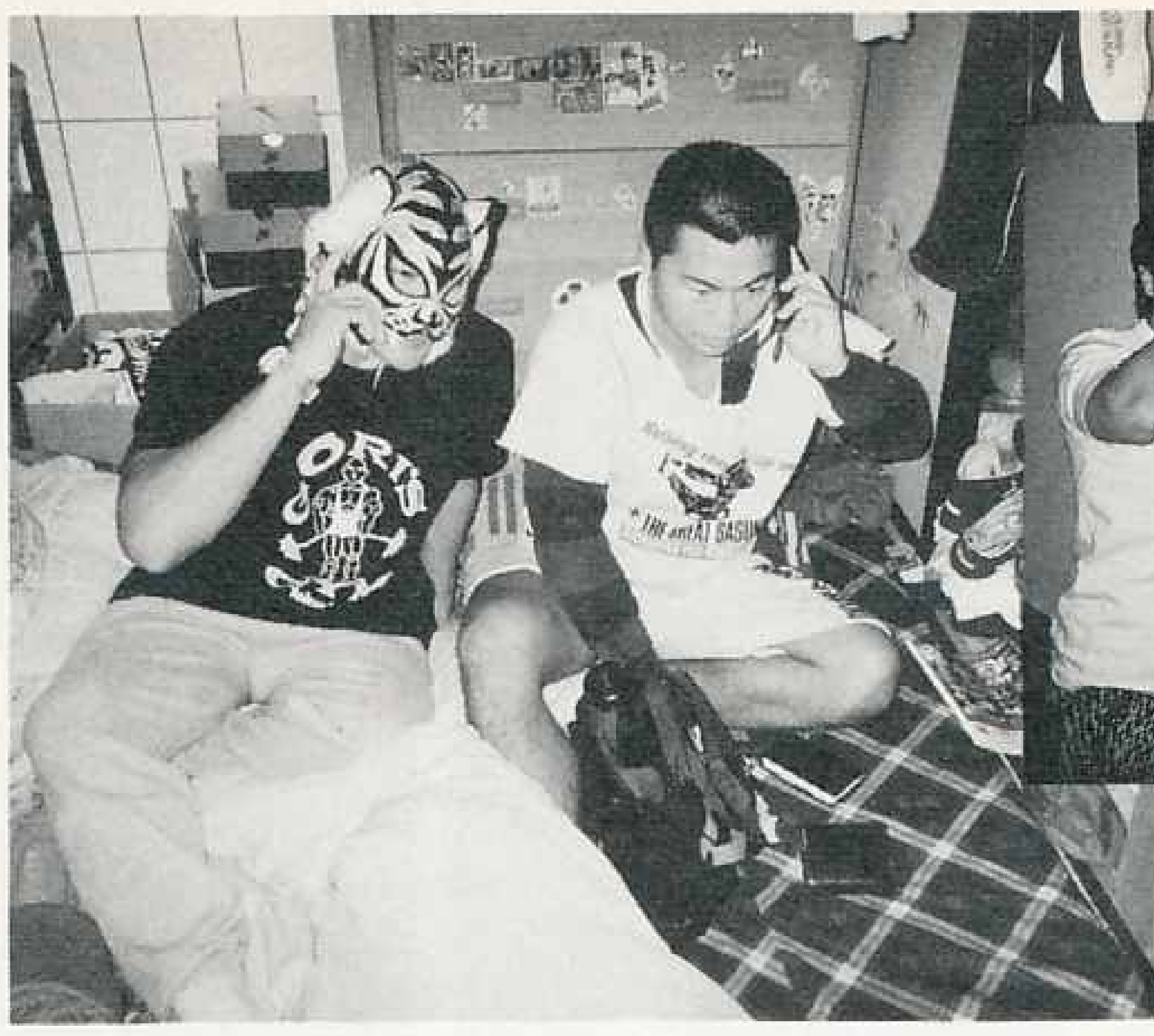


▲どっちがタイガー？



▼LOVE LOVE タイガー♥





アレク「あっ、星川さん、ボク、ボクですよぉー、タイガー、タイガー」
星川「えっ？　アレクさんでしょぉー!!」



アレク「タイガーさん、パンツ洗いましょうか？」
タイガー「自分でやるからいいですよぉー!!」

▼さて、誰でしょう？



安が頭をよぎる。案の定、試合開始5分くらいで、自分だけ息があがってしまっていた。やはり自分たちのやっているタッグマッチとは、試合のペースがまったく違う。とにかく海援隊に捕まらないように、それを意識して闘っていた。そんな中で、初日の日記に書き上げたことが、早速出せるチャンスがきた！

　が、しかし、試合ではまだ一度も出したことがない。果たして本当に出来るのであろうか？　「もし失敗してしまったら……？」と、頭の中を色々と回るのだった。「でも、ここで出さないと！」と心に決め、場外のディック東郷めがけトップロープを飛び越えた！

　結果は大成功！　アレクサンダー大塚、レスラー人生初の"ノータッチトペコンヒーロ"であった。めでたしめでたし。

　ということで今日はちょっと試合のことについて書いてみました。楽しいことは、まだまだこれから……。

アレク♥

9月17日（水）

あぃ〜や!!　今シリーズが始まってから初めての"ドーム"と名の付く会場での試合である。ドーム、ドーム、ドームと言えば密閉された空間という感じがする。皆さんはどう思いますか？

　みちプロでもリングは社長自ら作るのである。以前の『紙プロ　RADICAL』インタビューでも言った通り、人に頼み事ができない性格じょう、みちプロはオレにとってすごく良い。自分も手伝いながらリングを作れるからだ。そのリング設営中のこと、ボクの大好きな4代目タイガーがコーナーマットを付ける作業をしていたので手伝おうと思い近づくと……。

タイガー「なぁーに、また寄ってきてんですかぁー（笑）」

アレク「（無言で）ウィンク♥」

タイガー「変なことしないでくださいよー」

　これにオレはオナラで返事をした。……したはいいが、丁度その後ろでサスケさんが頭をかがめて物を取ろうとするとこだった。な、なんとっ！　オレはサスケ社長の顔面めがけてオナラをしてしまったのだった!!　「どうもスイマセン、本当スイマセン」オレは誠心誠意込めて謝った。「いやぁ〜、いいよ。全然問題ない！　ガハハハハ」サスケ社長の器のデカさを思い知らされた瞬間だった。さすがオレの大好きなサスケ社長。ジョークがよくわかる方だ。

　……大好きなサスケ社長？　イカン、さっきタイガー選手のことも大好きって言ったばっかりだ。サスケ社長ゴメンなさい。ボクの一番大好きな人は、サ・ス・ケ・社・長、ただ一人だけで〜す♥

　ま、その後も結局オレのオナラは止まらず、ドームいっぱいにオナラが広がったという一日でした。

　明日また生きてる？

アレク♥

9月18日（木）

♪いい湯だなぁ〜、アハハン。いい湯だぁなぁ〜、アハハン♪　ということでェ、今日は昨年シリーズ参戦した時によく行ってた『マース』というサウナに行きました。入口に立っているおばさんも私のことを覚えていてくれました。

おばさん「お久しぶりでェ〜」

アレク「おばさんの顔を見に来ました。次はいつ来れるかわかんないんで」

おばさん「エッ！　まだ当分いるんでしょ？」

アレク「いや〜、来れないから今日来たんですよぉ」

気付かず、練習が終わる頃に某選手が「何

かる負担が大きくなるわけで、試合前も不



◀愛しのダーリンの夢を見ながら、次の会場までひと休み。



▶シノさん、ちゃんと『"AO"コーナー』使ってくださいよ！

▼島田さん！　そんなとこでしょんべんしていいんですかぁ！







▶宇田川さんまでそんなとこでしてぇ!!　ダメですよぉ！



▲島田さん、車ブツけないでくださいよ。笑顔はいいんだけど……。



▼さぁーこれから、アレク得意のリング作りだ!!



◀タキザワ専務、チケットいっぱい残ってますねェー。



▲『マース』のおばさん。う〜ん、今でも充分イケるね！



▲星川さんも好きッスね〜。もしかしてイケるくち？



▲さぁ、キレイに洗って今夜も…♥



◀星川さん、オレ、背中流しましょうかぁ？





◀イヤ〜ン、オレのは写さないでぇ〜！







▶フゥー、星川さん、イイケツしてるぅ〜。

……と、おばさんとの会話を終え、お湯へ入りました。

いつものように（昨年と同じように）、星川さんに背中を流してもらい（これがまた気持ちいいんだ♥）、星川さんとタイガーさんと3人で湯船につかり「あ〜〜〜〜〜っ、いい湯だ」とひとっ風呂あびて、次またいつ来れるかわからないんで、おばさんと記念写真を1枚パシャッ。

おばさん、またこっちへ来たら顔見に来るね！

今日は岩手の私のおばさん1人目の紹介ということで。

明日は待ちに待ったもう一人のおばちゃんの紹介をするために、早起きして行くところがあるんで、今日はこの辺で……。

アレク♥

9月19日（金）

おばちゃぁ〜ん!! 元気だったかぁぁ〜い!! 今日は昨年みちプロシリーズに参戦した時、お昼ご飯にお世話になった『みよし食堂』のラブラブおばちゃんに会うため、早起きして食堂へ行ってきました。

おばちゃんとも約1年ぶり。店の入口を入る瞬間はもうドキドキ。店に入ると1年前と何ら変わらぬおばちゃんの笑顔が見えた。タイガー選手や星川選手が店に行くたび、「あのお坊さんは来ないのかい？」（おばちゃんは私のことを"お坊さん"と呼んでいる）と、毎度毎度口がすっぱくなるくらい言っていたそうだ。だから私の顔が近くなるたび笑顔が増していきました。おばちゃんはあまりの嬉しさに（？）、私の注文した"トリアジツケ定食"を、"トリミソ定食"と間違えて運んできた。私が「これ、注文したんと違うよ」と言うと、笑って「まぁまぁ、カンベンしてよ」だって。

おばちゃんの笑顔にはかなわないや。まっ、1年振りにおばちゃんの顔を見れてよかったよかった、元気そうで。

それじゃあまた次に来る時までアディオース!! おばちゃぁ〜ん!!

アレク♥

9月20日（土）

ナァーシャー!! 気合いはめーいっぱい入ってたんだけどなぁー。

今日も正規軍に加わりメインの6人タッグに出させてもらった。「16日の試合のようにはならないぞ！」と気合いを入れてのぞんだが、また私が取られて負けてしまった。海援隊のフォローのうまさがあるのも当然だが、私自身にも何か足りないような気がする。

う〜〜ん？ う〜〜ん？ エ〜〜ッと？ エ〜〜ッと？

わかった！ そうだ、私にはやっぱりアレが足りない！ 昨年みちプロシリーズに参戦した時は"ローリングサンダー米山"こと、米山サトシと来てたんだ。大好きなダーリンがセコンドにいないから、100％以上の力が出ないんだぁー。淋しいなぁー！ 悲しいよぉー！ ローリングゥーーーッッ！ カモーーーン!!

ダーリンがセコンドにいないまま、今日もディック東郷のダイビングセントーンで私はフォールを取られてしまった。

しかし、また明日生きる!!

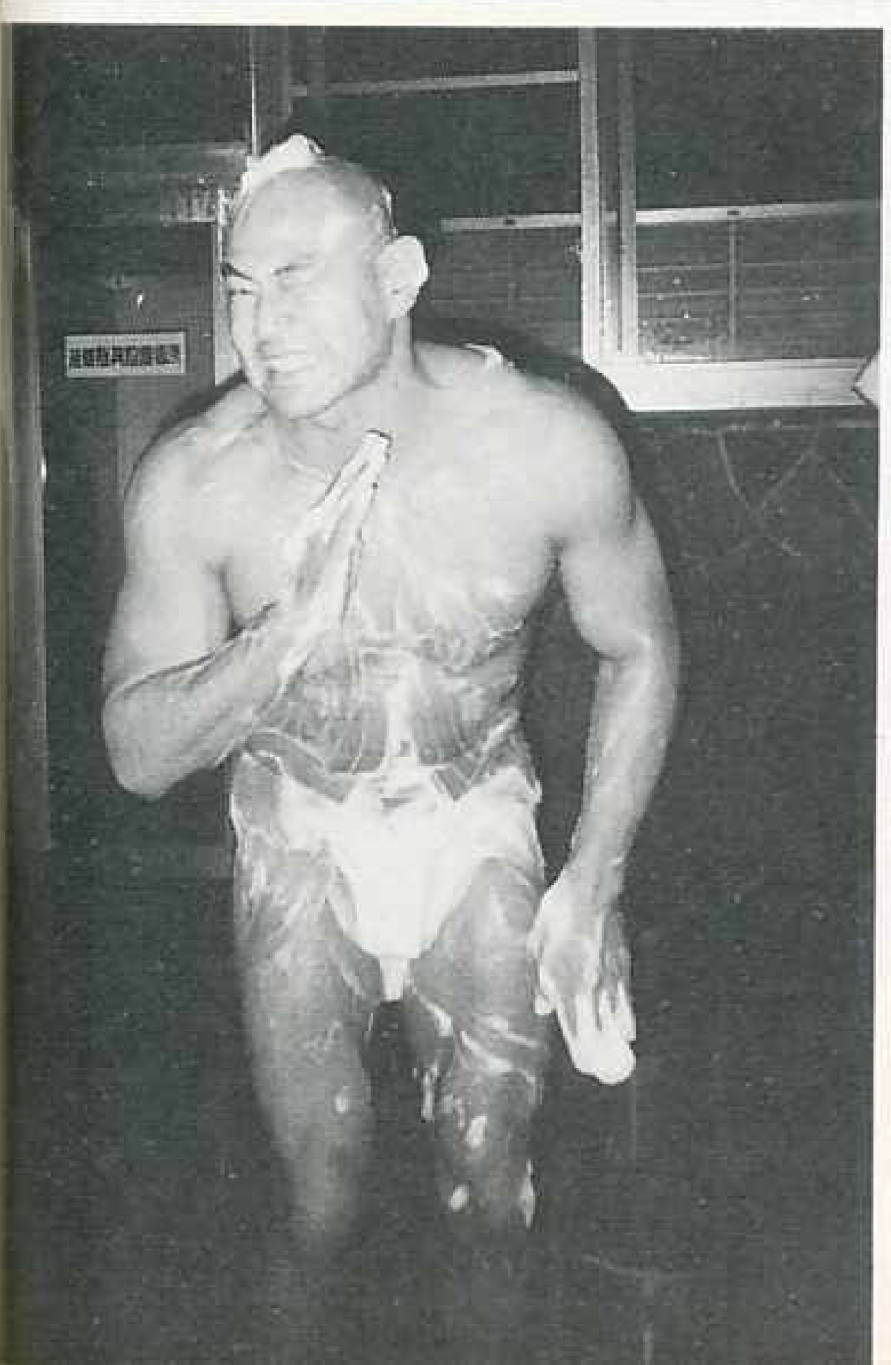
アレク♥

9月21日（日）

デビル"ビィーム!"

アレク"ネムーイ!"

あー、ねむい、ねむい。今日はめちゃんこねむいです。今朝8時にホテルを出発とい





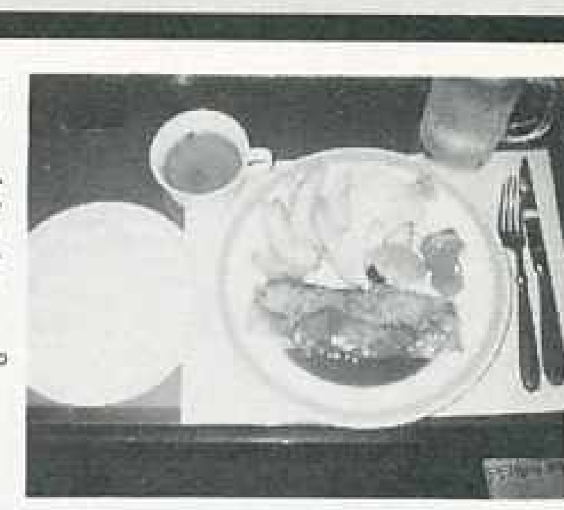




◀えーっ、こんなの撮るんですかぁ？ ダメダメ、ダメですよぉ〜。……と言いながらちょっとだけよん♥



◀瀬野、いい笑顔だ。



▶盛岡のホテル『○○』でしか食べられない！ しかもレスラーしか食べられない（？）特別メニュー「みちのくスペシャル」。ゴハンおかわり自由。





◀岩手の恋人？ 彼女が「みよし」のおばちゃんです。キレェーショオ!!

◀テッドさん、そんなとこで出さないでぇ!!

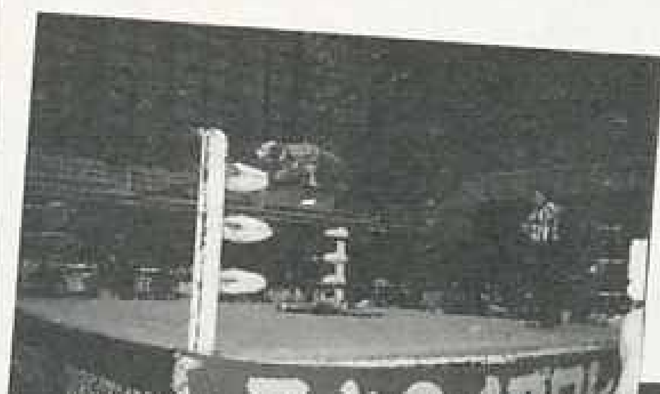
うこともありますが、それ以上にきのうの夜はなーんだか寝付きがフルイ夜であった。

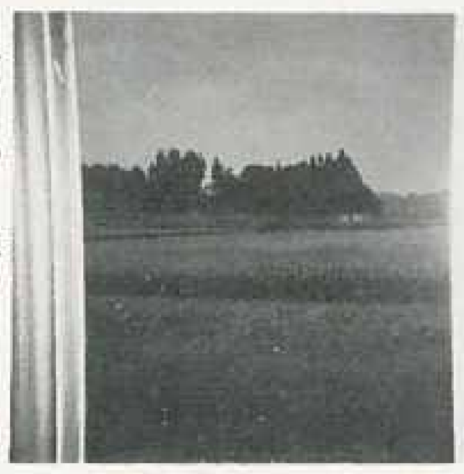
のが事実ってもんで、そこでネタを提供してくれたのは『紙プロ』の人たち。自ら最

ヒーロ"



◀グゥアッハッハッハ、海援隊の控室を激写！





▶バスから撮ったみちのくの風景。





◀瀬野！　オマエもホモか？……オマエも？？



◀**アレク**「浜田さん、Tシャツいっぱい売れるといいですねぇー」
浜田「よろしくね!!」
アレク「たのむよ!!」



◀テッドさん、そんなとこで出さないでぇ!!



て「まぁまぁ、カンベンしてよ」だって。

うこともありますが、それ以上にきのうの夜はなーんだか寝付きがワルイ夜であった。結局1時間か2時間くらい寝れたかな？って感じだったので今夜は早く寝る!!　あーねむい！

また明日も生きてっかなぁ？

アレク♥

9月22日（月）

今日も生きてるぞぉー!!　ということで、いきなり何でこの言葉かと言うと、私、アレクサンダー大塚は今日もみちプロ正規軍に入り、海援隊と6人タッグをしました。今まで1回目、2回目ともトペ&トペコンを出したので、今日もチャンスがあれば……と思っていたら再度チャンスが訪れる場面が！　相手は鉄柱の後ろ……、せっかくのチャンスと思い、そのままリングを対角線に走り私は飛んだ！

鉄柱を飛び越え、ディック東郷に見事！トペコンヒーロが命中したっっ!!

が、しかし、結局のところ、また私がディック東郷にカウント3つ取られてしまい、試合は終了。

でも、この鉄柱越えノータッチトペコンヒーロを、私の大好きなローリング（今日から来てたのだ）に見守ってもらえて、アレクは"ずぅあわせェだぁったぁー♥

アレク♥

9月23日（火）

今日でみちプロ東北ドームツアーも、いよいよおしまい。スタートした時は「さぁー、これから長い10日間の試合だ！」と思っていたのに、終わってみたら早かった。

最後のネタは？　っていうと、さすがに後半に入ると日記のネタがなくなってくる

ねむいです。今朝8時にホテルを出発とい

のが事実ってもんで、そこでネタを提供してくれたのは『紙プロ』の人たち。自ら最後のネタを作ってくれるとはさすが!!

そのネタは？　というと、23日朝『あいづドーム』へ行くためホテルを10時に出発のハズが、一緒に行く予定の『紙プロ』コンビがいない。10時出発というのに！

結局約6～7分の遅刻でした。会場に行くまでのバンの中は、もちろん「何で遅刻したのか？」の話が始まる。理由は？　と言いますと、これが恥ずかしいことに（笑）、ホテルの宿泊代を払うお金がなくてフロントでバタバタしていて遅れたらしい。しかもプラス「申し訳ございません、電話代もございますので○○○円になります」と言われ、さらにダメェー!!　結局2人で持ってるお金をかき集め（小銭ばっかりだったらしいが）足りないぶんは、後日振り込みってことで強引に話をつけて出てきたらしい。ホント、こういうとこは『紙プロ』らしい……。

これにて『ゴリさんのみちのく旅日記'97』は、おしまい。……と思ったけど、まじめなことをまったく書かずに終わるのも何だなぁと思い、最後くらいはビシッとしめたいと思います。

今年は他団体へたくさん出て、色々と体験してきましたが、やっぱり『みちのくプロレス』は、自分のプロレスの幅を大きくさせてくれるところでした。その証拠に、今回は飛び技を出すことができたし、昨年6人タッグでやっても負けはしたものの、自分も力をつけてきているのを感じることができた。

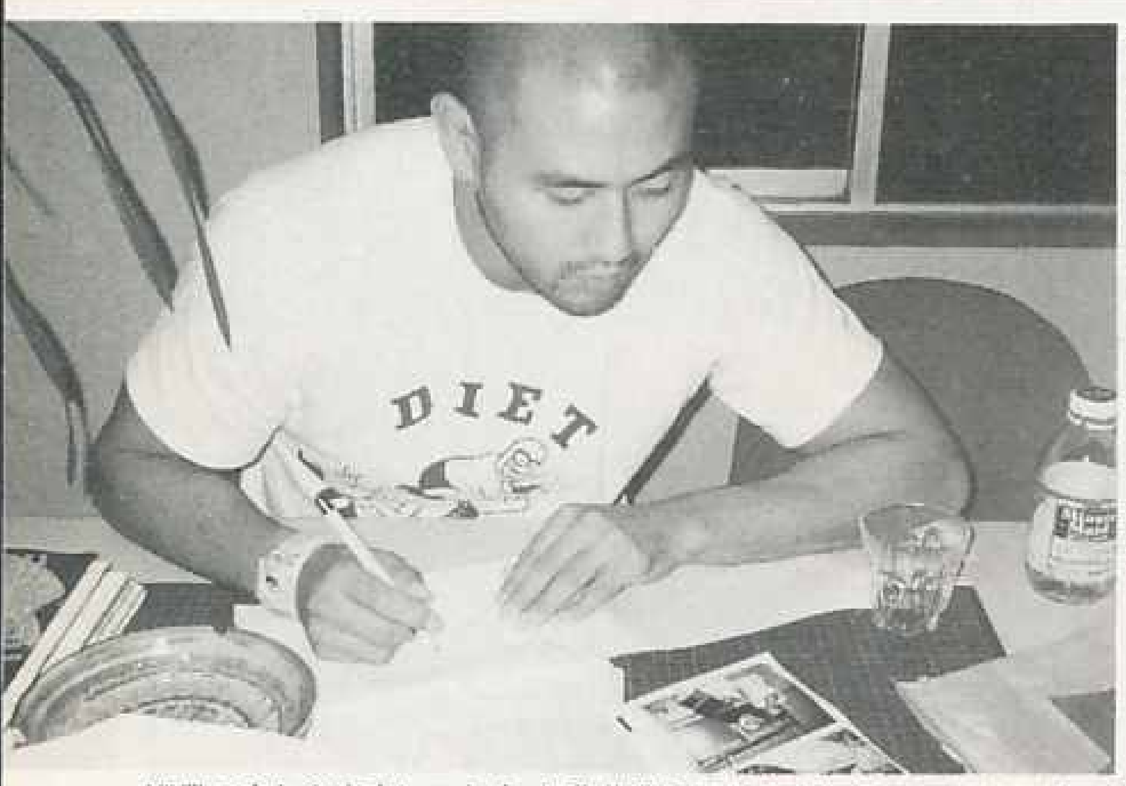
本当にサスケ社長ありがとうございました。

また、いつでも呼んでください。

また来年も『みよし』のおばちゃんに会いに来るぞぉー!!

これにて本当にお・し・ま・い！

アレク改め大塚ペー♥



巡業の疲れを癒すヒマなく、編集作業に駆り出されたアレクサンダー大塚、もとい大塚ペー。しかも、「これじゃあ、意味わかんないよ。ボツ！」と、担当編集者、キラーのものも（冷血姫）に容赦なくしごかれ、「いやぁ、厳しい世界ですねぇ」と肩を落とし越谷のちゃんこ道場に帰って行った。「可能性があるから育てるんだよ。ブチよりは素質あるよ」（ものもも談）大塚ペー、カタブツ君（34歳）の代わりにダブルクロス入りか!?（後日、この話をステーキ・島田広報に振った所、「あんな使えないジジイ（ブチ）はいりませんよ！」と、あっさり却下された。むぅ～残念!!）

▼う～ん、ダーリンの背中見るのヒ・サ・ビ・サ♥





▲ガンバレ!!　このまま順調に体調戻して復帰戦だぁー！



◀何で？何でヨネ原人がオレのTシャツにサインを？



▲出たぁー!!　これがウワサの（？）"鉄柱越えノータッチトペコンヒーロ"だぁー!!　カッチョイイー！



ビデオ初出演のアイドル・レスラーの声を聞け！



「Óre」発売記念 プチインタビュー バイツー ×2

2本立て 本谷香名子（JWP）＆小杉夕子（Jd'）Interview

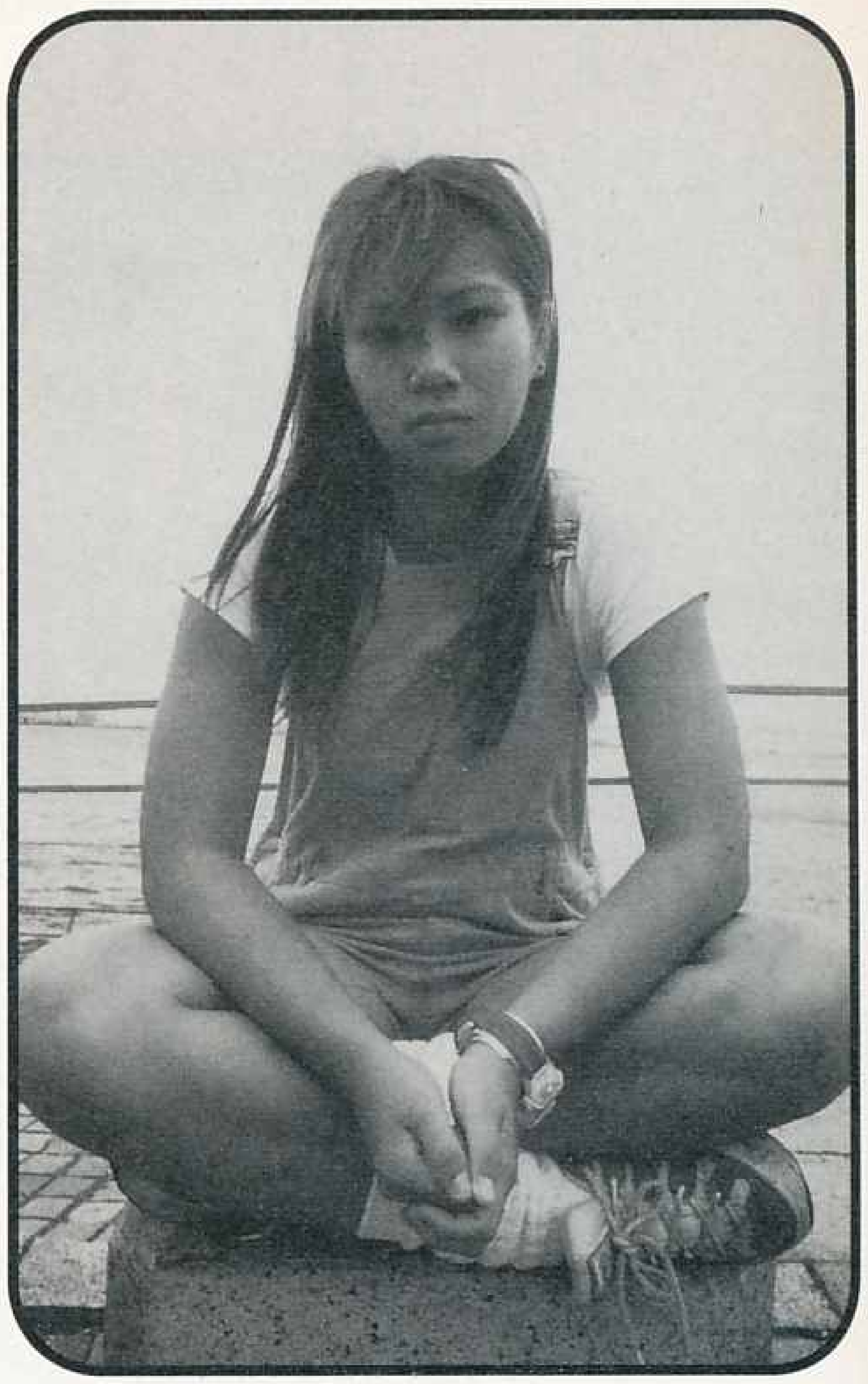
「恥ずかしいから見ないで！」



『Ore』――これは、女子プロファンにとってはたまらない、今が旬のアイドル・レスラーが大挙出演している話題のビデオである！　でも、女子プロに詳しくない人だと「誰それ？」のひとことで片付けられてしまう恐れもあるので、ここでは『Ore』に出演した２人の選手たちの生の肉声をお届けします。彼女たちの天然ぶりを読んで、驚け！

聞き手／坂井ノブ
Interview by Nobu Sakai
撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saitou





小杉夕子 プチインタビュー

女子高生になりたい！20歳で結婚する！

――このビデオを見てて思ったんですけど、小杉選手って千春選手より女子高生っぽいですよね。

小杉 そうですかぁ（テレ笑い）。

――女子高生を意識してそういうカッコしてるんですか？

小杉 そうです。自分も高校行きたかったんで……。

――なんかいやいやプロレスやってるみたいじゃないですか（笑）。

小杉 最初は行きたくなかったんですけども、プロレスの世界に入ってみると「高校行ってからやればよかった」って思うんです。制服を着たかったんで（笑）。

――着りゃいいじゃないですか！（笑）ルーズ・ソックスのコスチュームにしたりとか。

事務局長の信包さん でも、あと3年しかプロレスやらないそうなんで。20歳で結婚してプロレス辞めるって言ってるんですよ。

――は？ 今は女子高生になりたくて、20歳でプロレス辞める（笑）。ナメてますね（笑）。プロレスはあんまり好きじゃないんですか？

小杉 昔に比べたら……でも、ヒマさえあればプロレスのビデオ見てるんで「やっぱり好きなのかな？」って思います。

――スポーツはやってましたか？

小杉 プロレス入る前に、空手を半年だけやってました。

――何の流派だったんですか？

小杉 特にないんです。チビッコと一緒にやってました。

――ハハハ、プロレスやるのにチビッコ道場で腕を磨いてたわけですか（笑）。チビッコとは組手してたんですか？

小杉 え？ 組手って何ですか？？

――ガハハハハハ、凄いぞ小杉！ 組手って、スパーリングです。

小杉 あ、何回かしかやってないです。

――そもそもレスラーになろうと思ったキッカケは何ですか？

小杉 FMWが好きで見てまして、工藤さんに憧れたんです。

――好きな男子もFMWのリッキーさんなんですよね？

小杉 フフフ、はい。

――で、去年の『週プロ』の選手名鑑を見るとバトラーツの小野武志選手が好きって書いてあったんですけど。

小杉 （恥じらいながら）はいぃ。すぐ気が変わるんです。

――もう小野選手はどうでもいい？

小杉 （モジモジしながら）どうでもいいってわけじゃないんですけどぉ、カッコいいですぅ。

――ウチの編集長は小野選手に「バカは来るな！」ってよく言われてますよ。で、ウチの編集長は「あの小僧だけは死ぬまでに10回殺す」って言ってますけど。まあ、どっちもコドモなんですけどね（笑）。

小杉 （一転、泣きそうな表情になって）そうなんですか……。

――あっ、ショックだったんですか？（笑） どんな想像してたんですか？

小杉 もっとクールなオトナの人だと思ってました。（とうろたえる）

――では、気を取り直して『Ore』の話を伺いましょうか。

小杉 ビデオの撮影は初めてだったんで緊張しました。

――小杉選手の作ったカレーとサラダは衝撃でしたね。（下段参照）

小杉 （手で顔を覆って）恥ずかしいです～。サラダは食器を出しますと、洗うのが面倒臭いのでいつもボールに入れてるんです。

――難しいですね、小杉選手は（笑）。では、最後にJ'dをまだ見てないファンにメッセージがあったらお願いします。どうぞ！

小杉 ぜひJ'dの会場に来てください。

――『Ore』を見てないファンにもメッセージをどうぞ！

小杉 普段の自分が出てると思うんで、もしよければ買ってください。

――「もしよければ」って（笑）。あんまり見られたくないんですか？

小杉 はい（笑）。（手で顔を覆って）恥ずかしいんですぅ。

――恥ずかしがり屋の小杉選手にいろいろと語って頂いきました（笑）。ありがとうございました。

【97年9月17日、横浜ランドマークタワー内のアンナミラーズにて収録】



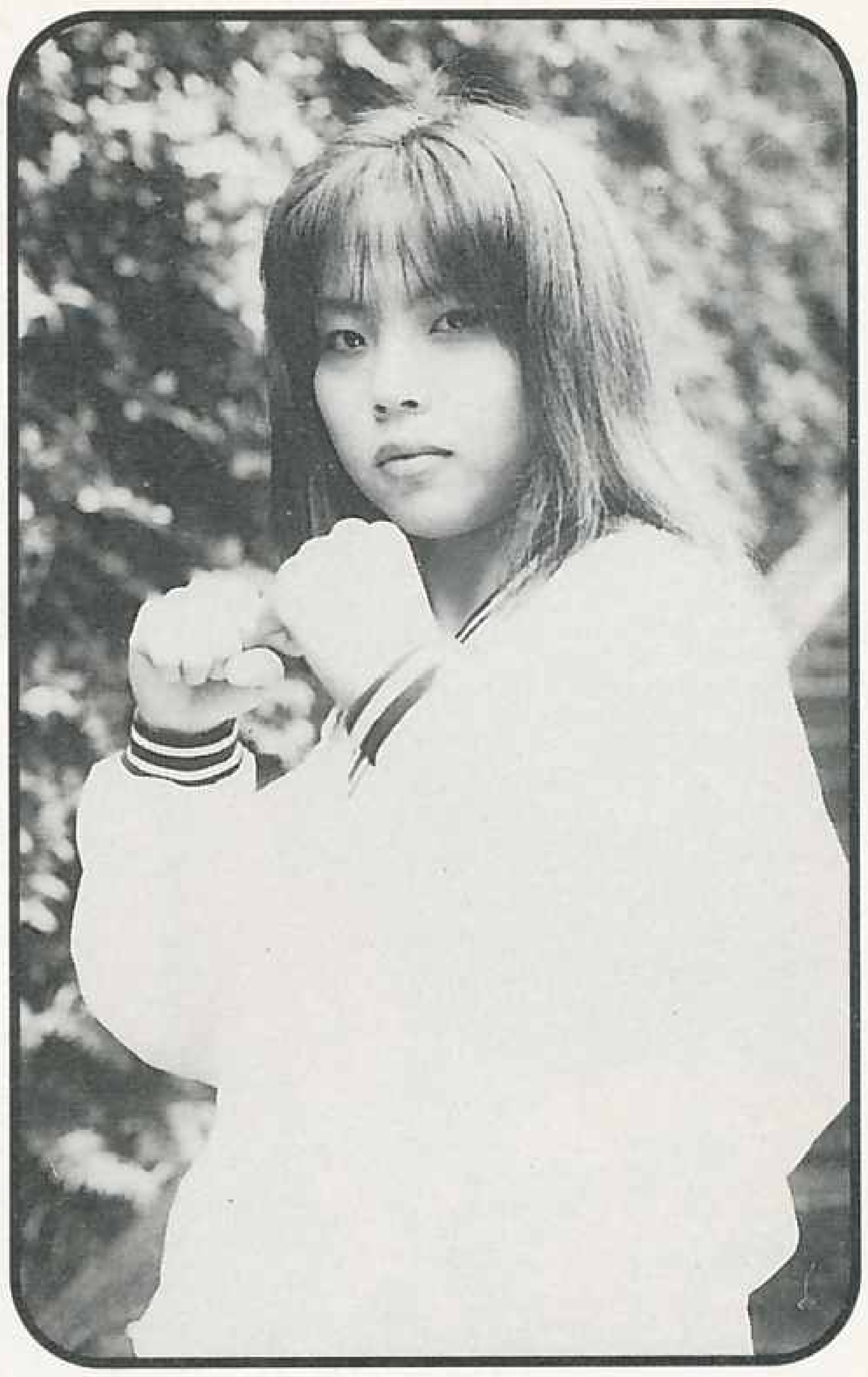
現在はL・飛鳥率いる裁恐軍との抗争中の小杉。反則攻撃による流血も絶えないが、「憧れの工藤さんみたいで嬉しいです」と頼もしい（のか？）答え。





衝撃のカレー&サラダとは何か？

このビデオではそれぞれの選手が得意（なのか？）なことを披露している。本谷は浅草の花屋敷で遊ぶという企画。「面白くなさすぎて、逆に面白かった」というジェットコースターでの絶叫シーンは要チェックすべし（写真左）。そして問題の小杉。カレーとサラダをつくるという企画である。ボールに刻んだ野菜を集めただけで「出来上がりです」と言い張り、「皿に盛りつけて下さい」というリクエストに対しては「めんどくさいから」とボールの中身を皿にぶちまけただけで強引に完成させてしまうという内容。つくづく大物の予感を感じさせるシーンは必見！「あのカレーは本当に小杉が作ったのか？」という疑惑が関係者やファンの間で浮上しているのもうなずける。



本谷香名子

プチインタビュー

目の前に食べ物があると、食べずにいられないんです！

――ビデオを見たんですけど……。

本谷　（手で顔を覆う）恥ずかし～。

――見なきゃ取材できないじゃないですか（笑）。花屋敷で遊んでましたね？

本谷　初めてなんで楽しみにしてたんですけど、思ったより乗り物がゆるかったでです。

――ゆるい？（笑）

本谷　全部かわいいような、激しくない乗り物ばっかりなんで……。逆に面白くなさ過ぎて面白かったです（笑）。

――面白いですね、本谷選手は（笑）。世の中ナメ切ってますよね（笑）。

本谷　いいえ、そんなことないですよぉ（笑）。

――そうやって笑ってごまかしてるけど、ものすごい悪意の持ち主なのかもしれませんね。

本谷　ただ単にバカなんで、ダメなんです……。

――そうやってダメって言ってるけど、ダメだとは思ってないでしょ？

本谷　いや～、最低ですよ。

――控え目ですねえ。

本谷　いえ、全然控えめじゃないです。

――でも、今「最低ですよ」って……。

本谷　いや、それは……。

――口だけですか？（笑）

本谷　口だけじゃないですぅ（笑）。最近、やばいんですよ！

――どうしたんですか、急に。

本谷　食べてばっかりいるんですよぉ！

――ハハハハハハ、いいじゃないですか、レスラーなんだから！

本谷　なんかやばいんですよ、止まらないんですよ。ご飯と麺とパンばっかり食べちゃって。

――太りそうなもんばっかり（笑）。

本谷　胃がおかしいんですよ。満腹感がなくて……病気ですかね？

――知りませんよ（笑）。

本谷　逆に何も食べないときもあったりして。

――冬眠前の熊みたいですね。

本谷　目の前に食べ物があると、食べずにはいられないんですよ。

――いいじゃないですか、身体もデカくなるし。

本谷　でも、大きくなって飛べなくなっちゃうじゃないですか。だから困ってるんですよ。恥ずかし～（と、手で顔を覆う）。

――食べた分だけ動けばいいじゃないですか！

本谷　そうなんですけど、恥ずかし～（と、また手で顔を覆う）。

――『Ｏｒｅ』の話に戻りましょうか。プールサイドで撮影してましたよね。ああいうのは恥ずかしいんですか？

本谷　ＯＫが出た瞬間に笑いが出ちゃうんですよ。

――ポーズ取ってる自分をもう一人の自分が見てて「何やってんだ、私」って冷静につっこんでるんですか？

本谷　そうなんですよ。だから、「何がおかしいの？」って聞かれるんですけど、答えられないんですよ。

――なるほど。では、そろそろシメに入らせて頂きます。まだＪＷＰを見てないファンにメッセージなどありましたら、お願いします。

本谷　とにかく一度、会場に見に来て欲しいですね。絶対ハマると思います。生で見ないと分からないですから。

――では、『Ｏｒｅ』をまだ見てない方にメッセージをお願いします！

本谷　（手で顔を覆い）恥ずかし～、見なくていいですぅ。

――何でですか！（笑）　ひどいこと言いますね（笑）。

本谷　（小声で）見てください。

――あ、ウソつきましたね（笑）。

本谷　ハハハ。見てもいいんですけど、「見たよ」って自分に言わないでください。（また、顔を手で覆って）恥ずかし～。

――プロは見られてナンボですよ。

本谷　違うんですよ。プロレスと他の仕事は（笑）。

――めちゃめちゃ恥ずかしがり屋なんですね。

本谷　（うずくまってヒクヒク笑いながらうなずく）……。

――今日は恥ずかしがり屋のＪＷＰ本谷選手に語って頂きました（笑）。

【97年9月26日、ＪＷＰ事務所にて収録】



同期の久住（通称・西川きよしに目が似てるから『キヨシ』）に追いつけ追い越せとばかりに、試合内容も表情もどんどん良くなってきている。

追悼



聞き手／吉田豪
interview by Go Yoshida

最初で最後の発掘インタビュー

プラム麻里子

プラム麻里子（享年29歳）。彼女はボクの心の女子レスラーであった。
格下相手だと抜群に光る試合中の笑顔、やたらエロ度の強い衣装（しかもピンク色）、
スムーズに入る関節技といった彼女独特に魅力に惚れ込んだボクは、
『女子プロレス・グランプリ』（ソニー・マガジンズ）誌上で
直接会って絶賛すべく取材を試みたことがある。
全女が東京ドーム興行を行うのが決定した、女子プロブーム絶頂期のことだ。
ボクのインタビュー技術もプロレス観自体もまだまだ稚拙だった頃の代物ではあるが
どうしても彼女の発言を世に残しておきたいと思い、あえて発掘＆再構成することにした。
いま読み直すと複雑な思いになること確実であり、
しかも2回目は欠場中だったため無茶苦茶ヘヴィなのだが、とりあえず読んで欲しい。

JWPはやりがいがありますね
これはこれでしんどいけど（笑）。

——いきなりですけどプラムさん。これまでプロレスを辞めようと思ったことってありました？

プラム ええ、ほんとはジャパン女子が潰れる前の年から「来年こそは辞めよう」と思ってたんですよ。両親にも「辞めるからね」っていうのは言ってて。それで会社が潰れることになりましたよね。最初に自分から「辞める」って言ってれば良かったんですけど、みんなが「もう1回プロレスやりたいよね」って言い出したときに、思わず「うん」って言ってしまって（笑）。

——思わずですか（笑）。

プラム ええ（笑）。人数も少ないですし、頑張ろうと思って。ジャパン女子の最初の頃はやっぱりプロレスが好きで、お給料が貰えないときでも「好きなことやってるからいいや」と思ってたんですけど、最後の何年かは全然やる気がなくて、「これは仕事だから」っていう割り切りでやってて。多分あんまり伸びてなかったとも思うんですよ。気持ち的にも向上心とかなかったから、流されてやってるような感じで。

——ジャパン女子は試合に集中できる状況じゃなかったですからね。

プラム だからJWPに入ってああいう試合をやっていくうちに、またどんどん楽しくなってきたっていうか。いまはやりがいがありますね。関西はジャパンでもたまに当たってたんですけど、自分は体が小さいからいまほど蹴ってないっていうか、心の中ではちょっと手加減があったと思うんですよ。いまはそういうのがなくなって、これはこれでしんどいんですけど（笑）。

——プラムさんもうキャリアは長いですけど、デビュー当時とスタイルとか変化してきました？

プラム 自分では別に意識してないんですけど、ウチの会社の方針で新しいルールをいっぱい入れていくような感じで、オンリー・ギブ・アップのバトルとかシングルとかで、いままでも関節技をやってきたのが急に目立ち始めたっていうか（笑）。ジャパン女子の頃は関節というと神取さんとかいましたしね。自分も他の人よりは関節知ってましたけど、それをどう表現していいのかわかんなくて。いまはだんだんわかり始めたっていうか。

——最近は客層も代わって、女子プロレスもだんだん格闘技的な方向に進みつつありますよね。そういう意味では、プラムさんが脚光を浴びる時期が来てるんじゃないかっていう（笑）。

プラム いやあ～っ、そうなればいいんですけどねえ（笑）。なんかねえ、手を抜いてるわけじゃないし、余裕があるわけじゃないんですけど、けっこうそういうふうに見られるんですよねえ（笑）。あとなんかフニャフニャっぽく見られる。「やる気があんのか」とか言われますよね（笑）。

——この間、千種さん（平成6年2月11日）にもいろいろ言われちゃってましたよね。「ポスト関西を狙える」のに「いい時と悪い時の差が激しい。気を抜いている時もあるし」とか。

プラム ああ～っ。それは自分でも差が激しいっていうのはわかりますけど。でも手を抜いているのとは違うんですよ（笑）。

——尾崎選手にも「実力があるのに、縁の下の力持ちになっちゃっててもったいない。もっと自分をアピールすればいいのに」とか言われてましたよね。

プラム ねえ。だからいままでが関節技ってすごい地味でしたよね。それがここにきて見られるようになって、まあ勝負はこれからですかねえ（笑）。

——だいぶ遅咲きですね（笑）。

プラム ほんとですよねえ（笑）。

——昔の全女だったら、もう定年の歳を越えてるわけですからねえ。

プラム そうですよねえ。こんなこと言うと会社の人に怒られるかもしれませんけど（笑）、でもJWPになってから1人で頭の中で考えてて、まあデビルさんは別格として、この中でいちばん最初に引退するのは私だろうなって思ってたんですよ（笑）。尾崎とかキューティーとかと同期ですけど、私だけ歳が上なんで。そしたら斉藤澄子が引退しちゃって、いまのこの段階ではやっぱ1人も脱けられないですよね。やっぱ1人脱けたら興行的にも難しいと思うし。それでまた引退が遅れたんですよね（笑）。

——また、ですか（笑）。

プラム いつ辞めるっていうのは、いまは楽しんでるからないんですけど。でも、やっぱり試合終わってからのダメージとか、年取ったなあと思いますね。怪我の治りもだんだん遅くなってきてるし。そういうので体のしんどさを感じないことはないですね。まだ尾崎やキューティーだったらいいんですけど、デビルさんとか関西とかシングルで当たったりすると、その日の夜はもう頭がクルクル回っちゃうんですよ。

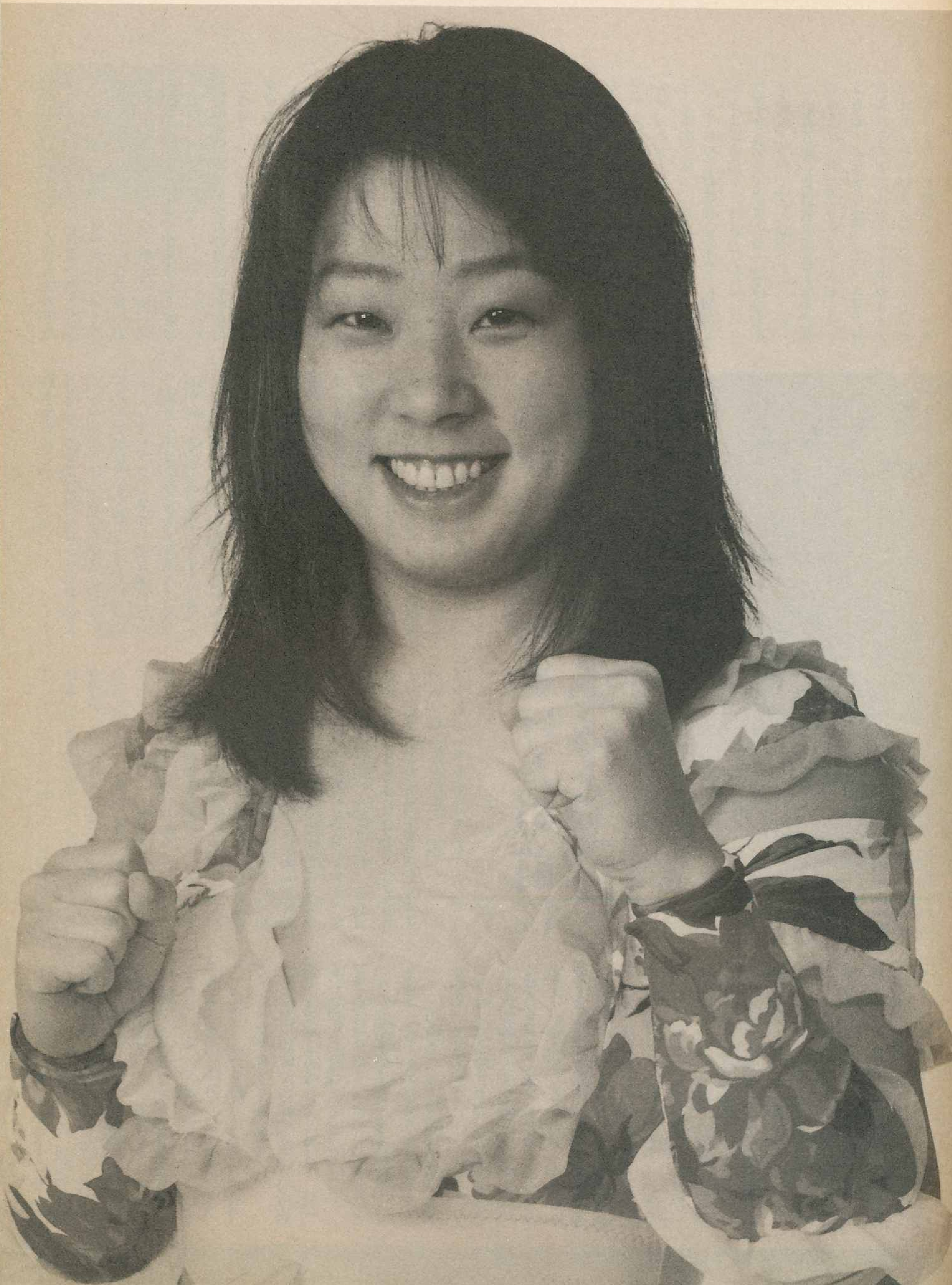
——うわぁ～～っ！

プラム だからねえ、ちょっと歳のせいか自分の健康とかも最近は気になるようになっちゃって、あんまり無理はしないようにしようと思ってるんですけど（笑）。まあ、試合になったら手を抜くとかできないからやっちゃうんでしょうけど、妙に最近は自分の体がかわいそうになっちゃうっていうか（笑）。そういう気持ちはありますよ。

——確かに、この間の千種戦もしんどそうでしたからね。

プラム やっぱり体がデカいと1つ1つの技が重いから。そういうのはしんどいっていうか、不利だなあって思いますよね。ここまできたらもうしようがないけ

追悼
プラム麻里子



って、いまのこの　ようがないけ

ど、やっぱ昔とかは「あと身長が10センチ高ければ」とか「体重があと何10キロあれば」とか、もう果てし無く思いましたよ。昔はそういう体の使い方がわかんなかったから。新人の頃、同じ技を使っても破壊力が違うじゃないですか、デカい人と。

――デカいのは、それだけで武器ですからね。

プラム　そういうので悔しい思いもたくさんしたし。また小さかったら小さいなりにそれなりの体の使い道もあるんですけど、それがわからないときは嫌でしたね。電車とか乗っても背のでっかい女の人がいると、「なんでこの人、こんないい体してるのにプロレスやんないんだろう」とか勝手に思ったりとか（笑）。「きっと普通の女の人でこんなに背が高いのは嫌なんだろうな。取り替えて欲しいなあ」って（笑）。

――確かに、無駄にデカくて悩んでる女子も多いですよね。

プラム　そうですよね～!!　プロレスやればいいのに（笑）。うらやましいですよ、やっぱり。プロレスやってる分には大きい人の方が勝ちっていうか、有利ですよ。すごい。

――それって対抗戦にも大きく関係してきますよね。

プラム　そうですよ。やっぱり全女の選手はデカいですよ（笑）!!

――あの細い豊田真奈美選手でも、他団体と比べれば違うんですよね。

プラム　デカかったでしょ（笑）？　横幅は私の方があったかもしれないですけど、やっぱりタッパとかデカいですよ。キックの破壊力もすごくて、頭飛びそうでしたよ（笑）。やっぱりデビルさんとか関西としょっちゅう当たってるんで、すごい違和感とかはないですけど。でもやっぱりデカいなって。

――しかし、さっきから話を聞いていてると、あまりプロレスに対する執着心がないように思えるんですが（笑）。

プラム　そうですかねえ。でも今の段階ではどうしてもベルトが欲しいとか、そういうこだわりはないですよね。

――だけど、去年の『週プロ』選手名鑑では「関西を倒してベルトを奪う」とか書いてましたよね（笑）。

プラム　関西を倒したいとは思いますし、目標の中にはありますけど、でもベルトが欲しいとかそういうのは個人的な意見ではねえ。社長に怒られそうだけど、そんなこと言ったら（笑）。

――そういう欲が見えてこないんですよね、プラムさんって。

プラム　それがいけないんですよね。たぶんねえ。……負けるのは嫌で（笑）。勝ちたいですけど、それがベルトだのどうのっていうのにはならない。

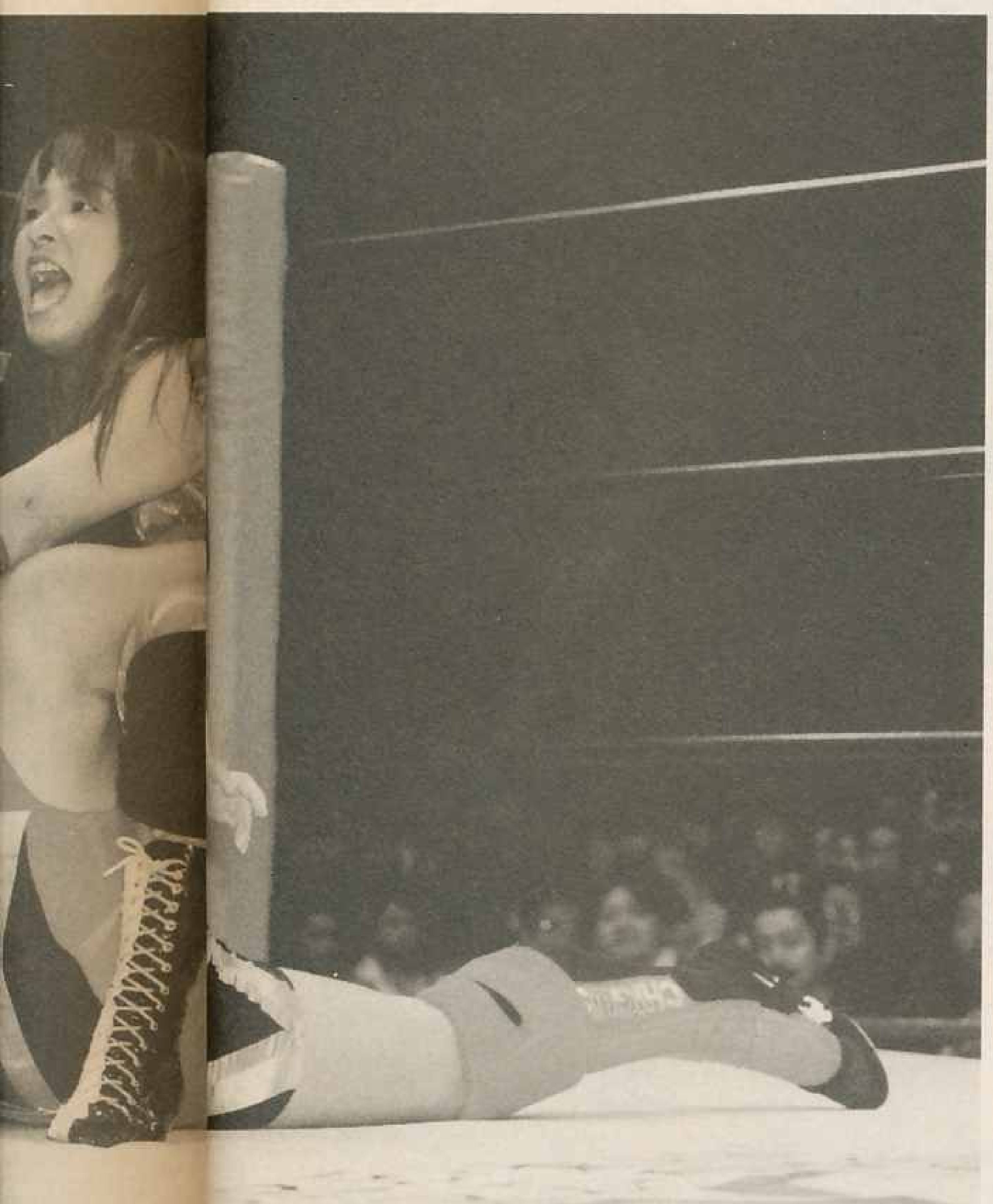
――例えば後輩が伸びてきているけど、どうしても抜かれたくないとか。

プラム　あっ、それは思ってますよ。それは思ってるけど……、そういうの嫌だとかあんまり言わないからですかねえ。心の底では思ってますよ（笑）。

――どうも一歩引いてプロレスしてるような印象が強いんですよね。それは年令のせいかなあと思ってたんですよ。気持ちとしては、もうデビルさんの域に達してるのかと（笑）。

プラム　いやいやいやいや～（笑）。

試合に勝った負けたの前に負けっぷりってあると思う



平成6年2月11日長与戦。久々にサブミッション・クイーンの本領発揮となるが、チョークスリーパーで失神する。

また全然違うと思いますけど。勝ちへのこだわりはありますよ。団体戦とかでも負けたくないし。だけどこの選手をどうのこうのとか、そういうのがないからかなあ。

――そういうギラギラした部分はないですよね。

プラム　ああ、そういうのはやってくうちに出てきたらそうなるんだろうけど、いまの段階ではね。

――それも今年で27歳の選手が言う台詞じゃないような気もしますが（笑）。なにか夢とか野望とかあります？

プラム　もっともっとたくさんの人にプラム麻里子の試合を見て欲しいっていうか、そういうのはありますね。

――そのためには、まだまだ辞められないわけですね。

プラム　そうですよね。だからもっともっとお客さんを引きつけられるような試合をしなくちゃいけないんですよね……。やる気がないわけじゃないんですよ（笑）。だからなんていうのかなあ。弱いイメージで見られるのも嫌だけど、強い弱いの前に、その試合に勝った負けたの前に、私がどういうプロレスをやったか見て欲しいっていうか認めて欲しいんですよね。負けた試合の中にも意味のあるファイトっていうのはあると思うし、そういうのも認めて欲しいっていうか。

――それは非常にわかりますね。

プラム　だから他の選手と比べてそういう勝利の欲っていうのはないかもしれないですよね。勝ったからプロレスラーとしていいっていうのじゃないと思うし。負けるのにもやっぱり負けっ

追悼
プラム麻里子

ぷりっていうのがあると思うし、そういうのにこだわりはある。

――ただ、いろんな選手に取材をしていると「トップを取りたい」という発言をよく聞くんですけど、それがプラムさんはなさそうなんですよね（笑）。

プラム　いや、そんなことない（笑）。ＪＷＰでトップを取りたいとは……。う〜ん、でもやっぱ個人で言いそうな人とかいるじゃないですか。自分はやっぱ言わなそうだから言わないっていうか。うん。ねえ（笑）。

――自分は言わなそうだという自覚がありますか（笑）。

プラム　う〜ん、そういう感じじゃないんじゃないかなあとは思います。ファンの人とかは私の口からそういうのを聞きたいなと思ってるんだろうけど。狙ってないことはないんけど、あえていろんなところでは言わないっていうか……。プロレスに自信がなくても言える人はいますよね（笑）。自分はそういう感じじゃないんじゃないかなあ（笑）。わかんないけど。

――とりあえずデカいことを口にして、それで自分を奮い立てるタイプの人っているじゃないですか。

プラム　ああ、そういうタイプじゃないですね。

――じゃあ今後のプラムさんは前座で光るいぶし銀のような感じで？

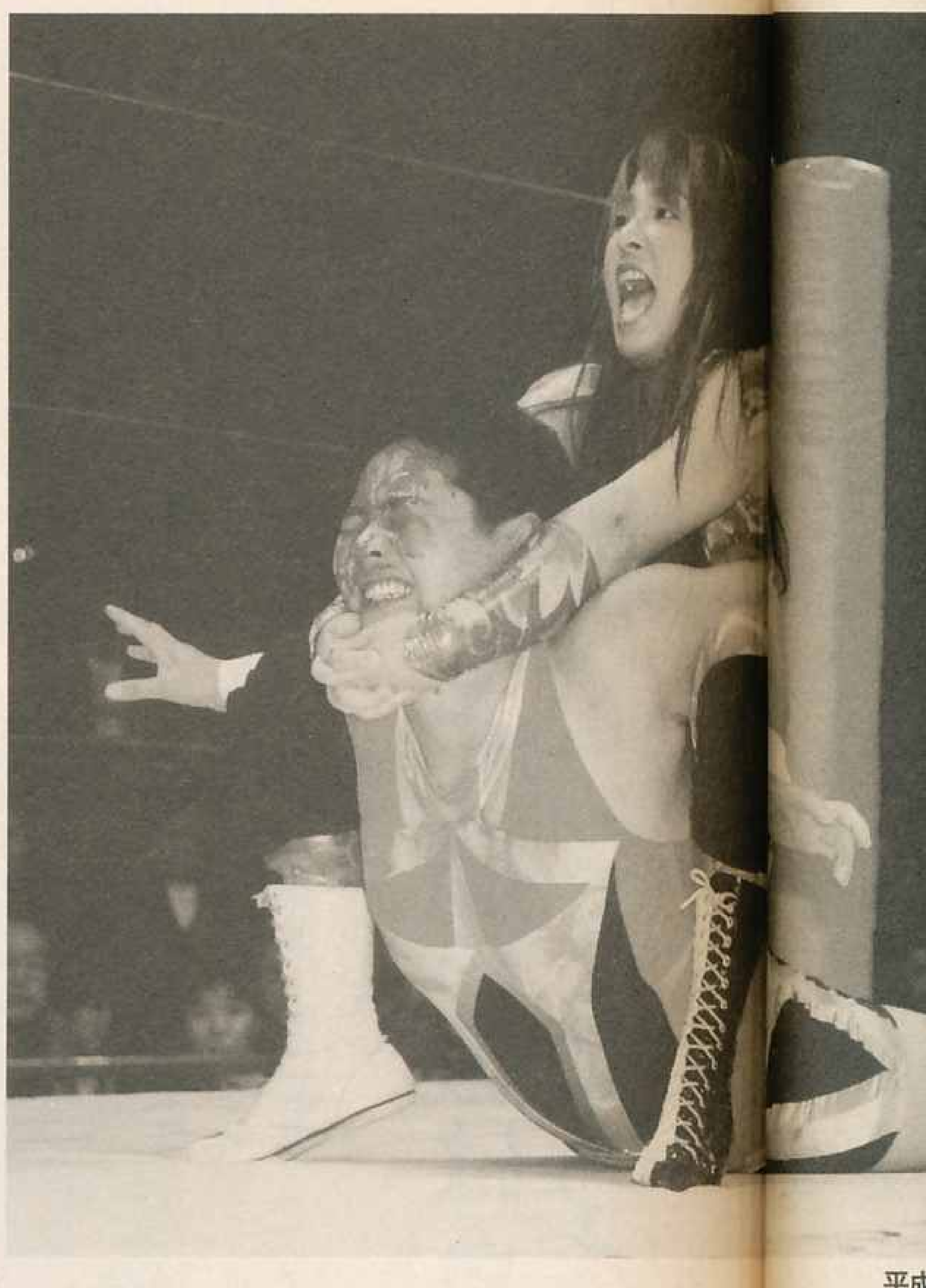
プラム　いや、もう前座もやっぱり。でも、ここまできたら関節でいこうとは思いますけど、みんながすごい言うほど自分の関節すごいのかなって。数知ってるぐらいなんですけどね。みんながやってない時期にサンボの教室に通ったりとかしてた時期があったんで。それがようやく芽が出だしたというところですかね（笑）。

――遅咲きですよねえ（笑）。

プラム　でも今までそういうのを出していけなかったのは、やっぱり自分の問題だと思うし。

――だけど最近はヴォルク・ハンの技を盗んだりとか、関節技関係には貪欲ですよね。

プラム　昔の女子プロのファンの人って関節技とかぜんぜんわかんなかったじゃないですか。でも今は男女関係なく見てくれるからやりやすいですよね。やりやすいっていうか、お客さんに乗せられる部分とかもあって。いいですよねえ、ヴォルク・ハン選手（笑）。サンボの教室で紹介されたときに女子プロレスラーだって言ったらすごいビックリされて（笑）。すごいチビだと思ったみたい。



――で、これはすっかり話が変わって最後の質問なんですが、ブル中野さんや猪木さんが「プロレスはＳＥＸみたいなもの」とか言ってたんですけど、それってどう思います？

プラム　……そう言われてみれば、そうかなあ。ちょっとＳＭっぽいですよね。痛いから、とても（笑）。

――そんな痛いですか（笑）？

プラム　痛いですよ〜っ（笑）。やっぱ私、蹴りが嫌なんですよ。記憶が飛ぶと怖いですよ。でも私、ジャパン女子のときは記憶飛んだことなくて。ＪＷＰになって関西の蹴りとかデビルさんのラリアートかパワーボムとかであるんですけど。もう怖くて、ハッと正気に戻ると泣いてるみたいな。とにかくみんな泣きますね、控室に帰ってから。同じ事を何度も聞いたりとか。でもやっぱり、試合は記憶なくなってもちゃんとやってるんですよね。

――記憶なくしながらもキッチリ笑ってたりとかするんですかね（笑）。

プラム　いや〜どうなんだろう？　私もまだ3回か4回ぐらいだし。でも、ほとんどが蹴りですよ。あと堀田さんの蹴りでもイッちゃったことがあるんですけど。蹴りは痛いのもあるけど、怖いのもありますよね。

――最近は顔面に入れたりもするし。

プラム　ねえ。嫁入り前の娘に（笑）。顔は狙わないでって感じですよ（笑）。

――嫁入り前（笑）。というと、やっぱり結婚願望とかあるんですか？

プラム　う〜ん、同年代の女の人の中ではない方だと思います。やっぱ普通、26歳だとあせってますよね。それはないっていうか、プロレスやってるうちは結婚できないのはわかってるし。引退のときに寿結婚だったら楽だなあとは思いますけど（笑）。ぜったい30歳までにとか、そういうのはないです。でも私は結婚したら辞めたいな（笑）。

――そんなに辞めたいんですか（笑）。

プラム　いま辞めたいとかじゃないですけど（笑）。もし結婚するなら、相手は「プロレスを辞めろ」っていうぐらいの人が好きだから。私が男だったら、結婚したらやっぱりプロレスは辞めて欲しいなあ。まあ、まだ当分ないですけどね。年頃なんですけど（笑）。

【女子プロレスグランプリ2号（94年6月発売）での取材より再構成】

◆

（それから4か月後）

――しかし、『自分の身体がかわいそうに思えちゃうから、あまり無理しないようにしたい』とか言っていたプラムさんが、まさか負傷欠場するとは思いませんでしたよね。

プラム　ほんとですよ〜（笑）。もっとかわいそうになっちゃって。

怪我して痛いのは自分なんだけど両親に心配させちゃって、心が痛い

——大きな怪我をすると、恐怖心が芽生えたりするっていいますよねえ。

プラム　でも、いまもし試合やるっていっても恐くないですし、そういう気持ちはまだありがたいことに起こってないんですよね。

——4月の半ばに鼻骨を折って、ようやく復帰したら今度は8戦目で鎖骨を損傷しちゃったんですよね。

プラム　鎖骨がくっつかなかったから、10月の終わりに入院して骨盤をそこに移植する手術するんです。最初の予定だったら、いまごろ治ってるはずだったんですけどねえ……。

——で、実際の話、鼻骨や鎖骨が折れるとどうなっちゃうものなんですか？

プラム　鼻筋が曲がるから変な顔になっちゃうんですよ（笑）。あと、鎖骨よりも鼻骨の方が、手術終わった後に比べものにならないほど痛いですね。

——比べものになりませんか……。

プラム　で、鎖骨は折れると手を動かしちゃいけないんです。変な話、手術終わったばっかりのときは右手が動かせないから、この歳になってお母さんにお風呂入れてもらってたぐらいだから（笑）。私はたまたま左ききだったから御飯とかは食べれたんですけど、やっぱり字も書けないし、なんにもできない状態ですよ。

——左ききでも字はダメなんですか。

プラム　字だけは右なんです（笑）。

——しかし、お風呂に入れないっていうのは、すごい状態ですよねえ。

プラム　ぜんぜん肩が上がらないから背中とかも洗えないし、お湯も流せないし、髪の毛も片手じゃ洗えないから、お母さんに洗ってもらって。

——お母さんは近所なんですか？

プラム　病院の側っていうか、ちょうど新宿の試合で怪我したんですよ。それで、ちょうどビートたけしが入った新宿の病院に、何日か前に運ばれたんですよ（笑）。あのときもいっぱいらしくて、お父さんに電話したら、「お母さんが毎日来るのに楽な方がいい」っていうから、実家の近所にしてもらったんです。だから今は自分の家と実家と半々ぐらいで生活してますね。

——これまでなかった怪我が続いちゃったわけですけど、最近、他についてないこととかありませんでした？

プラム　いや、別にないですけど。自分では怖いじゃないですか（笑）。周りのみんなの方が心配してくれて「お祓いに行け」とか言ってくれたりとか。

——というと、吉本興業入りですか？

プラム　お笑いじゃなくてお祓いなんですけど（笑）。でも怪我して痛いのは自分だけど、やっぱりこの怪我でいちばん心配させちゃったのが両親で、ちょっと心が痛いっていうか。

——心ですか……。

プラム　お父さんってぜんぜん試合のことに口出さないんですよ。お母さんはすごい応援してくれて毎月試合を見に来てくれるんですけど、お父さんは未だに私がやられてる姿を見るのが怖いと言って、ジャパン女子の頃に2回見に来てくれただけなんですよ（笑）。試合のビデオを見るときも、私がやられてるところは全部早送りで、攻めてるところだけじっくり見るっていう（笑）。私がプロレスやるのなんてきっと反対ですし、私が殴られるのを見るのが嫌だから試合にも来ないんだろうけど、今までは何も言わなかったんですよ。だけど、さすがに鼻を折って実家に電話したときに「もう辞めろ。いったいいつまでやるつもりなんだ」とか言われて、「ああ、ヤバイ」って。

——プラムさん的には、まだプロレスはやめたくないわけですね。

プラム　だから、プロレスなんて怪我がつきものじゃないですか。私も好きなことをやってるから、そういうのは納得してるんですけど、やっぱり親に心配させるのは痛いなあって。

——ところで、近頃は毎日、何をやってるんですか？

プラム　毎日、病院に行くばかりで、家にいるときはファミコンやったり、お香を炊いたりとか（笑）。好きなんですよ〜。ババくさいんですけど、やっぱ怪我してなんにもできないとイライラするじゃないですか。落ち込んだときとか、イライラしたときには、心が落ち着くんですよ。

——やっぱりプロレスを見ようとは思わないものなんですかねえ。

プラム　いやあ、やっぱりプロレスのことを考えなきゃいけないのかもしれないんですけど、暗くなっちゃうから。

——できれば忘れていたいっていう。

プラム　うん。考えても暗い方にしかいかないし、プロレスやりたくてもできないでしょ。だから、プロレスラーだけどプロレスラーじゃないみたいな。病院に入院してるとホントに暗くなっちゃうから、いまは怪我が治ることだけを考えようかなって。

——それまで忙しくて、急に暇になると困りますよねえ。

プラム　何をやっていいのかは、やっぱりね。でも、お年寄りとか看護婦さんとか、いままで話せなかった人たちと知り合えたから。プロレスやってるときって話すのも遊ぶのも選手だし、それ以外だと昔の同級生ぐらいで。だからプロレスラーとしてはすごいマイナスの1年なんだけど、人生のうちではこういうのもいいんじゃないかなって考えないと（笑）。

——プラス思考ですね（笑）。欠場してると、どうしてもマイナスな考えになっちゃうのかと思ってましたけど。

プラム　……どうしてもプロレス雑誌は見ちゃいますよねえ。やっぱりウチの選手が活躍している写真とか見ると「早く出たいなあ」って、すごいその思いは感じるんですけど。でも実際には出られないから、その繰り返しでね。

——この際、いっそキッチリ休んで悪

うかなあ」っていうか。ほんとに怖い

ますし。あっ!!　全然関係ないんです

ばほんと最低の1年ですよね。捻挫と

追悼
プラム麻里子

—この際、いっそキッチリ休んで悪いところを全部治しちゃおうとか？

プラム　他は健康なんですよ。子供のときから入院なんてしたことないぐらいですから。だから、ここだけ怪我してて、後は全部健康で動けて歩けるっていうのが、余計にイライラするのかもしれないですね。

—前に「JWPで最初に引退するのは私だと思ってた」とも言ってましたけど、大怪我するとそういう思いも強くなったりしません？

プラム　ねえ、どうでしょう（笑）。いまはファンの人とかもきっとすごい心配してくれてると思うんで、まずは怪我を治して早く元気にプロレスをやっている姿を、ファンの人に見て欲しいっていう気持ちがいちばんですね。

—引退までは考えてはいない、と。

プラム　正直な話、鎖骨は1回の手術でくっつくはずだったんですよ。時期からいうと、いまはプロレスの練習やれるぐらいの計算だったんですけど、不幸なことにくっつかなくて。で、骨盤移植になっちゃったんだけど、それって怖いじゃないですか。前の手術よりも大きな手術って聞いて、けっこう小心者なんでビビって（笑）。

—そりゃ怖いですよ（苦笑）。

プラム　そのことを親とかにも言う前に「どうしよう」って1人で考えて、「プロレスはできなくても普通の生活ができるんだったら手術やめちゃおうかなあ」っていうか。ほんとに怖いじゃないですか。一応、まだ嫁入り前の娘なんで。けっこう手術の跡が残ってるのに、今度は腰にも傷痕が残るじゃないですか。それで先生に、「手術しなくても普通の生活はできるんですか？」って聞いたら、「普通の生活もできない」って言われて（笑）。やっぱりこれは手術するしかないなって。

—傷が残ると水着も問題ですよね。

プラム　まあ、ハイレグは着ないし（笑）。でも今までの水着だと肩が出るんで、そこは隠れるように作ってもらおうかなあって。やっぱり傷がけっこうすごいんで。でもなんか「かわいそう」とか同情されるのも嫌だから、見せないようにしようかなって。

—いま、欲しいものってあります？

プラム　やっぱり健康な身体っていうか、いまは早くプロレスのできる身体にしたいですね。焦りがないと言ったら嘘になるし、もどかしいっていうかね。早く心配しているファンの前で試合して、「プラム〜!!」って会場で叫んで欲しいですよね。

—年内復帰は難しいんですか？

プラム　手術してから1ヶ月は入院って言われてるんで。戻ってすぐリングに上がれるわけじゃないですから。私、すごい試合やってないですよ。鼻骨骨折から入れると6ヶ月やってないし。大丈夫かよって感じじゃないですか（笑）？　10代なわけじゃないし。

—その歳で長期欠場っていうのは、正直言ってけっこうキツいですよね。

プラム　そうでしょ〜。気持ちは若いつもりでいますけど、もう27歳になりますし。あっ!!　全然関係ないんですけど、私すごいかわいそう。入院中に誕生日を迎えるんですよ〜（笑）。なかなかいないですよねえ。なんかほんと、すごい1年ですよね……。まあ悪いことばっかりあったわけじゃないし、人生的にいうとそんなことはないんですけど、プロレスラーとしてみればほんと最低の1年ですよね。捻挫とかなら痛くてもテーピングして今までも出てましたけど、やっぱ骨折れてるんじゃねえ。手術も今年だけで3回して、あともう1回するから、一生分の手術しちゃったって感じですよ（笑）。

—その3回っていうのは？

プラム　鼻を1回でしょ。あと鎖骨を

世の中には「レスラーはリング上で死ぬ覚悟がなきゃダメだ」などという身勝手なことを言い出すバカも多いが、そんなのはレスラー側の問題でしかない（そもそも「殺す覚悟」を持った物騒なレスラーはいるのか？）そう豪語する山本小鉄の場合は当事者側によるプロとしての身体を張った発言だから当然文句なしなんだが、それをプロレスファンですらない本誌編集部のカタブツに言われると非常に腹が立つ。お前が死ぬ気で仕事しろや、ボケッ（そのくせ死んだように居眠りすることは多々あり）。



追悼
プラム麻里子

こんな好きな仕事ができて すごい幸せだと思いますよ

くっつけるために針金を入れる手術をして、それを抜く手術もしましたから。全身麻酔じゃないから意識があって、すごい怖いですよねえ。私、針金を抜くときが局部麻酔だったんですよ。意識があるから先生の声も全部聞こえて（笑）。上のランプに反射して手術してるのも見えるんですよ〜。赤いのが。「う〜っ」とか思って（笑）。

——そりゃ「う〜っ」とも思いますよね（苦笑）。

プラム　いままでにあんな怖い思いをしたことがないっていうか、正直な話、手術する前から泣いてました。私が27年生きてきて、あの日がいちばん怖かったですよ。30分で終わるって言われていたのが1時間半になっちゃったんですけど、その間ず〜っと泣きっぱなしで。あんなに長く泣いたの初めてでしたよ。人間こんなに泣けるんだなって思うぐらい涙が出ましたよ（笑）。

——いま、練習ってできるんですか？

プラム　左手と下半身は。走るのも平気って言われたんですけど、骨がくっついてないから怖いじゃないですか。

——はぁ…。ところで、プロレスラーという職業は自分にとって天職だと思います？

プラム　う〜ん、思ってやってますよ。

——私がプロレスをやっていなければ、こんな怪我しなかったのにとか思ったりしないんですか？

プラム　そうも思いますけど、いまさらOLとか絶対にできないと思うんですよ（笑）。こういう好きな仕事ができて、誰にでもできる事じゃなくて、すごい幸せだと思います。うん。そのために、まずは手術しないとね……。嫌なんですけどね。怖いですよ。

——ましてや、病院の中で誕生日を迎えるわけですからねえ（笑）。

プラム　ほんとですよ〜（笑）。なんか、すごいかわいそうですねえ。

——だけどこのまま引退したら、やり残すこともあるでしょうからね。

プラム　うん。せっかくこの時代にやってるんだからドームには出たかったし。ベルトに挑戦したい気持ちもあるんですけど、何はともあれ復帰しないとそんなことも言えないっていうか。

——まずは復帰ですね。じゃあ最後に、欠場のためプラムさんの素晴らしい笑顔を見られないでいるファンの方々に、一言お願いします。

プラム　待ってて下さ〜い（笑）。早く元気な姿を必ずお見せしますんで。

【女子プロレスグランプリ4号（94年11月発売）での取材より再構成】

◆



笑顔が売り物で、死に顔も笑っているようだったというプラム。死んでもプロレスラーだった彼女に合掌。

ヘヴィである。この一言を思い出してすっかりブルーになったボクは去る8月19日、告別式にひっそりと参列すべく大田区のインペリアルパレスへと向かった。

勝新や藤子Fと比べるのが間違っているのだろうが、そこで行われていたのはボクがこれまで参加してきた中で最もヘヴィな告別式であった。関係者のみが参列し、そのほとんどが泣いているという異常事態ゆえ、黄色いTシャツ&短パン姿だったボクは入り口で勝手に冥福を祈ることとする。合掌。

そんな時、すっかりギザギザハートになったボクの肩を叩く人物がいた。「私、パリに行って画家になる！」「お尻の穴を日焼けしたら、1年間風邪ひかない！」などの名言で知られる元・FMW女子二冠王、鍋野ゆき江嬢（28歳だけど心は永遠の小学生）である。

「プラムさんが亡くなったなんて、いまでも信じられないんです……」と、喪服に身を包み、いつになく悲しげな表情をした彼女（その理由は、コンビニで女子向きのキュートなハンカチがなかったためでもあるのだが）。あからさまにボコボコな軽自動車を指さして、突然ボクにこう言い放ったのだ。

「あ〜っ、これ見て下さいよぉ。さっき電柱にぶつけちゃったんです！」

そしてぶつけたての車を路駐すると当たり前のようにダッシュボードに鍵を突っ込み、これまた自然体で鍵もかけずに堂々と歩き始めたのである！

さすがにそれはマズいんじゃないかと思ってボクが注意すると、「えっ？　だけど、盗まれる物なんて何もないし。いつもこうだから大丈夫ですよ！」と非常に男らしい返事っぷり。「車が盗まれるじゃねえか！」などのレベルの低いツッコミは、彼女には無用なのだ。

さらに「だって私、家にも鍵なんてかけてないもん！」と胸を張って答えてくれたため、思わずボクも「……なんで？」という愚問をぶつけてしまったのだが、すると今度はこうきたね。

「だって、家に帰ってきたとき一人で鍵開けるのって、なんだか寂しいじゃないですか。だから！」

そんな無茶苦茶な理屈を晴れ晴れとした表情でそう言われた瞬間、ボクのブルーな気持ちは完全にどこか遠くへと吹っ飛んでしまったのである。

ありがとう、なべちゃん！　そしてプラム……。

B社長の摩訶不思議な世界へようこそ

石川雄規の

『闘いの美術館』

外伝



さて、今回はいつもと趣向を変えて連作形式の短編をいくつかお送りしようと思います。いろいろな人から聞いた不思議な夢の話をもとに創作された、少しだけあやしげな夢怪奇譚の世界をどうぞお楽しみ下さい。
（格闘探偵団バトラーツ　石川雄規）

其の一「真夜中の鏡」

大抵、どこの学校でも「七不思議」などと云はれる怪しげな話があるものだ。私の聞いた話にこんなものがあった。その学校のある便所で、夜きまった時間に手洗い場の鏡を覗くと、其処には自分の後ろ姿が映ると云ふ。ただそれだけでも気持ちの悪いことなのだが、もしその後ろ姿がゆっくりこちらへ振り向き始めたりしたら、更に気味の悪い話である。

時として、鏡といふ物は何か我々の想像もつかぬ魔力を秘めているやうな気がして、昼ならともかく夜中などにはあまり進んで見たくないものだ。

こんな夢を見たことがある。私が小学生であっただろうか。夜中、便所に行こうと床を離れて廊下に出た。ふと右側から視線を感じ、一瞬ドキリとして右を見ると何のことはない、いつも其処にある鏡であった。暗闇の中でもう一人の私がこちらを向いて立っている。私は、一瞬驚いた心臓の高鳴りを抑えようと、鏡に向かってニコッと笑ってみた。ところが鏡の中の私はニコリともせず無表情にこちらをみている。私はもう一度、今度は先程よりも大袈裟に笑顔をつくってみた。やはり鏡の中の私は笑わなかった。私は不思議に思いながらも、鏡に背を向けて便所の扉に手をかけやうとした。

するとその瞬間、鏡の中のあいつがニヤリと冷たく笑ったのだ。身体の芯からゾクリとするやうな、恐ろしく冷たい表情であった。私は金縛りにかかったやうに身動きが出来なくなり、意識が遠のいた。

そして気が付くと、私は布団の上で汗をびっしょりかいていた。あの夢は私の未来を示していたのであらうか。中学校に入ってからの私は、だふいうわけか家に籠もりがちで内向的な性格になり、けして苛められるといふ訳ではないが、笑う回数がめっきり減った。そんな暗い中学校生活も終わろうとした頃、私は再びあの夢を見たのだ。

私は鏡の前に立っていた。もうひとりの私は、相変わらず暗い表情をしてこちらを見ている。私は以前見たこの夢を思い出した。「そうだ、あの時はこいつの暗示にかかってしまったからいけないのだ。今度は負けてはいけない」そして私は、鏡の中のあいつを強く睨みつけた。あいつは相変わらず無表情だった。私はあいつに向かって怒鳴りつけた。

「おい、おまえなんかに負けないぞ！　出れるものなら出てきてみろ！」

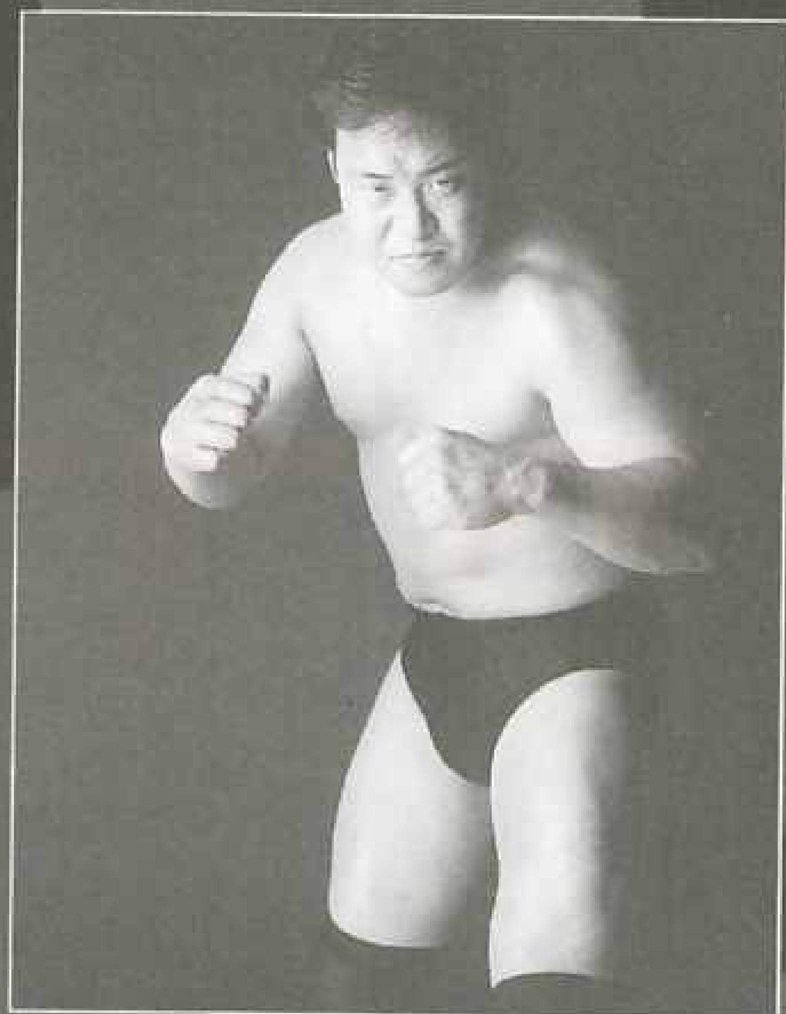
すると突然、あいつが鏡の中から半身を乗り出してきたのだ。そして両手をのばして私を掴み、鏡の中にひきづり込もうとした。私は必死に抵抗し、あいつと闘った。そして、「私は私だっ！　おまえなどでは断じてない！」と絶叫した。

するとあいつはフッと姿を消し、気付くと私は布団の中にいた。不思議なことにすっきりとした気分だった。

その後の高校生活は楽しく、中学の時の自分ではなくなっていた。あの時以来、夢の中のあいつには逢っていない。

其の二「不幸の傘」

こんな夢を見た。暗い山道を一人、家に向かって歩いている。両脇には、細い道と其処を歩



く私にまとわりつくが如く、黒く大きな林が死んだやうに横たわっていた。先程から降り続いている雨がわけもなく身体に張り付ひてとても息苦しい。まるで自分が聴覚を失ったかのような錯覚に陥る程の、およそ生命といふものを感じさせない静けさの中、なにやらとりとめのない思考が頭の中で交錯する。そしてどれほどか歩いた頃、いくつかの思考の糸が何かの拍子に一つに繋がった。この道の先に大きな橋があり、その橋の途中に幼い子供がたった独り佇んでいる。黄色いカッパを着て同じ色の長靴を履き、うつむいている。そして、その橋を通る私を待っているのだ。私が彼の傍を通り過ぎようとする時、その子供は必ずその顔を上げ、私に傘を差し出す。何故かはわからないが、その傘を受け取ってはいけないことを感じた。その傘を手にした者は必ず不幸になるのだ。思考はそこで終わった。

そして二百米ほど歩くと、果たして其処には橋があった。激しい雨に視界はかなり遮られてはいるが、不思議なことに黄色いカッパを着た子供が佇んでいるのは鮮明に私の目に映った。私は思わず息を呑みその場に立ち竦んだ。やはり……。しかし、この橋を渡らなければ家に帰れないのだ。一歩一歩雨の中を歩く。ずっと下を向いて歩く。足が重い。息が苦しくなる。まるで海の底で、海面を求めてもがいているやうな気分だ。一体どのくらいの距離を歩いたのだろうか。もしかしたらそれほど進んでいないひやうな気もする。胸苦しさに堪り兼ねて顔をあげると、其処にはあの子供が背を向けて立っていた。私は自分が発狂するのではなひかと思ふ程の恐怖に襲われ、子供から目をそむけて通り過ぎやうとした。

するとその子供がゆっくりと、こちらを振り向きはじめた。私は走りださうとしたが、だふいふ訳か足が動かない。まるで下半身が石になってしまったかのやうな感じがした。雨に濡れた全身に脂汗が噴き出した。そして子供はうつむいたまま傘を差し出した。「この傘を……」受け取ってはいけない、いけない、いけない……。声にならない声で叫び続けたが、身体はまるで催眠術にかかったやうに傘をつかんでしまう。すると、うつむいていた子供が、その顔をゆっくりとあげはじめた。見てはいけない。目をあわせてはいけない。私は得体の知れない戦慄を全身に感じ、後ろを見ずに一目散に駆けだした。雨の音が突然激しく私の耳を襲った。

気が付くと私は家の前に立ってをり、手にはあの子供から受け取った傘を持っていた。これを家の中に入れたら、必ず家の者達に恐ろしいことが起こる。さうかといって何処かに棄てたりしたら、もっと恐ろしいことを呼び起こしてしまうであろう。私はだうすることもできずに、傘を外の壁に立て掛けて家の中にはいった。しばらくすると、母がその傘を持って入ってきてこう云った。

「これはあなたの傘でせう」

私は急いでその傘をさっきの場所に戻した。すると今度は祖母が、

「これは、あなたの傘でせう」そう云ってあの傘を持ってきた。

私は発狂しそうなほどの恐怖にかられ、柱の陰に隠れ、うち震えていた。すると今度は遠くから、

「この傘を……この傘を……この……」

あの子供の声が聞こえてきた。そして私の脳裡に、まるで呪いの言葉のやうにいつ終わるともなく永遠に響きつづけた。

そしてあの子供が、うつむいた顔を徐々にこちらに向け始めた。

其の三「自分に似た人」

こんな夢を見た。どこかの街角を一人であるいている。どこに向かっているのか判らない。ただ、とても疲れているのは確かだ。しばらく歩いていると道の向こう側に誰かが佇んでいる。その背・格好は何処かで見覚えのある姿だった。なぜだろうか、その姿にはずっと昔から知っている様な、どこか懐かしい雰囲気を感じた。顔の見える距離まで近づいた時、私は一瞬自分の目を疑った。

何と、自分にそっくりの人間がそこにいたのだ。世の中にはよく似た人がいるものだ。彼は私には気付いていない様子だった。私はその姿を遠目にみながらそのまま通り過ぎた。

すると今度は前方から人が歩いてくる。いやな予感がした。私は伏目がちに歩をすすめた。その人と目の前ですれちがった瞬間、わたしは心臓が激しく高鳴るのを感じた。まさかこんなことがありえるのだろうか。いま自分の目前にいた人間は、まぎれもなく自分自身だったのだ。先程の"よく似た人"も、いま考えると、まぎれもなく自分自身だった。この世には自分に似た人が3人いるという。そしてその3人と会うと、自分の死が近いという前触れだと聞いたことがある。私は、似ている人どころか自分自身

石川雄規の
『闘いの美術館』
外伝

と出会ってしまったのだ。それも2回も……。

しばらく歩いて角を曲がった瞬間、嫌な予感が的中した。そこには私自身が立っていたのだ。私はその瞬間「ああ、私はすぐに死ぬんだな」そう思い、その途端に気が遠くなってその場に倒れこんだ。すると倒れる寸前に、誰かが腕を支えて助け起こしてくれたのだ。それは、いま目の前にいた自分自身だった。そして気付くと、いつの間にか先程すれちがった自分自身も、もう片方の腕を支えて助けおこしてくれている。私はなんだかとても安らかな気持ちになっていた。全ての不安も苦しみもすべて解き放ってくれる様な、なんともいえない温かい気持ちにつつまれた。そして、最初に遠目に見た自分自身が、我々の前をあるいて先導してくれた。

そこは私が幼い頃にくらした家の前だった。大きな桜の木があって、小川があって垣根で庭が囲まれている。私はあまりの懐かしさに声を失い、涙が知らずにあふれてきた。「よし、いくぞ」彼らがそう言った瞬間、私と両脇を支えた二人の私はふわりと宙に浮かび、垣根を飛び越えた。もうひとりの私は「おい、気をつけておろせよ。ゆっくりな」声だけが聞こえている。

私は庭に面した縁側のある懐かしい部屋におろされた。枕元には二人の自分が穏やかに微笑んですわっていた。こんなに安らかな気持ちになれたのは何十年振りだろう、おそらく赤子の頃、母に抱かれていた時以来のことではないだろうか。

「どこから来たの」私の問いをきっかけに我々はいろいろな話をした。とても穏やかな時間がすぎていった。ただ、彼の話す内容がどうもおかしい。明るい話題なのだが、なぜか私の知らない話ばかりのだ。なにやら未来の話のような……。

私ははっとして「君は、もしかして未来の私なのか?」彼はにっこりと笑った。そして何かを言いかけて姿を消した。彼のくちもとは確か、「だいじょうぶ……」と言っていた様な気がする。

目が覚めると、枕は涙で濡れていたけれど、それは決して忘れられない優しい夢だった。

子供はこの世に生まれる前、風だったって、あなた御存知でしたか？　そんな話聞いたことないって？　ほら、よくちいさい子が道端であっちこっち道草をくうでしょう。あれはね、昔友達だった草花や虫たちと話をしているんです。「元気だったかい……」って。それと、風は世界中の自然と友達なんですよ。草も木も、山も川も、動物達も、みんなと話ができるんです。あっ、あなた、私のこと変な奴だと思っているんでしょう。まぁ、いいですけどね。

大人達は、ずっと昔自分が風だったことを忘れてしまっているから、彼らの会話は聞こえないんでしょうねぇ。それからね、赤ちゃんは実は空を飛べるんです。見たことない？　そりゃそうでしょう。赤ちゃんは誰も見ていない時に、風と遊ぶんです。だけど、すこし大きくなって「自分は人間なんだ」って気付いた時から飛べなくなってしまうんですね。おや、面白い話ですって？　少しは信じてくれますか。嬉しいこと言ってくれますねぇ。じゃあ、もう少し私の話を聞いて戴くことにしましょうか。

で、風はひとつだけ魔法を使えるんですよ。どんな魔法かって？　それは〝愛〟を伝えることです。あなたにも覚えがあるでしょう。風に頬をなでられて、ふと優しい気持ちになったことが。あれは風の贈り物なんですよ。そして風は、この世界に人間として生まれかわる時、その魔法を手土産に持ってくるんです。だから赤ちゃんは皆、この世で一番素敵な魔法を使えるんです。でも残念なことに、大人になるにつれてその使い方を忘れてしまうんですね。

昔は子供達の魔法のおかげで平和でした。たとえ悲しい戦争が起きても、なんとか人の心を取り戻すことができました。ところがいまでは、世界中に風の吹かない場所が多くなりすぎて、子供たちの魔法だけでは手に負えなくなってきているんです。えっ、どうしたらいいかって？　そう、そこですよ大事なのは。でも、あなたにはもうおわかりでしょう？

そう、そのとおり。いま私達は「昔子供だった大人達」皆の力を必要としているんです。人は誰でも一つだけ魔法が使えるんです。もちろん大人はすぐには使えません。何故かって？　いえ、なにぶん子供の時以来ずっと使っていないから、魔力に埃（ほこり）がかぶってしまっているでしょうから。でもね、心配はいりません。いまならまだ間に合います。失くしたものを取り戻すことはできないけれど、忘れたものを思い出すことならきっとできる筈ですからね。

さてと、私はこのへんで……。えっ、私の職業ですか？　そうですねぇ、職業といえるかどうかわかりませんけど、大人達の心に積もった埃を払ってまわるのが私の仕事です。それが、私が使えるたったひとつの魔法ですから……。

あっ、そうそう、最後に一言。目をとじて、耳を澄ましてごらんなさい。もうあなたにも聴こえるはずです。

ほら、風の唄が。ねっ、とっても温かいでしょう。懐かしいでしょう……。

（『風が伝えた愛の唄』）

Muhito

最強最後のレスラー降臨!!

虚構と現実がリンクする
壮大な格闘ロマン

本格格闘プロレス小説

無比人



真樹日佐夫

コラージュ・
釜津田浩司

(16)

【前号までのあらすじ】
ディスコの用心棒時代にはプロレスラーを倒し、暴力団の事務所では数十人の組員たちをも一瞬にして叩きのめした若者・無比人。闘う宿命を背負って生まれた無比人に、惚れ込んだプロレス専門誌の編集長・千堂は、彼をレスラーに仕立てあげる。だが、無比人をコントロールすることはできず、千堂はやがて、無比人の底知れぬ恐ろしさに恐怖と憎悪を感じるようになる——。

芳賀順子の肉置きの豊かな尻の左側、丁度トップヒップに当たる辺りに黒子が三つ固まっている。直線で結ぶと正三角形をなすのでは、と思われる位置関係に。

順子は、いま、その輝くばかりに白い尻の割れ目の奥までも惜しげもなく晒した四つん這いの格好で、なお飽き足りぬと言わんばかりに自ら腰の動きを烈しくしていく。ベッドに両手を突いて頤を上げており、その口と舌とで、両膝立ちで前に身を置く真澄の股間への愛撫を強制されながらである。

千堂は順子の真後ろにやはり両膝を立てていて、右手に持ったバラ鞭で背中といわず尻といわず打ち据えては、

「もっといやらしく! もっと、もっと!」

と叱咤する。三人とも身に一糸も纏っていなかった。

中目黒の順子が全館を所有するマンション屋上に建つ、彼女の居宅であるペントハウス。贅沢な造りで、寝室も特注と思われるベッドもやたらと広い。

ひとしきり鞭を揮ったところで千堂はそれを捨て、ぺちゃぺちゃと犬のように舌を鳴らす順子の尻に両手を当てがった。未だ張りを失っていないそれを、ゆっくりと力を加えつつ左右に押し広げる。鈍色を帯びた菊の蕾の全容が露わにされ、前の方の花弁もあからさまに開いて透明な液が糸を引く。

なんとも淫猥な眺めを褒めながら、

「言え! どこを曝け出しているんだ」

と言葉嬲りの段階へ。

絹子は真澄の股座から顔を引こうとするが、彼女に髪を掴まれてなかなか果たせない。

「一番恥ずかしい……ところ」

と、やっとのこと切れ切れに応じる声。

千堂は、押し広げた肉を力任せに上方へ寄せた。尻全体が完全に天井を向いた。

「女社長の気取りがまだ抜けきらんとみえるな。よーし、ここへ鞭の柄を突っ込んでやるとするか」

「厭、赦して」

無比人

なぜ打(ぶ)つの？私だって女王さまよ

「では、名称を言え」

「アヌス」

「見せているのは、そこだけじゃなかろう。その下は」

「そこは……」

「言えなきゃ鞭の柄だな」

　絹子は四文字を喉の奥から絞り出すようにし、またぞろ髪を掴もうとする真澄に抗って千堂へ頚を捩じ向けると、縋るような目色のうちに、

「なんでも命令通りにします。ですから、ご褒美を」

「欲しいか、そんなに」

「欲しい！　待てないわ、もう〜」

　頃合いと視て、猛り立つ一物を千堂は深く埋めることにした。向き合う真澄が促すかのように頻りに目で訴えてくる、それを無視し兼ねたせいもあったろうか。

　後背位で絹子と合すると、真澄との距離がさらに狭まった。真澄は待っていたように口を求めてきた。しながら一方では絹子の頭を両手で抱え、有無を言わさず股の間に改めて顔を押しつけさせたのだ。

　真澄の口を吸いながら千堂が抜き差しを繰り返すうち、獣のそれにも似た唸り声が聞こえだした。貫かれ奉仕もさせられで思うに任せぬ結果だが、くぐもったような絹子のその声に彼は初めてここを訪れた夜のことを厭でも想起せずにはおれなかった。

　真澄の誕生日でもある終戦記念日の夜、招待されて行った〈SMパブ　ピンヒール〉で氷見子は、ステージへ上げた女王さまルックの女の頬をいきなり撲(は)って千堂たちを驚かせたが、

──なぜ打(ぶ)つの？　わたしだって女王さま、客できているM男(お)たちがどう思うか。

と、その女が口を尖らせて抗議せんとするのを、すかさず背後の垂れ幕へ手を伸べ乗馬鞭を出して柄の部分で腹部を一突き。尻餅をつかせたところで、

──なにがM男だよ。なりたてのほやほやが一人前の口を利きくさって。だから言ったろ、趣向を変えるって。リサ女王、今夜はおまえをみんなの前でどんでんさせてやるから、覚悟するんだ。

　苦しげに腹を押さえた女のその手をピンヒールの一方の踵で踏み付けにして、宣するごとくにそう言い放ったのだった。

　どんでん、というと同性愛の世界で男役がなにかの拍子に女役に変じることを意味するのだったかと、おぼえず千堂が身を乗り出すのをよそに、氷見子は今度は鞭の先端部で喉首をぐりぐり押しこくった。そうしてぐったりさせておいて、再び垂れ幕へ手を入れた。取り出したのは大ぶりの裁ち鋏。ぱちんぱちん刃を開閉させながら脇に身を屈めると、一転した手早さでボンデージを切り裂き、ピンヒールだけの裸とした。

　鋏の刃はさらに胸へと伸び、つんと上を向いた一方の乳首を挟む位置にて動きを止めた。じわりじわりと氷見子は両側から二枚刃を寄せながら、

──ちょきん、と切っちまってやろうかねえ、ひと思いに。

──赦(ゆる)して！　氷見子女王さま！

　リサ女王と呼ばれていた女は、ちょきんのその声が合図でもあるかのように半身を跳ね起こした。横坐りのまま、両手を合わせ氷見子を拝むジェスチャーを見せた。

──なーに、もうどんでんがきたの？

──なんだか生まれて初めてのような、真綿でやさしくくるまれているというか、そんな快感が……。

──そうそう。そのやさしい温もりこそは、おまえが無理も背伸びもしていない、すなわちマゾとしてあることのバロメーターなのさ。さあ仮面をかなぐり捨てて、やりたいことはなんでもおやり。

　女同士のその世界に於てもSからMに変じれば、それをどんでんと称(よ)ぶのか。リサ女王はもはや女王に非ず、やにわに氷見子の前に這い蹲るとヒールに覆われた一方の足を両手で抱え込み、頬擦りをはじめた。

──そこのM男たち。今日限りリサを見限るというんであれば、この氷見子女王さまが纏めて面倒を見ないでもないけれど、しかし彼女と違って仕置きはもっともっときついよ。堪(た)えられるゥ？

　忽ちにして女王さまをマゾ奴隷に落としてのけたオーナー兼Sのクイーンは、その奴隷を纏わり付かせたまま彼女が坐っていた席へと視線を巡らし、勝ち誇ったように言った。

　馴れ合いだとしたら大変なものだがと、なぜかぞくぞくしながら見入る千堂であ

ったが、するうち氷見子が隣の真澄をも視野に入れていることに気づき、途端に身構えるような思いにさせられた。趣向を変えたのは、彼女を意識してのことなのでは……。向かいに坐る無比人を窺ったが、背にしたステージの方を一顧だにしない彼はまったく別のことに思いを致しているのか。その表情は漠として掴みどころがなかった。

そうして氷見子とも無比人とも別れての帰途、千堂は真澄に、

——名前、何ていったっけ。

と唐突に言ったのだ。タクシーを彼女のマンションのある元麻布へ向けさせたばかりだった。

——名前？ 誰の。

——乱交パーティーを主催する、食品会社の女社長だよ。

——ああ、芳賀絹子さん。

——住まいは。

——中目黒の同じマンション。ペントハウスに一人っきりで暮らしているんだけれども、それがなにか？

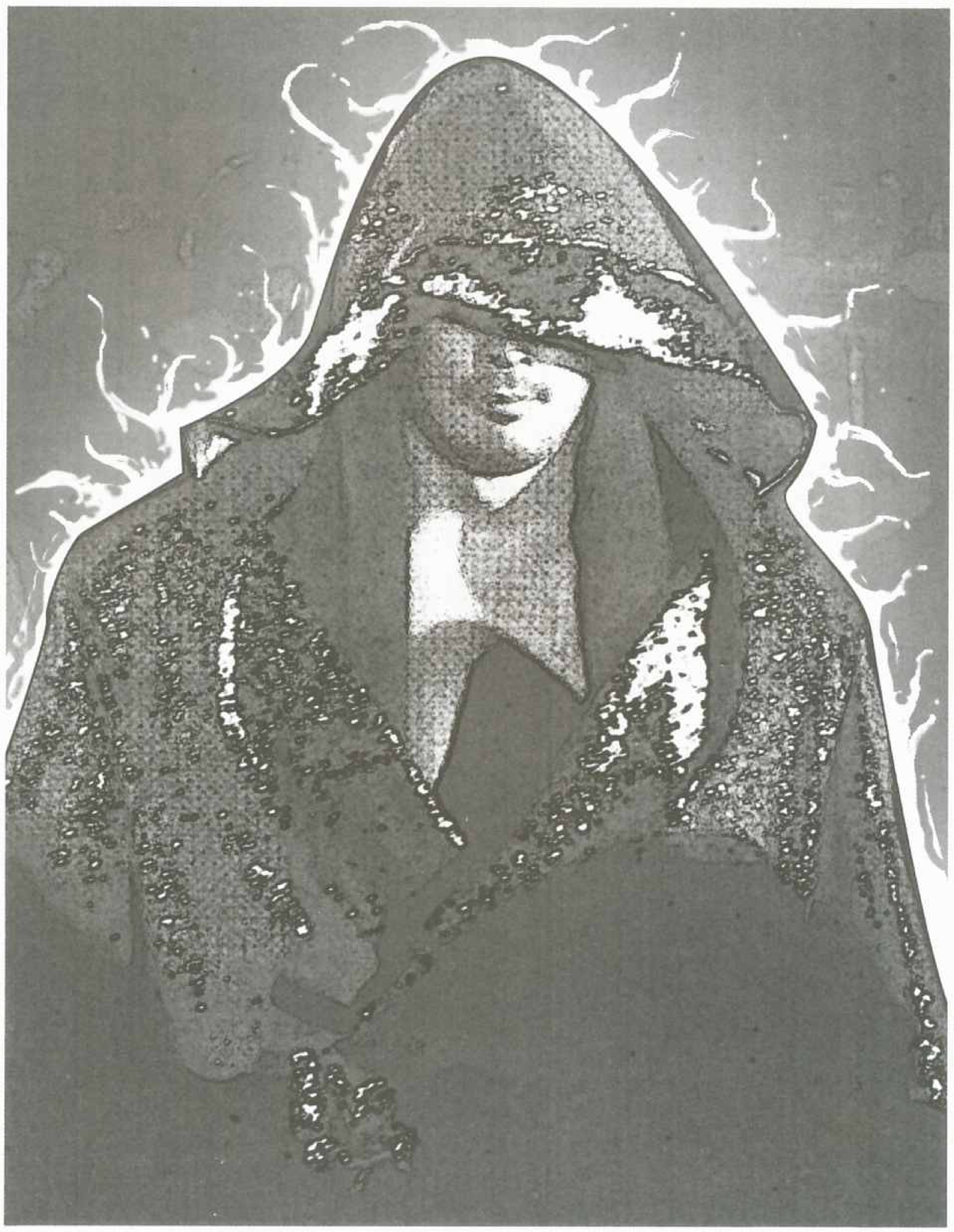
——よーし、そこへ案内しろ。運ちゃん、そういうわけだが、ちょいと寄り道だ。

突然の目潰し！ 無比人は視力を失い…

六本木回りで大人のオモチャを並べた店の前で停めさせると、千堂だけ降りて〈SM六点セット〉というのを買った。レザーの手錠、箝口具、バラ鞭、足枷、貞操帯、それにアイマスク。

芳賀順子は、深夜にもかかわらず二人の来訪を喜んだものの、リビングルームでいきなり千堂に襲いかかられ、ソファに押さえ込まれてシルクの洒落た部屋着を剥ぎ取られると、さすがに動転した。動転しながらも、

——こんな手荒にしなくとも、お望みとあらばスミと3Pだろうとなんだろうと。



と、その時点では恐怖の色はまだ見られなかった。ところが素っ裸にされた上、手錠と足枷を嵌められてソファから絨毯へ引きずり下ろされると、初めて粟立つような顔になり、

——お願い。なんでもするから、躰に傷を付けるのだけは。

——誰がそんなことを。おまえはそうして、ただそこに転がってりゃいいんだ。

——こんなのって厭よ。ねえ、スミからも言ってちょうだい。

不様な肉の塊と化した順子が真澄を見上げて哀訴する、その口へ千堂はベルトにピンポンの球状の物が付いた箝口具を押し込んだ。

真澄は、事の成り行きが信じられぬ様子で呆然と立ち尽くすのみだったが、千

無比人 (17)

堂の手が伸びてきてドレスを脱がせにかかるに及んで、ようやく得心した顔になった。自らも協力して全部脱ぎ、ソファに横たわると順子にも見せつけるかのように躰を開いた。

千堂は真澄とまぐわい、一度アクメを迎えさせたところでソファを下りると、荷物を扱うようにして絹子を犯した。3Pというより、鴬の谷渡りといった雅びな言い回しを頭に置いていた。

犯されながら順子はくぐもり声を上げ続けたが、途中で箝口具を外してやると、

——こんな凄いセックスがあるなんて、もう駄目、癖になっちゃう。ねえ、お願い。スミがあなたに絶対服従だってことは聞いてるけど、これからはわたしもお仲間に。スミが奴隷一号なら、二号で構わないから。

荒い吐息の下から性急に言い、その後に勝手に乱れた感じで上りつめた。死んだように動かなくなった。

それからというもの、週末には真澄を伴って順子のペントハウスへ寄り、三人して歓を尽くすのが暗黙の了解というか、千堂にとっても習いとなった。とこうするうち夏も終わり、秋が闌けた——。

真澄の下腹部に顔を埋めたまま、順子が頂点に達したのがゴムボールが裂けたような音声と、尻の肉のわななきでわかった。

おっつかっつに真澄も斬られた者によ うに甲高いひと声を発し、ぐらりと半身を倒してきた。誕生日のあの夜を境に一段とまた感度が研ぎ澄まされたのを、千堂としても認めないわけにはいかず、歓迎しながらも一方ではなにか釈然とせぬ思いが尾を曳いた。

（氷見子の店を出て順子を襲う気になったのは、Sの女王さまには真澄は渡さぬ、というライバル意識からではなかったのか。否、彼女を奪われてはとの不安ゆえだとしても、どのみち氷見子の掌の上でいいように踊らされていることに変わりないのでは……）

折り重なるように臥した女二人を見下ろし、いままた思いを巡らす彼の顔には疲労が色濃く張りついていた。

十月第三週目の週末、横浜文化体育館に於てニュー東都プロレスリングの昼興行が開催された。

千堂は関係者席に最初から陣取っていたが、傍目にもそれと知れようかというほどに落ち着きがなかった。東京を離れることでもあり、真澄には声をかけずにきていた。

八月の旗揚げから二ヶ月半、週に一度のペースで自主興行を打ってきており、『四角いジャングル』誌上で連載がスタートした〈追跡!! 万無比人〉の効果とも相俟って、ニュー東都プロレスは船出してなんとか波に乗るかと思われた。

しかしながら、営業本部長としてマッチメークを担う立場からすると苦労の連続で、とりわけ金看板である無比人の対戦相手選びには神経を磨り減らされた。この日も含めて彼は、これまでに無比人のカードを都合十一組んだことになるが、初代タイガーマスクとのケースを除けば一つとしてすんなり運んだ例しはなかった。

無比人に限ってはセメントしかやらぬ、という建て前が邪魔をして予算の枠に納まり切らず、そうでない試合もやるにはやるが、その場合にも真剣勝負に見せかけなくてはならぬ、というわけで相手もかなりの芸達者に限定される。予算がオーバーしがちなのは、セメントならセメントなりにとのことで法外な金額を要求されるからにほかならない。

そんなこんなで並大抵でない辛酸を嘗めさせられながらも、千堂はしかし自分でも奇異に思えるほど、苦労を苦労とせずにやってこられた。というのも強い相手、強い相手とさながら自分のことのように目の色を変えて交渉に臨んできたからで、ひょっとしたら無比人の負けを望んでのことなのでは、ふとそんな気もしないではなかった。

千堂自身突きつめて考えてみたことはないものの、氷見子にいいように踊らされ、その影に怯えて日を過ごさなくてはならなくなった原因が無比人にある、彼によって引き合わされたから今日の事態に到ったとの受け止め方をするなら、負けを期待するのもゆえないことではないのではと、そのようにも考えられた。

そんな屈折した千堂の内面を知ってか知らずか、メーンイベントのマットを踏まえた無比人はいつものように茫洋として、また見事なほどに肩から力が抜けてもいた。

この日の相手は〝ダイオキシン〟ことグレート・沖。反則なんでもござれの悪役ながら、ストロング・スタイルの実力の方でも一級品との折り紙付きという変わり種で、フリーとして各団体のマットを渡り歩いていた。

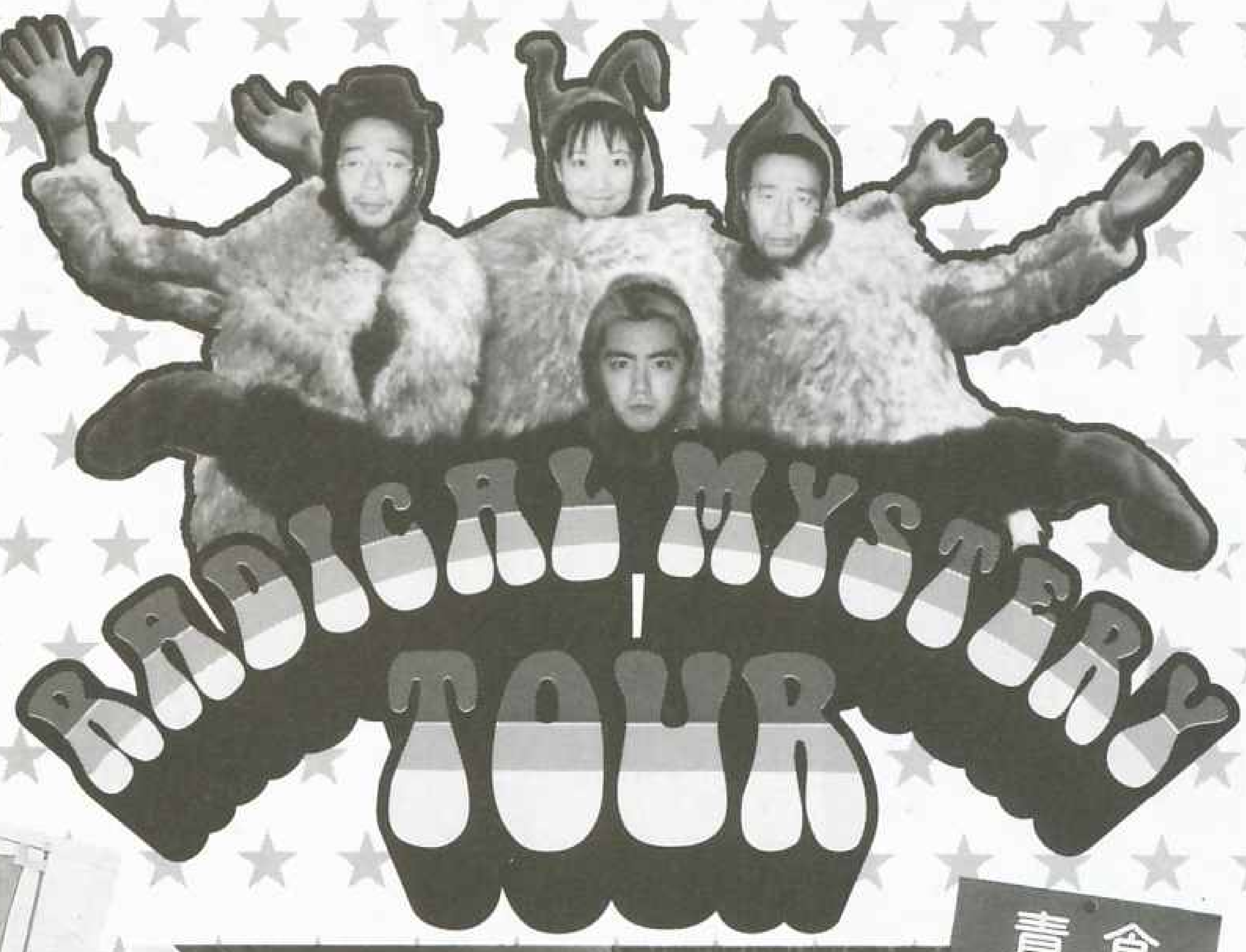
試合開始のゴングと同時、黒いタイツ姿の沖が矢のように飛び出して無比人のコーナーを急襲。タイツの内側の隠しポケットから痴漢撃退用の目潰しスプレーを取り出しざまに、ひと吹き顔へ浴びせた。

無比人は反射的に両手でカバーしたが、後手に回ったのは誰の目にも明らかだった。

千堂は胸の高鳴りを抑えかねた。

〈以下次号〉

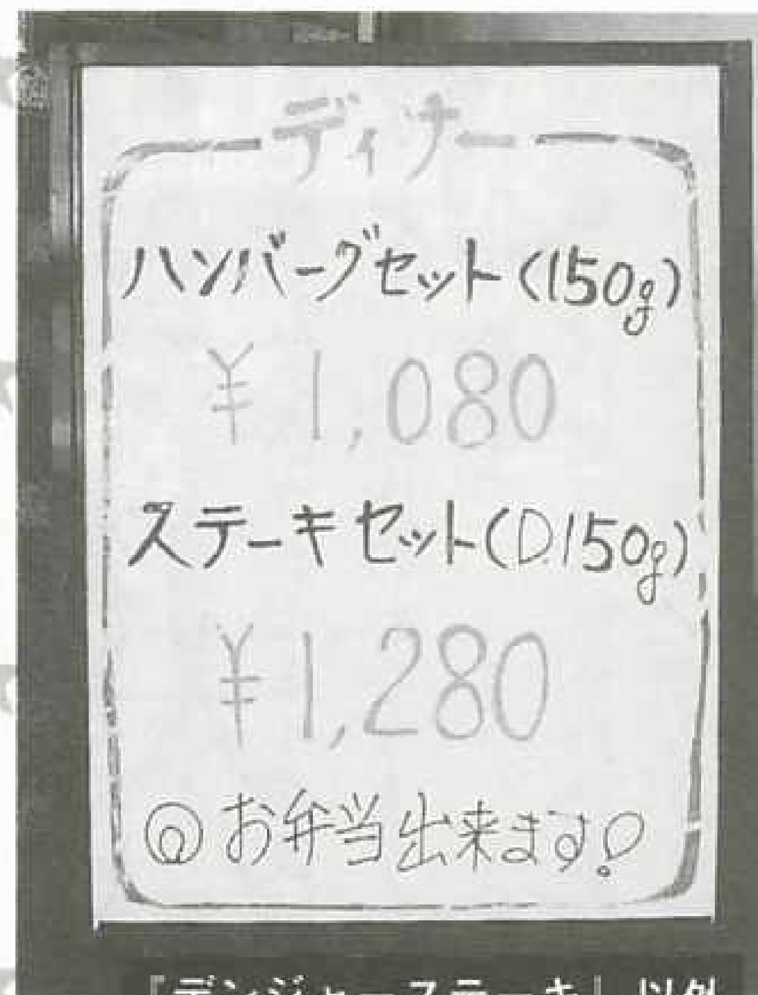
くらしに役立つプロレス情報を貴方に押し売りするコーナー！



vol.2 Mr.デンジャーを探せ！

プロレス界には冒険好きが多く、我らが日明兄さんがアマゾンでアナコンダに噛まれたりしたこともあった。これは、日明兄さんよりほんのちょっとだけ小さいスケールでお届けする探検企画ページの第2弾である！「ムキになることと好奇心は同じ！　まず人と関わりましょう」（日明兄さん・談）

構成＝坂井ノブ　撮影＝戸成ぶつぞう



『デンジャーステーキ』以外のメニューも充実している。お肉好きにはパラダイスだ

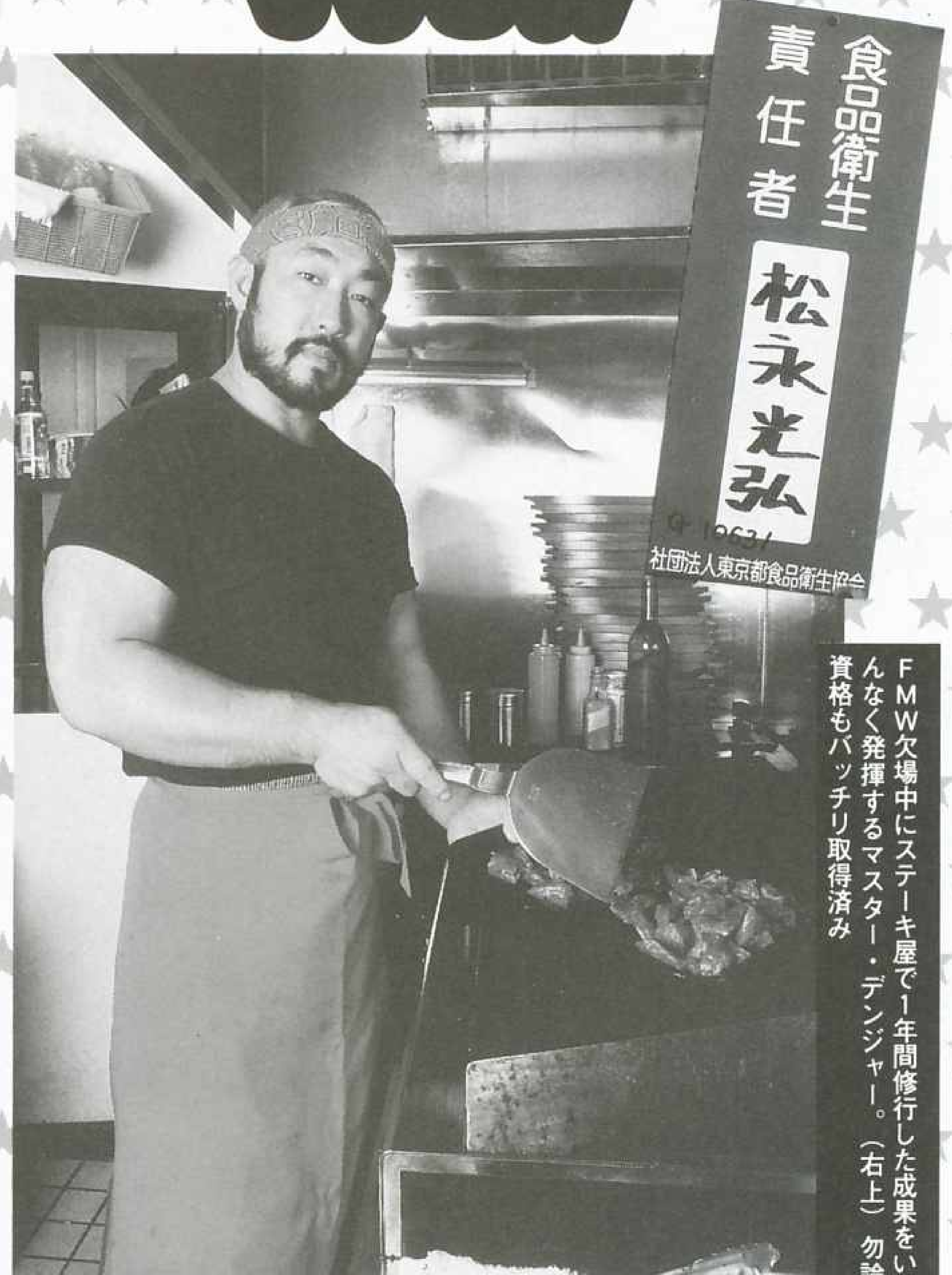


この赤い旗が目印だ！見つけたら即突撃！



それにしてもショッキングな店名だが、非常に素敵！

一国一城の主となった松永。しかし、まだ引退をしたわけではなく、トレーニングも継続しているそうだ



FMW欠場中にステーキ屋で1年間修行した成果をいかんなく発揮するマスター・デンジャー。（右上）勿論、資格もバッチリ取得済み

　レスラーといえば食。太古の昔からレスラーと食は切っても切り離せない根深い関係である。東京～大阪間の新幹線の食堂車でメニューを全種類食べ尽くした小林邦昭を例に挙げるまでもなく、レスラーはメシを食うのも仕事のうちなのである。しかし、最近の古いイメージを革新しようとする風潮は、個人的には淋しい限りである。そもそも食事制限をズブの素人がマネするのもおかしな話だ。

　と、そんな時代に牙を剥いたのかどうかは知らないが、今年の4月15日に松永光弘がひっそりとステーキハウスをオープンさせていたのは、あまり知られていない。山田敏代の店や北斗晶の店など最近オープンしたレスラーの店が大々的に告知していたのに比べ、この『Mr．デンジャー』は告知がまったくされていないのだ。どこにあるのか？　ひょっとしたらサソリやピラニアも食わせてくれるのか？　出てくる料理もデンジャーなのか？　今回のツアーは、謎が謎を呼ぶ『Mr．デンジャー』を探索することにした。ちなみに、ボクは「食事制限をする」「襟足を伸ばす」等の安直かつ気取った『レスラーのマネ』にアンチテーゼを唱えるべく、松永光弘の持つ「愛すべき朴訥さ」をマネて金髪＆ヒゲにしてみた次第である。

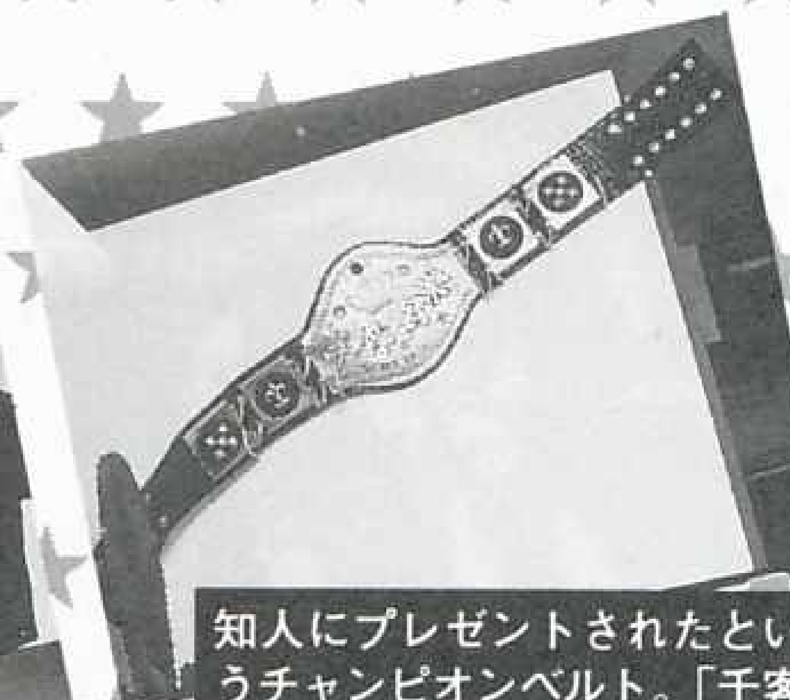
　さて、今回のツアーはボク、本誌・吉田豪、前々号でW☆ING完全支持宣言をブチ上げたイナズマ・K氏の3人。店に入るなり、目に飛び込んできたのがピラニアのいる水槽、オマケに壁には相当でかいライフルが！　まさにデンジャー・イズム炸裂である。これで一般のお客さんは恐がらないのか？「そんなことないですよ。特に珍しがる人もいないし、お客さ



妖しく光るナイフを自在に操り、手際よく肉をさばいていくデンジャー。有刺鉄線バットに続く新しい凶器となるか？



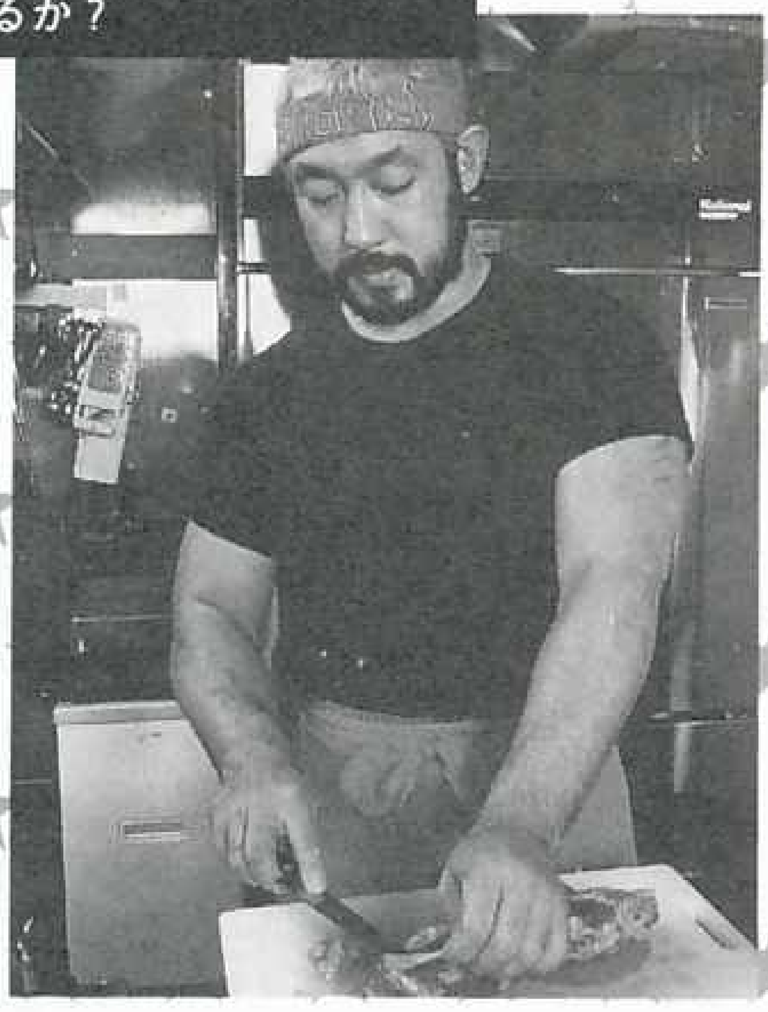
店のオリジナルTシャツかと思ったら「W☆ING時代のTシャツに『STEAK』の文字を加えただけ」とのこと



知人にプレゼントされたというチャンピオンベルト。「千客万来」の文字が刻まれている



さりげなく銃を飾って、デンジャーな雰囲気を醸し出す心づかいはニクい





ファイアーデスマッチの写真が何事もなかったかのように飾ってある横に、「大喰いの常連が勝手にポラを貼っていくんですよ」とのこと。心も広い！



JWPヤマモ、岡野、ディック東郷、くどめ、血みどろブラザーズ、非道、新日の西村（現・大猷？）のサインが店内には飾ってあった。顔が広い！



腹一杯ステーキを食えて幸せなピラニアだと思ったら「鯉のエサをくわせてる」とのこと

『Mr.デンジャー』は世間とプロレスするお店です！



これが「1ポンド・ステーキ」だ！ ちなみにタレは松永の手作り！ 肉も「他では使わない肉を時間をかけて仕込んでいる」だけあって、柔らかくてジューシーなのだ。



最後はデンジャーを囲んで「いただきま〜す」。この後、とても誌面では書けない非常にデンジャーな暴露トークが繰り広げられたのだった

アクセス

［店名］Mr.デンジャー
［住所］ないしょ
［電話番号］ないしょ
［最寄り駅］ないしょ
［ヒント］以前、勤めていた店のオーナーの教えを守り、「車で来れない場所に店を出すつもりはなかった」（松永光弘・談）　ひょっとしたら、大通り沿い？
※さあ、みんなで考えよう！

たのがピラニアのいる水槽、オマケに壁には相当でかいライフルが！　まさにデンジャー・イズム炸裂である。これで一般のお客さんは恐がらないのか？

「そんなことないですよ。特に珍しがる人もいないし、お客さんの回転が早くて困っちゃうくらいですよ」とは、店で「マスター」と呼ばれる男・松永光弘の弁。さりげなく世の中とプロレスするマスター・デンジャーなのであった。

早速、今回の謎のテーマ「なぜこの店はマスコミに登場しないのか？」を聞いてみた。曰く、「プロレスファンの溜まり場にはしたくなかったから。だって、カレーひとつ注文しただけで4時間も居座って、大声でプロレス論議されても他のお客さんは迷惑ですよ」とのこと。場所を明かさないのも、「プロレスファンだけに頼らない、世間を標的に入れた経営」というビジョンに基づいた上でのことだったのだ。地域密着型の経営が功を奏したのかオープン以来の経営はデンジャーではないそうだ。

ついでに『ポーゴ寿司』構想について松永に聞いてみたところ、「ムリですよ。あの人が朝早く起きて市場に買い出しに行くとは思えない」とのこと。さらに、矛先はターザン山本にも向けられ、「あの人も『週プロ』を辞めてからダメになった。食い物屋でもやればいいのに」と鋭い指摘だが、1億％繁盛することはないと言い切りたい。

肝心のデンジャー・ステーキはとにかくボリュームがあり、肉もすごく柔らかく、うまかった。値段も非常に良心的なので、ズバリ言ってオススメなのだが、店がどこにあるのかは自分で探してくれ。

いでください！（試合後のノブ・談）



（神奈川県　飯塚千穂　20歳）
ヒクソンにこれを着させればよかったのにね。

ングダム

最強ッ!!　どうも、ノブで～す。いや～、ようやく決まったね、高田vsヒクソン戦。今から ドキドキしますよ、10・11東京ドーム！ 最強ッ！ いやホント楽しみでしょうがないね、樹海に入るのが。「フワフワ！」って感じかな？ ところで当日はヒクソン来るのかな？ 逃げるな！ ヒクソン！ おっと、もうこんな時間だ。家に帰って「心のドス」を磨く時間なんで、失敬させてもらいま～す。最強ッ！ ってなことにはなってくれないものだろうか？ 「ま、しゃーないな」じゃ済みませんよ、いや、これホント。

構成＝小っちゃなノブ



今号のひとことキング

高田が変なセーター着てました！

（千葉県　中村カタブツ君　34歳）
KRSの記者会見に行ったボケじじい。1mの距離から写真を撮ったにも関わらず、茶色いチェックのシャツを着た高田を見て、「変なセーター着てましたよ」と会社で報告。誰か老眼鏡を買ってあげてください。カタブツ君と話をしてると、別の惑星の生き物と話してる気になります。

「シャコタン？」「ブギー！」というわけで今月も編集部に届いたハガキの中から、バリバリの純トロをお届けするぜ！

石川雄規の『闘いの美術館』は素晴らしく良くて感動した。
（名古屋市　神川謙司　20歳）

☆非常に好評だった石川社長の涙腺刺激コラム。しかし、当の本人はウンコの置物を嬉しそうに見せびらかしてみたりして、最近ますますイカレ社長っぷりに磨きがかかっています。

5号で面白かったのは高田が「対ヒクソンについて、あれこれ言うのは前田さんだけだ」と言ったところと藤原組長とドン荒川の対談。
（山形市　遠藤信也　26歳）

☆世紀の一戦でしたがノブは負けてしまいました。しかし入場の際にセコンドに安生と宮戸がいて、リングサイドには日明兄さんが陣取っているだけで涙がこぼれましたね。ま、しゃーないな……って、しゃーなくない！ 誰かヒクソンを倒して！

好きな選手は田村潔司。実は7・29のキングダムの代々木大会の2階席で発見しました。垣原が山ケンに負けたときは首を傾けていましたよ。
（埼玉県　田中日明　27歳）

☆10・11の東京ドームにも田村選手が来ていました。試合後、すれ違ったときは目を真っ赤にしていました。他には顔をくしゃくしゃにした和田良覚、呆然とする宮戸優光などを目撃してしまいメチャクチャ切なくなってしまいました。

最近のタイガーキング氏を見ていると、まるでディズニーとイフェイテイケイし世界配給される宮崎アニメのようであります
（福井県　幕留苦・恨　36歳）



（山口県　グラスから愛がこぼれる　17歳）
相変わらずナメたペンネームがステキな彼氏。のも姉さんも笑ってましたよ。目は笑ってなかったけどね。恐いね。

☆最近のティグレのマスクはどう見ても犬ですね。編集部ではあのマスクがバリバリ大好評。おまけに「ワンって吠えてましたから」という素っ頓狂なコメントもパンチが効いててグーです！ 文句なし！ V－I－V－A！ ティグレ！

人生とは「ま、しゃーないな」の連続である！
（大阪府　米井敬人　20歳）

☆まさに今のノブにぴったりの言葉ですね。あと、我が社のスクラップ三太夫ことカタブツ君にも当てはまるかもしれないね。相変わらず、ポンコツ街道まっしぐらです。詳しくは次のページで！

面白かった記事は「高田vsヒクソンの意味！」ターザンの爆発トーク、ブラボーって感じっすよ。
（釧路市　上田恵　27歳）

☆今回は表紙＆巻頭がターザンと因縁浅からぬ新日の蝶野。おまけにドマイナーパワー＆ザッツ・レスラーも休載。果たして本誌とターザンの間には何があったというのか？ ケンカ？ クビ？ それともカタブツ君（天性の怒らせ上手）が怒らせたのか？ 謎が謎を呼びつつ次号へと続く！

パフィーってプロレスに興味あるんだぁ、へーっと思った。
（鹿児島市　竹崎良人　31歳）

☆こういうハガキが多数来てます！ 今回は『PRIDE1』観戦直後にインタビューしたんですが、シカティックと対戦したラルフ・ホワイトのコブがいたく気に入ったご様子。ちなみにパフィーはボンジョビ島田レフェリーの写真を見て「あ～、インチキレフェリーだ！」と言ってました。まさに世界のシマダですね。（というよりも『紙プロ』のせい？）

やってほしい企画はパンクラスブッ潰し計画などパンクラスを潰すものなら何でもいい。グレイシーにもまともに勝てない奴なんて勝ったなんて言えるか！ バカ高橋！ 死ね！ とにかくオレ達も協力しますんで、パンクラスという世界最弱団体を潰してくれ！ 頼む！
（川崎市　森山大　18歳）

☆テンションの高さだけなら今号いちばんのハガキだ。その意気やよし！ いや～、それにしてもリングスにはこういう熱いファンが多くて個人的には大好きです。パンクラスファンのハガキは「無視してください」とか「関わってほしくない」とか腰の引けた意見ばかりなので、ズバリ言って読んでてつまんねえです。

（埼玉県　中川雅博　19歳）
いろんなプロレス＆格闘技雑誌の読者コーナーで大活躍中の中川君。エスプリ効きすぎ！ 今度は、ダジャ専にもイラスト送ってください。



これで終わりだと思わない で

ハガキング

(大阪府　うしえもん　20歳)
今回、ダジャ専はお休みですが、みちプロも来年から休業するそうです。ま、しゃーないな…
…って、しゃーなくない！　何とかしてよ！



のも　のもはもともとプロレスとは関係ない人間じゃないかと思っていたんですが（はっきり言ってムカついてました）あれらのグッズからすると実は……おみそれしました。
(福岡市　山田孝幸　36歳)

☆前号の読者プレゼントで「欲しいプレゼント」のワースト人気1、2フィニッシュを決めた荒谷のパンツ&佐々木〝最高だぁ〜〟健介抱き枕。こんなお宝グッズを持っているのものものならでは。まさに邪道姫ですね。しかし、このハガキの「実は……お見それしました」の「……」は何？　とても、書けないようなことなのか？　「実はブス！」か？　「実はデブ！」か？　それとも「実はうんこちゃん！」か？　答えによっちゃ、今後のキミのポジションが決まるね。答えを早急にのも姉さん宛に送るように！



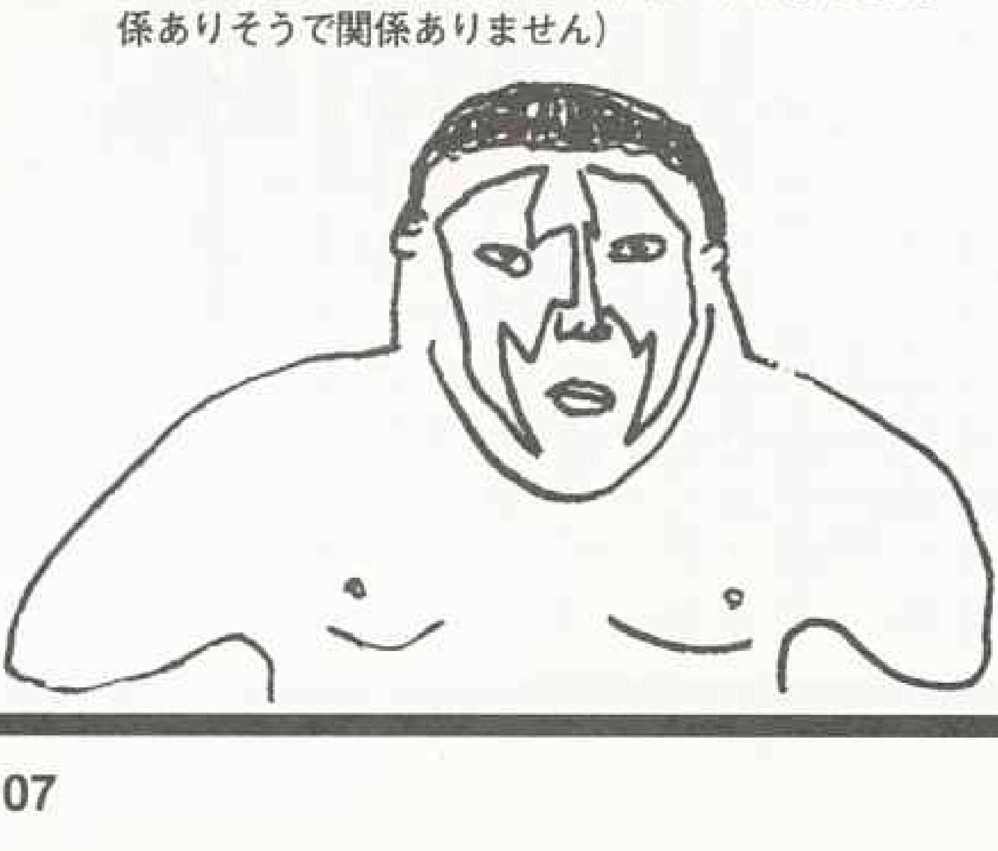
(福島県　武田公文　16歳)
何で負けたんだよ〜！　お陰で山口昇・本誌編集長（会う人会う人に「ヤ●ザみたい」と言われている）が翌日から携帯もつながらず、行方不明になっちゃったじゃねえか！　(14日現在、未だ行方不明)

この募集が終わったら、20世紀も、もう終わっていい……わけねえだろ！な募集です！
ハガキングダムでは20世紀が終わってもいいご意見&ご感想、樹海に迷い込んでも自力で出てこれるイラスト、400戦無敗のタレコミ情報、さらにダジャ専、二代目を探せ！へのハガキを大募集します！　尚、応募の際は「6人タッグは？」「ダメ!!」という合言葉を忘れずに書いてください！　宛先は
〒151　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
「ハガキングダムも新世界」係まで
※今回の『ダジャ専』&『二代目を探せ！』はノブ惨敗のため休載いたします。フワフワ！（涙）

激突　読者が決定！　RADICAL公認プロレスラーランキング！　カウントアップ・グルーヴ

A・猪木のファイナル・カウントダウンを評して、破壊王はこう言い放った。
「あれじゃカウントアップしてるじゃねえか！」
曖昧なことが大好きな『紙プロ』は、これからも曖昧なカウントアップを続ける猪木さんを応援するつもりである。それはそうとTVでは今、チャート番組が結構なブーム。そこで本誌でも「時は来た！」とばかりに、今回からひとつの新コーナーが登場した！　名付けて、
『カウントアップ・グルーヴ!!』
読者投票によるプロレス流の曖昧なチャートを曖昧に集計し曖昧に吟味する企画である。
さて、次号から本格的に始まるこのコーナー、第1回の募集テーマは『プロレス界のNO．1美男・美女は誰だ？』である。なぜ今、美男・美女なのか？　発端は今年5月の新日本プロレス・ファン感謝イベントでの長州力の発言にある。
「西村（修）はウチでいちばんマスクがいい」
この発言がどうにも腑に落ちないプロレスファンも少くなかったはずである。ならば、『紙プロ』が「ゴチャゴチャ言わんと、誰がいちばん美男・美女なのかハッキリさせればええんや」とオリジナル・チャートを作成し、長州力発言の是非を世に問うてみようというのが今回の趣旨である。もちろん、ただ募集するだけではハガキなんぞ来るわけないので、読者プレゼントの応募要項に組み込ませてもらいます。男女各1名ずつなので、余分に何人も書いてこないように！　一位に投票した人にはなんかあげます。
このコーナーは毎回、テーマを変えてその次の号でランキングを掲載していく予定である。まあ、今回はちょっとは読者のみなさんも興味のありそうなテーマを扱ったが、次号からはプロレス界に万里の長城が築けるくらいの壮大なテーマを構想中である。また、こんなテーマでランク表を作ってくれという希望は随時募集中！　でも、ヤバ過ぎて掲載できないようなテーマはなるべくならオブラートで包んでからハガキを書いてよこすこと！　まあ、面白けりゃいい。
ちなみにこのチャートには一切、編集部の手は加えませんのでご理解ください。よって、苦情・いちゃもん・殴り込み・カチ喰らわし・「潰す」発言・「殺す」宣言・モチつきパワーボム等は一切受け付けません。あしからず。

(山口県　榊原英樹　22歳)
どんなブサイクなレスラーも組織票によっては、ランク浮上の可能性もある（イラストと本文は関係ありそうで関係ありません）



直がない!!（byミスター・デンジャー）

よって、カタブツランド改め バカ日誌 となりました

ダブルクロスの真性ポンコツ編集者 中村カタブツ君（34歳）嫁に逃げられるの巻

各方面でギブアップ宣言が続出。もはや誰も笑えないのか？ 失敗すると自殺しそうな暗い顔になり、褒められると（それが例え悪意混じりであっても）目尻がグニャっと下がりえびす顔に変身。この単純さを何かに有効利用できないものか？

このコーナーは『紙のプロレス』の編集者・中村カタブツ君の働く様（というか働いたら、その倍は失敗を持ち帰ってくる様）の正真正銘100%のドキュメンタリーである。当初は、カタブツ君の、カタブツ君による、カタブツ君のための楽園コラムであったのだが、擁護すべき点がまるっきり見つからず、そのくせ筆者にも「カタブツランドのせいで、オレは仕事が出来なくなった！」とすっとぼけた寝言を言ってくるので、今号からは『カタブツランド』改め『バカ日誌』とさせていただくことを読者の皆様にお断りしておく。『バカ日誌』はバカの、バカによる、バカのためのパラダイス作りを目指し、日々精進していくつもりである。よろしくお願いします。

さて、タイトルは変わっても素材は変わらず。この日誌の主人公・バカこと中村カタブツ君（34歳）は前号であらゆる失敗の限りを尽くし、社内全員から大ブーイングを浴びたにもかかわらず、今号も首の皮0.001枚だけ残して踏みとどまっている。失敗だらけのクズっぷりに、最近は読者も閉口しイライラも限界に達しつつあるようだ。だいたい同じ職場にいるわけでもないのに、パッと読んだだけの読者にまで届いてしまうインパクトは恐ろしい。関わった人をイライラさせ、ダル〜い雰囲気を撒き散らす不思議なポンコツ電波は貴重っちゃあ貴重である（「○○○っちゃあ○○」はブチのフェイバリット口癖。非常に歯切れ悪く発音するのがミソ）。そんな毒電波に当てられた犠牲者である読者の声を紹介しよう。

「カタブツランドにこんなにページを割くなんて資源のムダよ。掃除用具入れの中に閉じ込めてやりたい」（釧路市　上田恵　27歳）

「自殺せよ。ひっそりと」（杉並区　荒井太一朗　23歳）

「公園に行って砂でも食ってろ」（仙台市　広田智史　18歳）

「反面教師」（兵庫県　津田泰郎　24歳）

この他、まだまだ多数の冷たくも温かいメッセージが寄せられている。

さて、いつもなら我が社のスクラップ三太夫こと中村カタブツ君（34歳）の失敗をずらずら書き連ねていくところだが、今回はまず「中村カタブツ君（34歳）離婚騒動!?」の顛末をお届けしよう。

そもそも、事の発端は『紙のプロレスRADICAL』第3号での「奥さん？　かわいいんだぜ。オレが帰ってきても背中向けてるし、話しかけても答えないんだよ。きっとオレにかまってもらいたいんだよ」という激烈バカ発言。ここまでスケールの大きな勘違いを出来る人も日本に片手で数える程しかいまい。嫁だってわざわざ無言のプレッシャーをかけても通じないのだから張り合いもクソもないだろう。だから、本人が「夫婦仲？　もちろん円満ですよ！」と言い切るたびに、こっちはどこまで信じていいものか不安なってしまうのだ。まあ、余計なお世話っちゃあ余計なお世話（ブチ口癖）なのだが、無視するよりは断然愛のある関係である（カタブツ君は前の会社で口をきかなかったし、きいてもらえなかったそうだ）。

●9月のある日、「ブチ、夫婦仲は円満なの？」と聞くと、「バッチリですよ！　今度、一緒に実家に帰って仲を深めてきますから」と力一杯の声で自信ありげなお答えが返ってきた。その日はそれで収まったのだが、その日帰宅してから、じつは嫁が、離婚の相談で実家に帰るつもりであることを知らされたカタブツ君、翌日から毎日真っ青な顔をして出社するようになってしまう。人の心や言葉の行間は、相変わらず一切読めないようだ。

●実家に帰る当日、「朝起たんだけどさ、眠いから二度寝しちゃったんだよな。気が付いたら嫁は先に実家に行っちゃっていないんだよ！　何でオレはいつもこうなのかな……」（カタブツ君・談）と相変わらず100%むき出しのカタブツ君で運命の日を迎えたらしい。どこまでも状況と人の心が読めない34歳である。

●そして話し合いの結果、遂に中村カタブツ君（34歳）夫婦の別居が決定した。「なぜ突然そんなことになったのか？」が社内で大議論になったのだが、結論としては「何度も嫁から発せられた無言のメッセージに気付かなかったから」という線で固まった。しかし、まだ余裕タップリの表情でカタブツ君はこう言い切ったのだ。「まだ離婚するわけじゃないんだから、必ず思いとどまらせて見せますよ！」と。しかし、話し合いの場を持とうとしても応じてもらえず。嫁はすでに離婚届に印とサインを済ませ、早く書類にサインと印を押すように迫ってくるそうである。つくづく話し合いの下手な34歳である。過去にも、パンクラスの広報・中元さんに「何しゃべってるのか分からないです」と言われた経験を持つだけのことはある。

●そんな中、珍しく晴れ晴れとした表情で出社した中村カタブツ君（34歳）。「離婚問題はどうなったの？」と聞くと貧相な顔に自信を漲らせながら「ボクの顔を見て下さい！」と豪語。「うまくいったんだ？」と聞くと、「いや全然」だとさ。壊れてるんだね、きっと。

●その後も話し合いは続き、遂にブチ切れしたブチ。ズボラなところが大嫌いらしく、嫁の態度は強硬。ブチが「まさる（フェレット）のウンチを片付けないことか!?　それとも服を脱ぎっぱなしにすることか!?　オレが何度かトイレ流さなかったことか!?」とトボけたことを聞きまくり、さらにご機嫌を損なわす。何度言っても分からない男という烙印が押されたそうだ。会社でも「何度も言ったこと」を考え込んでしまい、仕事がまったく手に付かず。ズボラという部分は、ダブルクロスの全員が思い当たってしまうのが悲しい。

●中村カタブツ君（34歳）は家では裸がユニフォームで、フリチンライフをエンジョイしていることが判明。「そりゃズボラですよ」とつっこむと、「フリチンのどこがいけないんだ！」と怒りだし、肩をワナワナと震わせながらご立腹。さらに、のものもに「会社でもフリチンでいたいの？」と聞かれれば、「できることならフリチンがいい」と豪語。しかし、最後にはいとしののものもから「家でフリチンの人ってイヤ！」と言われ、岸和田だんじりのような勢いで意気消沈。

●最終的な話し合いで生理的にキライと言われブチがブチ切れ。「よぉし、サインでもハンコでもしてやろうじゃねえか！」とすっかり嫁の術中にハマる。その後、「つきものが取れたような顔」（ブチ・談）になった嫁と仲良くK−1観戦をしたそうな。それでいいのか、ブチ！　つきものでいいのか？

●ここで衝撃情報！　世界一不幸なフェレット・中村まさる（4歳）、じつはメスだったことが発覚！　「何でメスにそんな名前つけたの？」と聞くと、「『まさる』って名前が好きだから」とのこと。しかも、ブチが勝手に購入してきて、世話はすべて嫁に押しつけているらしい。そりゃ「ズボラ」言われてもしゃーないな、と。

●離婚騒動の影響か、1日中仕事もせずにボケ〜っと過ごす中村カタブツ君（34歳）。本誌お勘定の林ヘックション一枝に「離婚したら、もう一生独身だよ」と突っ込まれると、「いや！　オレは結構魅力的な男ですよ」と自画自賛するも、数分後には居眠り開始。ダメだコリャ。

●嫁が家を出ていく前々日はさっさと帰宅し、仕事を翌日に持ち越してしまい、最後の晩は結局徹夜する羽目になった中村カタブツ君（34歳）。「ちょっとは仕事の配分を考えろ！」と突っ込まれると、涙目ながらも「これでいいんですよ」とみんなの前では精一杯の強がりをかますが、筆者と2人きりになった朝方に突然「オレ、やっぱ帰るわ」とそそくさと帰宅。徹底的に能率の悪い男である。

●嫁が出ていった後、会社でやけにのものもをかわいがり、二言目には「のものもはかわいいから」を連発し、下心丸見えのエロじじいぶりを発揮。「淋しいからってのものもにセクハラすることはねえだろ」と突っ込まれると、「だって、ホントにかわいいんだもん！」とムキになって反論。のものもは「家でフリチンの人はダメ」と完全シャットアウト。まさに「下手な鉄砲、数打ちゃ当たる」という言葉がぴったりの悲しい中年である。

●別居する嫁の転居先を聞き出そうとアタックした中村カタブツ君（34歳）。しかし、あっさり断られ結局「教えてくれねえんだよ」とのこと。それを聞いて社内で大笑いしていると、「でも携帯の番号は知ってるから大丈夫ですよ」と強がり。「そんなもん番号変えちゃったらアウトだよ」と小学生でも分かりそうな理屈であっさり潰され、大ショックを受てしまい「そうか……」と頭を抱えたまま、固まってしまう。仕事しろ。

いかがだろう。世界一のフヌケ野郎と化してしまった中村カタブツ君（34歳）に、いま最も必要なのは女である。仕事しないのだから。こんなすっとこどっこいでももらってくれる物好きな女性は世の中にいないものだろうか？　と、そんなときに一通のハガキが編集部に届いた。差出人は北九州に住む主婦（28歳）。そこには何と「中村カタブツ君、生でOKよ！」と書いてあるではないか！「こんな物好きは二度と現れないから絶対ものにしろ！」と強力プッシュしたのだが、いびつなプライドばかり先行する中村カタブツ君（34歳）は「気持ち悪いですよ、こんな女！」とバッサリ切り捨ててしまった。もうちょっと自分の足許を顧みてもいいお年頃だと思うのだが。たったひとりのファンさえも袖にしてしまうとはじつにもったいない。

「バカのためのパラダイスを目指し日々精進する」と冒頭で書いたが、その第一歩として中村カタブツ君（34歳）の深刻な嫁不足を救おうと『バカ日誌』は立ち上がった！　題して「中村カタブツ君（34歳）のお婿サンバ！」誌面を通じての公開（後悔？）お見合をしてくれる相手を募集するものである！　黙ってても絵にならないし、口を開けば相手を怒らせる天下一品の話術を持つバツイチ野郎でも、立派に結婚できるんだということを証明してみたいと思う。ついては、中村カタブツ君（34歳）さえも守備範囲に入れてくれる、心の広〜い女性を募集します。「こんな時期に遊びでそんなことして不謹慎だ！」と怒る数少ないブチマニアもいるだろうが、シャレにならないことをシャレにしちゃうのがRADICALである！　条件は誌面で公開お見合が出来ること。お見合希望の方は履歴書とお見合写真を同封の上

〒151　東京都渋谷区千駄ヶ谷3−11−3−702
（株）ダブルクロス　バカ日誌
「お婿サンバ・デ・ジャネイロ！」係

までドンドン手紙を送っちゃって下さい。

では、最後にハガキングダムの常連・千葉県の武田いづみさん（17歳）のハガキを引用して第1部のシメとさせていただこう。

「先日、私の父が母に「大キライ」と言われていました。妻に言われてはいけないと思います。カタブツ君も奥さんに言われないようにきちんと生きてください」

非常に温かいアドバイスなのだがハガキが届いたのは別居決定後……。嗚呼、中村カタブツ君（34歳）、徹底的にタイミングの悪い男である。

お詫び

え〜、（株）ダブルクロスとしては特にお詫びするようなこともねえんですが、中村カタブツ君（34歳）が、こちらでも把握できないぐらい多方面に迷惑をかけまくっているのでこの場を借りて、お詫びいたします。ごめんなさ〜い。前号の『ガールズはガールズ』でお詫び文を掲載したら、『噂の真相11月号』が再録してくれました。今回の中村カタブツ君（34歳）のお詫びも掲載してくれるんでしょうか？

この男、題名にする価値

仕事は難航！　失敗は順調！の巻

離婚騒動にもめげず、順調に失敗をかまし続ける生涯ーミジンコ以下の中村カタブツ君（34歳）。最近は『週プロ』の「カタブツを回せ」に始まり、『週刊ファイト』や『プロレスの達人』でもカタブツという単語がちらほらと踊っている。もはや、プロレス界全体がちんけなカタブツ病にかかっていると言っても過言ではない。ご希望とあれば、いつでもトレードに出す準備があるので気軽に電話をかけてきてもらいたい。1日のみのレンタルも可能で、細かいことは応相談（※ただし、相談相手はカタブツ君）なのでご自由にどうぞ。

さて、離婚騒動の陰に隠れがちだが今回もジャンジャンバリバリと失敗をかましてくれているのでそちらを余すところなく再現してみよう。なお、カタブツ君は本気でこのページのせいで「オレは仕事ができなくなるんだよ！」と怒っているので、ひょっとしたら最終回かもしれない旨をご了解ください。

●『格闘技の祭典SPECIAL』での出来事。本誌で『無比人』を好評連載中の真樹日佐夫先生にあいさつに行った中村カタブツ君（34歳）。「いやー、昨日はあんまり寝てねえんだよ」と言う先生に「酒飲んでたんですか？」とまったく脳味噌を使用せずにトンマなツッコミを入れてしまい、「バカヤロゥ！　今日の準備だよ！」と怒鳴られ、国技館中をシーンとさせてしまう。まさに「怒らせ上手」の本領発揮である。

●さらに、その日は両国国技館にリュックサックを忘れてしまう。すると翌日、日本相撲協会から我が社に「広告企画室長の中村降治様はいらっしゃいますでしょうか？」という電話がかかってきてしまい、面識のない会社では「広告企画室長」を名乗っていることが判明。広告代理店に「おたくの広告が悪いんですよ！」と怒鳴り、企画会議でひとつも企画を用意してこない「広告企画室長」がどこの世界にいるというのか？　中村カタブツ君（34歳）の特技は寝てないのに寝言が言えることである。きっと楽しい夢を見てるんだね。



入稿作業中に行われたのものも2回目の23歳の誕生日パーティーからのワンショット。のも姉さんにホの字の中村カタブツ君（34歳）が『ハッピーバースデー』を熱唱する図。全身全霊を込め勢い余って魂が抜けきってしまい、死んだ魚の目になっている。

●真樹プロダクションに電話して、原稿依頼をしようとした中村カタブツ君（34歳）。「もちもち！」と元気よく言ってしまい、笑われる。他の会社にも「もしもし、入江たんですか？」と言ってしまい赤っ恥をかく。最近は特に幼児化する一方である。

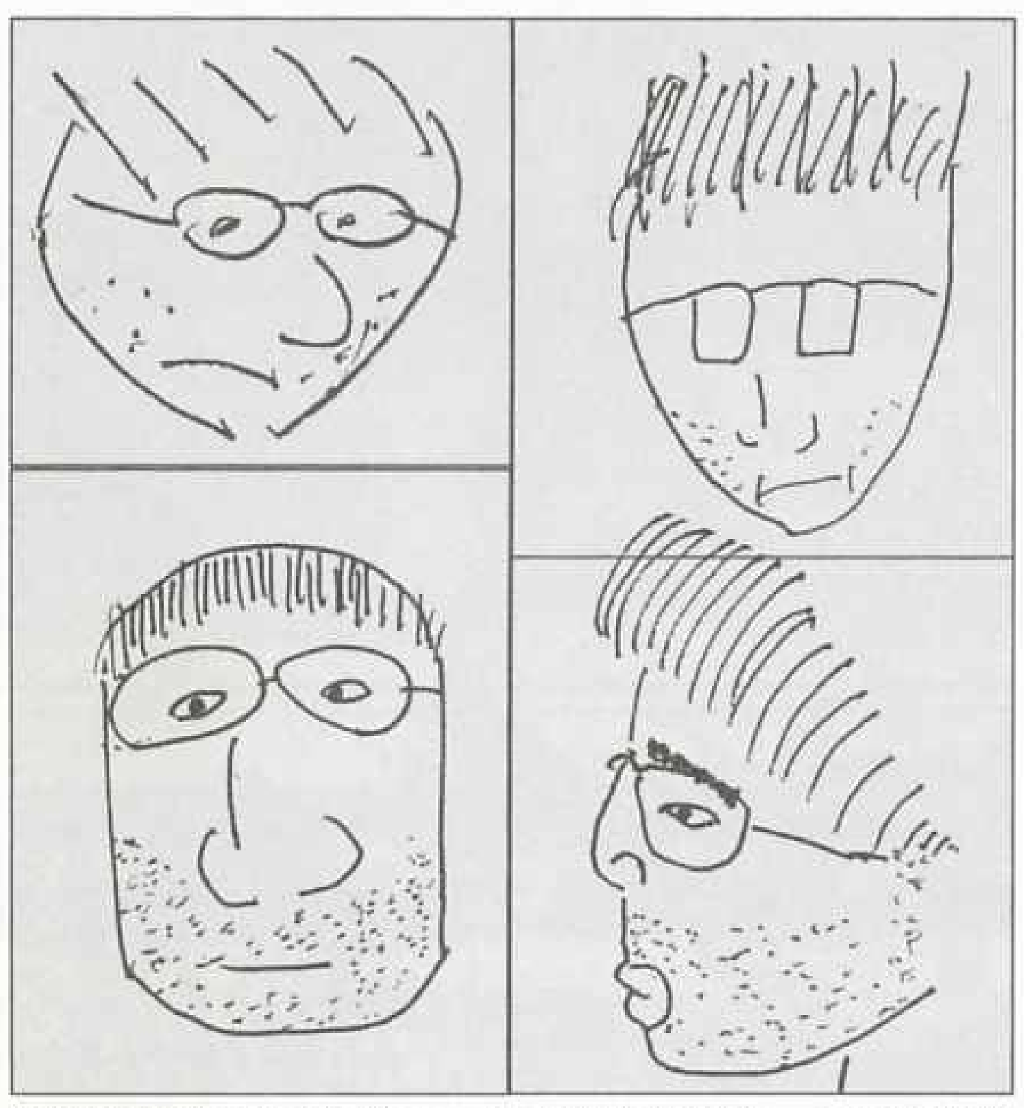
●やらなきゃいけない仕事をすっかり忘れてた中村カタブツ君（34歳）。のものもに「何でやらなかったの!?」と突っ込まれ、「何でって言われても！」と反省の様子もなく、ムキになって反論してくるので、温厚なのも姉さんも大噴火！　「悪いと思ってねえのか！　このチンカスじじい！」と言われると、目を泳がせながら頭を抱え、「いや、『何で？』って聞くからさぁ、何で忘れたのか理由を考えてたんだけどぉ」と、実は怒る気もなくすような理由であることが発覚。人間がものを忘れる理由を発見できたらノーベル賞取れますよ！　怒られながらそんなことを考えてる中村カタブツ君（34歳）ってやっぱり天才？　秀才？　バカ？

●プロレス大嫌いの中村カタブツ君（34歳）。「日明兄さんは好きなの？」と聞かれると、「いやあ、ボクはそんなこと言える立場じゃないですから……」とお茶を濁そうとする。「本音で語っちゃってくださいよ」と促すと、「オレは謙虚に本音で語ってるんだよ！」と怒り出す。怒るのは一向に構わないが「謙虚な本音」って何だ？　しかし、本人は「オレの日本語レベルは前からこんなもんだよ」と涼しい顔。

●離婚騒動でも自分の企画でも、何でも自分一人の力で乗り切ろうとする中村カタブツ君（34歳）。じつは会社の人間とは話したくないことが判明。さらに「取材するのが嫌いなんです」と入社1年2ヶ月経って、ようやく自分の足許が見えた模様。裸の王様だね。

●首の皮が0．0001枚だけしか残っていないのにも関わらず、やっぱり入稿前には居眠りしちゃう中村カタブツ君（34歳）。寝てるところを突っ込まれるのを嫌ったためか、今回は起きてるフリをして注意されずにすんだのだが、仕事のペースは前号同様の牛歩戦術。テープ起こしでは「メガネスーパー」が「めがねスーパー」だったり、「前田が違う形で……」が「佐山が血を売り……」になっちゃったりして、編集部は大混乱。それでも居眠りを続けるカタブツ君。入社以来1年2ヶ月、今回でようやく「オレって、座って仕事をすると寝ちゃうんだ！」ということに気付いたらしく、「立ったまま仕事をすれば寝ない」という大発明をする。しかし、それも5分で挫折し、また座って居眠り開始。これを3セットこなした後、なぜかプリプリ怒りながらベットへ。さらに横になった途端、爆睡。そのままベットごと粗大ごみに出してやろうかと思う程の汚い寝顔であった。

今やノン・ストップで失敗を繰り返す暴走特急と化したカタブツ・エクスプレス。嫁さえも途中下車するカタブツ・エクスプレス。まさる（飼いフェレット）にもおしっこをひっかけられるカタブツ・エクスプレス。永遠に脱線し続ける哀れなカタブツ・エクスプレス。いま、これを読んでるアナタにも一度は中村カタブツ君（34歳）を体感してみることをお薦めする。なお、体感する方法としては、写真を撮る、握手をする、机を投げつける、嫁に立候補する、燃やす等何でもかまわない。会場で見かけたら、まずは触れあうことから始めよう！　5分も一緒に話せば、いかにこの連載がつくりのないノンフィクションであるかを分かっていただけると思う。完全脱力主義のカリスマとしての役割もいい加減終わりにしてもらいたいものだが、本人はカリスマ気取りなので困りものだ。ここで言えるのはひとことだけである。「人生とは出直しの連続である」結局、他人が何を言ってもちんけなプライドが邪魔をするからムダなのだが……。



幼稚園児でもうまいガキなら、これより絵心はある。これほど自分の特徴を捉え切れていない自画像も珍しいのでは？　自分も見えなけりゃ、他人が見えてるはずもない。そりゃ、嫁も飛び出すわ。

☆☆☆ ~~私は土曜日の夜~~ ☆☆☆

当初、このコーナーはまったく電波を受信しない万年圏外野郎こと中村カタブツ君（34歳）の完全脱力主義コーナー『私は土曜日の夜』の予定でしたが、嫁が出ていったショックのあまり居眠りしてしまい、締切を守れなかったので今度からスタートするラジオ番組のお知らせとさせていただきます！

AM神戸でプロレスラジオ番組「電波プロレス！　WCR」がビョビョ〜ンとスタート！

そこで電波プロレスさんにお願いです！

『紙のプロレスRADICAL』のへっぽこ編集者・中村カタブツ君（34歳）も出演させてほし〜い！

誌面だけでは伝えきれない中村カタブツ君（34歳）の魅力と彼の他に類を見ない類稀なるプロレス論をラジオで大公開してあげちゃってください。

なお、カタブツ君は突っ込まれると固まってしゃべれなくなってしまいますが、甘いもの（コッペパン等）を与えると、すぐに再起動しますので放送事故にはならないと思います。

なお、邪道姫ののものもを始め、『紙のプロレス』バカ軍団は呼ばれればいつでも神戸まで行く準備がありますんで、よろしくお願いしま〜す。

『電波プロレス！　WCR』略して『電プロ』インフォメーション！

超豪華！　いろんな出演者が出るんです！

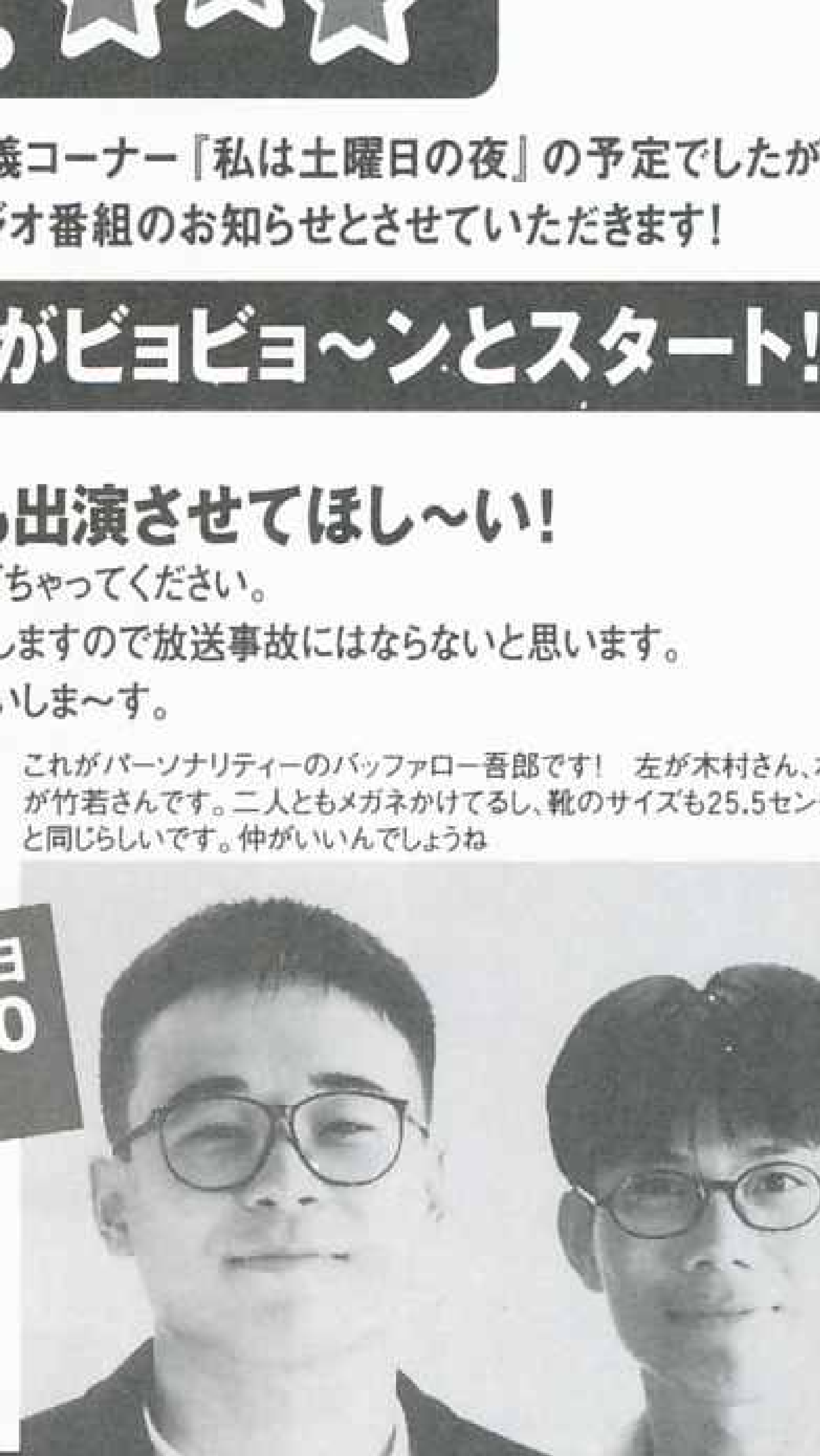
☆バッファロー吾郎（吉本興業）
☆プロレス各団体の所属レスラー
☆デイリースポーツ・格闘技担当者
☆プロレス雑誌の記者＆編集者
☆佐藤　淳（AM神戸プロレス担当アナ）
☆その他、プロレス業界関係者多数

放送時間は毎週金曜日 午後 8:00〜9:00 の 1時間

プロレス担当アナがいるの？　すごいぞ、AM神戸！　さらに出演者はもっとすごい！
バッファロー吾郎がパーソナリティじゃないですか！
あとはプロレスショップ「バディスラム」の店長・松田弘二さんによるタレ込み情報コーナーやレスラー関係のレコードのヴィンテージ度ランキングなどもあるんです！

只今、絶賛放送中！　果たして、『紙のプロレス』の伝道師・中村カタブツ君（34歳）は登場できるのか？　乞うご期待！　心して聞け！

これがパーソナリティーのバッファロー吾郎です！　左が木村さん、右が竹若さんです。二人ともメガネかけてるし、靴のサイズも25.5センチと同じらしいです。仲がいいんでしょうね



紙のプロレス

利害を超越して、一般誌が出来ないこと、一般誌がやろうとしないことを夢として世界に挑戦する!!
それが『紙プロ』のロマンである

本誌Back Numberの告知

第9号
突然!
リニューアル新装刊!
特集『週刊プロレスとは何か?』第1回



◎徹底分析!
週プロばかりがなぜ売れる?
テリー伊藤／谷川貞治／ミスターX／藤原龍一郎

◎仁義無用!
ワイド特集
「さらば! みちのくプロレス」

◎電圧最高!
大仁田厚
ドッカンビリビリインタビュー

◎理路整然!?
糸井重里
セメントインタビュー

第8号
驚愕!
新日との抗争勃発か!?
特集『さらば新日本プロレス』



◎新日本プロレスに決別宣言した禁断の㊙座談会
出席者・**ターザン山本／山口昇／柳沢忠之／斎藤雄一**

◎紙プロ初登場
ザ・グレート・サスケ
ロングインタビュー

◎闇の格闘家を語る
関根勲
ロングインタビュー

第5号
初期『紙プロ』の香り漂う
世謝出版時代の一冊!
特集『たたかいグランプリ』



◎激怒り満載の6大コラム
山口昇／鈴木邦男／杉作J太郎／竹本幹男ほか

◎怒涛のロングインタビュー
馳浩

◎興奮の対談
デビル雅美VS氏神一番

◎昇天の特別寄稿!
再考察「なぜ馬場は馬場さんと呼ばれるのか」／**栃内良**

第12号
なにぃぃ!
前田日明女子便所事件勃発!
特集『色気とは何か?』



◎緊急座談会
「前田日明に愛をこめて」
谷川貞治／山口昇／柳沢忠之

◎色気が充満する男と女の9大インタビュー
猪木の語り部が前田の色気を初めて語った
作家・村松友視
虚飾紛々のゴージャスな色気の持ち主
蝶野正洋
ザ・グレート・サスケ／ターザン山本／アントニオ猪木ほか

第11号
常人を越えた
偉大なる精神に触れよ!
特集『狂気とは何か?』



◎狂気を隠し持つ凄玉6人ロングインタビュー
堀辺正史／タイガー・ジェット・シン／ガッツ石松／西村知美／佐野量子／糸井重里

◎特集『週刊プロレス』とは何か?完結編
初代『週プロ』編集長・
杉山頴男独占手記
全女企画広報部長・
ロッシー小川インタビュー
『週ゴン』編集長・
小佐野景浩インタビュー

◎新連載!
「プロレス用語大辞林」
吉田豪

第10号
ついに10号発刊!
仰天の記念特大号!
特集『週刊プロレスとは何か?』第2回



◎『週プロ』的スキャンダルの仕掛け方を読み解け!
現『UNO』編集長・
花田紀凱／
元『週刊ファイト』編集長・
井上義啓ほか

◎『紙プロ』だから実現できた夢の対談
アントニオ猪木VSキューバ大使

◎ガチンコ・インタビュー
ユセフ・トルコ

◎セメント・インタビュー
テリー伊藤

第15号
本誌初!
インディー総力特集!!
特集『インディペンデントの逆襲』



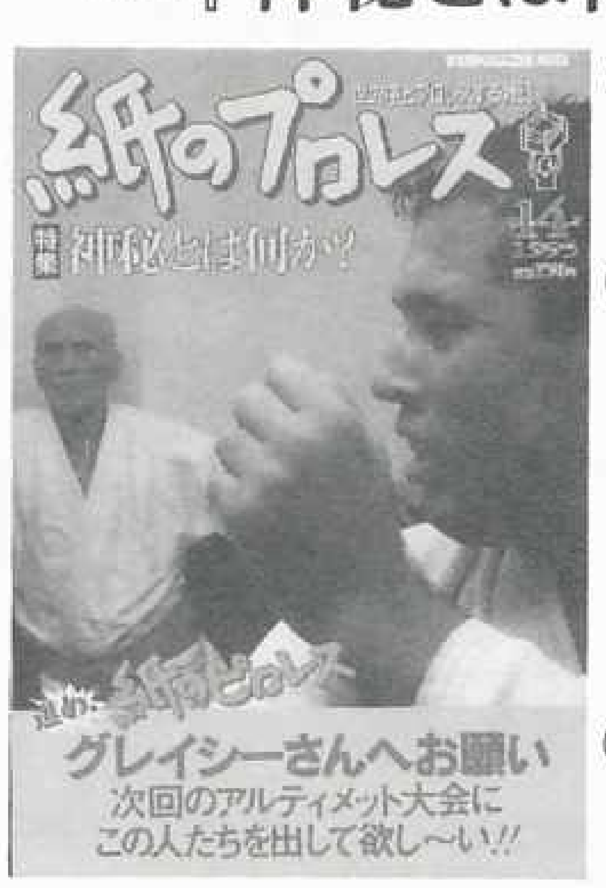
◎第一部
大量出血3大インタビュー
髙野拳磁／ポイズン澤田／中牧昭二

◎第二部 あんた誰
「山口昇試練の十人組手」
茂木正淑／神風／島田宏／ウルトラマンロビンほか

●巻末緊急特集
『K—1とは何か?』

●超ガチンコ
3大インタビュー
石井和義／谷川貞治／ターザン山本

第14号
うそでしょ!?
目を疑う神秘的人たち特集
特集『神秘とは何か?』



◎超豪華3大インタビュー
佐山サトル／鈴木みのる／大槻ケンヂ

◎勝利確実!!
アルティメットに出ていただきたいお二方
元プロボディーガード
清水伯鳳インタビュー
大東流合気柔術六方会宗師・**岡本正剛**
インタビュー

◎ガチンコ2大インタビュー
遠藤幸吉／髙田文夫

第13号
ハリウッドの屈辱!!
安生、グレイシーに敗北!
巻頭緊急特集『道場破りとは何か?』



◎頑固一徹!
2大ロングインタビュー
山本小鉄／上田馬之助

特集
『ファミコンプロレスの逆襲』

◎衝撃の5大インタビュー
前田日明／スペル・デルフィン／馳浩／斎藤文彦／須田剛一

◎ビバ!アメプロ座談会
「平成のプロレスファンとは何か」

◎驚異の2大
セメントインタビュー
養老孟司／糸井重里

第18号 マット界騒然!! 高田延彦引退宣言! 緊急座談会・高田引退発言の読み方

『高田延彦さんへ愛をこめて』



出席者・花くまゆうさく／山口昇／柳沢忠之

◎特集『すてきな奥さん』武道家＆レスラーの妻5大インタビュー
大山倍達未亡人 **大山智弥子**
佐々木健介夫人 **北斗晶**
ライガー夫人 **●●千景**
石川雄規夫人 **石川道枝**
サスケ夫人 **村川メリー**

第17号 前人未到の偉業! 北朝鮮スポーツイベント特集

特集『実況パワフル北朝鮮!』



◎偉大なるロング対談 **アントニオ猪木VS永島勝司**

◎友愛の3大インタビュー **ブル中野／橋本真也／村松友視**

◎慈愛に満ちた巻末特集『藤原組の逆襲』緊急スクープ座談会「ツボ原人とは何か」

◎聡明なる新連載「誤釣生活」**糸井重里**

第16号 遂に実現! 新日本全力取材強行!!

特集『新日本凸凹大学校』



◎怒涛の5大インタビュー **後藤達俊／マサ斎藤／キラー・カーン／橋本真也／田中秀和**

◎興奮の巻末2大対談 **糸井重里VS谷川貞治** **ユセフ・トルコVS由利徹**

◎感涙の「青春の大発掘アントングッズとは何か?」

第21号 いにしえの殺人技術に迫る

特集『幻的格闘技』（ファンタスティック）



◎古武術でプロレスする! 武術の達人6大インタビュー **前田日明**（格闘術使い）／**岩井作夫**（古武術・武備会）／**甲野善紀**（武術研究会松聲館）／**世古典代**（寛水流空手二代目会長）／**井谷利之**（野太刀自顕流師範）／**櫻井文夫**（合気道S・A代表師範）

◎唯我独尊! 2大ガチンコインタビュー **石井和義／ガッツ石松**

◎元気爆発! 2大ロングインタビュー **ユセフ・トルコ／高田文夫**

第20号 プロレス的視点で格闘技を読む

特集『劇的格闘技』（ドラマチック）



◎格闘技のドラマ性に迫った4大インタビュー **角田信朗／真樹日佐夫／大槻ケンヂ／村松友視**

◎昭和プロレスの生き残り3巨頭スペシャルインタビュー **ユセフ・トルコ／上田馬之助／遠藤幸吉**

◎2大セメントインタビュー **松永光弘／神取忍**

◎特別連載「極道一代・山口昇物語」**黒田信一**

◎W井上毒舌人生相談 フリーダムフォース人生相談

第19号 本誌最大の危機! ついに廃刊か!!

特集『さようなら紙のプロレス』



◎『紙プロ』を偲ぶ4大インタビュー **ターザン山本／ユセフ・トルコ／上田馬之助／糸井重里**

◎涙のバズーカ対談 **高野拳磁VSザ・グレート・サスケ**

◎鎮魂の「負けず嫌い対談」出席者 **石井和義／ターザン山本／平仲信明／谷川貞治**

◎巻末ロングインタビュー **山崎一夫／ミスター・ポーゴ**

バックナンバーの購入方法

＜購入方法＞
○定価は『紙のプロレス』第5号、8号、9号は700円、第10号から第22号までは780円となります。『大山倍達とは何か?』『極真とは何か?』は1530円、『猪木とは何か?』は1320円です（消費税5%込み）。
○『紙のプロレス』の送料は1冊=240円、2冊=310円、3～5冊=380円、6冊以上=450円。
○例えば『紙プロ』5号と10号を購入する場合
5号700円+10号780円+送料310円=1790円を同封して下さい。
『紙プロ』と『何か?』シリーズを同時に購入する場合、送料は変わるのでご注意下さい。
○『何か?』シリーズの送料は1冊310円。2冊以上は450円です。

*なお1号～4号、6号7号は完売しました。

＜申し込み方法＞
●現金書留　〒151　東京都渋谷区千駄ケ谷3—11—3—702
（株）ダブルクロス「本誌バックナンバー係」まで
●郵便振替　00130—3—769154　（株）ダブルクロス

第22号 見よ! 戦火を駆け抜けたこの人生

特集『この人が喝っ!』



◎風雪に耐えた頑固な2大ロングインタビュー
太平洋戦争の撃墜王 **坂井三郎**（元特攻隊員）
元海女・**田仲のよ**

◎迎春! 巻頭インタビュー「北の国から96・冬眠」**ジョージ高野**

◎新春! ウルトラ対談（格闘術使いVS解剖学者）**前田日明VS養老孟司**

◎4大セメントインタビュー **高阪剛／セッド・ジニアス／小佐野景浩／熊久保英幸**

バックナンバー常備の店

——書店——

山形／八文字屋エビスヤ店　神保町／書泉ブックマート、書泉グランデ　秋葉原／書泉ブックタワー　池袋／リブロ池袋店、芳林堂書店池袋店　六本木／青山ブックセンター　新宿／紀伊国屋新宿南店　大井町／博文堂大井町店　中野／タコシェ　吉祥寺／ブックスルーエ　町田／福家書店　浜松／イケヤ文楽館有楽店　名古屋／ヴィレッジ・バンガード、ヴィレッジ・バンガード2　豊田／ヴィレッジ・バンガード5　春日井／アイビー・ブックス　富山／精文館書店　大阪／駸々堂コミックランドアメリカ村　岡山／ブックマスターフィッツ

——プロレスショップほか——

水道橋／プロレス・マニア館、チャンピオン　新宿／アイドール、ファイター　渋谷／レッスル渋谷店　池袋／レッスル池袋店、日本武道具　大山／大山アメリカン　東大和／オフィスTAKA　札幌／リングパレス　甲府／キャッチ　名古屋／アイドール　和歌山／ヘラクレス和歌山駅前店　大阪／アイドール、バディスラム、チャンピオン　金沢／プロレス屋　鹿児島／ひょうたん屋

大好評『何か?』シリーズ



猪木とは何か?

2大緊急ロングインタビュー
アントニオ猪木／村松友視
◎告発仕掛人・仙波記者に迫る!
◎**立川談志**メッセージ
◎**新間寿**記者会見誌上再現



大山倍達とは何か?

押して忍んで11大インタビュー敢行
大山智弥子／大山茂／石井和義／前田日明ほか
◎お宝対談発掘
大山倍達VS力道山



極真とは何か?

◎K—1参戦　一撃必殺インタビュー **フランシスコ・フィリョ**
◎フィリョに極真魂を叩き込んだ師範インタビュー **磯部清次ブラジル支部長**
◎極真魂溢れる16大インタビュー **黒澤浩樹／松井章圭／村上竜司／ウィリー・ウィリアムス／中村誠／大沢昇**他



by NOMONOMO

GIRLS ARE GIRLS

ガールズはガールズ

● NOMONOMO column ● NOMONOMO column ● NOMONOMO

LOVE LOVE TERRY FUNK



Ｐｕｆｆｙの写真と同じページにこの写真。しかもＰｕｆｆｙよりも大きな扱いで。前号のノブ兄さんに続いて、読者に反感を買うこと受け合いの『私のＰＨＯＴＯ自慢』っス！

♪てれれってってってってってぇ～、てれれってってってってぇ～♪（テリーのテーマ曲を口ずさむ）

今日は、のものも、テリーのためにチアガールに変身！ テリーに会えるのが嬉しくて、胸躍らせ＆体も踊らせ、テリーの元ヘストラングル・ホールド！

のも「ハロゥ、ハロゥ～」

テリー「ハ～イ」

のも「アイアムは、のものも！」

テリー「ノモ～？ ベースボール？」

のも「ノン、ノン！ のものも～。のもツー、オーケイ？」

テリー「オォ、ノモノモ！ ノモノモ、何か日本語教えて下さい（英語で）」

のも「ん～、ごっちゃん！」

テリー「ゴッチャン？」

のも「イエ～ス！ ごっちゃん、イコール、サンキュー。スモウボキャブラリー」

テリー「オォ、ゴッチャン！ ゴッチャン、ゴッチャン、ゴッチャン！（えらい気に入った様子）」

のも「テリー、アイアムは、チアガール！」

テリー「オゥ、チアガール！（満面の笑みで）」

のも「イエス！ ♪てれれれってってってえ～、てれれってってってってぇ～♪（テリーのテーマ曲を歌いながら踊るのものも）」

テリー「ハッハッハッハッ、ノモノモノモノモッモッモッモ～♪ ノモノモノモノモッモッモッモ～♪（テリーのテーマ曲のリズムで）」

ああ、のものも感激♥ テリーがのものものために歌ってくれた！（って言っても、歌詞は「のものも」を連呼するだけだけど）ついでに"テリー・ガール"の名も襲名！（これはウソ）ＶＩＶＡ ファンクス！ また逢える日まで、アディ押忍！

LOVE LOVE TAKADA NOBU-NÎSAN

PART 2

ノブ兄さんが負けた……。なんでじゃ～！ どうしてじゃ～！ どうなってんだ、オイ！

10・11、東京ドーム。"世紀の一戦"と謳われているだけあって、この日のドームはK―1の会場さながら、めちゃくちゃ芸能人の観戦率が高かった。のものもが発見しただけでも、真心ブラザーズ、長嶋一茂、浅草キッド、ガッツ石松、藤岡弘、森本レオ、乱一世など、とにかく「ここは『オールスター大運動会』か？」と思い違えるほど、芸能人がいっぱい。ほとんどが仕事を兼ねて訪れているわけなんでしょうが、中には忙しいスケジュールを割いて、観戦に訪れている方もいるわけだ（真心・マイラブ♥なんかは確実にそうでしょう）。まぁ、それくらい、注目すべき一戦だったってことで……、ってそんなこと改めて書くことじゃないんだけどね。

そう、のものも姉さんが書きたいことはそんなことじゃなく、今回、『ＲＡＤＩＣＡＬ』でＰｕｆｆｙを独占取材したのは、観戦レポートを読んでくれた方は先刻承知のことだと思います。のものもは、Ｐｕｆｆｙ大好きのさしずめパフィラーなんスね。ＣＤも本も全部持ってるし、テレビに出るとビデオに録っちゃうくらいマメマメマ～メにチェック！ だから、取材とは言え、この日Ｐｕｆｆｙに会えるのを、ホントにホントにすご～く楽しみにしてたんス。うふ♥ミーハーでゴメンね。

でも、当日ののものも姉さんは違ったんだなぁ。Ｐｕｆｆｙに会えたのは感激だった。どっからどう見てもすげえかわいいし、スカしてないし、小っこいし。でも、でも、大好きであるハズのＰｕｆｆｙが目の前にいても、やっぱりリングに立つノブ兄さんには及ばなかった。ノブ兄さんのテーマ曲がかかった瞬間、身体がビビッと硬直した。寺田恵子とかいう人が『君が代』をアカペラで熱唱する場面。いつもだったら、言いたい放題ツッコむとこだが、この日はそんなおポンチな場面も全然目に入らなかった。ただただ、リング上に佇むノブ兄さんに向かって一生懸命「がんばれ光線」を飛ばし続けていた。

だが、しかし、のものもを含め、この日会場に来ていた4万6千人（中にはヒクソンファンもいたんだろうが）の応援むなしく、ノブ兄さんは無惨にも散ってしまった。

……感動した。確かにノブ兄さんはヒクソンに対して何にもできなかったかもしれない。そして結果は惨敗だったかもしれない。でも、のものもは素直に感動しましたよ、ええ！ Ｐｕｆｆｙとお話するよりも、リングに立つノブ兄さんの姿を1秒でも長く見ていたい……。そんな自分に気付いた時、ああ、私も熱い（ホット）ぜ！って思ったよ。そんな熱い自分が何だか嬉しくて、そこでまたちょっぴり感動。

感動しながらもいたたまれない気持ちを胸に、さぁとっとと帰ろうと会場を出ようとする、まさにその瞬間、我々『紙プロ』勢は、運悪く、ヒクソンファミリーと会場を出るのが一緒になってしまったんス。2千万円の賞金ボードを意気揚々に掲げ、楽しげにワイワイ騒ぎながら廊下を闊歩するヒクソンファミリー。う～ん、ムカつく。でも別にいかさまして勝ったわけじゃない、クリーンファイト、完全決着の勝者である。しょうがない、認めるぜ、ヒクソン！ なんて思いながらファミリーに交じり（ヒクソン一家は我々のことなんか眼中に入ってなかったと思うけど）とぼとぼ歩いてたんス。そしたら、なんと！ 我々の目前でヒクソンの息子（推定13歳くらい。でも強そう）が廊下に痰を吐きやがったのだ！ 渋谷の街中じゃないんだぞ、クリーン・ボーイがせっせと掃除している天下の東京ドームのピカピカの廊下にだぞぉ！ ぬぅ～、ゆ、許せん！ やっぱ認めん！ たとえ世界中がヒクソンの味方になろうとも、のものも姉さんは断固ヒクソンファミリーを認めない!!

っちゅーわけで、誰が何と言おうと、のものもはノブ兄さんにエールを送る！ ノブ兄さんが言ったように、すべてがこれで終わったわけじゃないんです！ ノブ兄さん、明日また生きろ！ カッチョ悪くてもいいから諦めるな！ ノブ兄さんの復活＆リベンジを、のものもは楽しみに待っているぞ。爽やか＆クールは卒業！ 今、時代はホットな男がモテる！（よくわからんシメ……）



こうやって写真見てると、ジワジワ「あ、ホンモノに会えたんだ～」という喜びが沸き上がってくるっスねぇ。決戦直後で動揺してだけに、のものもお得意のツーショット写真撮り忘れたぜ！ ちっ！

家との繋がりも強固な代物であった。
ゆえに黒澤と小室哲哉の関係を否定するという

「維新魂の伝承にメドがたった」（だが、「ケンス
ケは、いろんな意味で昔のオレを見ているような気

プッシュアップ（腕立て伏せ）10回で1時間のファ
イトをケロリとしてのける。これは化けモンだ」と

のがこの団体の懐の大きさなのであろう、きっと。

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである──（ネール元インド首相の娘への手紙）

「最近、毒がなくてつまんないですね」とカタブツに言われて大憤慨！　「だったらお前にはあるのか、ボケッ!」と激怒しながらも決して心に愛を忘れない、河口仁ばりに「プロレスの神様（ゴッチさん）ありがと〜!」をモットーとする牙を無くした書評コーナー。

日佐夫クン人生劇場

書評の星座

PART2

いちばん強いのは誰だ
（山本小鉄／講談社）



ジャケが最高だった『あっ、ちょっと待ってください』や同じ内容が何度も重複しまくる大沼孝次君構成のダメ本『山本小鉄』の存在を無視して**「本書は初の自著である」**と言い切るのも誰もが理解できるはずの、近年稀に見る名著。

表紙の素晴らしさだけでもすでに常軌を逸しているというのに、目次に並ぶ刺激的な言葉もまた尋常じゃない。テンション高すぎである。

なにしろ**「三流レスラーがグレイシーに負けるのは当たり前だ」「ザ・モンスターマンはK・1で優勝できた」「アンドレ最強説の大嘘」「メジャーの小鹿がインディーの新日を脅迫してきた」「ムーンサルトプレスはとても実戦的な技だ（心臓や肺、内蔵を狙っているらしい）」**などなど、平成9年も終わろうとしているこの時期に、小鉄は昭和の新日イズムで平成のプロレス界をブッタ斬りしまくっているのだ。凄ぇ！

たとえば外人最強の呼び声高いブロディにも**「技術的にはそれほどのものもなかった」「パワーはそれほどでもなかった」「特別に強いレスラーでもなかった」**とダメ外人の烙印を押し、日本人最強の呼び声高い我らが鶴田をも**「彼の脇腹は、最強を目指して練習するレスラーのものではなかった」「暴飲暴食が凄かった」**と断罪したりと、その牙は徹底して全日へと向けられるから、まさに昭和の新日魂大爆発。

それも**「三沢のアームロックやフェイスロックは手が遊んでいる」「川田のスリーパーも極まってない」「小橋はブリッジの練習をしていない」「田上明のあのたるんだ身体は何なんだ」「全日本の選手はグラウンドの練習はほとんどやってないんじゃないか?」「馬場さんが足を上げているところに向かって、なぜ三沢や小橋が走っていかなくてはならないのか」**などなど、古き良き昭和の全日ぐらいならまだしもプロレスの限界点に近いハイレベルな試合を繰り返す平成の全日に噛み付けるプロレス関係者なんて、もはや小鉄ぐらいのはず。鬼軍曹、恐るべしである。

さらに**「レスラーは身体を張ってメシを食っている。どこを蹴られようが、殴られようが、どんな投げ方をされようが、それで二度と歩けない身体になろうが、それはしかたない。そういう仕事だよ」**という昭和世代特有の素晴らしきプロ意識によって、近頃の腑抜けきった格闘技界までも含めて徹底的に容赦なくブッタ斬るのだ。

「パンクラスはウチの道場で学んだことと、どこがどう違うの?」「船木が、たかがキャリア一、二年の若手に負けてしまうのは、船木自身の格闘技に対するアプローチのどこかが狂っているとしか、僕には思えない」というパンクラス批判（だけど日明兄さんには優しい）。

「グレイシー旋風なんて扇風機の風くらいのもの」「北尾は練習嫌いで努力しない。プロレスのものまねに毛の生えた程度の技術では負けるのは当たり前」というバーリ・トゥード批判。

「ロッドマンのnWo入り。あんなものは会社が書いた筋書きだ」というアメプロ批判など、小鉄の毒はもはや止まるところを知らない様子。

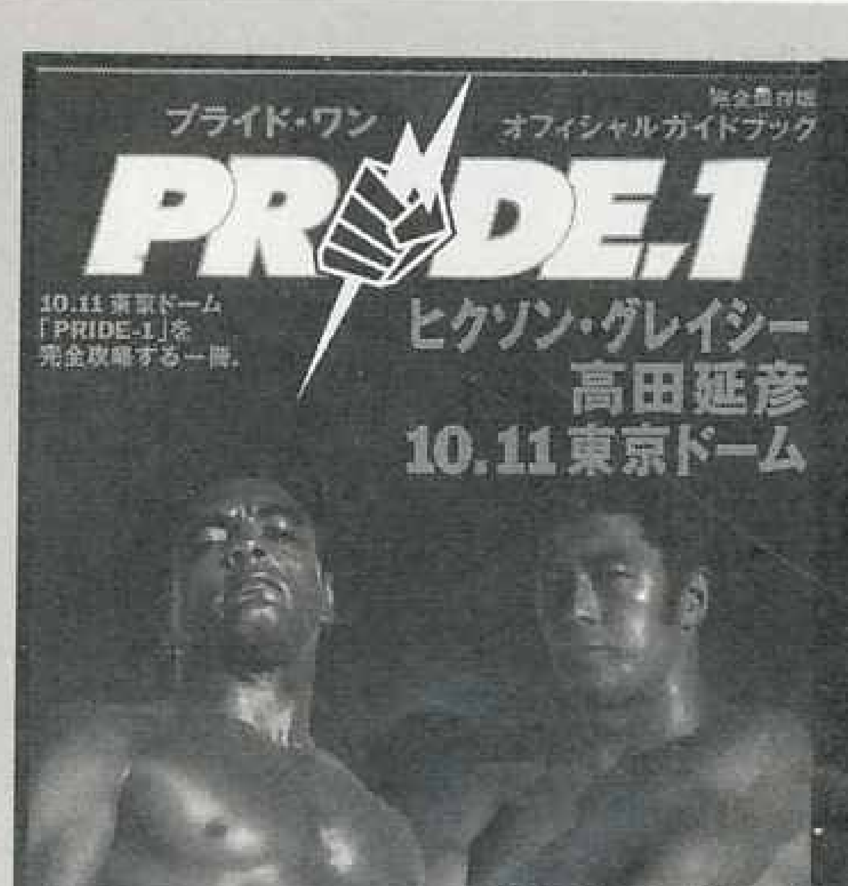
ゆえに、この牙は**「最近の新日本プロレスは強さを追求するストロングスタイルの精神が少しずつ薄れているのも事実だ。練習を見ていて歯がゆさを感じることは度々ある」**と、平成の新日にもキッチリ公平に向けられるのだ。正しいのは昭和の新日のみ、ということなのだろう。

しかも、ボクの発案で行った本誌『八百長論議と闘え!』アンケートにも返答してたり、これまで謎とされてきたプロレス界の不可解な出来事にもキッチリ言及してたりするから、もう文句なし。

ボクの長年の謎だった「藤波戦を前にしたエル・カネックの敵前逃亡事件」も、実は小鉄が**「藤波は一発で極めるグラウンド技や、受け身の取れないスープレックスだって使うぞ。真剣勝負の覚悟はできているのか」**とカネックにハッパをかけたら、それがすっかり逆効果になって試合前に逃げ出してしまったのが真相だったと発覚するから、プロレス界ってやつは本当に奥が深すぎる。

これはその奥の深さ（『ファイト』の井上さん流に表現すると、底が丸見えの底なし沼か?）を垣間見ることができる、歴史的一冊なのだ。

PRIDE.1オフィシャルガイドブック
（メディアファクトリー）



本誌のお荷物・カタブツが心酔する格闘家は、身の程知らずにも黒澤浩樹（ブチは黒沢と表記する）だそうである。黒澤の本は「ゴーストライターが書いてるから」という不可解な理由で買わず、インタビューもろくに読まないくせして、だ。

ちなみに、惚れた理由は「指が出ても戦ってたから」とのことだが、ボクが知らないうちに黒澤はグローブから指でもはみ出して試合したのだろうか? 当然、正解は「拳から骨が出ても戦っていた」に決まってる。つくづくバカである。

ところがブチ、この本の冒頭で小室哲哉が**「ボクは黒澤師範の友人。先日もカリフォルニアの自宅の庭先のサンドバックに強力なキックを見せていただいた」**などと述べていることにすっかり勝手にショックを受け、「こんなの、俺の知っている黒沢じゃない!」などと、すっかりわけのわからないことを言いだしてしまったのだ。一体お前が何を知ってるんだよ、ボケ!

そもそもボクに言わせれば、大山総裁に頭髪が存在した昔から極真というものは『けんか空手』な『空手バカ一代』でありながらも芸能人や政治

家との繋がりも強固な代物であった。

ゆえに黒澤と小室哲哉の関係を否定するということは、かつて千葉真一や藤巻潤やマッハ文朱や藤子不二雄Aらと密接な関係を持っていた極真という組織自体を否定することに等しい。そういう意味では八巻の芸能界入りも「待田京介や石橋雅史みたいでカッコいい」ことなのである。

そしてTKこと小室哲哉も、ある深夜番組において3週連続でヨットでひたすら遊びまくる様（それも異国の海で）を堂々と放映したほどの男なのだが、そのときの物言いがまた素晴らしかった。

なにしろ「視聴者のみなさんも、たまにはヨットを借り切って遊ぶと面白いですよ」とくる。

これにはボクもいつかはビッグになって、ヨットで豪遊したり自宅の庭では格闘家がトレーニングしたりするようなカッコいい男になりたいと、思わず心に誓ったものである。そんな男と友人関係にある黒澤は、ちょっとステキすぎるはず。でしょ？

あと、最後に一つだけ（猪木調）！　ボクの大好きな大沼孝次君がタンク・アボット対キモについて、本書でこう書いている。

2人のケンカ屋としての技術は同格だ、**「しかしキモはというと試合に臨む際のプレッシャーの前に平常心ではいられず、十字架を背負ってみせたり、お祈りを捧げたりという行為を見せる」**、と。

そりゃ平常心を失い過ぎだろ、ちょっと。

あれは自分を売り込むためのキャラクターでしかないとボクは思っていたのだが、どうやら勘違いだったようだ。反省。……というように、相も変わらず大沼君の原稿は抜群なのである。

さらば長州力
（長州力／NCY）



「維新魂の伝承にメドがたった」（だが、**「ケンスケは、いろんな意味で昔のオレを見ているような気がしてイヤになるときがあるんだ」**という、やたら正直な名文もあり。それにはボクも非常に同感である）ため**「晴れ晴れとした気持ちで引退」**していく長州の引退記念本。

みすず書房の哲学書というか北朝鮮辺りの教科書チックというか、なんとも言い難いデザインと写真選びセンスが爆発したジャケだけでも、あからさまに奇跡を感じさせる一冊だ。

なにしろ**「サソリ固めは、オレが一人で生み出したフィニッシュホールド」**とゴッチ直伝の必殺技という通説を否定してみたり、**「レフェリーなりドクターが止めてくれなければ、オレは本当に藤波を殺しに行っていたかもしれないな」**とキラー長州ぶりをアピールしてみたりと、これまでリリースされてきたゴースト丸出しの長州本とは方向性が明らかに違うのである。

例えば**「異種格闘技戦はハッキリ言ってニガテ。オレもストロングマン世界一のトム・マギーと異種格闘技戦で闘ったことがあるが、もうこりごり」**という、長州の異種格闘技戦＆アルティメット嫌いを裏付ける素直な発言ときたらどうだ。まあ、そもそもストロングマンなんて格闘技が存在するわけもなく、彼氏も結局はただの重量挙げ自慢でしかなかったんだが、本書のテーマはどうやら「素直な告白」のようなのである。

ゆえに、怪物・ジャンボ鶴田に対しても思うことをそのまま素直に活字化しているのだ。

「（鶴田とは）同じアマレス出身でミュンヘン五輪に出場したことで、理屈抜きで比較される。オレはアマレスの超エリートで、鶴田はアマレスのシンデレラボーイ。同じアマレス出身者だが、アマレスに関しては天と地との違い。オレの方が上だよ」と、文字通り『日本テレビ番組対抗かくし芸大会』におけるシンデレラ役だった男との違いをハッキリさせ、さらにズバリと言い放つ。

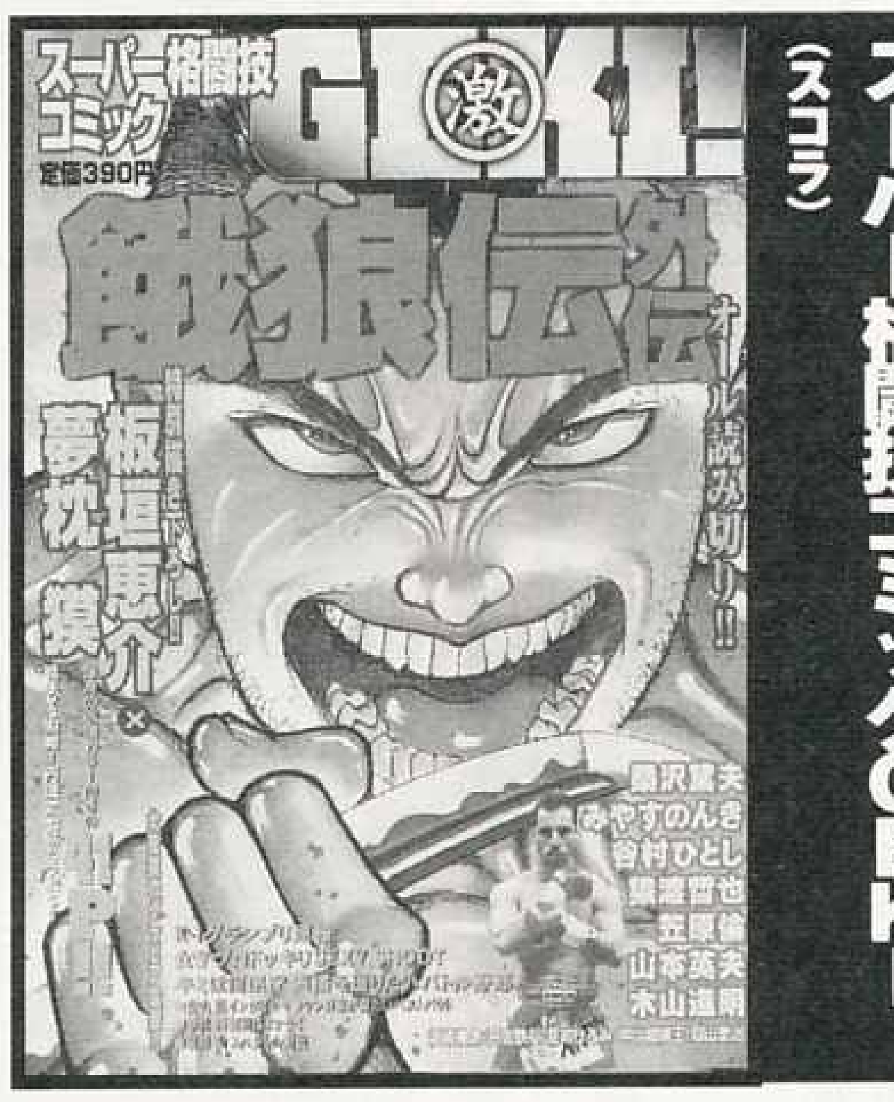
「鶴田のファイトはファンに訴えかけるものが乏しいのに対し、オレはギンギラギンにファンの心に訴えていく。その差は大きいと思う」

ギンギラギンに訴えてましたか、長州さん！

まあ、こうやって徹底的に否定した後、**「（鶴田は）そんなにトレーニングはしていないようだが、**ブッシュアップ（腕立て伏せ）10回で1時間のファイトをケロリとしてのける。これは化けモンだ」**と申し訳程度にフォローは入れているのだが、ボクはろくな練習もしないくせして化けモンじみたパワーを発揮してしまうシンデレラボーイにこそ、パワフルな幻想を感じてしまうのだ。

まあ、**「天龍源一郎は『プロレスラーは銀座だ』なんて言うが、オレは『プロレスラーは六本木だ』が持論。そうはいくかい！」**といったレスラー独特の夜遊びイデオロギー対決に幻想は持てなくもないんだが、それでもやっぱりボクの美学（梶原イズム）からしてみれば男は馬之助でも六本木でもなく、やはり銀座なのである。

スーパー格闘技コミックGEKI
（スコラ）



討ち死にが続く格闘技漫画雑誌業界に、突如スコラが参入開始。板垣恵介の『餓狼伝・外伝』という安全パイから、近頃は格闘技路線を組む桑沢篤夫や意外に切れ味の鋭い格闘技通・みやすのんきまで擁した手堅い作りなのだが、あからさまにレベルの低すぎる作品が混入されていた。それがShow原案の『船木誠勝物語』である。

船木ではなく、パンクラスの流れをつまらなく追っただけの低レベルな内容（ダメ人間・ブチにまで「ひっどいですね、ストーリーもないし」と言われる始末）。**「完全実力主義」**という言葉ばかりがこれ見よがしに何度も出てくる悪趣味なシナリオ。**「パンクラス特製チャンコ。メチャうまい！（Show談）」**などの余計な自己主張。

すべてがパンクラスにとってマイナスでしかないと思われるが、そんな細かいことを気にしないのがこの団体の懐の大きさなのであろう、きっと。

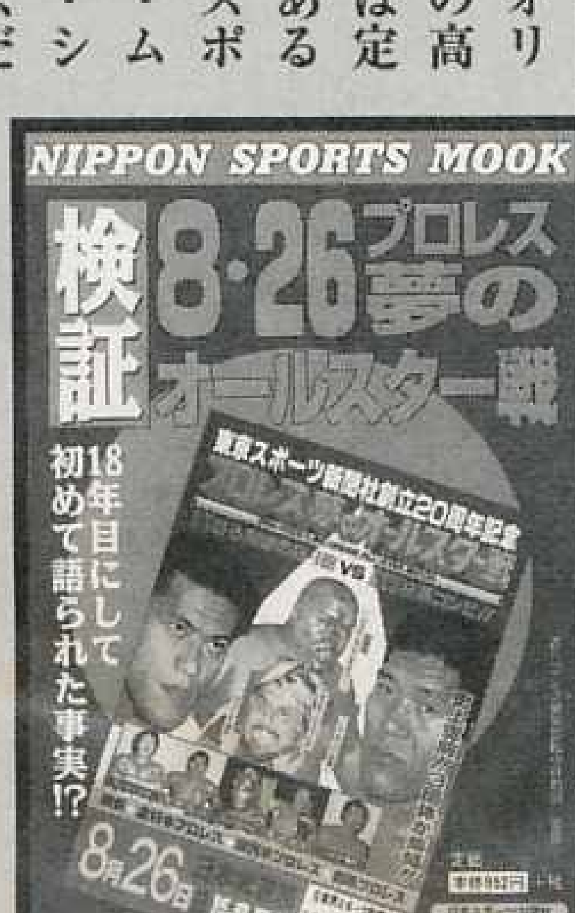
プロレス少女R
（るいべはやみ／マガジンハウス）



謎の男子漫画家がプロレス雑誌を熟読することによって徹底的にリアリティだけを追求した、これといって大きなことは何も起きないバーチャル・リアルな女子プロ日常短編連作漫画。

ゆえに、いわゆる漫画としての豪快な面白味は皆無だが、彼女らの素顔を知る身としてはW井上の吉田万里子いじめなど「あるある」感だけは嫌というほど感じさせてくれて、けっこう楽しい。

8・26オールスター戦
（『ゴン格』特別編集／日刊スポーツ新聞社）



クオリティの高さでは定評のある日本スポーツ・ムック・シリーズだが、今回は資料的価値こそ高いとはいえ明らかに低調気味な様子。まあ、全日側のインタビューが一つもないし（天龍、大仁田、小鹿など元全日組のみ）、主役だった馬場と猪木のどちらの談話もないしなので、こんなものなのだろう。

まあ、バトルロイヤルに参加した日明兄さんの**「渕選手か大仁田選手だったか、蹴ったか殴ったかしたら『コイツ、堅え』とか『コイツ、危ねえ』とか言われたね。『何言ってんだ』と思って、また蹴飛ばしましたけどね」**という男らしい発言だけでも定価分の価値は十分にあるんだけどね。

しょ（小橋vsハヤブサは夢のカードなんだろうが、あんまり意味ないと思う。小

なにをいまさらと言う人もいるでしょうが、全然そんな事ない。だいたいプロレス

花くまゆうさく



リングの汁 RADICAL

今月の汁

意味のある夢のカードを

あいかわらず、プロレスの試合で心ときめく事がない日々を過ごしています。誰か教えて下さい。今どこのプロレスが面白いんですか？　心ときめくのですか？

『週プロ』も、買わなくなってだいぶ経ちます。もう何年も買ってません。『ゴング』と共に木曜日に立ち読みですよ。『ファイト』はけっこう買って読みます。なぜ？ってそれはですね、ズバリ言って立ち読みできないからです！

以前は、ある本屋で『ファイト』の立ち読みをさりげなく控え目に実行してたんですよ。そしたら成功したので、調子ブッこいて毎週その本屋で『ファイト』を立ち読みしてたんですけど、2カ月目くらいで店長に怒られました。短命NWA王者のように、その座は短かったです（でも、T・リッチよりは長い）。

それ以後は、しかたなく買って読むようになりました。でも実際読むとこなんて4分の1ぐらいしかないんですけどね。『週プロ』だってそうだ。昔は、スミからスミまでじっくり時間かけて読んでいたのに、今では5分か3分かヘタすりゃ1分です。もう速読です。

あっそうだ、こないだ『週プロ』読んで久々に心ときめきました。リングスの田村のインタビューです。

「僕は出稽古に行ってるんですが、60キロぐらいの人にアキレス極められちゃうんですよ」

「ファンの人はこんな事聞きたくないかもしれないけど、僕より強い人は（アマチュアに）いっぱいいるんですよ」

「シューティングの人に、ガードポジション教わりたいですね」

と、確かこんなような事を正直に言っていました。高阪を除く他のリングスの人達からは、絶対言わないこのようなセリフが正直に聞けて、なんかうれしくなったもんです。

あとは、やっぱり前田vs高橋問題ですか。プロレス界では、ここ数年夢のカードが組まれていないので、ここらでひとつでかい意味のある夢のカードが必要ではないのか。それが、前田vs高橋戦で

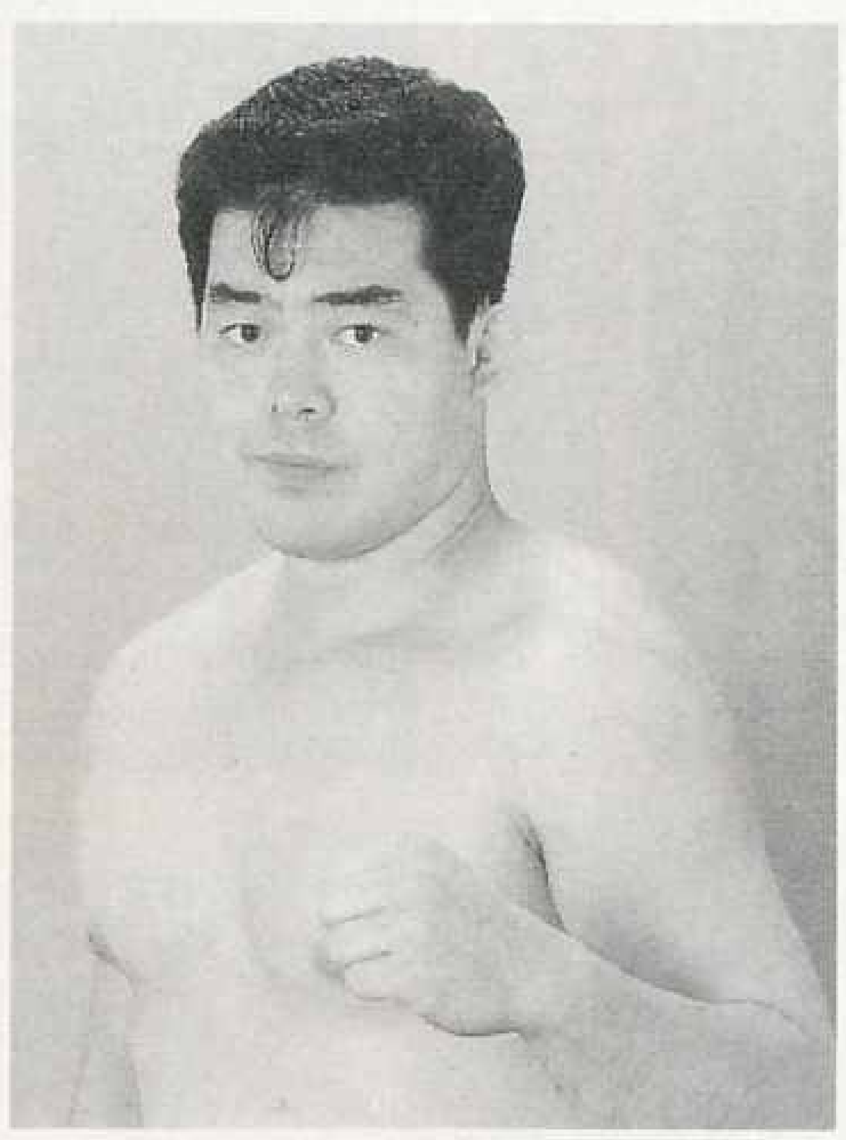




リングたち

常に自分の生き方を反省し、私、徳田光輝、新団体を旗揚げします！

文／徳田光輝



紅葉の美しい季節になりましたが、読者の皆様はいかがお過ごしでしょうか。私は『ビッグフォール』というプロレス団体を旗揚げするために日夜苦労している所です。

私は実家が柔道の道場をやっていたこともあり、小学生の時から柔道をやっていました。そこでこの恵まれた体を活かし、人に夢や希望や勇気を与えるという志を遂げるために、大学在学中にプロレスの世界に入り、FMW、ウィング、西日本プロレスなどの団体を渡り歩きました。紆余曲折がありましたけれど、この度やっと自分の団体を旗揚げすることができました。まさに人生山あり谷ありですね。私がビッグフォールを旗揚げできたのも、何も言わず、私を理解してくれた妻と兄や、青柳さん、畠中さん、ポーゴさん、ディアグロさん、ある元力士、都市美装、三菱商事、住友海上火災の皆様のご協力があったからこそだと思います。この場を借りてこれらの皆様に厚く御礼申し上げたいと思います。人は一人では生きられないもので、沢山の人の協力があってこそ生きられるものだと今回はまざまざと感じさせられました。

私がこのビッグフォールでやって行きたいことは、ただ単にプロレスファンに受けるプロレスをやるのではなく、老若男女、あらゆる階層の人々にも受け入れられる面白さがあり、夢と希望と勇気を与えるプロレスをやるということです。特に身障者などの恵まれない人々にも生きる希望と勇気を与えて行きたいと思っています。その上、若手を育成し、異色のリングアナの起用、例えば作家、画家などを志し頑張っている人を起用し、他にはない面白さを出して行きたいと思っています。

とにかく常に新しいことに挑戦し、受け身ではなく、攻撃の生き方をし、マスコミや人に批判されようとも、自分の道を貫くという気構えを持ってやって行きたいと思います。昔、上田馬之助さんから、「本当の相手は客なんだ」と言われました。私もその通りだと思います。それに私は本当の敵は自分なんだと思います。常に自分の生き方を反省し、人のためになる生き方をしたいと思っています。

そして、私のライバルは同郷で同期の大リーグのエンジェルスで活躍している長谷川投手と、同じ道場出身の大相撲の厳雄です。彼らに負けないように頑張って行きたいと思います。

12月にビッグフォールの旗揚げ興行を中野の『鷺宮体育館』で行うことになりました。この興行では、福祉施設の人々を無

料でご招待することになっています。彼は私の夢と希望のある生き方に共鳴し、リン

歩1分

●チケット発売日／現在『カトウ電機』



ポカスカジャンの素肌の王様（時間無制限）

語り／ポカスカジャン

O 素肌の王様とは何か?
S 素肌が似合うレスラー。
T それを言うなら、やっぱり前田日明でしょう。
O いやぁ、アントニオ猪木だよ。
S 違うよ、素肌の王様って言うのは、素肌のキレイなレスラーのことだよ。
O ええっ、素肌のキレイなレスラー? もち肌ってこと?（笑）
T じゃあ素肌の王様っていうのは男好きするレスラーのことだ。
S いわゆる○モ系ってこと? それオレ得意だよ。
O 正ちゃんはそっち系に人気だもんな。
S オレかアレクサンダー大塚か、っていうくらいね（笑）。
T 正ちゃんとアレクはホンモノだから（笑）。
S ちょっと待って、ホンモノじゃないよ（笑）。
O ま、ホンモノはいいとして（笑）、素肌の王様っていうのは、○モ系にモテるレスラーを指すから。そう考えると誰になる?
T F・Yとかは、そういうウワサあるけどね。
O 話題がヤバイからイニシャルトーク（笑）。R道山とかもそういうウワサあったよね。ま、今はホンモノ系のウワサじゃなく、○モ系にモテそうなレスラーの話だから（笑）。
T そういう意味じゃ高田延彦は強力だな。まぁ、高田っていうのはありがちなんで、ボクが思うに天龍なんてどうですかぁ?
S あ〜ダメダメ、天龍は顔がイモ臭いもん。
O 天龍はダメ?（笑）
S オレの友達の○モに聞いたら、絶対「ダメ!」って言うよ。「カワイイ!」っていう表情がないとダメなんだよ。
T でも体型的には、クマさんっぽいじゃん。
S ○モの人の趣味ってわかんないんだよ。永源とかを「かわいい」って言うかもしんないし。だって毒蝮三太夫を「セクシーだ」って言ってんだよ。
T じゃあクマちゃん系って誰だろ?
O 木戸修とか。日に焼けた黒い肉体が意外と○モウケするんじゃない?
T パンクラス勢なんてどう? あいつらはすごいよ、ハイブリッドボディだよ。
O あそこまで絞り込んだ肉体っていうのはダメなんじゃないの。
S ちょ、ちょっと言わせて。あのね、あんまりムキムキしてるだけじゃダメなの。ちょっと脂ついてないとダメ。
T ヒレよりはロース?
S そう、ロース!
O 肉汁がじわ〜っとこないと（笑）。
S そう、肉汁が大事。
O 肉汁系でいくと誰だろ?
S あ、あの人! マサ斎藤!
T あ、そうかも。マサさんは素肌の王様っぽいね。
O うん、マサ斎藤いいねぇ。
S 刑務所長かったし（笑）。
T いろいろ人生経験積んでそうだねぇ（笑）。
O そういうことで、一発逆転! 真の素肌の王様は、マサ斎藤ってことで。
T 第1回素肌の王様は、マサ斎藤さんに決定!
O 日々変わっていくからね。第2回は誰になるかわかりません。次回を乞うご期待!

ポカスカジャン■右・玉井伸也（T・前田信者）、後ろ・大久保乃武夫（O・猪木信者）、前・中山省吾（S・長州信者）。プロレスをこよなく愛す、ワハハ本舗所属の肉体派お笑いミュージシャン舞台芸人（?）。キミもホモ列車に乗ろう!

しょ（小橋 vs ハヤブサは夢のカードなんだろうが、あんまり意味ないと思う。小橋は大仁田、金村、田中などコテコテのFMWと当たった時にこそ意味があるのではないだろうか?）。

で、前田 vs 髙橋だが、これはぜひ実現してほしい。それもパンクラスが主張するように第三者的リングで完全実力主義の試合でです。

ちと古くなってしまったが、前田 vs 安生も同様の場で実現してほしいです。これも、意味のある夢のカードではないでしょうか。これが前田 vs 高田だと、たんなる夢のカードになってしまうので、やはり前田 vs 安生でしょう。いろんな意味がギュウギュウに詰まってます。

あとやはり、プロレス界最大の意味のある夢のカードはやっぱり馬場 vs 猪木だ。なにをいまさらと言う人もいるでしょうが、全然そんな事ない。だいたいプロレスのカードで、どんな組み合わせを実現したとしても（三沢 vs 武藤とか橋本）、視聴率50%いける可能性あるのは、馬場 vs 猪木しかないですぞ。

ついでにプロレスではないが、他の世界で実現してほしいカードがあります。マニアックなとこでは、鳥合会の総裁・矢野選手とサンボの五木田選手か藤井選手が当たったらどうなるか、ぜひ見てみたいです。あと、浅草キッド vs 爆笑問題の実力日本一決定戦です。

花くまゆうさく■10月に行ったもの。大川興業、高田笑学校、エレファントカシマシ、プライド.1、プロ修斗、浅草お兄さん会、ボクシング。浅草お兄さん会での東京ダイナマイト、プライド.1PPVでのガッツのコメント最高♥

ふぞろいの

料でご招待することになっています。彼は私の夢と希望のある生き方に共鳴し、リングアナをやってくれることになりました。

現在は12月の旗揚げ興行に向けて、体重を120キロまで増やし、210キロのベンチプレスを上げたりして猛特訓をして、パワーアップを計っています。必ず素晴らしい興行にしたいと思っていますので、皆様の多数のご来場をお待ちしております。

この旗揚げ興行の月日、場所、開場開始時間、交通、チケット発売日などの情報は次の通りです。

●月日／12月23日
●場所／中野区立鷺ノ宮体育館
●開場／午後4時
●試合開始／午後5時
●交通／西武新宿線『鷺ノ宮駅』より徒歩1分
●チケット発売日／現在『カトウ電機』（TEL03-3912-5728）にて先行発売中! 11月1日からチケットぴあにて一斉発売
●チケット料金／前売り・3000円全席自由
当日・4000円全席自由

ビッグフォールスタッフ一同、皆様のご期待に添えるように一生懸命頑張りますので今後ともよろしくお願いします。では皆様のご多幸を心より祈っています。

徳田光輝■FMW、わずか半年ほどで崩壊してしまった第一次W★INGの格闘三兄弟（徳田、斎藤彰俊、木村浩一郎）などを経て、この度、新団体を設立。好きな映画はヤクザ映画。好きな動物はサル。

んですけど、2カ月目くらい

それが、前田 vs 髙橋戦で

御礼申し上げたいと思います。人は一人

した。この興行では、福祉施設の人々を無

ザ・検証カブキ'97

毒霧とは何か？

構成／椎名基樹
撮影／戸成さん

は安達裕実に200％勝てる！　ってことで、前号に引き続き、今回もプロレスに潜む謎に、鋭いメスを入れ、どうでもいいことを、どでもいい態度で、どうでもよく迫ってみることにする。今回のテーマは『毒霧とは何か？』――現在のプロレス界は空前の毒霧ブームでる。ザ・グレート・カブキ&ムタ親子はもちろん、ザ・グレート・ニタ、長嶋"しーいずはーどこあ"美智子。など、毒霧を吹くレスラが多く出現しているが、果たして毒霧は本当に効くのだろうか？　効くとすればその成分は？　個人個人、調合は違うのだろうか？　ななど、この謎の妙技を検証するという名目で、『紙プロ』名物編集部員・中村氏（通称・カタブツ、趣味・モノマネ、特技・金魚を飲ん生きたまま出す）に、オリジナル毒霧を吹きかけ、ダメな大人に制裁を加えることにした。

せきしろ



霧本来の姿から離れて、よりコミカルなリジナリティー溢れる毒霧を目指す。しし、相手に与える精神的ダメージは大。

とにかく、赤飯はめでたくてよろしい！　粘りつく素材なので、鼻孔を塞ぐなど、意外な



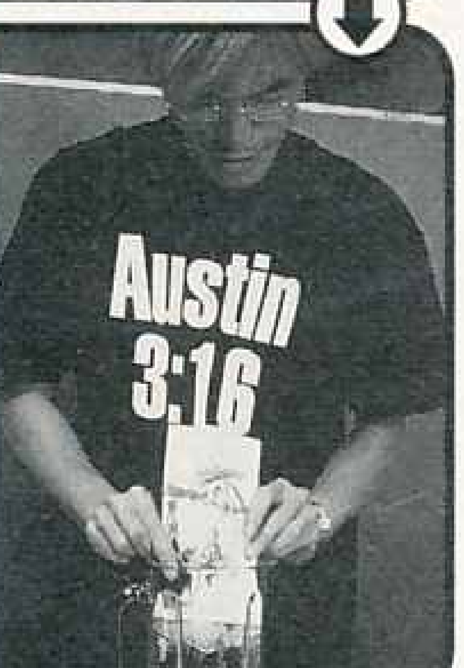
石つぶてのように、ガツガツと顔面にヒットすることを期待。ショットガン式の毒霧を目



試合中、頭に巻き付いていたら、最高に格好悪いだろうということで、チョイス。相手を



これが額に貼り付いていた日には、気になってレスラーも力が入らないハズ。相手の心理





せてはみたものの、一体自分が何をやっいるのか疑問になる。明日から真面目にろうと、決心させる毒霧。

のものも



実際にはないが、女子レスラー用に女の子らしい、ピンクっぽい色の毒霧を目指す。女の子らしい毒って……。

甘い物が大好きな中村氏のために、しるこをチョイス。甘いあずきの中に餅だなんて、完全にバカな食い物だよね。



しること交ざることによって、ピンクになるのでは……と適当な考えで豆乳を選ぶ。健康的な毒霧です。



前2つの毒霧があまりにも悪臭だったため。バニラエッセンスでバランスを取りました。この毒霧、お菓子みた〜い。



中村氏の一番嫌いな食べ物、マヨネーズ。のものも女史のこだわりの一品です。どうぞ日頃のウップンを晴らしてください。





前2つに比べれば、まったく良い香りと言っていい出来栄え。でもまぁ、即席ゲロではあるんですけど。

ノブ



緑に次ぐ代表的な赤の毒霧を作る。ベースはトマト。最も強烈な刺激物をチョイスした。仕事仲間の愛情か？

辛みと白菜の繊維が眼球に絡み付くことを期待した。キムチという名前も実に、効きそうではないか！



やはり、これは入れるでしょう。刺激の王道です。赤ん坊やきんさんぎんさんの致死量くらいほうり込みました。



赤のベースと予想したトマトです。直接顔面にブツけても効果大。それは、撮影が終わってからのお楽しみ。



これは、ノブ氏の強烈なリクエストにより混入しました。あわよくば失明も……。同僚のジョークってきついネ。





蓋を開けた途端、周囲にいた者の目鼻耳が痛み出した。これを駅前などで撒けば、逮捕確実！　上出来だ！

椎名



基本的な緑の毒霧を作る。緑のベースは口に含んでも安心の抹茶であると推理。刺激物も緑で統一。

やはり、毒霧は目にしみるハズ。目にしみる基本はシャンプーだ。メリットならフケ防止効果もあり長髪の多いレスラーにも好評か？



緑の刺激物といえば、わさびでしょう。実験台となる中村氏は、寿司もサビ抜きのグルメだと聞き、効果も倍増。



緑の毒霧の基本ベースと推理した抹茶。抹茶なら、顔面に吐いた時の色づきも良いし、なんと言ってもオリエンタルじゃないですか！



刺激物としてモンダミンも強烈なハズ。さらに口臭予防にもなり、試合の後アリーナラットちゃんとのデートにもGood！





ミキサーにかけ完成。蓋を開けると、この世のものとは思えない、強烈な刺激臭が！　こりゃ口に含む方が辛い。俺が甘かった！

【お詫び】前号の『ザ・検証コブラ'97』で、"秋田書店"さんのクレジットを"秋田書房"と間違えてしまいました。まことにすいませんでした。この場を借りて、訂正致します（担当編集者・のものも）

威力を発揮。シャダミンが容赦なくた洗面器求めて、すがに可哀想になうひとボトル、シ

プロレスの祭典『プロレススーパースター列伝』によると、想を聞かれて、何の疑いもなく満面の笑みで「高田！」と答え『ザ・検証』は、その「ものすごく目にしみる」が、どの程度の

毒霧完成!!



実験開始!!



どう見ても、女にゲロを吐きつけられるV＆R作品。もちろん中村氏はビンビンに勃起。目が痛いやら、気持ち良いやら気持ち悪いやら、屈辱的だわ、非日常的だわ、複雑な気分。ひとりで困るのが大好きな中村氏でした。



本来の目的が端的に表れた一枚。この頃になると、もう現場に笑い声もなく、反省すら許しちゃくれない虚脱感と後悔の念に苛まれる。「何やってんだろ」誰かの言葉に苦笑い。一方、中村氏の目には一仕事終えた達成感が……。



もっとも威力があった赤い毒霧。とうがらしの刺激にのたうち回った。にもかかわらず「何か湿布みたいで、気持ち良かったですよ」と中村氏はへらず口。じゃあ、おまえは顔面にメンプラホット貼るんか！



緑の毒霧も期待通りの威力を発揮。シャンプー、わさび、モンダミンが容赦なく眼球を襲う。水を張った洗面器求めて、這いずり回る中村氏。さすがに可哀想になって、洗面器の中に、もうひとボトル、シャンプーを注入。

プロレスの祭典『プロレススーパースター列伝』によると、毒霧の成分は「13種類の毒草と毒キノコの粉末、薬品を混ぜ合わせたものだが、製法は秘密だよ」と、カブキ本人が語っている。しかし、毒草や毒キノコを吹きかけて、相手が気持ちよくなってしまっても困るし、そんな物を持ち込んで、カブキが税関で捕まり、ポール・マッカートニーになっても困る。したがって、前記のカブキの言葉は、読者に向けたリップサービスだと取るのが妥当であろう。

だからといって、毒霧はただのギミックで、まったく効果がないという人に対しては、真っ向から「NO!」と言いたい。それは、高田VSヒクソンの予想を聞かれて、何の疑いもなく満面の笑みで「高田!」と答えるのが、プロレスファンもっといえば、日本人の義務であるのと同じ事なのである（ちなみに、この原稿は『プライド1』の前夜に書いてます）。東洋の神秘・カブキさんの、毒霧が効かないはずが、ないじゃないですか!

では、毒霧がどのように効くのかといえば、やはり「目にしみる」と考えるのが妥当であろう。さらに、屈強なプロレスラーが「目にしみる」などという、シャンプーハット取り立ての子供のような理由でフォールされてしまうのは、あんまりなので、「ものすごく目にしみる」と考えた方がいいだろう。

それらの点を踏まえ、我々『ザ・検証』は、その「ものすごく目にしみる」が、どの程度の威力なのか確かめるため、あらん限りの知恵を絞って、調合した毒霧を作り、人体実験を試みた。そのモルモットを買って出たのは、編集部の中村氏。体を張ってプロレスを守る、その姿勢に拍手を送りたい。

で、この丸太の顔面に容赦なく毒霧を吹きかけた訳であるが、効果の程は絶大であった。特に、赤&緑の毒霧を吹きかけた時など、悲鳴を上げながら地面を這いずり、用意した洗面器に向かうものの、壁に頭を打ちつけるという、志村を上回るコミカルなリアクションを披露してくれた。やはり、毒霧は効くのだ! よい子は絶対にマネするな!

メイキング・オブ毒霧

カタブツ君・アラカルト





お買いもの



記念撮影



たそがれるカタブツ君

ザ・検証カブキ'97

反選手会同盟とは何か？

反選手会同盟（平成維新軍）のひみつ……。

構成／せきしろ

案の定、高田が負けた。

しかし、不思議なことに落胆の声はあまり聞かれなかった。なぜだろうか？

それは、「藤谷美和子のパワフルな歌声とセクシーな容姿に魅了されすぎて試合どころじゃなかった」からでも、「ルール説明を聞き逃すまいと全神経集中しすぎて疲れちゃった」からでも、「キモとスバーンにアルティメット戦の神髄を見せられ、それだけで満足してしまった」からでも、「シカティック戦がノーコンテストになった経緯を説明した人が試合以上のインパクトを与えてくれた」からでもない。当日東京ドームに足を運んだ多くのプロレスファンには、まだ希望が残っているからである。「高田が負けようともプロレス界にはあの男たちが残っている」と。そう、平成維新軍が……。

小原の気合いに驚いたヒクソンが、斉藤の蹴りをうけコーナーへ追い詰められる。生まれて初めて太鼓の乱れ打ちを受けるヒクソン。間髪入れずに後藤のバックドロップ、小林の網打ち式。ふらふらと立ち上がるヒクソンに、野上のムササビ殺法が襲いかかる。止めは越中のヒップアタックからのパワーボム！　マットに沈んだヒクソンの姿がはっきりと目に浮かぶ……（蛇足ではあるが、かつて平成維新軍に在籍していたグレート・カブキ。前ページでも検証した彼の毒霧は、マウントポジションを返す手段として有効ではなかろうか。また、次に有効と思われるものとしてアイアン・クローがある）。

というわけで、まずは軽い喫茶店（←家の無い人がたくさん寝ている24時間営業の）トークから始まった今月の検証その2は、平成維新軍の前身である『反選手会同盟』の結成のひみつについてだ。

「プロレスは大河ドラマ」などと言われるように、プロレスには「流れ」というものが存在する。それは大きく2つに分けられることができ、ひとつは「強い・弱い」という価値観によって作られた極めて人工的な流れである。

しかし、プロレスとは人間同士が戦うもの。人間がたくさん集まれば「あいつが好き」とか「あいつが嫌い」などということが必ず出てくるものである。そこでは「強い・弱い」の価値観の違いが感情となって現れるのだ。それがもうひとつの流れ（予期せぬ流れ）を作り出す時がある。

反選手会同盟結成に至るまでの道程（誠心会館との抗争→終決→誠心会館自主興行→選手会除名→反選手会同盟結成）は、一見前者の流れに当てはまるように思える。が、しかし、そこには「強い・弱い」の価値観以外のものが介入していた。その価値観とは？

「音楽の好み」である。

越中はビートルズの大ファンである。中学時代「マリーズ」というビートルズのコピーバンドを組んでいたこともある。初デートの時観た映画は『レット・イット・ビー』だ。

そのビートルズのメンバーであったジョージ・ハリスンが91年来日し、東京ドーム公演を行った。もちろん越中は行った。

「プロレス狂宣言」という本の松村雄策氏のインタビュー記事によると、その時越中は、チケットを数枚余計に持っていた。そのチケットを越中は「行ってこいよ」と蝶野や武藤に渡した。ところが返ってきた言葉は「誰ですか？」。蝶野や武藤はジョージ・ハリスンを知らなかったのである（同様に、山田がヨーロッパ遠征した時「おまえリヴァプールは行かなかったのか？」「ああ、試合やりました」「あっ、リヴァプール行ったのか、おまえ！」「なんですか？　港町ですよ」という、これまたビートルズファンの越中を傷つけた会話があったらしい）。

この瞬間、越中の中でジョージ・ハリスンはジョージ"覇"リスンと変わった！

音楽は到底世の中を変えることなどできない。しかし、音楽で人の人生は大きく変わりうる。「エレキギターは不良の始まり」という言葉があるくらいだ。

「ビートルズがわからない奴と一緒にやってられるか！」これが反選手会同盟結成へとつながったとしても不思議ではない。と、同時につながらなかったとしても、これまた全然不思議ではない。



イラスト／天久聖一



コラージュ／カマチョ

高田、樹海に死す！



高田、樹海に死す！

すべての終わりか!? 始まりか!!

高田vsヒクソン

10・11 世紀の一戦 変幻ワイド特集

1. 決戦開始直前・100人アンケート！
2. ケリはついた！ファンの絶叫を聞け!!
3. 高田VSヒクソン戦観戦記
   ガッツ石松／浅草キッド／仮面シューターースーパーライダー／花くまゆうさく
4. スペシャルゲスト・Puffyが「PRIDE-1」をめちゃ斬り♥

※本誌の高田VSヒクソン戦リポートはp.34を見よ

［プライド・ワン・ルール　5分12ラウンド　］

ヒクソン・グレイシー グレイシー柔術アカデミー＝ブラジル	（1R4分47秒 腕ひしぎ逆十字固め）	高田延彦 プロレスリング



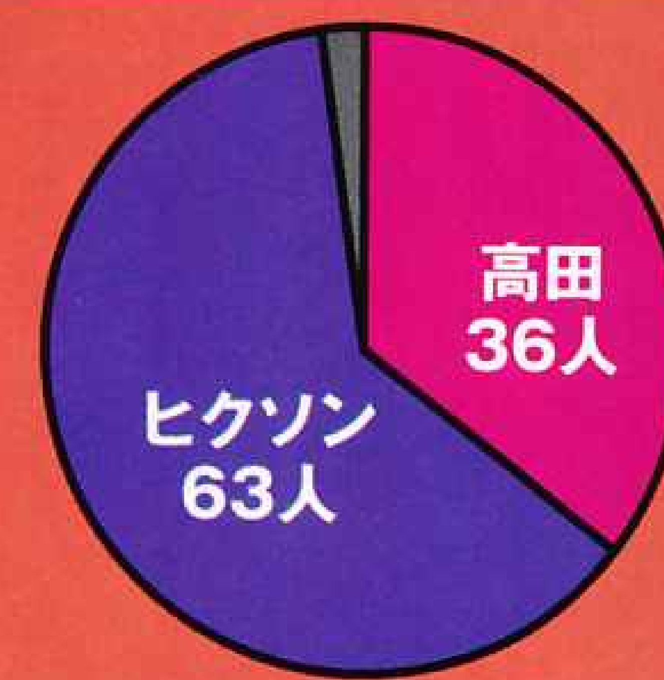
[試合直前]

抑えきれない興奮を感じろ!! 会場周辺の**100**人に突撃アンケートを敢行

アナタがズバリ当てまSHOW!

前号の高田×ヒクソン勝敗予想「ズバリ当てまSHOW！」が非常に大好評！ この一戦への関心の高さを感じた本誌は、決戦当日の試合前、会場周辺にいるファン100人のドキドキ大予想を聞いてみた。すると80%以上が高田を応援するとのこと。やはり、プロレスファンは温かかった！

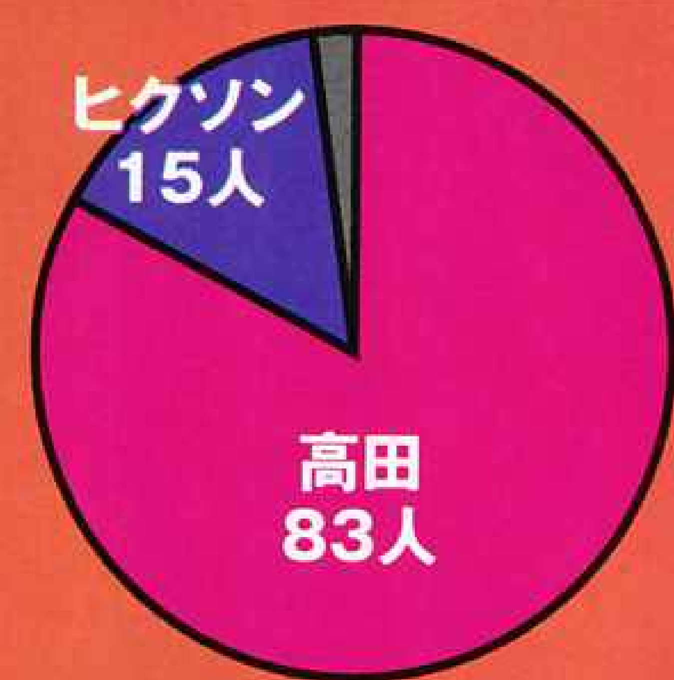
[Q1] 高田とヒクソン、どちらが勝つと思いますか？



高田 36人 ヒクソン 63人
どちらとも言えない 1人

●戦前の予想では圧倒的にヒクソン有利と予想されていたが、直前予想では期待票を集めて高田も健闘。でも、やっぱりヒクソン圧倒的です。開始数時間前だというのに、みんな現実を見すぎ。もうちょっと浮かれ気分で高田を後押ししてもよかったのでは？

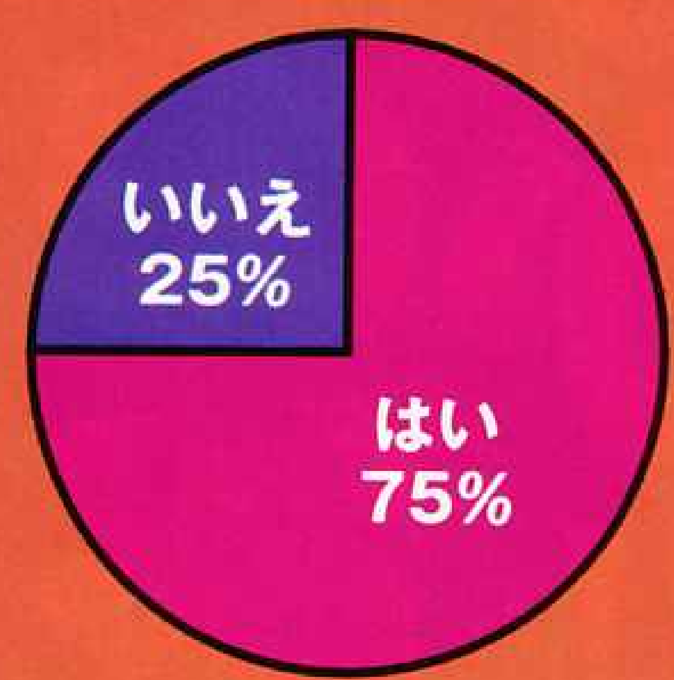
[Q2] 高田とヒクソン、どちらを応援しますか？



高田 83人 ヒクソン 15人
どちらとも言えない 2人

●なんと！ 83%が高田を応援！ ここまで来ると、柔術とかプロレスなんてのは関係ないのでしょう。でも、この日の会場で聞いた高田コールは、今まで聞いたコールの中でいちばん凄かった。4万6000人が集中したパワーは「すさまじい」のひとことです。

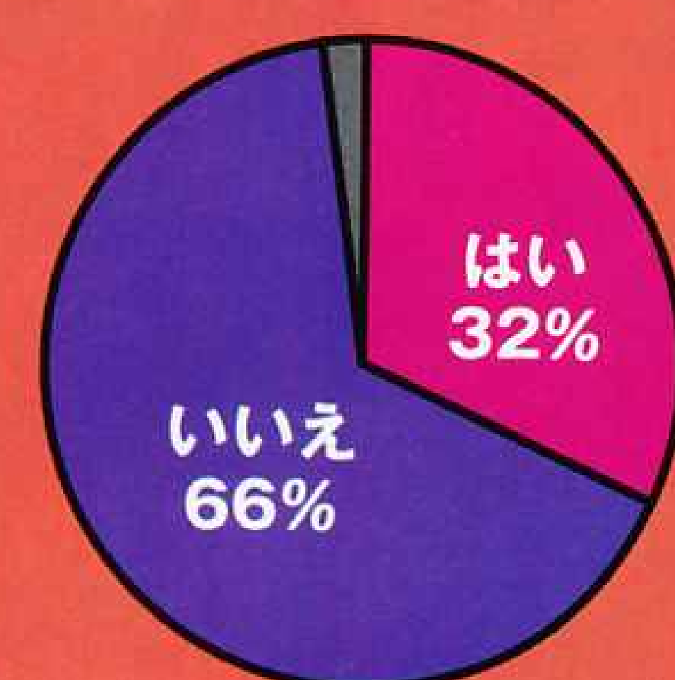
[Q3] あなたはプロレスファンですか？



はい 75人
いいえ 25人

●ひとつのジャンルとしては、まだまだ相当なパワーを持っているプロレス。下火とか冬の時代とか言われていても、確実に世間に食い込んでいる。バーリトゥード系の大会で、大物プロレスラーが出場するだけで観客動員に繋がるという裏付けでもある。

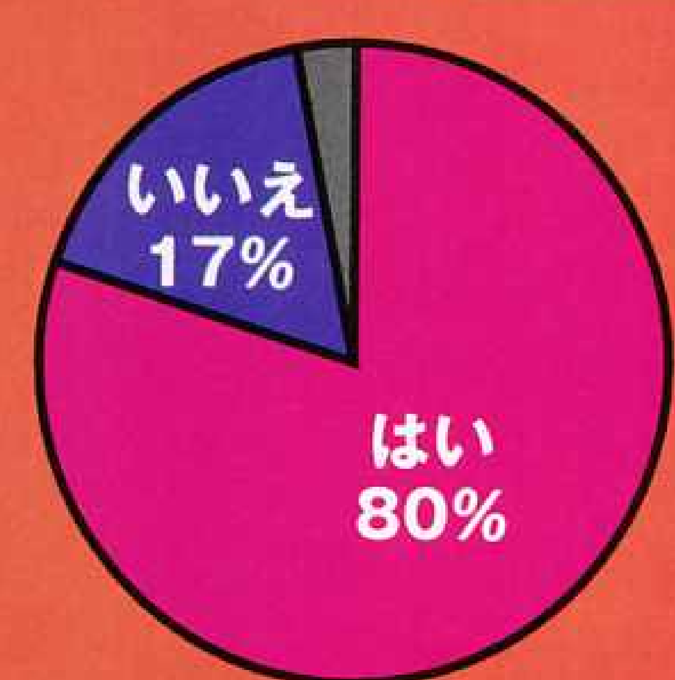
[Q4] あなたはグレイシー柔術ファンですか？



はい 32人 いいえ 66人
どちらとも言えない 2人

●プロレス＆格闘技の会場だからこそ、今回みたいな数字がはじき出されたが、結構、プロレスと重複しながら見てる人が多いこともこの調査で判明した。しかし、「プロレスファンの方が断然多いじゃねえか」とアグラをかいている場合ではない。

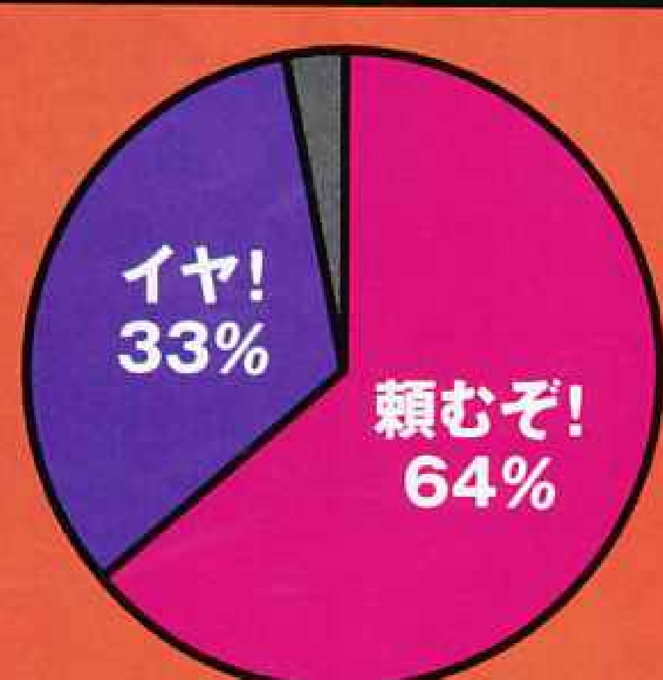
[Q5] プロレスラーがバーリ・トゥードに出ることには賛成ですか？



はい 80人 いいえ 17人
どちらとも言えない 3人

●今やU系団体が「プロレスとバーリ・トゥードは別物。専用の練習を積まないと勝てない」と発言するご時世である。バーリ・トゥードに出場するプロレスラーがことごとく敗れているにも関わらず、ファンが賛成するのは、なぜか？ ファンもレスラーも意識を変えねばなるまい。

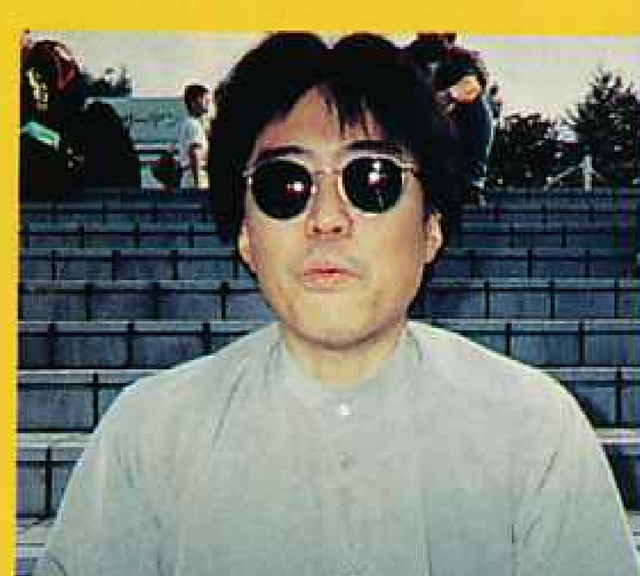
[Q6]「高田が負けたらオレが仇を取る」と前田日明選手が発言しましたが、あなたは前田選手に仇を取ってもらいたいですか？ また、「前田じゃイヤ！」と答えた方は誰に仇を取ってもらいたいですか？ 仇討ちに最適なレスラー＆格闘家を一人だけ書いてください。



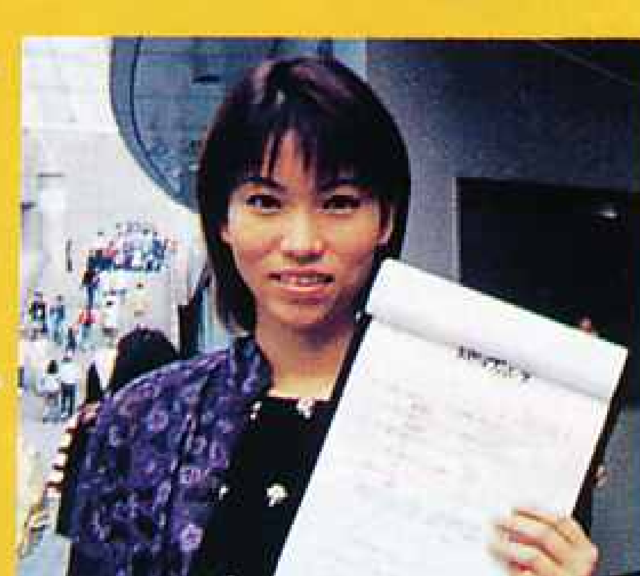
頼むぞアキラ！ 64人
前田じゃイヤ！ 33人
どちらとも言えない 3人

船木誠勝 6人／田村潔司 3人／安生洋二 2人／小川直也 2人／アンドレ 1人／G・馬場 1人／高山善廣 1人／佐山聡 1人／三沢光晴 1人／破壊王 1人／佐藤ルミナ 1人／実力ある人 1人／キングダムの若手 1人／誰でもいいが必ず負ける 1人／なし 9人

●半数以上の人が前田日明の仇討ち宣言に共鳴しているのが意外っちゃー意外。果たして本当に日明兄さん×ヒクソンは実現できるのか？ 個人的には、見たいような見たくないような一戦ではある。あ〜、でもやっぱり見たい！ 船木は出てくるのかな？ 最近は、あんまり試合もしなくなってしまったが、それはヒクソン戦への助走なのか？



（スリーパー 38才）
Q.この試合後のヒクソン選手に何を期待しますか？ 「最強の指導者になって、弟子を育て、プロレス界に恩返し」



（山本映子 20才 学生）
Q.高田選手にメッセージをどうぞ！ 「なんとか4R位までは頑張ってくれー！」



（黒木光弘 23才 学生）
Q.この試合後の高田選手に何を期待しますか？ 「自分の信じるプロレスをしてほしい」

●山田和彦with狩路
2年後の近藤（パンクラス）に期待したい。ヒクソン強すぎる

●岩田博行 25才 会社員
今日はメインのためだけに来ました。

●間野直明
悔しくて寝れ



[試合終了直後]

言いたいことをブチまけろ!! 家路を急ぐ人々をつかまえて生の声を聞きました!

アナタがブチまけまSHOW!



プロレスファンの期待を一身に背負いながら、なす術なく１Ｒで破れてしまった高田選手。ドームを後にする観客はみな肩を落とし、やり切れない表情である。言いたいことがあるなら吐き出しちまえ！ というわけで本誌は試合後に家路を急ぐ観客をつかまえて、思い思いに嘆いてもらったぜ！

●山田和彦with狩路
2年後の近藤(パンクラス)に期待したい。ヒクソン強すぎる

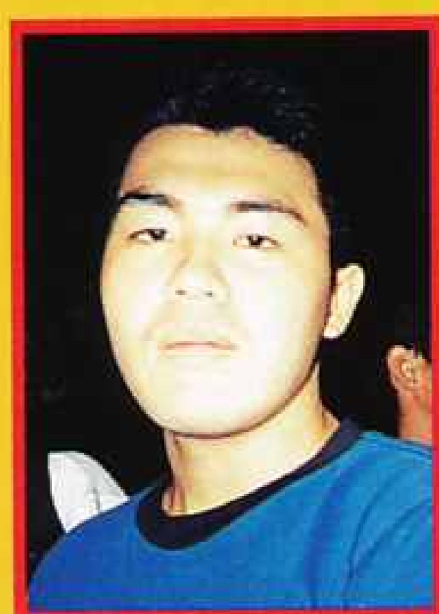
●玉井智拓
涙が出ました。立ち直れません

●渡辺健夫 30才 自営業
当然の結果だ！ 高田にはもっと打撃を出してほしかった。次は前田×ヒクソン戦だ

●池沢滋彦 23才 学生
高田、なぜギブ・アップしたんだ！ 頼むから残りの人生、みっともないマネはしないでくれ！ でも、プロレスファンは冷たいなあと感じた。人の人生のはかなさを感じた。前田、お前しかいないんだ！ 言ったことには責任もて！



●神田博茂 21才 学生
ヒクソン最強！ 前田かかってこいよ。宮戸、セコンドついてんじゃねえ。



●荒井宣剛 21才 大学生
ヒクソンが勝つに決まってるだろ！ 高田、逃げてんじゃねえよ。何で思いっきり行かねえんだ！ プロレスファンは総あきれ顔だよ！

●山口義徳 25才 フリーター
高田はタンパクすぎた〜。あんな負け方はみんな納得してないんじゃ〜！ 日本のトップレスラーの誰か、再度挑戦してくれ！

●伊藤香織 26才 フリーター
高田さん、引退しないでください。今の日本にはヒクソンに勝てる男はいないの？ いつか勝つ人が出てくれると信じています

●栗原秀樹 26才 学生
ようわからん間に終わった。橋本でも、武藤でも、長州でも、前田でも、誰でもいいから日本のプロレスでヒクソンを倒すヤツが出てきてほしい。小川が対グレイシー用トレーニングをしたらいけるんじゃないでしょうか？

●岩田博行 25才 会社員
今日はメインのためだけに来ました。時間は短かったけど、満足しました

●宮崎将伸 20才 大学生
なんだよ、タカダー！！ Uは終わったー！！ 次は前田だー！！



●久木元誠 25才 DJ
高田へ——本気を出せぬままで終わってしまって残念やけど、安生、宮戸と並んだリングでヒクソンをやっつけてほしかった。Uインターの狂ってしまった2年間に終止符を打てたかどうかは分かりませんが、ボクは高田延彦が好きです。今日は勝てたと思う（オレだけ？）

●井上雅博 25才 自営業
もういいって感じ。プロレスの限界を感じてしまいました。「負ける」とは思っていましたけど、１％でも勝つ可能性がある限り応援しようと思った。オレの純粋な心を返せ！ もう前田しかいない！ パンクラスの前に、ヒクソンを潰せ！

●スズキアツシ 21才 公務員、菊地健一郎 21才 公務員、アガマサキ 21才 会社員
高田の男を見た（スズキ）、緊張感はすごかった（菊地）、ヒクソン強えー！（アガ）

●八重樫雅人 22才 学生
高田なんていちばん弱いんだから問題にしちゃダメだ！ やめちまえ！

●間野直明
悔しくて寝れない。明日からの私の人生はどうなる？



●山田 23才 学生
高田、ボクはあなたを見れなかった。またあなたに会いたい

●吉田光一 21才 学生
今日は名古屋から来ました。高田が勝つことだけを信じてましたが、結果的にはヒクソンの強さだけが目立ちました。しかし、まだプロレスラーはたくさんいるので、これからも「プロレスが最強」ということを信じて生きていきます

●大谷弘成 21才 会社員
信じられない……。もうファンを辞めようかと思ったけど、こんなことで終わるのはやだ！ これからも高田を応援し続ける！

●田口和幸 31才 会社員
とにかく悔しい。あと期待できるのは新日本の橋本だけだ



●赤平由希子 23才 学生
WANTED!! ヒクソンに勝てる人。ちなみに、昨日六本木で交差点を飲み屋がいっぱいある方向（HARD ROCK CAFE等）に笑いながら向かう場面に遭遇。やる気あったのかい？

ヒクソン派？ 高田に厳しいみなさん

ガッツ石松



――ガッツさんから見て、今日の高田選手の「闘いの魂」はどうでしたか？

ガッツ 今日、高田選手には「どんなことをやっても勝つんだ」というガッツはなかったな。闘いが、ヘビに飲まれたカエル的だったよな。

――でも、1年間準備したのになにも出来ませんでしたね。よっぽどヒクソンが強いのかなと思ったんですが。

ガッツ それは高田がだらしなかっただけ！（キッパリ） 4万6000人が高田のやる気を見に行ったのに、何もないまま終わっちゃったんじゃ、高田も格闘家としては失格だよな。

――失格！ 厳しい意見ですね。

ガッツ もう少し、見せるところを見せないとダメだよ。惨敗だもんなぁ。

――ボクらはこれから何を見ていけばいいんだろうっていう状況です。ガッツさんはこれからプロレス界はどうすればいいと思いますか？

ガッツ 一本にまとめればいい。そうすれば中身が濃くなってくるからね。毛利元就じゃないけど、一本の矢じゃダメだよ。まとめあげて興行やって、一日だけ前座からメインまで格闘技の試合をやったっていいんじゃない？

――ガッツさん、頼りどころを失ったプロレスファンはどうすればいいかの教えてください。今日、「高田はいざとなったら強い」っていう幻想が崩れてしまったんですよ。

ガッツ それはみんなの偶像じゃないかな？高田選手はもっともっと闘わないといけないよな。そこから這いあがって来た人がホントに強い人なんだから。

――自然淘汰されて残った人がいちばん強いと。

ガッツ うん。プロレスというのは決して夢を失ったわけじゃないの。自分が「コレ！」と信じたものを追いかけるべきだよな。全日本なら全日本のプロレス、新日本のプロレスなら新日本のプロレスっていうふうにさ。それが夢を追うっていうことじゃないかな。

――夢を追うこと！

ガッツ 夢がなくなってるわけでしょ？今の若者は誰が強いのか、誰を信じたらいいか分からないんでしょ？ 自分の中で追っかければいいんだよ。今日は高田が強いと思ってたのが崩れたわけでしょ？ じゃあ、それを破ったグレイシーに夢を懸ければいいんじゃないの？

――夢も自然淘汰ですか！

ガッツ そうそう。それで、自分の追っかけてる人に誰かをぶつけたいっていう夢が膨らむじゃない。高田とか船木とか前田とかさ。

――面白い方法ですね。

ガッツ そういうふうに転換していかないとダメだな。人間というのは、夢を追うものなんだよな。左に「人」って書いて、右に「夢」って書いてみな。

――はい。（「儚」という文字が完成）

ガッツ 「儚い」っていう字になるでしょ？人が夢を追っかけると儚くなるの。

――メチャメチャいい話ですね！

ガッツ 高田という夢を追いかけただろ？ 負けたら儚いだろ？

――ええ、メチャメチャ儚いです！

ガッツ 儚いだろ！ で、グレイシーを誰が倒すのか、追いかけてればいいんだよ。楽しいだろ？ ガッツ石松が手品でグレイシーを負かせちゃったりしたらさ（笑）。

――ガハハ、それがいちばん楽しそうです（笑）。

ガッツ ワチャワチャワチャ、パ～っていうのもいいじゃない？（笑）

――いいなあ。ガッツさんと話したら、だいぶ夢が回復できました！

ガッツ だろ？ だから、夢は儚いっつうんだよ！ グレイシーに自分の夢をぶつければいいんだよ！ いずれは勝つから！ そしたら夢は花が咲くから。それでいいじゃん。

――はい。今日はどうもありがとうございました。

ガッツ またね。おい、夢を持てよ！

【97年10月11日、試合終了後に飯田橋のホテル・エドモンドにて収録】

RADICAL観戦記

前号の各界著名人33人による高田×ヒクソン勝敗予想が大反響！ 今回は前回よりも一歩踏み込んで、観戦記＆インタビューをぶちかまします！ さらになんと！ Puffyの独占インタビューにも成功しました！ ワ～ォ！ 日本のプロレス界を揺るがした世紀の一戦を、RADICALでは他誌とは一風変わった切り口でお届けします！

花くまゆうさく



スッキリしました。

いやあ、翌日新聞全部買っちゃった。気持ちよすぎます。帰りの酒はうまかった。でも、まともにやればレベルが全然違うと判っていても、試合前まではちょっぴり不安になったことも確かです。ワンサイドで勝つと思ってたヘンゾが引き分けちゃったし。しかし、そんな不安も試合が始まれば消えました。やっぱりレベルが全然違います。世界チャンピオンと練習生が試合をするようなもんでしょう、異常です。でも、高田にはプロレスのビッグネームという首があるので、イージーな試合でもこの試合には大きな意味がありました。やってよかったですね。（海外の人達は、ヒクソンはプロレスラーとなんか試合して楽してると思ってるでしょうが）

高田について昔はいろいろ言ってきましたが、今回このような真剣勝負の場に出てきてくれ、なおかつまともに闘ってくれたので今は感謝しています。

しかし、今までプロレスが格闘技に対してしてきたことや、Uインターがヒクソンにしてきたことを考えれば、今回このように完璧にトドメを刺され現実を見せつけられて当然の報いだと思います。

虚像で王様になっていたプロレスに対して、「王様は裸だ」と満天下の前で指摘したようでとても気分のいい日でした。（もちろん、本当に強い武器を着た、裸じゃない王様プロレスラーもいるけど、ほんの一部ではないのか。）

もう、プロレスはプロレスだけでいいじゃないですか、ヒクソンにちょっかいださないでほしい。ヒクソンに寄り道させないでくれ。ヒクソンには、闘ってほしい格闘家がたくさんいるのだ。

あと、黒澤戦でロープエスケープはいかに試合をゲーム化し、つまらなくさせるかを、U系ファンの前で証明できたことも小さな収穫です。それと前田vsヒクソンはない！前田がこのような場に出てくれるとは思えないし、ヒクソンはプロレスの場に上がることは絶対ない。だからないと思う。

最後にもう一言、今までグランドの強さを売りにしてたプロレスが、「このルールは我々には不利だ」とは言わんでほしい。どうしてもそう言うのなら一言付け加えてくれ、「我々はグランドのレベルが低いから、このルールは不利だ」と。



本当にファンとしては、いろいろ言われてた
はなく、混沌とした局地戦、渦巻く
ある。まずは、ヒク
ソンから余裕を奪わ
ねばならな、どろ

ガンバレ、ノブ！ 高田に温かいみなさん



浅草キッド

本当にファンとしては、いろいろ言われてたけど主催したKRSには大感謝しないといけないね。何度も暗礁に乗り上げながらも、この一戦をとうとう実現したことに意義があるもん。昔「最強」を唱えた男・猪木のチンポの汁の一滴から、これほど、大怒張の勃起をさせてもらえるような、興奮状態、高ぶりで試合を見せてもらえるとは。「やりたい」と決めたら裸一貫、リスクを顧みず、生板本番に登る男の心意気っていうものを全体に感じましたね～。よく言うところの最近の昭和のプロレスファンの最近のインポぶり、萎えぶりは深刻だったもん、まだまだ、こんなに男騒ぎで勃たせてもらえるとは。会場のどんな強精剤よりビンビンに効いたよ。リングサイドに陣どった、番長の前田、雪辱を秘めた山本、さらにその近くにいたヒットマン髙橋義生、そしてセコンドについた忠治一の子分安生、さらにハン・ソロのように帰ってきたさすらいの流れ板（?）宮戸、それぞれの思惑はともあれ、こういう状況を待ってたんだよ、っていう気持ちはありますね。整理され、棲み分かれ、オシャレなスポーツ化に向かう流れではなく、混沌とした局地戦、渦巻く心理戦の綾を感じつつも、誰もが一心に高田の勝利を祈る気持ちが通じてる大劇場なんて、確かに昔の猪木一人屹立してた頃のあの求心力を思い出しつつも、ああ、この現場に立ち会えた～って感激に震えたな～。やっぱり、プロレスって連綿と続くドラマであり、師弟に引き継がれる遺伝子や、人間の離合集散の物語なんだな～って思うんだけど、その思い入れってプロレスを見続けてきた記憶の賜物だからね～。それを全部ご破算にした、ヒクソン・グレイシーって男は、敵ながらあっぱれな「憎みきれない想い出殺し」なんですよ。結果はあっけなくてもいいじゃん。その前の膨大な記憶とドラマがあるんだから。とにかくこの大会には、批判なし、どの団体のレスラーでも次のヒクソンにチャレンジできる土俵作りを願いたい。（キッド談）



高田vsヒクソンRA

仮面シューター スーパーライダー



試合前の私の予想は「ヒクソン勝利」だった。いつになく緊張の面持ちで入場してきたヒクソンに対して高田選手は非常にいい顔つきでリングに上がってきた。ところがゴングが鳴ると両者の顔つきは一変してしまった。冷静に間合いを詰めてプレッシャーをかけていくヒクソンに対して、高田選手は自分の距離をとることができず、キックを出すチャンスもない。さらにタックルで倒され、ガードポジションを取ろうとしたが、頭部をヒクソンのボディーに持っていくというミスを犯してしまった。これは頭部を一番打たれやすい位置にさらしてしまうことになる。高田選手も、それは分かっていたのであろうが、逆に言えばヒクソンのうまさでそうなってしまったのだ。そして、フィニッシュは「まさか!?」の逆十字だった。なぜ、ヒクソンは逆十字を使ったのだろうか？ グレイシー柔術最強の男として、絶対に負けることができないヒクソンは、今までリスクが伴う関節技を使おうとはしなかった。チョークスリーパーを警戒した高田選手の裏をかいたのか？ それともあえて相手の得意技で決めてやるという余裕の表れだったのだろうか？ だとしたら、ヒクソンは非常に嫌なヤツである。まずは、ヒクソンから余裕を奪わねばならないだろう。もし、私が対戦したら、まずはライダーキックで意表を突いてみるところだったのだが……。

初め、私は高田選手のキックに期待していた。なぜかと言えばそれはスタンディングでのヒクソンのガードの甘さによるものだった。しかし、私はとんでもない思い違いをしていた。ヒクソンの組技、寝技の充実ぶりは、完全にガードの甘さなどカバーしきっている。あれはあれで、彼の闘い方においては完璧に完成されているのだ。今から思うと、頭を剃ってきたのは気合いを入れるためだけではなく、密着されたときにうまく抜けられるようにするためだったのだろう。ヒクソンは試合前に、すでに試合をやってきていたのである。まさに理詰めの詰め将棋。彼の強さの秘密は、そのクレバーさにもあると言える。

結果的に完敗を喫してしまった高田選手だが、プロレスラー達は彼を責めてはいけない。口先だけのレスラーが多い昨今、実際にヒクソンに挑戦した勇気は褒め讃えられるべきだろう。「オール・オア・ナッシング」の闘いを挑んでいった高田選手は「プライド」というものが何であるか、全レスラーに対して問いかけをしたかったのかもしれない。こんなことを私が言うのは誠に失礼だが、彼は非常に強いファイターになれる資質を持っていると思う。要は経験が足りなかっただけだ。充分な経験を積んで再戦すれば、今回とはまた違う展開になるだろう。

全試合終了後、電話で佐山聡先生と話をした。改めてヒクソンの強さを思い知った私は「彼に勝てる日本人はもういないのではないか？」と言ってみた。しかし先生は「そんなことはない。研究すれば必ず道は開ける」と言っておられた。先生はまだまだ可能性を捨ててはいないようだ。それを知って私も安心した。きっといつか、誰かが「打倒ヒクソン!!」を果たすかもしれない。それも、そんなに遠くではない未来に。

仮面シューター・スーパーライダー■シューティングの初代ウェルター級王者。現在はDDTを中心に活動。'94＆'95バーリトゥード・ジャパンオープンのレフェリーを勤めた



本誌独占♥

最終奥義はお色気だ！

Puffy

PRIDE-1終了直後に

スペシャルインタビューを敢行！

もはや説明するまでもないだろう。最近は格闘技ファンとしても注目を浴びているPuffyの２人が本誌に登場です！　前号での勝敗予想アンケートに参加してくれたのに続いて、今号では世紀の一戦を生観戦した直後に独占インタビューをやっちまいましたぁ！　なにしろ亜美ちゃんは高田ノブの大ファン。由美ちゃんはヒクソン好きな上に、去年のU-JAPANを生観戦して「ビガロがボコボコにされる様を見て大喜びしちゃって」という筋金入りの格闘技ファンでもある。これは、そんな２人が世紀の一戦をメチャクチャに斬りまくったバーリ・トゥード・インタビューである！

聞き手／坂井ノブ
interview by Nobu Sakai
撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito

——いや〜たったいま、高田延彦選手が負けてしまいました。大貫さんは高田さんのこと好きなんですよね？

亜美　好きですね。でも、グレイシーが勝つと思ってました（笑）。

——醒めてますねぇ（笑）。

亜美　『紙のプロレス』の前号で「高田さんが好きだけどグレイシーが勝つ」と予想してたんですよ。

——まあ、予想通りですね。でも、何か淋しくないですか？

亜美　でも、はやく試合が決まっちゃったんで、「強いんだな〜」って（笑）。皆さんは高田選手を応援してたんですか？

——そうです。ウチの雑誌は「ガンバレ、ノブ！」でしたから。

亜美　あ、すいません。

——いえいえ、全然構いません。吉村さんはヒクソン好きなんですよね？　どんなところが好きなんですか？

由美　強いじゃないですか。あんまりこう言うと申し訳ないんですけど。

——誰かヒクソンを負かせそうな人はいますかね？　前田日明が挑戦するなんていう話もあるみたいですよ。今日もリング上でチャクリキ・ジムのトム・ハーリック会長が挑戦してましたけど。

由美　チャクリキが挑戦したらいいですよね。

亜美　会長にやってもらおう！

——ハハハ！

由美　でも、髪切っちゃったからダメかも（笑）。髪が長いときは好きだったけど。

亜美　「チャクリ〜キ」言うてたよ（笑）。

由美　前田さんが挑戦するのがいちばんいいんじゃないですか。誰もが興味を持ってるし。

——以前、由美さんと『Ｂｏｏｎ』誌上で対談してたマイク・ベルナルドが挑戦したら面白そうですよね。

由美　ベルナルドは大好きですけど、寝かしちゃいかんのです。あの人は立ってないとダメなの。

——寝技はダメと。チャクリキが挑戦したらホントに面白そうですよね。

——もう一回、意地を見せてほしいで

すもんね。



パンフレットのヒクソンのポーズをマネしてもらったら、すかさずガチョーンを始める２人。ちょっとしたスキも見逃しはしない。Ｐｕｆｆｙおそるべし、である。

由美　その時はチャクリキTシャツ着て、チャクリキズボン履いて応援するね（笑）。

——立ち技と寝技では、どっちが好きなんですか？

由美　私たちみたいに見たことない人にも分かりやすいじゃないですか？　寝てしまうと、何をやってるかわからなくなってしまうんで。立っててゴ〜ンってやったほうが、「ワ〜」ってなれるんですよね。実際には誰が強いんですか？

——高田さんは強いんですよ。でも、ダメだったんですよね……。

亜美　高田さんのキックは1トンあるんだよ。

由美　え！

亜美　北尾さんを一発でKOしたビデオを見せてあげようか？

由美　よろしくお願いします（笑）。

——亜美さんは高田選手のどの試合が好きなんですか？

亜美　北尾さんをキック一発でバターンってKOしたのを見て、「すごいカッコいい！」って思って。そのあと、武道館に見に行ったんですよ。

——それ何の試合だったか覚えてますか？

亜美　何だったかな？　5500円の席で見たんですよ。

——はあ、5500円で（笑）。

亜美　ゲーリー・オブライトとの試合だ。

由美　（小声で）私、プロレスに行ったことない。

——でも、『Ｂｏｏｎ』のフォトマガジンで「ピンクレディとクラッシュ・ギ

島田さんがつけたんじゃない？」）

——いや、高田vsヒクソンの感想！

したらホントに面白そうですよね。

ンで「ピンクレディとクラッシュ・ギ

Puffyが断言！ 私たちが仇を撃ちます!!



ャルズ、近いのはどっち？」っていう質問で……。

由美 クラッシュ・ギャルズ！

—クラッシュ好きなんですか？

由美 私ぐらいの年代の人だったら誰もが憧れたはずですよ。憧れてない人の話が聞いてみたいですよ。

—亜美さんも？

亜美 私、小学校の頃、日本にいなかったから。

—ああ、そうか。ちなみに由美さん、どっち派でしたか？

由美 その頃は長与千種。

—ああ、なるほど。ところで、丸坊主になったヒクソンはどうでした？

亜美 いつボウズにしたんですか？

由美 あたし、誰だか分からなかった。

亜美 目がカワイイ。

由美 （小声で）あんた、怒られるよ！

—ハハハ！

由美 顔はかっこよくない？ 誰と比べてっていうんじゃなく、パッと見て。

亜美 あたし、グレイシー・ファミリーは好きなんですよ。セパルトゥラっていうバンドのビデオに出てて。

—ファミリーが出てたんですか？

亜美 そう、ファミリーで（笑）。ホイス・グレイシーとか出てましたよ。あと、高田さんはファーファのCMがすごい素敵ですよね。

—（ノブマネで）「フワフワ！」って言ってたCMですね。そんな素敵な高田選手が「引退するんじゃないか？」というウワサが流れてるんですけど。

亜美 え〜！ イヤです。

由美 あれじゃ引退しないって。

—正直な話、今日でかなり株を下げちゃいましたからね。

由美 負け方が何か違う感じが……。

—もう一回、意地を見せてほしいですもんね。

由美 「負けたけど良かった」っていう試合じゃないじゃないですか。引退されると困りますよ。

—この落とし前をつけてから辞めろって感じですか？

亜美 辞めないで……。

由美 亜美からエールを（笑）。ファーファのCM見とけばええやん。

亜美 そうなん？（笑） ファーファのCMに出たい、一緒に！

—ハハハ！

由美 安生さんは何でセコンドについてたんですか？

—高田さんと同じ団体なんですよ。安生選手は好きなんですか？

由美 全体的に何となく……。

—キャラクター的には三枚目路線じゃないですか？ 高田選手みたいな二枚目路線よりは……。

由美 親しみが持てますよね。

—安生選手に仇討ちをしてほしいとは思わないんですか？

由美 それは思わないです。誰がいるんでしょうかね？

亜美 チャクリキの中から誰かがね。

由美 会長にね（笑）。会長が言い出したんだから、会長に出てほしいですね（笑）。

—では、今日の感想をひとことでお願いします！

亜美 ……コブのことしか浮かばない（笑）。（※シカティックと対戦したラルフ・ホワイトがでっかいコブを作ってしまい戦闘不能になった。大貫亜美の推理によると「インチキレフェリーの島田さんがつけたんじゃない？」）

—いや、高田vsヒクソンの感想！（笑）

由美 私はヒクソン選手に勝ち続けてほしいですね。誰も勝てないくらいに。

亜美 みんな、どんどんヒクソンに挑戦して……私たちもやろう！

由美 最終奥義は……お色気だ！（笑）

亜美 効かなそぉ（笑）。だって、山篭りしとったよ！ 湖泳いどったよ！

—ガハハハハ！ Puffyのお色気攻撃だったら、高田選手でもヒクソンでもかなわないですよ（笑）。

由美 いや！ ビ〜キニで。まず、ぁなたがラウンドガールになって（笑）。

亜美 ボードを持つフリして、一斗缶攻撃（笑）。

由美 いきなりガーンって（笑）。

亜美 （小声で）私が高田さんの仇を撃ちます（笑）。

由美 がんばりまーす。

—どうもありがとうございました（笑）。絶対、仇を取ってください（笑）。

【97年10月11日試合終了後、一族郎党でハシャぐヒクソン控室の目と鼻の先で収録】



Puffyの最終奥義「勝負の決め手はお色気だす」の構え。亜美ちゃんのミニスカ・ポリスのポーズに合わせて、由美ちゃんの一斗缶攻撃が炸裂するという二枚刃攻撃。ぜひ、これでヒクソンをKOしてほしい。いや、これホント。

人生相談から飛び火！

怒涛の前田日明

プチッ！インタビュー

「対抗戦やったらいいんですよ。それで負けるようだったら、リングスを解散しますよ！」



相変わらず好評、しかし眠たい相談が絶えない前田日明の『人生は語らず』（P28に掲載）だが、10月上旬、人生相談としては風変わりな手紙が届いた。整然と書かれた文字を読んでいくと、それは前田の「パンクラスを潰す！」発言の真意を知りたいという、パンクラスファンからの手紙だったのだ。
人生相談の取材の日、すべての相談が終わった後に、この手紙を読みながら話をしてみると、前田のパンクラスへの怒りはやはり収まっていなかった。

前田さん、僕はパンクラスの
本的に違うのはね、俺が猪木さんのこ
って！　それをすり変えてるんだよ。
いますね。いきなり「潰す」とかなん

Q **前田さん、僕はパンクラスのファンです。リングスも熱心にというわけじゃありませんが、観戦には行ってます。真正面から聞きます。今回の前田さんの「パンクラスは邪魔や！ 潰す！」発言には心の底から怒りが湧いてきました。真意がまったくわかりません。スポーツとしてリング上で勝敗を競おうというならわかりますが、それならなんであんな下品な言葉が必要になるんでしょうか？ 何が邪魔で、パンクラスの何を潰すんですか？ パンクラスの選手はみんな血まなこになってやってます。ズーッと見てる僕にはわかるんです。彼らには嘘はありません。船木、鈴木両選手の何がそんなに気に入らないんですか？ もし、船木が「リングスは邪魔だから潰す！」などと突然言い出したら、リングスのファンだって絶対に怒るでしょう。人生相談のページにこんなハガキを出すのは反則かもしれませんが、前田さん、格闘技界のためにも発言の真意をパンクラスファンにもわかるようにキッチリ説明してください。（杉原武 19歳 男 学生）**

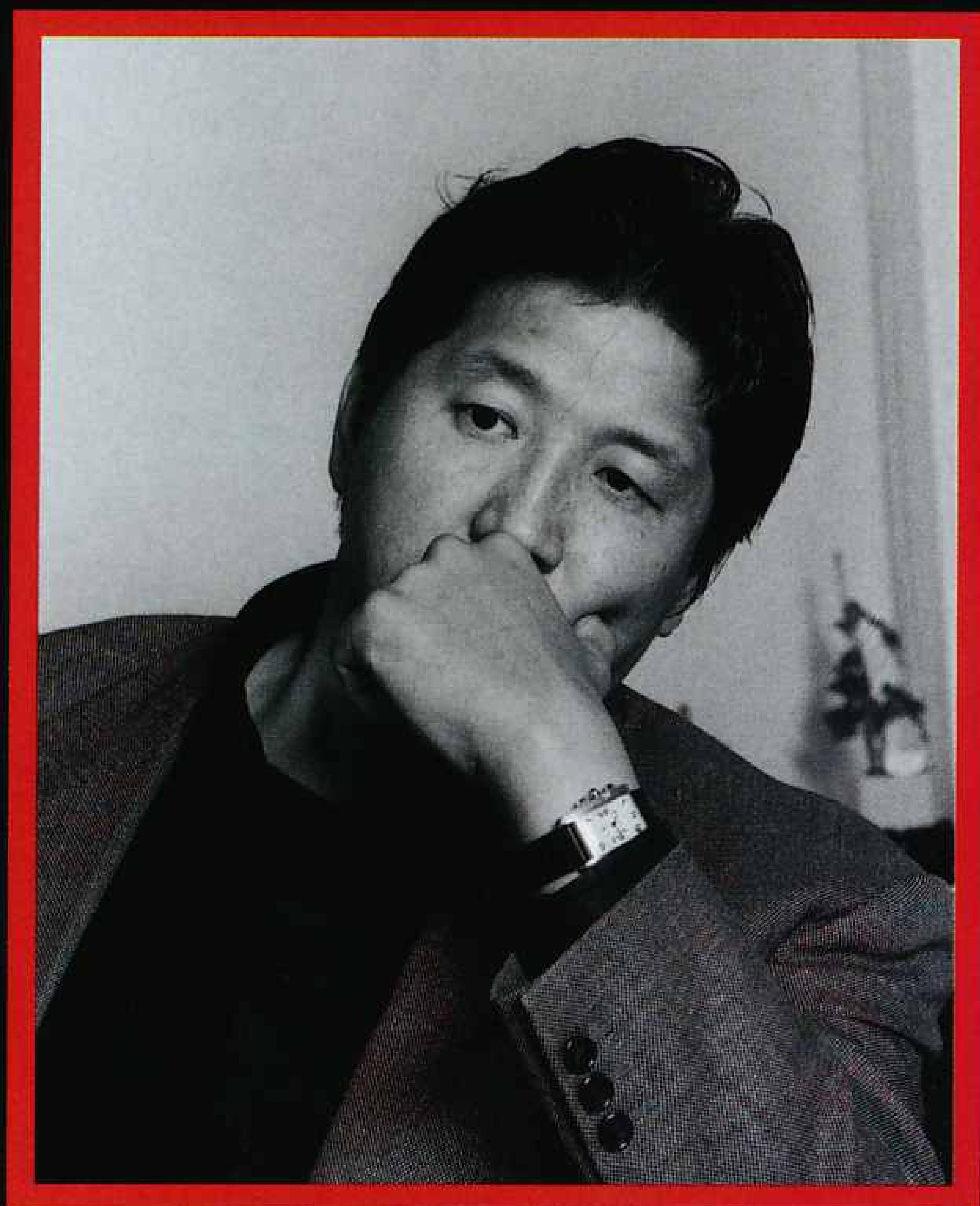
――ということで、一応人生相談コーナーに来た手紙ということで読んでみました。これは相談でも質問でもなく訴えですね。

前田 でも、これに答えてると長くなるで。パンクラスはね、あいつらズルイんや！ いままではプロレスがショーだとか散々悪口言ってたけど、それだけだったら、まあまあええかって思ってたけど。でも、俺とあいつらが根本的に違うのはね、俺が猪木さんのことを一番言ったのは、UWFから出戻って新日本にいた時ですよ。面と向かって言いました。そうじゃなきゃ、俺は卑怯だと思ったから。だけど、あいつらは根本的に違いましたよ。それで、自分たちの団体を説明する時に、人の団体のことを、あることないこと揶揄してね、やるんじゃないですよ。そういうのを黙ってみてたウチらも悪いのかもわかんないけど。そういうのがさも本当のように流布されると、いくらなんでもこっちはキレますよ！ 今回も髙橋がどうのこうのって言ってるけど、こっちはただ「頭に来た、潰す！」って言ってるだけ。挑戦したいとか言ってるのと話が違うやんけ。もし出すんやったらね、船木、鈴木が出てこいって！ それをすり変えてるんだよ。で、髙橋出してきてどうのこうのって。で、「やった」と向こうは思ってるわけでしょ。あいつらなんかUWFの時に、「UWFにも格がある」とか言ってたやん。それがいま髙橋出して、高見の見物を決めてるヤツがいるところを見るとパンクラスにも格があるじゃない。

――パンクラスにも格はありますよ。それはもしかしたら別の次元の質問だったかもしれないけど、「パンクラスにも格があることになりますね？」と聞いたら船木選手も「そうかもしれない」って言ってましたよ。

前田 そうでしょ。昔、人に対してとやかく言ったことを改革できない癖に言うんじゃないですよ。違います？

――でも、髙橋選手の場合は、髙橋個人の感情だと言ってますよね。「自分も株主だから、会社を潰されたら嫌なんで、売られた喧嘩は買います」って言ってるんですよ。ある意味で、髙橋の言うことは筋が通ってるっていえば通ってるわけです。誰だって自分の会社を潰されると言われれば腹立つでしょうからね。まあ、「殺す」という言葉がいいか悪いかは置いといての話ですけどね。



前田 でもね、あいつらに違うとは言わせないですよ！

――もしも俺が船木誠勝の立場だったと考えたら、よく黙ってられるなと思いますね。いきなり「潰す」とかなんとか言われたらですよ。だから髙橋選手の感情の出し方は素直だと思うんですけどね。意気込みが伝わるじゃないですか。

前田 うん。でもね、確信犯の奴らは黙ってて、核心ってのを知らない若手がワァーッと大騒ぎしてただけだろ。で、その確信犯は高見の見物でね。

――これが反対だったら、当然リングスの若手だって黙ってないでしょうからね。

前田 それはそれでわかりますよ。だけど、この件に関してはね、髙橋は関係ないですよ！

――あくまでも標的は船木さんと鈴木選手だと。

前田 あいつらが、俺や、俺たちについて言ってきたことについては知らぬ存ぜぬでやってるでしょ。お前ら、ちょっとちゃうんじゃないか。お前らが出てこいや！ 髙橋がどうのこうのって、それはわかりますよ。わかるんだけど、ちょっと違うでしょ。俺が髙橋とやろうって言ったんじゃないんだから。俺がホントにやりたいのは船木と鈴木ですよ。鈴木出てこい！ 能書きばっか垂れてんじゃない。能書きかハナ垂れかなんか知らんけど、もっとわきまえて人に文句言え！ 自分らがやってることは俺らより、もっと汚いことやってるよ。藤原組の時も、パンクラス旗揚げの時もどうのこうのといっぱいあるしね。積もり積もってるわけですよ。それでええカッコしてさ。マズイことは知らぬ存ぜぬ、ほっかむりでしょ。

――船木、鈴木が出てくれれば、解決で

きる糸口は掴めるわけですか?

前田　普段から俺たちに勝つ自信があるとか、大したことないって言ってるなら、来たらええやん!　それが出てこないやないけ。そうでしょ?　簡単なことよ。

――じゃあ、髙橋選手からの要請はどうするんですか。

前田　髙橋どうのこうのは構わないよ。構わないけど、船木、鈴木のあとにしてくれって。そういうことですよ。順番が違うでしょ。パンクラスを潰すってことはパンクラスのイメージを全部背負ってるヤツじゃないと、話になんないじゃない。髙橋が〝ミスター・パンクラス〟なのかっていったら違うじゃない。そうでしょ?　もう対抗戦やれば明白やったんだけど、そういうことする気もないみたいだから。「いくら来られても交流する気はない」って言ってるらしいけど、俺も交流する気はないよ。ただ、こうやって(ダーン!と机を叩く)やるだけですよ。交流なんてちゃんちゃらおかしいですよ。そんな気、毛頭ないですよ。

――船木、鈴木はUWFの否定から入ってパンクラスをつくってますよね。

前田　お前ら、UWFがなかったらパンクラスなんかないんや。UWFが時代の状況で矢面に立って、で、自分の足場築いて、場所を作ってやったからできるんじゃない!　でしょ?　あいつらだってUWFに乗っかってるやん。偉そうなこと言うなって!

――でも、否定から入っていても、「UWFがなかったらパンクラスはなかった」って鈴木選手は認めてますよ。

前田　でもね、どういう風に認めてるねん!　あいつら言葉の意味がわかってない。なんもわかってない。日本語が不自由な人たちや。

――じゃあ、「潰す」って発言をした以上は、前田さんは、パンクラスのイメージを背負ってる人間とやらなければ意味がないってことですよね。

前田　試合をやれってことだったらね。それしかないでしょ。

――それは整合性がありますね。

前田　そうでしょ。

――パンクラスの記者会見(10月4日、髙橋同席の元に行われた)は何かで読みました?

前田　そんなもん、読むもクソもないよ!

――「全日本キックのリングで、第三者的なリングでやりましょう」という。

前田　お前ら、日本語わかってから言えっていうんですよ。そう思いません。

――11月24日、1月30日、2月の上旬にリングス、パンクラス双方ともに友好関係にある全日本キックのリングで、前田対髙橋戦をやろうと。その返事を10月29日までにしてくださいと。

前田　順番があるでしょ。それを言うんだったら、少なくとも鈴木を出してくるから、どうですか?っていうのが当たり前ですよ。でしょ?

――だから、最初からデリケートな問題が絡んでたわけですよね。どちらかというと前田さんはウエットで、パンクラス側はドライでしょう。でも、ファンとか業界からみると前田さんがヒールみたいになっちゃってる部分もあるし。いきなり「潰す!」だから(笑)。

前田　一番最初、俺は髙阪と試合をしてくれる人を探さなきゃあかんなと思って、ある人と話をしたんだよね。その人がF局とか電通と話したら、「リングスはパンクラスと違ってプロレスみたいなことをやってる」と聞いたと。「あなたから聞いた話とは違う」と言われたんですよ。それでカチンと来たんだよ!　で、誰が言ってるんだってことになったらF局のプロデューサーのKだと。あいつは否定してるけど、そういうことは、あちこちで聞いてるんですよ。(パンクラスの)尾崎社長だとか、鈴木だとか、船木だとかが、どっかの雑誌に取材された時に、オフレコの話として、「あの団体はこうなんですよ、ああなんですよ」って言ってるんですよ。それがバーッとあちこちに流れてく。そうなったら黙ってられないでしょ。え?

――だから、前田さんが怒るのはわかるんですよ。それが本当だったら怒って当然ですよ。ただ、パンクラス側がそのK氏に言ったかどうかわかんないし。

前田　スミスにしても、なんでウチに来てるか。フランク・シャムロックは「日本人選手がこんなに強いとは思わなかった」って言ってるんですよ。それはどういうことかっていうと、パンクラスが弱かったってことでしょ。

――あちゃあ。あ、そういえば『ファイト』にリングスファンからの投稿が載ってたんですよ。「パンクラスはイズマイウを倒したことで有頂天にならな



いでほしい。リングスはイズマイウよ
り強いモラエスに挑んでる。パンクラ

に言ってください」ということの答え
は、結局どうなるんでしょう。

言ってない」ってお前ら言えるんかっ
て。でしょ。いままで、いろんな誌面

をするんですよ。
前田　(無言)

だ」って鈴木選手は認めてますよ。

るし。いきなり「潰す！」だから（笑）。

言ってるんですよ。それがバーッとあち

マイウを倒したことで有頂天にならないでほしい。リングスはイズマイウより強いモラエスに挑んでる。パンクラスの強さを証明するのにリングスを蔑む必要はないし、そのような不可解な言動をするのは自分に自信がない裏返しのような気がします。ただ、このままでは前田の発言は根も葉もない私恨だと決めつけられてしまうし、ひいてはリングスに対するマイナスイメージを固定化することになります」と。だから、双方のファンもこの問題については心配してるってことですよね。心配って言い方は違うかもしれないけど。ファン層もうちでアンケート取ったらリンクしてるし。パンクラス側は記者会見で「みんなが傷ついてる」とかいう言い方をしてましたけど。

前田　かわいコぶってな。お前ら、ちゃうやろ！

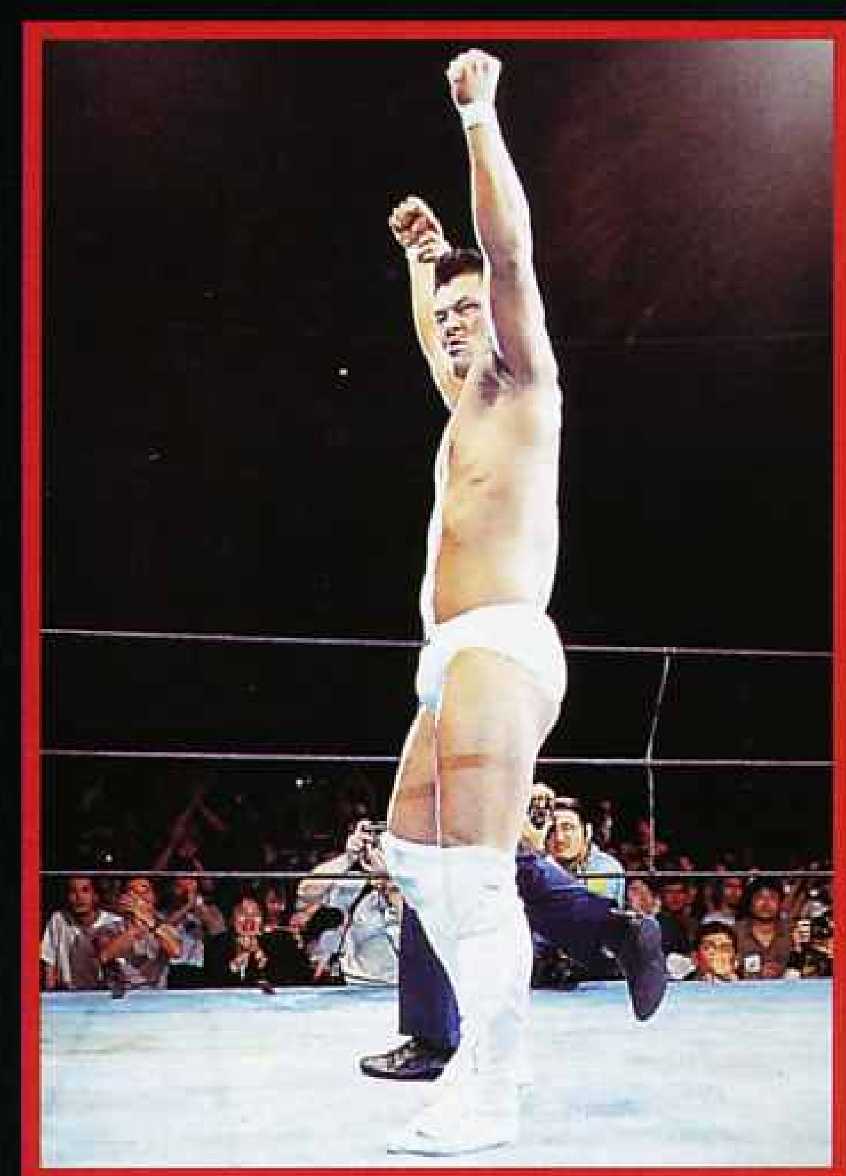
——前田さんとしては高橋個人に対しては、何にもないわけですね。

前田　ないよ。でも、髙橋がパンクラスのイメージ背負って“ミスターパンクラス”ならわかるけど、違うでしょ。「潰せるものなら潰してみろ」って言って試合するんであれば、船木か鈴木が出るのが妥当でしょ。

——この手紙に対する「潰す発言の真意をパンクラスファンにもわかるように言ってください」ということの答えは、結局どうなるんでしょう。

前田　どっちにせよね、パンクラスという団体はみんなの足を引っ張る団体で、プラスになる団体じゃないです！　いまのやり方であれば。回りの団体傷つけてでも自分たちが生き延びようとするのを許すことはできないでしょう。今回の騒動にしたってね、「そんなこと言ってない」ってお前ら言えるんかって。でしょ。いままで、いろんな誌面で人のことを揶揄しといてね、俺がカチンと来たらね、「ありません、言ったことございません」って言えるのかって。F局とか、業界外の第三者のところにそういうのを、さも当たり前のようにイメージづけようとしてるんだったら、冗談じゃないですよ！　でしょ？





UWFでは“同門”だった前田と船木と鈴木。10月14日の後楽園ホールのリング上から坂田亘が呼びかけた、第三者の立会人を立てての話し合いの場は実現するだろうか。「このままいったら泥試合」という声も聞かれるが

マズイことは知らぬ存ぜぬ
お前ら、それはちゃうやろ！

——感情的にはそうなるでしょうね。

前田　業界内で、あそこはこうだ、うちはこうだって言い合ってるうちはまだいいよ。だけど、第三者のところへ出て、そんなことされたら冗談じゃないと思いません？　それで現実にうちはね、そういう目にあってるんですから。冗談じゃない！ってなってくるでしょ。「リングスの選手はみんな秒殺です」なんてね、大きなこと言ってるけど。そこまで言うんだったらね、対抗戦で上から下までやってみせればいいじゃない。もう俺は潰すためにやるんだから。でね、その時、選手全員に言いますよ、「お前ら負けたらリングス終わりだよ、解散だよ」って言いますよ。それで負けたら、俺の言ってること間違ってたなって思って、リングス辞めますよ、本当に。

——よくパンクラス側は、専門誌の誌上で「絶縁宣言」なんて出すのをみてもわかる通り、前田さんとは一切関わり合いたくないっていう言い方をするんですよ。

前田　（無言）

——でも、それは僕の個人的な意見としては、格闘技でもプロレスでもいいんですけど、同じ業界の底上げのことを考えたら変な理屈なんですよ。確執があったことや、自分たちだけでやりたいという気持ちはわかるんですけど。でも、お互い踏み込み合わないとやってけないですよね。いまの状態じゃ。

前田　卑怯ですよ、卑怯！　関わり合いたくないんだったら、普段からね、リングスの“リ”の字も言うなよ！　でね、自分らに都合のいい関わり合い方だけはしてくるんだよ。自分らの名前だけでやってみろよ。人の名前を使うなよ！　そうでしょ。

——名前を使う、使わないは別として、関わり合いたくないって言うのは、この業界にいないっていうのと同じですからね。観察してるだけでも対象に変化は起こるって、なんかの本に書いてありましたけど（笑）、同じ世界にいれば、お互い観察してるんだから、もうすでに関わり合ってるんですよね。それこそ、リングスだってパンクラスの“パ”の字を出したことがないわけがないし、パンクラスだってリングスの“リ”の字を出したことがないなんて、あるわけないんですから。

前田　F局だって、こうやって揉めてきてるから、「パンクラスは言わなかったということで合意してくれ」と「じゃないと詫び状出せない」と。そう松井君に言うんです、プレッシャーかけてね。K氏、こいつもズルイよ。会って最初にとぼけやがってね。

——両団体の確執が、プロレス的な抗争じゃなく、根が深いから、逆にマスコミ側もどうしていいのかわからないんじゃないですか。あまりにもマジだから。

前田　じゃあ、俺の話を聞いて、俺の立場だったらどうします？

——前田さんが言ってることが本当だったらキレますよ。ただ、僕はいまの時点で実際のところはわからないですからね。

前田　いや、実際そうなってますから。それが俺らにとってはすべての事実じゃないですか。誰の影響でそうなったんだってなるでしょ。

——でも「リングスは真剣勝負じゃない」みたいな発言をとっても、その火元がパンクラスなのかどうか現時点では真実かどうかわかりませんよね。犯人も出てこないし（笑）。

前田　当事者のKはさ、逃げようとしながらも、侘び状を出すことになったら困るんですよ。でも、パンクラスにはコソコソと、「侘び状は出せない状況だから、煽ってこの件は潰しちゃいましょう」って言ってくるでしょ。最低やな。

——「両団体が水掛け論に終始し、解決の糸口を見出せないままになると、リングスにとって最悪の自体を招くことになるでしょう」。これはさっきのリングスファンの『ファイト』への投書の続きなんですよね。ファンが心配してるわけですよ。

前田　（うなずく）

——でも、俺はヘンに煽るわけじゃないけど、前田さんが言った対抗戦でやったらいいと思いますけどね。お互い言いたいことがあるんならリング上で……。

前田　やったらいいんですよ！　それで負けるようだったら、もう解散しますよ、俺！　そんな負けるようなもん、この先ズッとやっても、こんな格好悪いことはない。

——確かにファンが言うように、水掛け論に終始しちゃって、このまんま不透明になっていったらお互いにイメージダウンになっちゃう部分もありますからね。話し合いっていうのは無理なんで……。

関わり合いたくないんならね リングスの"リ"の字も言うな

前田　（遮るように）普段から自分らが実力ナンバー1だって言うんだったらね、俺が対抗戦やろうって言ったら、チャンスなんだから、やればいいんですよ。でも、関わり合いたくない。それは違うでしょ。関わり合いたくないなら、ＵＷＦでも新日本でも藤原組でも、他の団体の選手の名前でも使わなきゃいいんだよ！　違います？

——では、パンクラスファンに一言って何かありますか？

前田　パンクラスっていうのは、やってる若い人たちは純粋にやってるんだろうけどね、執行部には問題があるよ！　関わんないと言いながら、あっちこっちをほじくり返して、踏みつけたりして。やることに誠実さがない。練習生が死んだことだって知ってる人少ないでしょう。船木と鈴木は堀口君が亡くなった時、俺になんと言ったか知ってる？　ズッと俺のこと批判してたよ。

——前田さんからしてみると、パンクラスの連中に後ろ指を指されることは一切ないということですね。

前田　あいつらには、感謝されこそすれね、そんなこと言われる筋合いは一切ない！　現にあいつら俺の金で食ってるやん、何カ月か。俺だって金がなかった時にだよ。

——でも、問題は船木さんと鈴木さんには前田さんにお世話になったという感覚があまりないんじゃないですか。"お世話観"が完全にスレ違ってるわけですよ。

前田　じゃあ、お前ら、俺がいなかったら何をやってたんだって。間違いなく、新日本プロレスでプロレスやってますよ。ＵＷＦの時は潰れるなら潰れてもいいって必死になってやってたよ。こいつら行き当たりばったりで、ええカッコしてるだけやん。ただの内弁慶の小僧！　だから、外に出てもね、うちの悪口を言って正当性を強調してるだけや。

——「金なら返します」ってドライに言われたら？

前田　じゃあ、返してくれ！「でも、あれから何年たってるんや、遅れた詫びも言えよ」と言いますよ。だから、ガキだっていうんですよ。俺、あん時、新生ＵＷＦの社長でもないし、株主でもないし、なんでもないじゃない。

——正直な話、リングスで前田さんからこういう話を聞く、パンクラスで尾崎社長から話を聞く。両方とも本当であれば、どっちも理解できるんです。だけど、言ってることが全然違うし、俺なんかには判断つかないじゃないですか。刑事じゃないし。リングスとパンクラスに両方出入りしてたら、アイツはスパイだと言われかねないし。業界ってめんどくさいですよ（笑）。

前田　そんなの言わしとけばええんや。

——ただ一つ、僕は正直に思ってることを言うと、髙橋選手がああやって出てきた以上、船木選手も鈴木選手もコメントくらいはしてほしいですよね。もしくは闘ってどっちが強いか見せてほしいですよ。そういう問題じゃない部分もあるんでしょうけど。

前田　証明すればいいんや！　これで負けたらリングスはやめますよ。こんなので負けてやってけると思う？　でしょ？

【10月9日、リングス事務所にて収録】



プロ
とのは
回は
はな
てい
ップ）

今年最大のスキャンダル!

全女分裂!



アジャ・コングのフリー宣言、山田敏代のGAEA移籍などを皮切りに、ずるずると人が辞めていった今年の全日本女子プロレス。「おいおい、どうなるんだよ」と思っているうちにとうとう半分以下の人数になってしまい、「給料が遅れている」との噂まで流れ、果てはWWWAチャンピオンが突然の退団宣言をブチ上げたりと、収集のつかない大混乱状態。そこで、今回は出てった人、残る人、小さな人、莫大な借金がある人たちに話を聞いてみることにした。この際、誰が正しいかは問題ではなく、誰が面白いかが非常に重要ではないかと思う。なぜならボクが、それぐらいしかこの問題を計る物差しを持ち合わせていないからだ。ここで誰が正しくて、誰が間違ってるなんて言うつもりはこれっぽっちもないわけである。 （坂井ノブ）

でも、俺はペンに煽るわけじゃな

前田 ハングラスっていうのは、やっ

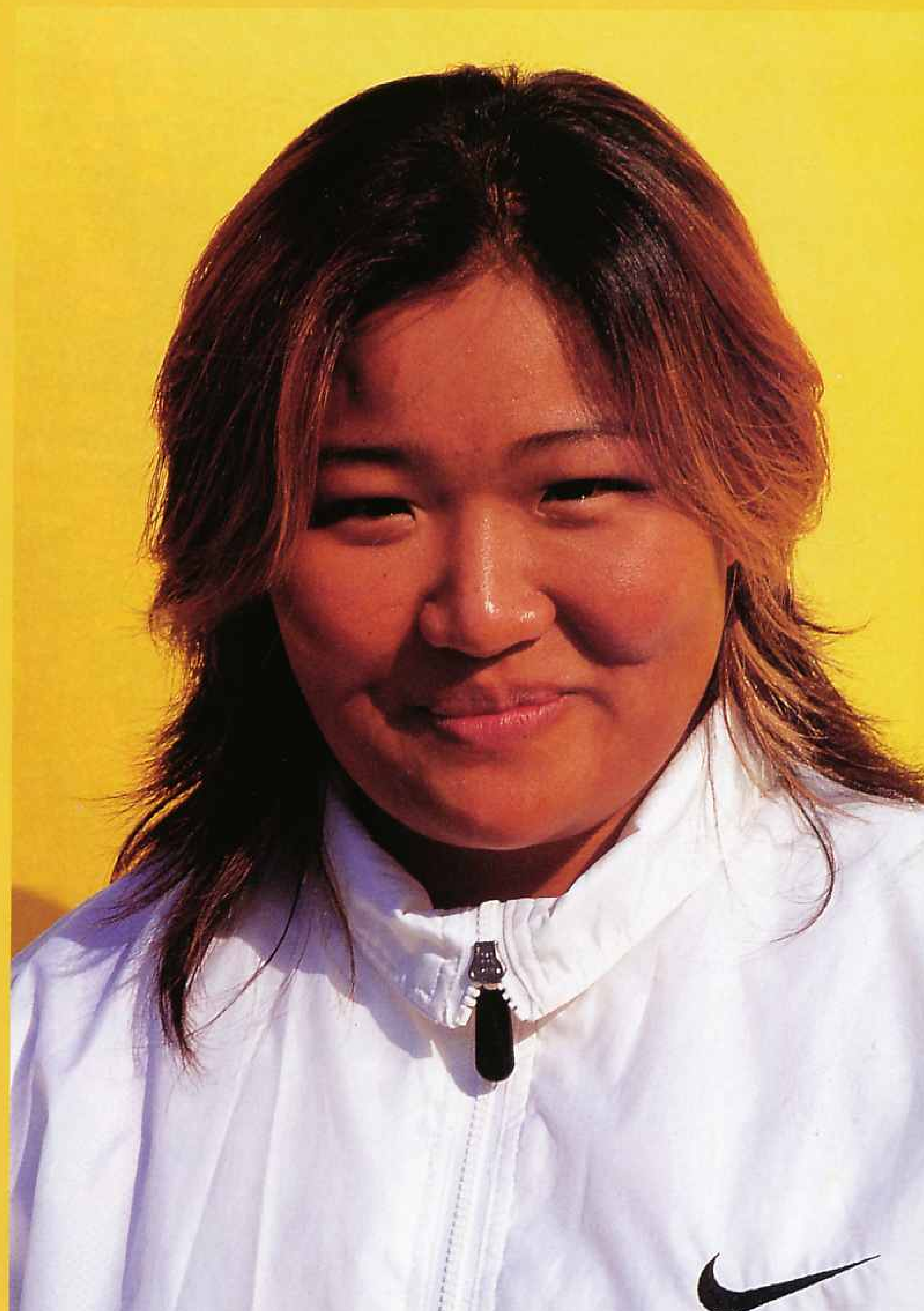
ら行き当たりばったりで、ええカッコし

【10月9日、リングス事務所にて収録】

全女離脱派

井上京子インタビュー

聞き手／坂井ノブ
interview by Nobu Sakai
撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito



貴子とは一生交わることもない試合をすることもないです！

――今日伺いたいのは、鉄の連携を誇ったW井上がどうして分離してしまったのか、ということなんですが。

京子　最初、貴子は出る人間だと思ってたんですよ。まあでも、堀田さんが「全女が好きです」って言ってましたけど、辞めてった私達も全女のことは好きですよ。そこはホントに分かってもらいたいです。フロントに不満はありますけど。

――松永一族が？

京子　……私が10年間やってきて、「辞めます」って会長に言いにいったら、何て言ったと思います？　「そうか、長く居すぎたな」って言われて終わりですよ！　「お疲れさま」のひとこともないんですよ。人間らしく生きようよって思いましたよ。そう、すごいエピソードがあるんですよ。去年、全女でボヤ騒ぎがあったんですよ。それを隣の会社の人が発見してくれて、事なきを得たんですけど。そこで、普通は茶菓子でも持ってお礼にいくじゃないですか？　そしたら会長は「これで全女にも火が付いたな、ハハハ」って笑ってるんですよ！

――ハハハ、非常識ですねえ（笑）。

京子　そういうことが前々からあって……辞めるっていうのは1日で決めたことなんですけどね。

――即決だったんですね。

京子　貴子とはいろんな不満を話し合ってたから、「貴子も遅かれ早かれ離脱するんじゃないかな～」って思ってたら、「頑張る」ってことになってね。それは意見の食い違いですね。

――貴子さんは「芸能の契約もあるし、ここで名を挙げてもらったから、ここで頑張る」って言ってましたけど。

京子　でも、全女を辞めるのって、皆さんが思ってる以上に勇気がいることなんですよ。だから、私は出てった選手を「よく辞めたな」って褒めてあげたいですよ。だって、残ってる人は残ってるだけですもん！

――残ってる人は残ってるだけ（笑）。でも、フリーになったとはいえ京子さんは、女子プロ界を引っ張っていかないといけないですね。

京子　今の時代はフリーの選手が時代を引っ張っていってもいいと思うんですよ。自分はベルトを持って上り坂のときに全女を辞めたから、私は自分が一番強いと思ってるし。まだまだ、私は誰にも負けないんですよ！

――そこが井上京子のすごいところですよ！　で、今日の大事なテーマなんですけど、貴子さんに取材したら「京子はストロング・スタイルで、まず強くなければならないという考え方。私はプロは客を呼べてナンボのもの」っ



フリーになっても会場人気は一向に衰えない京子。夢はでっかく全日本出場である。と、そんな矢先にみちのくプロレス参戦が決定！　10・31（金）山形・長井市大会に登場である。この大会のチケットは京子のご両親が経営している『ラーメンあかゆ』（TEL0238・40・2472）でも発売中である。

ていう考えの違いがあることが分かったんですよ。

グーですよね？

――いいですね。「男に負けちゃいけ

京子　はい。これは言いたかったんで。

――この離脱騒動が抗争に発展したら

らで頑張ってください」って感じです。

――その原因は話せないんですか？

全女分裂！

ていう考えの違いがあることが分かったんですよ。

京子　もちろん、お客を呼べるのがいいレスラーだと思いますよ。でも、何で私が『ストロング・スタイル』のひとことで片付いちゃったんですか？　私がお客を呼べないレスラーだってことですか？（怒）

――それはプロという概念の違いじゃないですか。

京子　それは「同じ井上でも違うわよ」っていうことかしら？（笑）　貴子が周りから何を言われようと「私は写真集でもグラビアでもやるわよ」っていう彼女の根性はすごいと思うんですよ。まあ、それは私を見に来るファンと貴子を見に来るファンの数の差で分かるんじゃないですか？

――京子さんの「プロは強くなきゃいけない」という女子には珍しい、そのこだわりは面白いですよ。

京子　それは絶対そうですよ～。町で歩いてて、もしケンカになったら負けちゃいけないんですよ！　私、男の人とケンカになったら勝ちはしないけど、負けないと思うし。悔しいから、絶対にギブアップはしないの（笑）。プロレスラーは人と同じじゃダメなの。強くなきゃダメなの！「おい、あっちから歩いてくる金髪のでっかいヤツ、井上京子じゃねえか！　でけえな、絶対勝てないよ」って思われたら、グーですよね？

――いいですね。「男に負けちゃいけねえ」っていうのは、ブル・イズムなんですか？

京子　中野さんは私よりすごいのは男にも勝つって思ってたことです（笑）。

――ところで、『週プロ』増刊号に載ってる各選手のコメントは結構、強烈でしたよね。これを踏まえて、全女に残ってる人に京子さんからメッセージはありますか？



下手な男子よりはよっぽどいいガタイを誇る京子。全女離脱に伴って、道場も失ってしまい、スポーツジムなどで練習中なのだという。

京子　これ、今年の流行語大賞候補なんだけどさ、「私に貯金が一銭もなかったら怒ってたと思う」っていう（笑）。

――ガハハハハハ！　堀田選手のコメントですね。

京子　これはトップ選手の言葉じゃないよ！　すごいよね～。選手会長なんだし、こういうふうになる前に何かしてほしかったですね。

――書いちゃっていいんですか？

京子　はい。これは言いたかったんで。

――この離脱騒動が抗争に発展したら面白いなと思うんですけどねえ。

京子　全女のために何かをしてあげたくないので（笑）。

――貴子さんについてはどう考えてるんですか？

京子　まあ、人間いろいろあるんで……貴子がいちばん分かってると思うんでそれは、「貴子さん！　あなたがいちばん分かってるよね～？」って個人的に言いたいです。

――貴子さんは「デビュー10周年記念試合を京子さんとやりたい」って言ってましたよ。

京子　それはないです！

――一生？

京子　はい。タッグのベルト取ったときは「ありがとう」という感じだけど。「もう一生交わることも、試合をすることもないと思うけど、そちらはそちらで頑張ってください」って感じです。

――その原因は話せないんですか？

京子　もう、絶対話せません！　でも、「アンタ！　アタシの男を取ったでしょ？」とかいうちっぽけなことだったらどうする？（笑）

――それでこんだけプロレス界を賑わせたんだったら大したもんです（笑）。

京子　それは皆さんのご想像にお任せしま～す！　でも、プロレスが原因ですよ。

――では、シメに入りたいと思います。貴子さんから「この世から井上京子のプロレスは消しちゃいけない」というメッセージがあるんですけど。

京子　当たり前じゃん！

――強気ですね（笑）。

京子　全女を辞めても井上京子は、女子プロレス＝井上京子になるように頑張っていきたいなと思います。それと、夢があるんです！（笑）

――何ですか？

京子　こんなこと言ったら馬場さんに怒られちゃうかもしれないんですけど、全日のリングで1試合だけ女子プロレスをやらせてもらいたいんです。

――面白いですね！　馬場＆井上タッグでBI砲なんて素敵ですよ。

京子　ダメですよ！　それはおそれ多くて！　リングに上がって試合が出来ればいいんですよ。全日をナメちゃだめですよ！

――ボクだって全日がなかったら、この仕事してないですよ。

京子　ま、夢ですから！

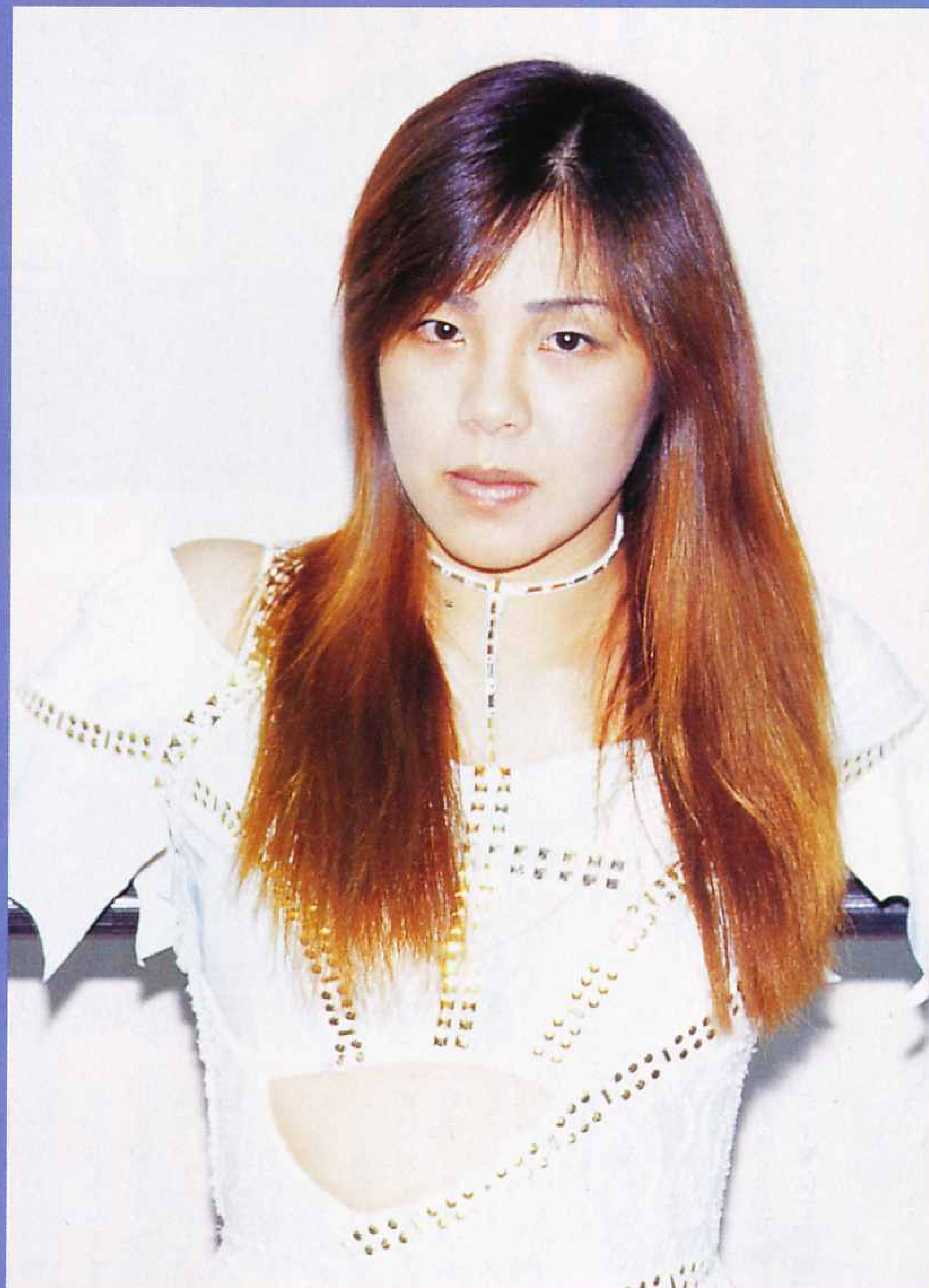
【97年9月30日、京子さんちの近くのデニーズにて収録】

KYOKO INOUE

全女残留派
井上貴子インタビュー

聞き手／坂井ノブ
interview by Nobu Sakai
撮影／浜さん
photographs by San Hama

人気商売だからお客さんを呼べた人がいちばんだと思う



——今回、残ったメンバーを見渡してみて、いちばん意外だったのは貴子さんだったんですよ。

貴子　あら、そうですか？　何で？

——豊田選手はエースだし、堀田選手はWWWA王者。で、W井上の京子選手は離脱して、なんで貴子さんは残るんだろうって思ったんです。

貴子　でもまだ分からないですよ（笑）。

——そうなんですか？（笑）

貴子　自分が選んだ道が正しかったかどうかは、やってみないと分からないんです。間違ってると思ったら、素早く考えますね。京子は一生懸命考えて出した結果だと思うし、私は私で一生懸命考えて出した結果が全女に残るっていうことだったんで。考え方の違いなんで、京子を恨んだりすることはないです。どっちが正しいっていうのはないじゃないですか？　まずお金をもらってないっていう問題があったんで、みんな考えて出ていった部分があると思うんですよ。私は芸能活動のことは頭にありましたね。

——全女との契約ですか？

貴子　そう、全女と写真集を出した会社との契約とか、いろいろな契約のことを考えて……まず、ここで名前を上げてもらったっていうのが頭に残ってるんです。『全日本女子プロレスの井上貴子』だからこれだけ仕事をもらって芸能もやっていけてるし、オールパシフィックチャンピオンにもなれたと思ってるんですよね。この会社に入りたいがために4回も5回もオーディション受けて入ったから、最後もこの会社で倒れたいなと思うんですよ。

——でも、同期の選手は全員離脱しちゃったんですよね？

貴子　そう。今年は私デビュー10周年なんで、記念試合とか引退試合の相手は同期にやってもらいたかったんですけど、今回の場合はしょうがないです。時が解決してくれるでしょう。ふさわしい相手を今から探して、10周年試合を必ずやりたいと思ってます。

——記念試合は京子さんとやりたいという希望はあります？

貴子　あるけど、京子がいま実際何をしたいのかが分からないんで。今すぐには実現できないから、溝が埋まってきた時には試合をしたいですね。

——京子さんとの関係で、自分の中で変わってきた部分ってありますか？

貴子　プロレスは京子が目標だったんです。「追いついて追い越したいな」って思ってたんですけど、プロレスって実力だけじゃないじゃないですか？　人気商売だから、お客さんを呼べた人が私はいちばんだと私は思うんですよ。そういう意味では総合的に京子とは並んだなって思ったんですよね。



オールパシフィック・チャンピオンの白いベルトに人一倍こだわりを持っており、欠場中に会社からの返上勧告も突っぱねるほど。撮影の際にもベルトを持参し、「やっぱ私がいちばん似合うな～」と呟いていた。

全女分裂!

——いつ思ったんですか？

貴子　地方に行くと声援とかで分かるじゃないですか？　それで並んだなと思ったんですよ。それまでは試合後にいろいろアドバイスをくれたり、怒られたりしてたんですよ。それは私にとってありがたいことだったし、京子のことも尊敬してたんですよ。京子プロレスのファンみたいな感覚ですよね。でも、プロとして並んだなと思ったときに、いろんな意見の食い違いが出てきましたね。

——プロレス観の違いですか？

貴子　うん。意見が違うと、嫌いとかじゃなく離れていようと思う時期があるんですよ。京子も人間だからチャンピオンとかになって天狗になっちゃう時もあるかもしれないじゃないですか？　そういう時に便乗しちゃいけないな、と思ったんですよ。

——プロレス観の違いって、興味深い話ですね。プロレス観の違いを具体的に話し合ったりしたんですか？

貴子　う〜ん……京子は多分、強いのが一番なんですよ。

——お客を呼べないとダメだけど、強いことが第一である、と。要するにストロング・スタイルですか？

貴子　そうだね、うんうん。

——貴子さんは？

貴子　ストロング・スタイルも確かに分かる。でも、私にはそういう実力がないし、京子みたいなパワーもないし、身体も違う。京子の言うことも分かるけど、やっぱりプロはお客さんを呼べなければプロではないんですよ。だから、例え「アイドルだ」と言われようが、「芸能ばっかりやってる」と言われようが出たもの勝ちなんで、一般のお客さんに知ってもらうのが一番だと思います。

——ずいぶん根が深い問題ですね。

貴子　京子はイライラしてたんじゃないかな？　試合では京子が一生懸命私をフォローしてくれてたんだなって思いますけど。そういういろんなすれ違いが出て来ちゃったんですけど……。



残留組では最も一般知名度の高い貴子も、今年で28歳。「『かわいい』って歳でもないし、硬派でかっこいいプロレスをやりたい」と語っていたが、まだまだかわいいっス。

——今回の離脱は今までとは、また違う溝を生んだと思うんですけど。

貴子　フリーになるっていうのも、何も聞かされないまま、突然武道館で発表したんでね……。京子は京子なりに考えて、突発的にしたんだろうと思います。

——「ちょっとぐらい相談しろよ」って思いませんでしたか？

貴子　最初は思いましたよ。「何なの、いきなり？」って（笑）。でも、よく考えたら、その人なりの事情を考えてあげると、私がしゃしゃり出てケンカ売る必要もないし。

——ボクは、誰かがケンカ売って、抗争に発展したら面白いなと思って見てたんですけど。

貴子　ウチは去るものは追わずっていう感じなんですよ。

——その場で殴りかかるっていう展開もありかなって思ってたんですけど。

貴子　アハハハハ。

——みんな、けっこう大人な対応でしたよね。まあ、苦しいのは出てく人も残る人もお互い様ですからね。

貴子　もうちょっと若かったら、みんな殺伐としてたと思うんですよ。でも、よかったですよ、豊田さんと堀田さんがいて。まだ甘えられるんで（笑）。

——これから一番上に立つ可能性もなきにしもあらずですよ。

貴子　その時は考えます（笑）。でも、とりあえずお父さん（堀田）とお母さん（豊田）はいるんで、私は長女として妹たちの面倒を見ないとね（笑）。

——では、最後に井上京子選手にメッセージがあったらお願いします。

貴子　いつも突拍子もないことを考えたり、やったりするんですよね。こないだのフリー宣言もそうだし。その京子らしさが私は好きなんで、一生貫いていってもらいたいなと思います。これから先、どういう形でやっていくのか分からないですけど、京子プロレスをこの世から消すなって思いますね。

——では、全女の長女として、これからの決意をお願いします。

貴子　まだ、「これが新しい全女だ！」っていうものは完成してないですね。上の人もレベルを落とさないようにやってるんですけど、転んじゃうこともあるかもしれないんですけどね。

——転んでもタダじゃ起きねえぞって感じですか？

貴子　そうですね（笑）。でも、それを支えてくれるのはお客さんだと思うんですよ。だから、全女を応援してくれる方が一人でもいれば全女は不滅だと思って間違いないです。

【97年9月22日、全女直営レストランSUN族にて収録】

TAKAKO INOUE

角掛留造インタビュー

聞き手／坂井ノブ
interview by Nobu Sakai
撮影／ハマー
photographs by Hammer

こんな時だからこそ、愛と和がいるんです



——角掛さんはいつ入門されたんですか？
角掛　昭和58年！　もう14年かな。
——ブルさんと同期じゃないですか！　キャリアが長い分、つらい時期も経験されてると思いますが……。
角掛　こういう時こそ協力しあって、みんなでケツダンしてやるべきです。
——角掛さん、団結です。
角掛　そう。ダンケツすればいいと思います。それこそ、ホンモノの、真の愛じゃなかと思います。
——あ、愛ぃ～!?
角掛　そう。
——（ミスター・）ブッダマンさんが辞めたのは、愛がなかったからですか？
角掛　いや、違います。彼はケガなんですよ。でも、変な辞め方じゃないから、たまに遊びに来ますよ。
——で、角掛さんは現在43歳ですか。身体はきつくないですか？
角掛　朝起きたら、馬場さんの歩き方みたいになってることはあるね（笑）。
——角掛さんから見て「全女のこんな部分は改善したほうがいいんじゃないか？」って部分はないですか？
角掛　時代のせいもあるけどね、段々と和がなくなってきましたね。
——和？
角掛　昔はグランドがあればソフトボールしたりしてたんだけどね。そういうのがなくなってきたね。今は苦しいけど、いつかはいいときも来るからね。
——なるほど、愛と和ですね。角掛さんにとっての愛って何ですか？
角掛　「元気？」とか「久しぶりだな！」って声掛けられる関係ですね。
——角掛さんにとっての和はなんですか？
角掛　さっきのソフトボールじゃないけど、こういうつらいときこそ真の和ができるんじゃないですか？
——さっきからお話を聞いてると、楽天的ですね。「そのうちどうにかなるだろう」って感じで。
角掛　どうにかなるにきまってるんだよ！　よくなるか悪くなるかは分からないよ。よくするように頑張るしかないでしょ？
——全女はそういうスピリットをすごく感じさせますよね。会長を筆頭に。
角掛　荒波を何本もくぐり抜けてるしね。それに関しては他よりも強いと思いますよ。
——角掛さんの楽天的な精神は松永会長に影響されたんですか？
角掛　そうですね。会長のことは兄貴のようにも親のようにも感じるし。
——松永イズムは学びましたか？
角掛　うまく言えないけど、「どうにかしなきゃ！」っていう気持ちだね。
——まさに、松永イズムですね。角掛さんの体力の限界もあるでしょうから、後継者もどうにかしなきゃですね。
角掛　何年出来るか分からないけど、頑張らないといけないと思います。それと「もし、ちっちゃい人でプロレスやりたかったら、いつでも来てください」って書いといてください。ミゼットプロレスを絶やしたくないんですよ。この会社は来る者は拒まないから。
——全女崩壊とか言われてるんで、来たくても不安な人もいると思うんですが……。
角掛　やらないで後悔するより、やってみなきゃ分からないですから。こういうときだからこそ、愛と和が必要なんです。

【97年9月22日、SUN族にて収録】



ミゼット・レスラーも角掛とリトル・フランキーだけとなってしまった。ちなみに最近、会場でよく見かけるセッド・ジニアス似のミゼットはまだ入門していないそうだ。

TOMEZO TSUNOKAKE

全女分裂!

自分がまいた種だからしょうがないやね!

——いや〜、しかしボクは会長の噂を聞く度につくづくアントニオ猪木だなって思ってたですよ。

松永　なんで、なんで（笑）。

——姿勢として近いですよね。スケールの大きさというか、借金とか気にしないとことか。「どうってことねぇよ」って感じですよね。

松永　そりゃ、しょうがないよ（笑）。

——ダハハハハ。しょうがない（笑）。

松永　だからねぇ。昔は借金も財産のうちって言ったもん。そう思ってんだから。借金っつっても命までは取らないから。だから、いまも大変だけどさ、こういう風になって。もう、逆に借金してしまくってやるっていう（笑）。

——ダハハハハ。どうせなら（笑）。

松永　だけど一人スターが出れば、1年で全部解消だよ！

——これまで、ずっとそういうやり方だったわけですよね。



松永　そうそうそう、だいたい1年。だから、ビューティーペアの時かな、ああいうスターが出たことは初めてでね、こっちは借金で今日首吊ろうか、明日首吊ろうかって矢先だからね。それがパッときたでしょ。だから膨大に借金があるやつをだいたい1年で完済して。で、また一生懸命貯めるわけです。それで落ち込んだ時は、それをブチ込んでゼロになって。そして、また稼ぐんですよ。

——で、またマイナスになった時にどっとブームが来るという。

松永　そう。それが5年で来るのか10年で来るのか、20年で来るのか（笑）。俺の生きてる間に来るのかね〜？

——でも、いつかは来るっていう。

松永　もう、それしかないでしょう。必ず周期で来るんですよ。

——希望は失わないわけですね。会長的にはプロレスでの成功と、他の事業での成功とどっちを目指してるわけですか？

松永　プロレスで成功すれば、事業で成功したと一緒じゃないかなぁと、思ってますけど。

——会長って、けっこうというか、かなり副業好きじゃないですか。

松永　プロレスだけだと落ち込んだ時にまったく金が入ってこねえんだ。

——そのための保険みたいなもんだと。

松永　そう。副業をやると日銭が入ってくるの。

——大きくはないけど安定したお金が入ってくるわけですよね。

松永　そうそう、自然に入ってくるの。プロレスの場合は地方に行ってお金を置いてきちゃうから、一銭も入ってこない。だから、副業をやってると家賃や人件費なんかを2カ月、3カ月待たしてもお金は使えるんだよ。

——プロレスのための副業なんですね。

松永　そりゃ、そうですよ。だから、プロレスがずっと調子良ければ必要ないんだよ。

——猪木さんが引退後のレスラーの保険のためにアントン・ハイセルを作ろうとしたんですけど、それって会長がやってることに近いんじゃないんですか。カラオケ屋の店員とかに女子プロ辞めた子入れたりとか。

松永　辞めた人間でも、プロレスが好きだから、なんかこの辺に住んでるわけだよ。

——それで、せめて安定させてあげようと。

松永　まあ、プロレスに関わった仕事がやれればって子もいるわけでね。だ

松永高司会長インタビュー

聞き手／吉田豪
interview by Go Yoshida
構成／坂井ノブ
text by Nobu Sakai
撮影／浜田孝一
photographs by Koichi Hamada

今の夢？ クルーザーを買いたい！

から、辞めても遊びに来てほしいしね。

——その辺の姿勢も猪木イズムなんですよね。辞めた人も許しきるというか。

松永 そうそう。だから、会社に弓引いて出てった子でも、なんか憎めないんだよね（笑）。

——ダハハハハ。

松永 どっか歯車が違ってたんでしょう（笑）。その子との気性とかで自分の思うようにならないから弓引いてったんで。やはり、その人の心がそうさせたんだから。

——ええ。

松永 だから、その子を「こんなことしやがって、畜生！」って思えないんだね、俺は。

——それは昔からなんですかね。

松永 だから、どんなに騙されてもまた入れちゃうわけだね。そうするとね、10回か20回か、そのうちに必ず俺を助けるわけですよ。

——やっぱ、一回助けられてると。

松永 うん。助けないのもいるけど（笑）。

——ダハハハハ、いましたか（笑）。

松永 でもね、全部おいしくボクは頂きたいと（笑）。

——ダハハハハハ、頂きたい（笑）。

松永 俺を騙していく奴も、俺は騙されたと思ってないし。それでも寄ってきてくれる方がうれしいよ。でも、「お前、また騙しにきたのか？」って言うんだけどね（笑）。

——ダハハハハ、言いますね（笑）。

松永 でも騙されてもまた来てもらった方がいいでしょう。まあ、そんな人間だもんね、俺。

——独自ですね、それは（笑）。これまで副業で一番失敗しちゃったのはなんですか？

松永 やっぱ、レストランは儲かんないね。

——SUN族ですか。

松永 ここは儲かんない。ここは儲からなくていいの。かつてクラッシュ・ギャルズのブームの時はこの下の道路がいっぱいになっちゃうんですよ、ファンの女の子で。出発の時やなんかね。そうすると、裏のあっちの方で小便たれてっちゃうんだよ、みんな（笑）。

——ダハハハハ、小便たれましたか（笑）。

松永 それで怒られてさぁ（笑）。

——近所迷惑ですね。

松永 だったらここを開放して、出発まで待ってもらって。

——そういうシステムだったわけですか。

松永 そうそう。だからファンのためのモノということで作ったから、ここは儲かんなくていいの。

——それでデビュー前の子が店番とかして。

松永 そうですね。新人が入って朝から晩まで入って練習するのって言ったら、だいたい限度として3時間ないし4時間ですよね。それ以外は事務所の拭き掃除とか、レストランで店番しなさいと。



会長の口からはとてつもない夢が次から次へと飛び出して来る。これだけ周りを巻き込みながら、まだ懲りずに夢を追いかけるあたり、生まれついての夢追人なのであろう。

——ちなみにラーメン屋さんの方は結構うまくいってるっていう噂を聞いたんですけど。

松永 俺も今、金ありゃあねえ、店舗増やしたいんだよねぇ。金ありゃねぇ（笑）。

——ダハハハハハ。まだまだ野望はあるんですね。

松永 これで一世風靡をしたいんだよ！ 羅漢果（らかんか）ラーメンチェーンを日本全国に轟かせたいんだよ。

——カルビ丼よりラーメンなんですね。

松永 この間も晴海で食材フェアがあって、そこでもウチのラーメンが非常に好評で、「ぜひ一度試食会をさせてほしい」と言われたんだけど、「今、うち人も金もねえからダメだ」って断わっちゃった（笑）。

——でも、まあ、そこに助けられてる部分もあるわけですね？

松永 そうですね。ですから、いずれはこれをギフト用にしてね、全国から注文を受けたいんだけど。

——はあ。で、ちょっと小耳に挟んだんですけど、会長には移動動物園をやりたいという夢があるそうじゃないですか（笑）。

松永 誰に聞いたの⁉（笑） それはね、昔（笑）。

——昔ですか。

松永 そう。移動動物園やろうと思ってね、ジャコウ猫を買ってきて、うちの軒下においといたんだよ。全身で2メートル以上あってね。クルッて尻尾をまいて自分の体をぶる下げたりなんかして。でもそいつが、果物をこのぐらい（と両手をいっぱいに広げる）買ってくるでしょ。そうすると一回で全部食べちゃうのね。そうすると、食べてる矢先からものすげえ糞たれるんだ（笑）。

——ダハハハハハ。

松永 糞がこんなに（また、両手をいっぱいに広げる）出るわけですよ。で、その上にゴロンっと寝るわけですよ。これには臭くて臭くてね、女房に怒られたよ～。もう処分してね、人にくれ

ちゃった。で、この間はキタキツネを
買ってきて……。

りはやっぱり選手とか、いろんな人が
喜んでくれればいいんだよ。今の夢は

松永 だからね、ものの考え方をちょ
っと変えると楽しいもんだと。

しいもの食ってということはできない
タイプだから、しょうがないよね。

AKSHI
SNAGA

全女分裂!

ちゃった。で、この間はキタキツネを買ってきて……。

――買ってきたんですか（笑）。

松永 それでこの上で放し飼いにしてたら、半月ぐらい前にいなくなっちゃった（笑）。

――野良キツネになっちゃったんですね（笑）。

松永 そうそう（笑）。また、かわいいんだわ、人に馴れてね。噛まないし。そしたら、一回脱走して、捕まえて。また、どっか行っちゃった。そしたら、もう帰ってこねえわ（笑）。

――じゃあ結局、動物園は実現しなかったんですね。

松永 しない。やりたくてしょうがなかったんだけどねぇ。だって移動動物園って全国を転々とするわけでしょう。ウチはそういうノウハウはあるから。だから「やりてえな」って言ったら、みんなに怒られてね。「いい加減にしろ!」って。

――会長の夢はみんなに止められちゃうわけですね。でっかいんですけどね、夢は。

松永 夢はね、ダメですね。金かかってしょうがない（笑）。

――ダハハハハ。でも金さえあれば夢もかなうわけですよね？

松永 そうだね、金儲けたら、これもしてみたい、あれもしてみたいってことばっかりだよ。要は自分が楽しむよりはやっぱり選手とか、いろんな人が喜んでくれればいいんだよ。今の夢はね、クルーザーを買いたい!

――ダハハハ。また、リッチな（笑）。

松永 ズーッとクルーザー持ってたから。だけど、金が苦しくなってきたから売っちゃって。昔は選手を全部連れてって、沖で泳いだり、魚を釣ったりして。で、なに釣るかっていったらサメしかないんですよ!

――エッ! サメ釣るんですか!?

松永 釣るの! クルーザーで。サバを一匹仕掛けといて水深1000メーターぐらいに流すわけですよ。そうすると「バクッ」とかかるわけですよ。それが面白くてねぇ。サメ釣りやったらやめられないよ。もう今までに何百匹も釣ったね。

――サメ拓作ったりするんですか。

松永 いや。さばいて、刺身で食っちゃう。とれたてはおいしいんだよ。一回は2メートルぐらいのアオザメを釣ってね。それは豪快だったね。俺の船の回りをヒレ出してグルグル回ってるの。で、「やっ、サメだ」って、サバを一丁ポンッと投げてといたら「ガッ」とかかってね。それを引き揚げるのは大変だったですよ。尻尾をパッと上げた拍子に、西部劇みたいに輪投げの要領で縄なげて、それで引き揚げた。それじゃなきゃ釣りあがらないの。ガハハハハハ!

――すごいなあ、レスラー以上にレスラーですね。やってることが。

松永 もう人生がね、悪いことも置き換えると楽しいんですよ。借金も（笑）。

――楽しいんですか（笑）。

松永 だからね、ものの考え方をちょっと変えると楽しいもんだと。

――今回のこういう揉め事とかも、屁でもないわけですよね。

松永 いや、揉め事だから、それは云々って言ったってね、人生の中にはこういうことがやっぱりあると思うんですよね。

――これまで何度もあったし。

松永 そうそうそう。それが誰がいい、悪いじゃねえ。やっぱ自分がまいた種だもん、しょうがないやね。だから、はたから経営のやり方が悪いとか、会社のやり方が悪いとかって、俺はそういう風にしてきたんだもん、曲げることできないもんね（笑）。ガハハハハ。

――わかります（笑）。

松永 ねえ。自分が好き勝手なことやってきたんだから（笑）。といったって俺が銭隠してとか、自分だけがおいしいもの食ってということはできないタイプだから、しょうがないよね。

――それが猪木イズムですね。

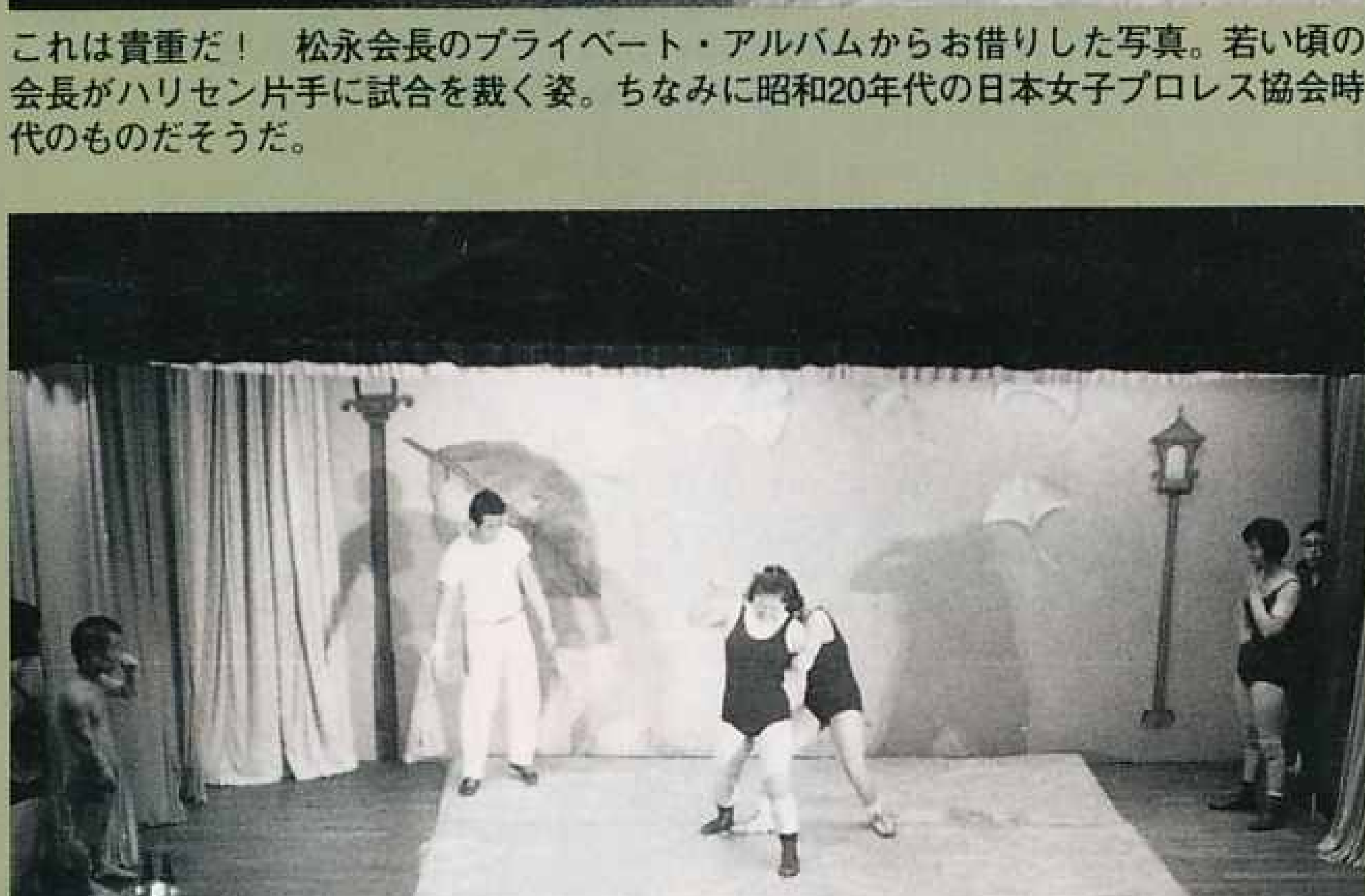
松永 ガハハハハ。あっ、そうですか（笑）。

【97年9月25日、全女事務所にて収録】

止まることなく壮大な夢を語り続ける松永会長。今回の騒動にも懲りることなく、是非、夢を追い続けてもらいたいものである。まだまだ続く会長の炸裂トークは1回で収録しきれないので、続きは次号でお届けします。お楽しみに!



これは貴重だ! 松永会長のプライベート・アルバムからお借りした写真。若い頃の会長がハリセン片手に試合を裁く姿。ちなみに昭和20年代の日本女子プロレス協会時代のものだそうだ。



どんな会場かと思えば、ストリップ小屋での興行だった! リングもなく床にマットを引いただけ。ホントにホントの女子プロ創世期の写真である。

MATSU

TAKAS

者プレゼント

魂バイブル

●ザ・グレート・サスケ、タイガーマスクの応援用マスク　各5名

会場で大人気のゴム製マスク。手頃な価格（5000円）と思った以上に高いフィット感が人気の秘密だ。通販の問い合わせは0196—26—1333みちのくプロレスまで



●道場ちゃんこ券



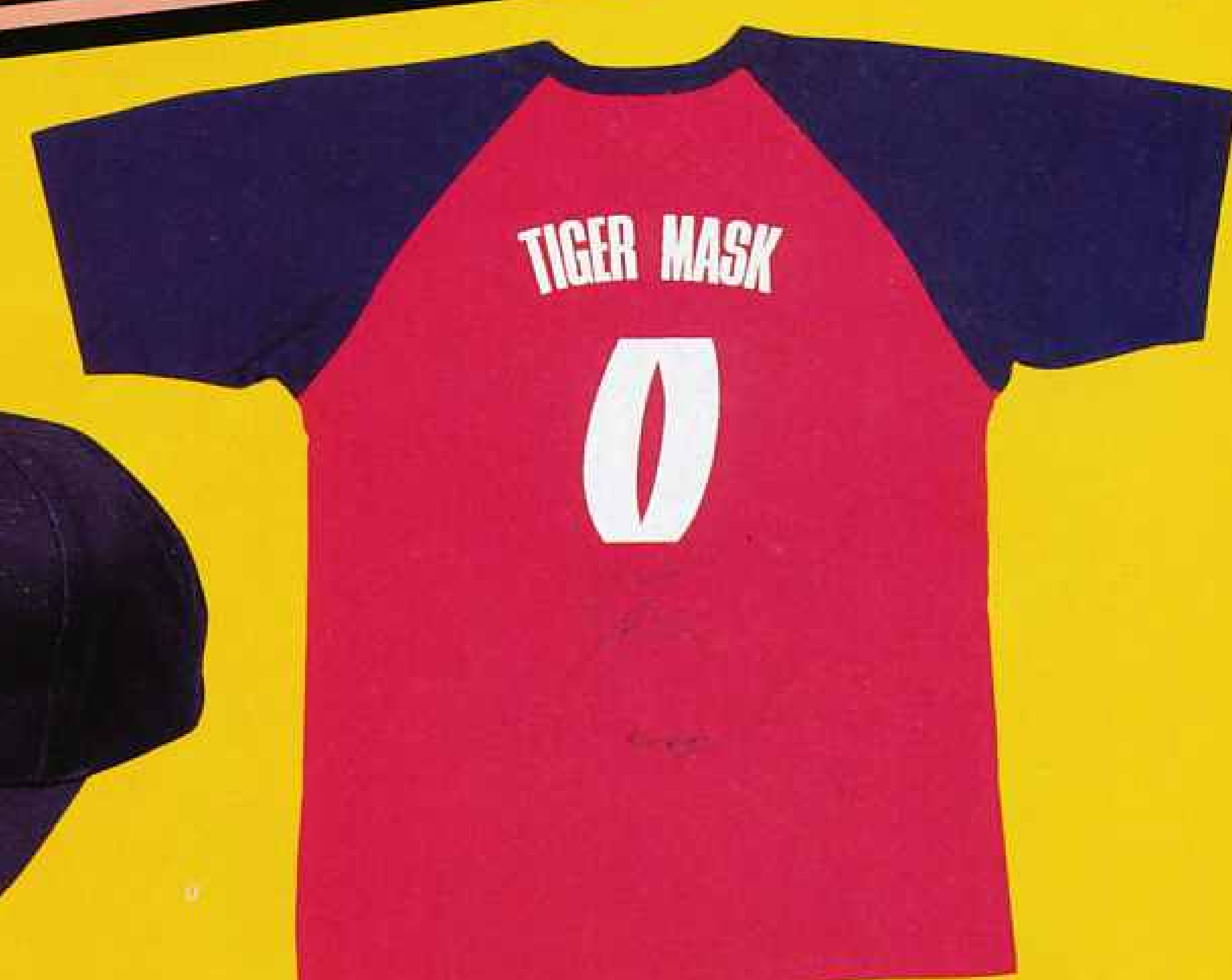
道場のちゃんこはうまそうに見える。多少まずくても憧れの選手と一緒なら文句ないだろ。ということで、選手と一緒に道場内でちゃんこを食べられる食事券を2団体、総勢12名分用意した。のものもの送迎付きで、急増するのもファンにも嬉しい超贅沢な食事券

Ⓐ キングダム　Uインター時代、宮戸優光の作るちゃんこは絶品だったらしい。その味はキングダムとなった今も受け継がれているのか？ぜひご自分の舌で確かめてほしい。10名ご招待

Ⓑ バトラーツ　写真は現・ちゃんこ番、ヤギくん自慢の中華風鶏団子ちゃんこ。「ヨネちんと日高っちょが作るちゃんこはまずい」とのものもに断言されたが、ヤギくんのちゃんこはその日高っちょから伝授されたモノ（ちなみに日高っちょに伝授したのはアレク）。まずくてもよけりゃ（バトラーツには相変わらず失礼な態度の紙プロ）の2名ご招待



＊日時については当選者に直接お知らせします







●4代目タイガーマスク使用のシャツ＆キャップ　1名

ごく一部の人間しか知らなかっただろうが、9月25日の深夜、東京ドームでみちプロとバトラーツの対抗戦が勃発していたのだ。といっても呑気な草野球なんだけど。これはその時4代目タイガーマスクが着用した世界でたった一つのユニフォーム。キャップもつけて限定1名に

●パンクラスシルバーリング　2名

パンクラスのファンでも、ファンじゃなくてもこれは欲しくなる珠玉の逸品。サイズは11号と13号を各一個ずつ用意した。通販もしているので、どうしても手に入れたい方は下記まで。03—5792—7077『ワールド・パンクラス・クリエイト』

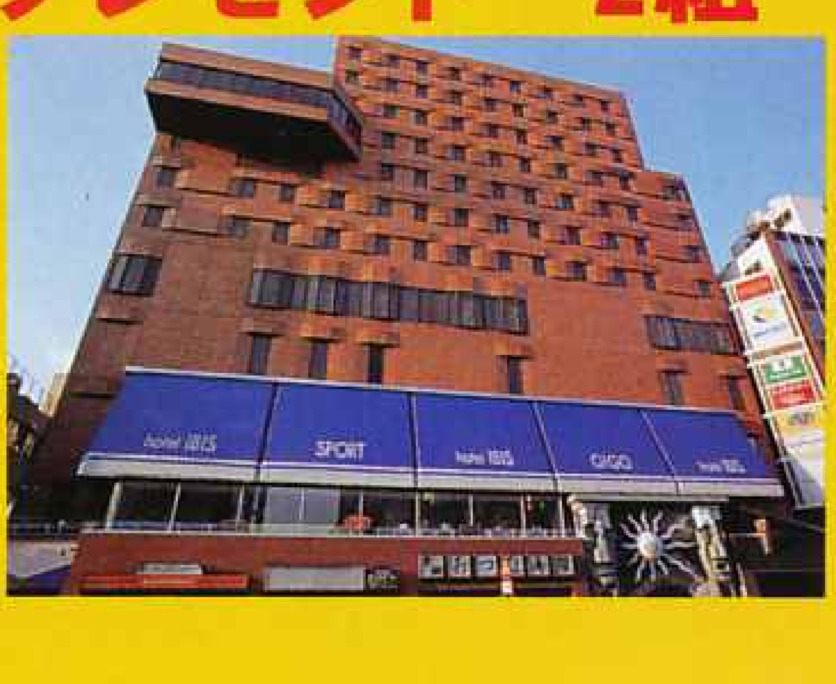


●『プロレス戦国伝・HYPER TAG MATCH』プレイステーションソフト　3名

23日に発売されたばかりの新作ソフト。前作『戦国プロレス伝』で育成したレスラーを使用できるほか、最大4人まで参加可能のタッグマッチ戦、連続100人マッチなど多彩なバリエーションで生涯遊べるアクションソフト　提供：KSS　03—5434—5011

●98・1・4新日本プロレス東京ドーム観戦宿泊プラン告知＆宿泊券プレゼント　2組

現在、ホテルアイビスでは来年1・4新日本プロレスの東京ドーム大会宿泊観戦プランを発売中。スタンドA券（1万円）・長州力サイン入りパンフレット付きで2万5千円と超格安。発売を記念してホテルアイビスのツイン宿泊券を2組にプレゼント。プランの問い合わせは03—3403—4411



●『全日本プロレス　FEATURING VIRTUA』セガサターンソフト　2名

こちらも23日に発売されたばかりの新作アクションソフト。選手の実際の動きを忠実に再現するモーションキャプチャー使用で、四天王はもちろん渕、永源、馬場さんの動きもリアルに再現されてるから感激だ。その上『バーチャファイター』のキャラ、ウルフ＆ジェフリーも登場とサービス満点、大満足の一品
提供：セガ・エンタープライゼス　0120—012235





RADICAL6号
応募券

●タイガーマスク フィギュア　2名

10月下旬発売の新作フィギュア。マスクがはずせ、握り拳もチョップに付け替え可能。初回生産分のみコレクターズナンバー&『虎の穴』を型取ったバッヂ付き　問い合わせ　1／6計画　03―5489―3495　提供：メディコム・トイ

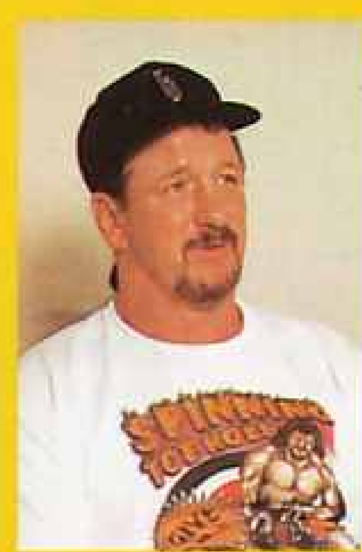


「©梶原一騎・辻なおき／講談社・東映動画」
「対象年齢10歳以上」

●テリー・ファンク・スピニングサイン色紙&荒馬ポラロイド　3名

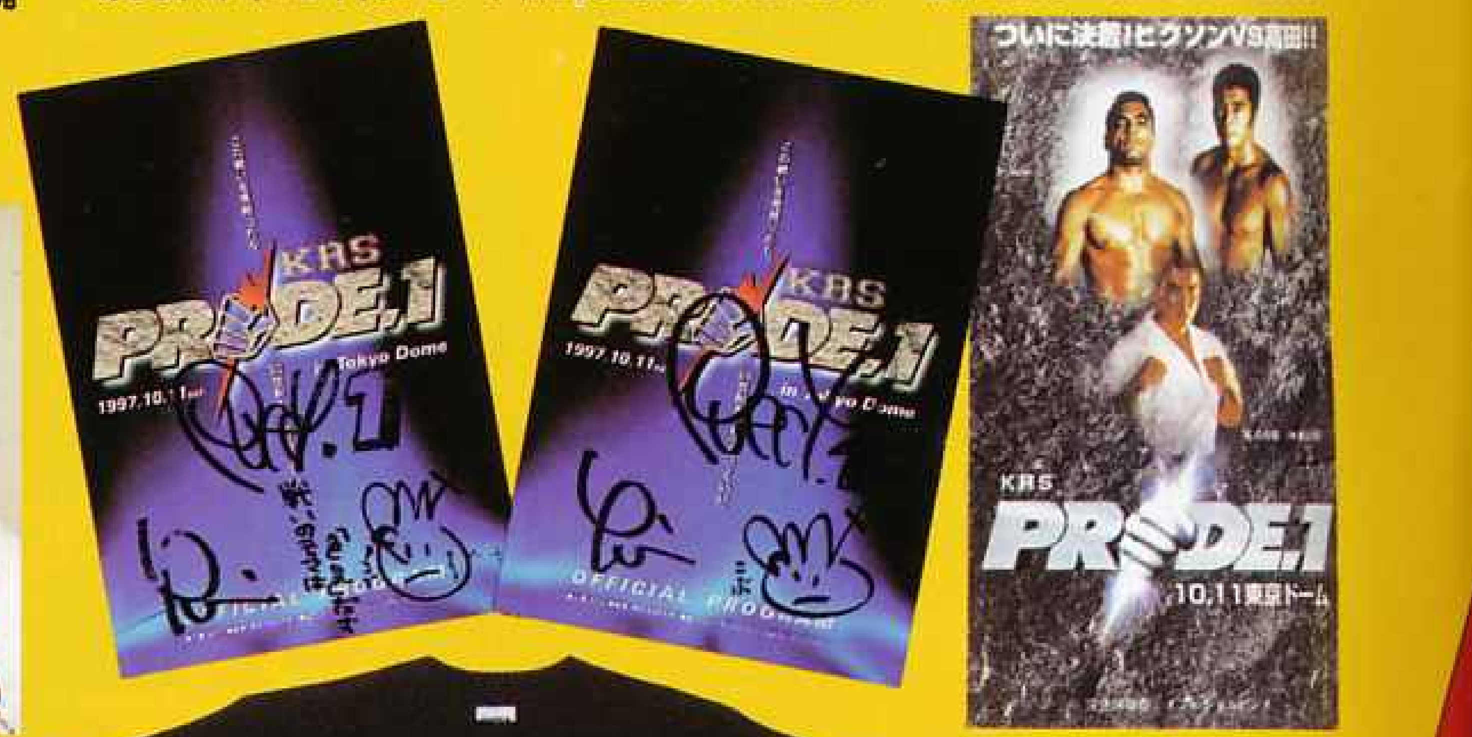
53歳の今も燃えたぎるテキサス・ブロンコ魂。偉大な魂がこもったサイン色紙&ポラ写真を3名に。





●PRIDE.1　Puffyのサイン入りプログラム　2名 ビデオ　3名　Tシャツ　5名　キャップ　5名

クーッ!　ホントに貴重!!　Puffyのサイン入りプログラムを幾々プレゼント。そんな中、全試合の模様と、初公開の選手のプライベートシーンも収録したオフィシャルビデオは永久保存版であるし、Tシャツ&キャップもいずれは貴重品ともなろう、多分　提供:KRS　03―5464―7900







●ハリウッド・ハルク・ホーガン&デニス・ロッドマンフィギュア　1名

ショップでは売り切れ続出中の品薄フィギュアを1名に

●ダイエットブッチャースリムスキン・トレーナー　各5名

読プレコーナーで超人気のダイエットブッチャーの新作トレーナー&半袖トレーナー。渋谷区神宮前の直営店『オクタゴン・アストニッシュ・アタック』では、前号、前々号で紹介したレスラーTシャツも販売中
問い合わせは、03―3486―5539



●W★ING 有刺鉄線 マスコットバット　3名

各会場で真っ先に売り切れるという超人気商品。定価1200円で通信販売もやってるので、どうしてもという方はこちらに。問い合わせは0120―665―680　双葉工芸まで

提供:FMW



燃える

ハガキを出す前からハズレることを考えるバカがいるかよ!(バシーン!)出てけ!!

●FMW　Tシャツ　3名



FMWのロゴ入りTシャツ2種とハヤブサのプリントTシャツを各1名に。定価2500円で通販中。問い合わせは0120―665―680　双葉工芸まで　提供・FMW

●ヤンジェネチャンプ・ゴーリズTシャツ　4名

ゴールド・ジム?　と思ったら、ゴーリズ・ジム。ヤングジェネレーションバトル優勝の、あのアレクサンダー大塚選手（愛称・ゴリさん）のTシャツだ。ガッチリTシャツに続いて人気が爆発しそうなので、この機会にぜひゲット。通販も受付中、0489―63―0005『格闘探偵団バトラーツ』まで

●ショーンTシャツ　1名

バトラーツからみちプロに移籍し、身も心も海援隊となった船木勝一選手本人からもらった貴重なTシャツ。ショーンファンなら、絶対に手に入れたいね

●格闘技道場『信』ブルゾン1名



元プロシューター、安藤信也主宰の道場。プロ志望の若者のみ随時募集中とのこと。問い合わせ　044―935―2060





●アレクサンダー大塚選手提供の『金ちゃんラーメン』（5個パック）1名



ただのインスタントラーメンと思ったら大間違いで、ゴリさんの故郷・徳島で製造・販売している地区限定の貴重なラーメンなんである



●超導夢四神伝説パート1&パート2 2本組3名

97・8・10ナゴヤドームを2巻に分けて全試合ノーカット収録。IWGP選手権・橋本VS天山、ムタVS小川の異種格闘技戦、健介・山崎VS中西・小島のIWGPタッグ戦ほか、長州VS藤波など全9戦　提供:東芝EMI



●長州力引退記念ビデオ『革命戦士長州力』3名

藤波への「かませ犬」宣言以来プロレス史に残る激闘を展開してきた長州力の軌跡を本人が激白。IWGP&18クラブ2冠制覇した92年の藤波戦から昨年のG1全勝優勝、今年1月の対橋本戦、8月31日の引退記念興行まで、全9試合を集大成　提供:東芝EMI



●新日本プロレスTHE25パート1『革命と抗争』&パート2『挑戦』2本組2名

新日本プロレスの25年の歴史の中から、見たかったあの場面、噂でしか知らなかった戦慄の場面ばかりを集めた必見ビデオ。前田の凱旋帰国マッチである対P・オンドーフ戦、新日VSUWF、UWF自主興行・前田VS藤原など伝説の一戦を網羅。スペシャル映像として猪木の「オレの首をかき切ってみろ」、ラッシャー木村の「こんばんわ」など新日名言集も収録した昭和プロレスファン垂涎、平成ファン驚愕の2本。失望か！　感動か！　真実を見逃すな！　提供:東芝EMI

●DVDソフト『JWP THE FIGHT』 2名



高画質に加え、CDを上回る高音質が魅力のDVD。映画、音楽など多数ソフトが登場する中、JWPの1997・5・15後楽園ホール大会の模様もDVD化。リアルな音と映像で完全再現された選手たちの迫力は最高
提供　パナソニックデジタルコンテンツ



●格闘技の祭典総集編「原点」3名

『格闘技の祭典』はその名の通り、空手、キック、プロレスなどさまざまな格闘技を一夜にして楽しめる、まさに劇画『四角いジャングル』の興行版だ。このビデオは今年10回目を迎えた同興行の総集編となる。初代タイガーと2代目タイガーの歴史的なツーショット、FMW旗揚げ前の大仁田VS青柳館長戦など刺激的映像がずらりと並ぶ。馬場、橋本、サスケらも登場する、必見の作品　提供:東芝EMI

●Ore（オーレ） 3名

女子プロレス界の新星アイドル5人の魅力に迫ったドキドキのイメージビデオ。FMWの池田陽子、Jd'の小杉夕子、SPWFの千春、JWPの本谷香名子、全女の脇沢美穂が水着姿にプライベートの過ごし方、パジャマトークを展開する　提供:東芝EMI





●STORY OF THE F II-STAGE 2本組3名

昨年4月から今年7月までの名勝負・名シーンを男子編、女子編の2巻に分けて収録。男子編はIWAプエルトリコ軍の侵略、金村のスーパーインディー宣言、米版F・M・Wの誕生の瞬間、ポーゴの引退騒動など見所満載。女子編は、コンバット豊田の引退、猛毒隊と正規軍の闘い、工藤めぐみの引退ロードを完全収録　提供:東芝EMI

●DVDソフト『DREMING キューティー鈴木10年の軌跡』 2名



高画質のキューティーをじっくり観賞してほしい。LAロケ、プライベートインタビュー、インタラクティブドラマと多彩な内容で飽きることなし
提供:パナソニックデジタルコンテンツ

●CD『みちのくプロレス大全集』 3名



オープニングテーマ曲から人生、TAKA、浪花ら各選手のテーマを完全収録。さらにみちプロイメージ・ソングとしてロクセットがサスケのために世界的ヒット曲「消えゆく花のように」を提供。豪華16ページ・オールカラーブックレットまで付いた絢爛豪華なみちプロ初のテーマ曲集
提供：東芝EMI



●闘魂Vスペシャル 獣神サンダーライガー！ロングバージョン 3名

平成元年、新日マットに初登場し、今年1月ついに8冠王者になった獣神サンダー・ライガーの闘いの軌跡を綴った新作ビデオ。未公開映像を多数収めた永久保存版　提供:ヴァリス

●CD『梶原一騎の世界』 3名



梶原一騎没後10年のメモリアルとして制作された熱血のアンソロジー。『巨人の星』『柔道一直線』『キックの鬼』『夕やけ番長』『タイガーマスク』『空手バカ一代』ほか梶原作品の主題歌、挿入歌24曲を完全収録
提供：東芝EMI

●CD『デッド・オア・アライブ』 3名



全曲、会場使用オリジナル音源で収録されたFMWテーマ曲集の第3弾。ハヤブサのニューバージョンのテーマ曲ほか中山香里、ヘッドハンターズ、金村、非道ら全11曲。ボーナストラックとして大仁田厚の「ワイルド・シング」も収録
提供：東芝EMI

応募方法

50	151-□□ 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 （株）ダブルクロス「紙プロ」編集部「とっとと出てけ！」係まで

応募券
1.住所
2.氏名
3.年齢
4.希望商品
5.面白かった記事&理由
6.つまらなかった記事&理由
7.好きなプロレス団体
8.好きなレスラー
9.嫌いな団体orレスラー
10.あなたが選ぶ美男美女レスラー
11.やってほしい企画

住所、氏名、年齢、ご希望の商品、面白かった記事&理由、つまらなかった記事&理由、好きなプロレス団体、好きなレスラー、嫌いな団体orレスラー、あなたが選ぶ美男美女レスラーやってほしい企画を明記し、応募券を貼付して左記宛てに送ってください。
締切は11月30日（当日消印有効）
※応募券のないものは無効となります

紙のプロレス RADICAL
No.6
1997年11月30日発行
定価:本体648円+税

発売元:株式会社ワニマガジン社
〒160　東京都新宿区内藤町一番地
TEL.03−3357−2911（販売・営業）
発行元:株式会社ダブルクロス
〒151　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
TEL.03−3403−5188（編集・制作）

編集兼発行人:山口昇
編集スタッフ:野本のものも真貴子／中村カタブツ君(34歳)／坂井ノブ／吉田豪／八木賢太郎（インターネット導入のため非番）
デザイン:ツースリー（出田さん、村松さん、ヒサくん、マツ）
運搬:出前持ち入江　アタリ:古川ふるーる
カメラマン:斉藤ユーリ／浜田孝一
お勘定:林ヘックション一枝
フィニッシュ:ツー・スリー
印刷:図書印刷株式会社

編集内容等に関するお問い合せは（株）ダブルクロスにね♥

紙のプロレス RADICAL
No.7は
12月11日
発売予定
※地域によっては多少発売が遅れます


ケリをつけるゼ!
97年のバトラーツ最強を決める
輔
塚
大決戦!!
ヤンジェネ'95、'96優勝者! 全日本マットでも大暴れ!
池田大輔 vs アレクサンダー大塚
ヤンジェネ'97優勝者! 全身すべてがココロ!

紙のプロレス RADICAL
WANIMAGAZIN MOOK 59
1997 No.6
すべての終わりが始まりか!!
平成9年11月30日発行 編集発行人/山口昇
発売元:(株)ワニマガジン社 〒160 東京都新宿区内藤町1番地 電話/03-3357-2911
発行元:(株)ダブルクロス 〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188
ワニマガジン社 定価:本体648円+税

9784898295700
ISBN4-89829-570-3
C9476 ¥648E
1929476006486

雑誌 69861-59

印刷:図書印刷株式会社